

日野市

# 平山遺跡

—一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その3—



2025・8

東京都埋蔵文化財センター



日野市

# 平山遺跡

—一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その3—



2025・8

東京都埋蔵文化財センター



## 日野市平山遺跡その3の調査

平山遺跡（日野市遺跡No.22）は、東京都日野市豊田二・三丁目、東平山二・三丁目、西平山一・三・四丁目に所在します。平山遺跡はJR豊田駅の南から南東、京王線平山城址公園駅の北から北西に位置し、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡です（写真1）。平山遺跡における発掘調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施工する一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い、平成29年2月に開始しました。発掘調査と並行して、整理調査、発掘調査報告書の作成を進め、今回の報告書は上記事業に伴う発掘調査報告書として3冊目になります。

本報告書で対象とする調査地点（2-6西・東区、2-7区）は、平成31年3月に準備工を行い、平成31年4月から令和3年6月にかけて、発掘調査を実施しました。調査対象面積は3,654m<sup>2</sup>で、発掘調査の結果、旧石器時代の遺物集中部をはじめ、縄文時代の集石や陥し穴、弥生時代後期あるいは終末期の竪穴建物跡、古代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、古代末～中世の溝、近世以降の道路跡や農事関連遺構群等が見つかり、各時代の遺物が数多く出土しました。

### 旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物としては、遺物集中部1箇所（SBL2）を検出しました。凝灰岩とチャートを母岩とする石核とそれに接合する剥片の他、ナイフ形石器や石器の製作に使ったと思われる敲石が出土しました。立川ロームⅢ～Ⅳ層の時代に、この場所で石器の製作が行われたことを示しています。



写真1 調査地点遠景（平成29年3月、南東方向から撮影）

## 縄文時代

今回の調査地点では集石、土坑、ピットが検出されました。このうち集石は、浅川でも豊富に採取できる砂岩を主体とする焼礫が、広く分布していました。遺物は、調査区内の各所で各時期の土器や石器類が多数出土しました。特に、日野市域及び周辺地域では出土例の少ない縄文晩期後半の土器は注目に値します。

2-6 東区では、南へ向かって傾斜する深い埋没谷を取り囲むかのように、土坑やピットが複数検出され、また、縄文時代前期を中心とする多数の土器片も出土しました。



## 弥生時代～古墳時代

弥生時代後期あるいは終末期の竪穴建物跡 6 軒、弥生時代後期～古墳時代の土坑やピットを検出しました。本調査地点の東に隣接する『平山遺跡』その 2 収載調査地点と比べると数は少なく、2-6 西区の SI62 より西側では、当該期の遺構は見つかりませんでした。このことから、当該期の集落の広がりはこの辺りで途切れるようです。今回発見した竪穴建物跡のうち、SI65 が最大規模で 4 基の柱穴があり（写真 3）、SI59・60・62・66 はやや小規模な竪穴建物跡です。また、SI66 では粘土床炉を検出しました（写真 4）。当該期の遺物は、これまでの調査地点に比べると出土量が少ないので特徴です。この他、古墳時代後期の土師器や須恵器が出土しました。同時期の遺構には伴わずいずれも小片ですが、周辺域に同時期の遺構が存在する可能性を示唆しています。



写真3 弥生時代後期の竪穴建物跡 (SI65)



写真4 SI66 の粘土床炉

## 古代

平山遺跡では、これまでの発掘調査により、古代に大規模な集落が営まれていたことが知られています。今回の発掘調査でも古代の竪穴建物跡が 9 軒見つかり、当時の暮らしぶりの一端が明らかになりました。具体的には、建煮炊きをするための施設であるカマドに使われた構築材が建物によって異なることや、日常雑器として使われた須恵器の産地が時代とともに変化することです。竪穴建物跡のうち最も古い時期の建物は、8 世紀前葉から中葉にかけての SI67 です。ここから出土した土器類の組み合わせは、古墳時代後期からの系譜を引く厚手の鬼高系の土師器甕と薄手の武藏型甕



写真5 奈良時代の土師器（SI67）



写真6 平安時代の須恵器・灰釉陶器（SI69）

が共伴し、内外面に赤彩された盤状壺という内容で（写真5）、これに少量の須恵器壺が加わります。このような土器の組み合わせは、奈良時代によく見られます。

一方、時代が下り、9世紀末葉から10世紀初頭にかけてのSI69では、土師器よりも須恵器の方が多く出土しました。また、東海地方で生産された灰釉陶器も見つかっています（写真6）。

今回の発掘調査では、古代官人の腰帶具の飾りである巡方が出土したことが特筆されます（写真7）。出土したのは8世紀後半のSI64で、建物の掘方の調査中に見つかりました。裏金具の一部を欠損する以外は、比較的良好な状態で残存しています。素材は銅で、裏金具と鉢があることから、帯に固定された状態だったと推察されます。巡方は建物の南壁際の掘方から出土していて、単に廃棄されたとは考えにくい状況です。この建物の住人が役人だったかは定かではありませんが、何らかの意図で巡方を建物に埋めた可能性が考えられます。



このほかに特色のある遺構として、モモ核が18点出土したSI58（8世紀後葉から9世紀初頭）があります。古代の土師器や須恵器、炭化材等とともに、完形に近い形や破片のモモ核が見つかり、そのうち3点には食痕がありました。

#### 古代末～中世・近世以降

古代末～中世の遺構のうち、溝SD12・13は数少ない中世の遺構です。これらの溝は区画や道路としての機能があったと思われ、東西あるいは南北方向に続いていました。近世以降の遺構では、周辺の調査地点と同様に、多数の畝間溝や土坑といった農事関連遺構群を確認したほか、道路SFK1を検出しました。明治時代初頭の絵図と比較したところ、農事関連遺構群の分布から見える敷地境と絵図の敷地境が凡そ一致していることが確認できました。

#### まとめ

以上のように、旧石器時代から近世に至る各時代の遺構が見つかり、それに伴い様々な遺物が出土しました。特に、『平山遺跡』その1・2 収載調査地点から連綿と続く弥生時代後期～古墳時代前期の集落域の西端が把握できたのは、大きな調査成果です。日野バイパス建設事業に伴う発掘調査は現在も進行中です。発掘調査が進むにつれ、平山遺跡の新たな様相が明らかになることでしょう。

# Overview of Hirayama Site, Hino City

## Summary

The Hirayama Site is located at 3-chome, Toyoda, through 4-chome, Nishi Hirayama, Hino city, Tokyo. It is situated on the left bank of the Asakawa River, on the river terrace. In connection with the Hino Bypass Construction Project, an excavation survey of the site was launched in February 2016. This is the third volume of the excavation survey report on the Hirayama Site for this project.

This report contains the investigation results for Zone 2-6 East, Zone 2-6 West, and Zone 2-7. At these survey points, we found an area where relics dating back to the Paleolithic period are concentrated, along with collections of stones from the Jomon period, the ruins of pit dwellings from the late Yayoi period, the ruins of dug standing pillar buildings from the Nara and Heian periods, the ruins of rice cultivation from the Early Modern period and later, and other remaining structures. Among the relics unearthed were knife-shaped stone implements and stone hammers from the Paleolithic period, earthenware and stone arrowheads dating back to the Jomon period, chipped stone axes, polished stones, earthenware and stone products from the late Yayoi period to the early Kofun period, haji and sue ware, ash-glazed pottery, iron arrowheads, small knives, roof tiles from the Nara and Heian periods, and ceramics and porcelain from the Middle Ages and the Early Modern period.

These findings, together with the results of excavations at other survey points, reveal that the Hirayama Site contained settlements in the two eras (the era from the late Yayoi period to the early Kofun period, and the era from the Nara to the Heian period), where people lived. From the late Yayoi period to the early Kofun period, in areas close to human dwellings, areas have been discovered where they built rectangular tombs surrounded by ditches. Settlements from the Nara to the Heian period have been found to contain the ruins of pit dwellings in locations that changed with the times.

The Hirayama Site is still being excavated. As the unearthing progresses, new aspects of the Hirayama Site will be revealed.

## 序 言

日野市平山遺跡の発掘調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施行する一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い実施されました。

遺跡は、日野市南西部の東京都日野市豊田三丁目から西平山四丁目にかけて所在し、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地します。遺跡の範囲は東西約 1.9km、南北約 1.3km と広大で、その範囲には 2 つの古墳群を含みます。平山遺跡は縄文時代から古代の土器が出土することで早くから知られ、これまでの発掘調査により、旧石器時代から近世に及ぶ複合遺跡であることが分かっています。

本事業に伴う発掘調査は平成 29 年 2 月に開始し、平山遺跡を横断するように、遺跡の東から西へ向かって発掘調査を進めてきました。それと並行して、二次整理調査・報告書作成を進め、これまでに 2 冊の発掘調査報告書を刊行しました（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368・382 集）。本報告書はそれに続くものです。

今回の発掘調査では、旧石器時代、縄文時代、弥生時代～古墳時代、古代、古代末～中世、近世以降の各時代の遺構・遺物が見つかりました。特に、弥生時代後期～古墳時代前期、古代の集落については、これまでの発掘調査成果も含めて、集落の広がりやその特徴を把握することができました。

本報告書が多くの人々に活用され、埋蔵文化財に対する都民の皆さまの関心と理解を深めていただくことができれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市教育委員会に厚く御礼を申し上げるとともに、ご理解とご協力をいただきました地域住民の皆さん、研究者の皆さんに心より感謝いたします。

令和 7 年 8 月

公益財団法人 東京都教育支援機構

理事長 坂東 真理子

## 例 言

- 1 本書は、東京都日野市豊田三丁目他に所在する平山遺跡（日野市 No.22 遺跡）のうち、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所による、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 391 集）である。

なお、事業は現在も継続しており、本書は平成 31/ 令和元年度から令和 3 年度の発掘調査対象地点について「その 3」として報告するものである。
- 2 発掘調査事業は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所の委託を受け、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本調査に先立つ試掘調査は、遺跡内ですでに複数回の本調査が行われているため実施していない。
- 4 遺跡所在地：東京都日野市東平山二丁目
- 5 調査面積：3,654m<sup>2</sup>
- 6 調査期間：平成 31 年 4 月 2 日から令和元年 7 月 23 日まで・
  - 令和元年 11 月 1 日から令和 2 年 11 月 2 日まで（2-6 西区）
  - 令和 2 年 4 月 23 日から令和 3 年 7 月 20 日まで（2-6 東区）
  - 令和 2 年 10 月 12 日から令和 3 年 3 月 3 日まで（2-7 区）

一次整理期間：平成 31 年 4 月 2 日から令和元年 7 月 23 日まで・  
令和元年 11 月 1 日から令和 3 年 7 月 20 日まで

二次整理・報告書作成期間：令和 5 年 12 月 1 日から令和 7 年 8 月 31 日
- 7 本事業における事業者との事業調整等は、東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。
  - 埋蔵文化財担当統括課長代理 伊藤敏行（～令和 2 年 3 月）
  - 埋蔵文化財担当課長代理 鈴木徳子（令和 2 年 4 月～）
  - 埋蔵文化財担当 尾田識好（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）
  - 野口 舞（令和 2 年 4 月～）
- 8 調査担当者
  - 東京都埋蔵文化財センター日野バイパス分室
    - 調査課課長 山本孝司（平成 31 年 4 月～令和 5 年 3 月）
    - 調査課係長（課長代理）西山博章（平成 31 年 4 月～令和 5 年 3 月）
    - 調査課課長 西山博章（令和 5 年 4 月～）
    - 調査課課長代理 塚田清啓（令和 6 年 4 月～）
    - 調査研究員 江里口省三（平成 31 年 4 月～令和元年 7 月）
    - 小西絵美（令和元年 5 月～）
    - 舟木太郎（令和元年 5 月～7 月）
    - 相原正人（令和元年 11 月～）
    - 藤丸亮介（令和 2 年 2 月～6 月）

加藤俊樹（令和2年7月～令和3年6月）

合田恵美子（令和3年1月～3月）

調査工事委託・支援会社

岩倉建設株式会社 テイケイトレード株式会社

9 本報告書の執筆は、小西絵美・相原正人・塚田清啓が分担し、文責は各文末に記した。

10 本報告書の編集は、相原・小西が行った。

11 古代の瓦については、EDXによる元素組成分析を行った。

破断面の実体顕微鏡画像撮像には、OLMPUS製デジタル実体顕微鏡 DSX-110（東京都埋蔵文化財センター）を用いた。

元素組成分析には、島津製卓上型エネルギー分散蛍光X線分析装置（EDX）EDX-8100（東京都埋蔵文化財センター）を用いた。

解析は長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター学芸担当課長代理）が行った。

12 本報告に関して、下記の方々と機関に分析を委託、依頼した。

放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社

炭化材の樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社

炭化種実の同定：パリノ・サーヴェイ株式会社

テフラ分析：パリノ・サーヴェイ株式会社

須恵器产地同定：根本 靖氏（古代の入間を考える会）

石質鑑定：柴田 徹氏（有限会社考古石材研究所）

瓦の分析・金属製品の保存処理：長佐古真也

13 本調査の概要については、以下において一部を発表、報告しているが、本書の刊行を以て正式報告とする。

東京都埋蔵文化財センター 2020『東京都埋蔵文化財センターワン報 40 令和元（2019）年度』

相原正人 2021「東京都内の方形周溝墓～集落との関係を中心に～」令和2年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー・東京都埋蔵文化財センター設立40周年記念事業『方形周溝墓を考える』 東京都埋蔵文化財センター

14 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、日野市教育委員会で保管している。

15 本文用例等

・本書で掲載・参照した地形図等は、以下のとおりである。

国土地理院電子地形図 25000

東京都教育委員会「東京都遺跡地図」

東京デジタルマップ株式会社「東京都 2,500 デジタルマップ」

株式会社ミッドマップ東京「東京都 2,500 デジタル白地図 2015」

（承認番号 7都市基交著第7号）

「日野市域小字限り切絵図」（日野市所蔵）

・平山遺跡グリッド設定図（第2図）は、東京都埋蔵文化財センターとの協議に基づいて日野市教育委員会が作成したものに、加筆・修正を加えた。

- ・土層・遺物の色調、含有量の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖 17 版』を用い、土色・マンセルノテーションで表した。
- ・遺物取り上げ・遺構の図化は、株式会社パスコ社 パドラス T3Di を用いた。
- ・調査に使用した座標は、世界測地系第IX座標系に拠る国土座標である。
- ・本書で使用した標高は、海拔で示し、東京湾平均海面 (Tokyo Peil : TP) を用いた。

16 発掘調査及び整理に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して、深謝いたします。(順不同・敬称略)

国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、  
東宮下自治会、西宮下自治会、川北地域自治会・まちづくり協議会、  
東京都教育委員会、公益財団法人東京都都市づくり公社、日野市教育委員会、日野市郷土資料館、  
日野市まちづくり部区画整理課、日野市立滝合小学校、国分寺市教育委員会、株式会社 CEL、  
加藤恭朗、清野利明、鶴間正昭、寺前めぐみ、依田亮一

17 本報告書の著作権は、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが保有する。

## 凡 例

- ・本報告に用いた遺構略号以下の通りである。

中世以前 遺物集中部：SBL 竪穴建物跡：SI 集石：SS 溝：SD 土坑：SK ピット：SP  
近世以降 道路跡：SFK 溝：SDK 土坑：SKK ピット：SPK

- ・遺構番号については、既報告地点からの連番とした。
- ・遺物接合図における土器類・石器・石製品・金属製品は、原則として遺構が帰属する時代の遺物に限定した。
- ・出土・分布・接合状況図に添付した出土遺物実測図は、1/8 を原則とし、一部 1/4、1/6 他を使用した。
- ・竪穴建物跡においては、掘方覆土も含め、「貼床土」とした。
- ・弥生時代後期～古墳時代前期の土器については、図や表に記載する際は「土器」とした。
- ・第IV章に掲載した個別の遺物写真については、概ね実測図と同サイズで掲載した。
- ・挿図で用いた主なスクリーントーンと遺物ドットマークは以下のとおりである。これ以外は、図中

遺構図スクリーントーン一覧



遺物実測図スクリーントーン一覧

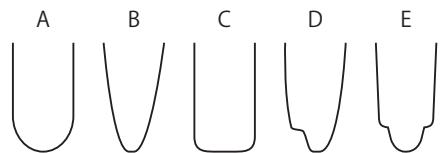


遺物ドットマーク凡例

◎ 繩文土器 ○ 土器 ● 土師器 △ 須恵器 + ロクロ土師器 ▲ 灰釉陶器 ■ 瓦 □ 石器・石製品 ◆ 金属製品 × 磁・焼礫 ⊕ 炭化材・炭化種実 ▼ 焼成粘土塊

に凡例を示した。

- ・旧石器時代の石器について、当時の所産ではない痕跡（いわゆるガジリ等）は実測図中で黒色塗潰しにより表現した。
- ・遺物観察表の法量の項目は、上段が口径、中段が器高、下段が底径または脚部径を示す。
- ・土坑・ピットの一覧表にある断面形態は以下の模式図のとおりである。



## 目 次

日野市平山遺跡その3の調査	1) 集石	50
Overview of Hirayama Site, Hino City	2) 土坑	62
序言	3) ピット	79
例言・凡例	4) 遺構外出土遺物	92
I 発掘調査の概要	A 土器	92
1 調査に至る経緯	B 土製品	112
2 調査の方法と経過	C 石器	113
1) 調査の方法	3 弥生時代～古墳時代	136
2) 発掘調査の経過	1) 壇穴建物跡	136
3) 整理調査の経過	2) 土坑	206
4) 普及事業等	3) ピット	207
II 遺跡の位置と環境	4) 遺構外出土遺物	208
1 地理的環境	A 弥生時代前期の土器	208
2 歴史的環境	B 弥生時代後期～古墳時代前期の	
III 層序	土器	208
IV 遺構と遺物	C 古墳時代後期の土器	209
1 旧石器時代	4 古代	212
1) 2号遺物集中部	1) 壇穴建物跡	212
2) 遺構外出土遺物	2) 掘立柱建物跡	361
2 繩文時代	3) 土坑	376

4) ピット	391	1) 竪穴建物跡の形態・規模・付帯施設等について	523
5) 遺構外出土遺物	404	2) 帰属時期と集落の変遷	525
5 古代末～中世	426	3) 集落と墓域	525
1) 溝	426	4 古代	526
2) 掘立柱建物跡	439	1) 平山遺跡その1～3調査地点における 集落の変遷	526
3) 土坑	442	2) 平山遺跡その3調査地点における 遺構群の変遷	525
4) ピット	459	3) 竪穴建物跡出土須恵器の産地と時期ごと の傾向について	530
5) 遺構外出土遺物	480	4) 多摩ニュータウンNo.107 遺跡出土須恵器 と類似する須恵器について	532
6 近世以降	482	5) 平山遺跡出土のコップ形須恵器について	533
1) 道路跡	482	6) 平山遺跡その3調査地点の文字資料に について	534
2) 農事関連遺構群	482	5 古代末～中世	534
3) 遺構外出土遺物	491	6 近世以降	535
V 自然科学分析	493	引用・参考文献	538
1 平山遺跡2-6・2-7区の種実同定・樹種同定・ 放射性炭素年代測定	493	報告書抄録	539
2 平山遺跡2-6東区・2-7区の土壤分析	508		
3 平山遺跡その3出土瓦の元素組成分析	517		
VI 調査の成果と課題	522		
1 旧石器時代	522		
2 繩文時代	523		
3 弥生時代後期～古墳時代前期	523		

## 巻頭写真目次

写真1 調査地点遠景(平成29年3月、南東方向から撮影)	i	写真5 奈良時代の土師器(SI67)	iii
写真2 埋没谷で出土した縄文時代前期の土器	ii	写真6 平安時代の須恵器・灰釉陶器(SI69)	iii
写真3 弥生時代後期の竪穴建物跡(SI65)	ii	写真7 SI64出土の銅製巡方	iii
写真4 SI66の粘土床炉	ii		

## 挿図目次

第 1 図 平山遺跡の位置(1/25,000) ······	2	第 44 図 SK287～290(1/40) ······	70
第 2 図 平山遺跡グリッド設定図(1/10,000) ······	3	第 45 図 SK289出土遺物(1/3)・写真 ······	71
第 3 図 調査区設定図(1/2,000) ······	4	第 46 図 SK293～297(1/40) ······	72
第 4 図 2-6西・2-6東・2-7区全景 ······	12	第 47 図 SK216・223・237写真 ······	73
第 5 図 各調査区調査前・調査完了・埋め戻し状況 ······	13	第 48 図 SK243・246・272・273写真 ······	74
第 6 図 周辺の地形と地質(1/100,000) ······	15	第 49 図 SK274～279・282・285写真 ······	75
第 7 図 周辺の遺跡(1/25,000) ······	17	第 50 図 SK284・286写真 ······	76
第 8 図 土層断面・試掘坑位置図(1/800) ······	24	第 51 図 SK287～293写真 ······	77
第 9 図 基本層序(1/80) ······	25	第 52 図 SK294～297写真 ······	78
第 10 図 調査区土層断面(1) ······	27	第 53 図 SP684・701・702・796・903・904・972～975・977(1/40) 80	
第 11 図 調査区土層断面(2) ······	28	第 54 図 SP978・979・982・984～988・990・992・995(1/40) 81	
第 12 図 2-6東・2-7区試掘坑 ······	29	第 55 図 SP993・994・999・1009～1013・1019(1/40) ······	82
第 13 図 旧石器時代～中世遺構全体図(1/500) ······	31	第 56 図 SP1014～1018・1021～1024・1026・1027(1/40) ······	83
第 14 図 SBL2(1)器種・石材別分布図(1/60) ······	34	第 57 図 SP1028・1031・1034～1037・1039・1041・1043・1045(1/40) 84	
第 15 図 SBL2(2)石器接合分布図(1/60) ······	35	第 58 図 SP1046・1047・1049・1051～1053・1055(1/40) ······	85
第 16 図 SBL2出土遺物(1)(1/1・4/5) ······	36	第 59 図 SP682・684・701・702・764・796・903・904・972～977写真 86	
第 17 図 SBL2出土遺物(1)写真 ······	37	第 60 図 SP978～980・982～988・990～994写真 ······	87
第 18 図 SBL2出土遺物(2)(4/5) ······	38	第 61 図 SP995～999・1009～1019・1021・1022写真 ······	88
第 19 図 SBL2出土遺物(2)写真 ······	39	第 62 図 SP1023・1024・1026～1028・1030・1031・1034～1039・ 1041・1043写真 ······	89
第 20 図 SBL2出土遺物(3)(4/5) ······	40	第 63 図 SP1045～1047・1049～1056写真 ······	90
第 21 図 SBL2出土遺物(3)写真 ······	41	第 64 図 縄文時代土器分布図(1)(1/800) ······	94
第 22 図 SBL2出土遺物(4)(4/5)・写真 ······	43	第 65 図 縄文時代土器分布図(2)(1/800) ······	95
第 23 図 SBL2出土遺物(5)(4/5) ······	44	第 66 図 縄文時代遺構外出土遺物(1)(1/3) ······	96
第 24 図 SBL2出土遺物(5)写真 ······	45	第 67 図 縄文時代遺構外出土遺物(1)写真 ······	97
第 25 図 SBL2出土遺物(6)・旧石器遺構外出土遺物(2/3) ······	46	第 68 図 縄文時代遺構外出土遺物(2)(1/3) ······	98
第 26 図 SBL2出土遺物(6)・旧石器遺構外出土遺物写真 ······	47	第 69 図 縄文時代遺構外出土遺物(2)写真 ······	99
第 27 図 SBL2写真(1) ······	48	第 70 図 縄文時代遺構外出土遺物(3)(1/3) ······	100
第 28 図 SBL2写真(2) ······	49	第 71 図 縄文時代遺構外出土遺物(3)写真 ······	101
第 29 図 縄文時代遺構分布図(1/800・1/400) ······	51	第 72 図 縄文時代遺構外出土遺物(4)(1/3) ······	102
第 30 図 2-6東区 埋没谷土層断面図・等高線図(IV層上面)(1/80・1/400) 52		第 73 図 縄文時代遺構外出土遺物(4)写真 ······	103
第 31 図 SS15(1)(1/60) ······	53	第 74 図 縄文時代遺構外出土遺物(5)(1/3) ······	104
第 32 図 SS15(2)遺物分布・接合図(1/60) ······	54	第 75 図 縄文時代遺構外出土遺物(5)写真 ······	105
第 33 図 SS15出土遺物(1/3・2/3)・写真 ······	55	第 76 図 縄文時代遺構外出土遺物(6)(1/3) ······	106
第 34 図 SS16(1/60) ······	57	第 77 図 縄文時代遺構外出土遺物(6)写真 ······	107
第 35 図 SS15・16写真 ······	58	第 78 図 縄文時代遺構外出土遺物(7)(1/3) ······	108
第 36 図 SS17(1)(1/60) ······	59	第 79 図 縄文時代遺構外出土遺物(7)写真 ······	109
第 37 図 SS17(2)遺物分布・接合図(1/60) ······	60	第 80 図 縄文時代遺構外出土遺物(8)(1/3・1/2) ······	110
第 38 図 SS17写真 ······	61	第 81 図 縄文時代遺構外出土遺物(8)写真 ······	111
第 39 図 SS17出土遺物(1/3)・写真 ······	62	第 82 図 縄文時代遺構外出土遺物(9)(1/3)・写真 ······	113
第 40 図 SK216・223・237(1/40) ······	63	第 83 図 縄文時代遺構外出土遺物(10)(2/3・1/3) ······	122
第 41 図 SK243・246・272・275(1/40) ······	66	第 84 図 縄文時代遺構外出土遺物(10)写真 ······	123
第 42 図 SK276・278・284(1/40) ······	67	第 85 図 縄文時代遺構外出土遺物(11)(1/3) ······	124
第 43 図 SK279・286(1/40) ······	69		

第 86 図 縄文時代遺構外出土遺物(11)写真	125	第132図 SI65写真(5)	182
第 87 図 縄文時代遺構外出土遺物(12)(1/3)	126	第133図 SI65出土遺物(1/3)	184
第 88 図 縄文時代遺構外出土遺物(12)写真	127	第134図 SI65出土遺物写真	185
第 89 図 縄文時代遺構外出土遺物(13)(1/3)	128	第135図 SI66(1)(1/60)	188
第 90 図 縄文時代遺構外出土遺物(13)写真	129	第136図 SI66(2)	189
第 91 図 縄文時代遺構外出土遺物(14)(1/3)	130	第137図 SI66(3)炉(1/30)	190
第 92 図 縄文時代遺構外出土遺物(14)写真	131	第138図 SI66(4)貯蔵穴・土堤・粘土範囲(1/30)・遺物出土状況図 (1/60)	191
第 93 図 縄文時代遺構外出土遺物(15)(1/3・1/6)	132	第139図 SI66(5)遺物分布図(1/60)	192
第 94 図 縄文時代遺構外出土遺物(15)写真	133	第140図 SI66(6)遺物接合図(1/60)	193
第 95 図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図(1/800)	137	第141図 SI66写真(1)	194
第 96 図 SI59(1)(1/60)	139	第142図 SI66写真(2)	195
第 97 図 SI59(2)炉・貯蔵穴・土堤(1/30)・遺物出土状況図(1/60)	140	第143図 SI66写真(3)	196
第 98 図 SI59(3)遺物分布・接合図(1/60)	141	第144図 SI66写真(4)	197
第 99 図 SI59写真(1)	142	第145図 SI66出土遺物(1/3)	198
第100図 SI59写真(2)	143	第146図 SI66出土遺物写真	199
第101図 SI59写真(3)	144	第147図 SI74(1)(1/60)	201
第102図 SI59出土遺物(1)(1/3)・写真	145	第148図 SI74(2)遺物分布・接合図(1/60)	202
第103図 SI59出土遺物(2)(1/3)	146	第149図 SI74写真(1)	203
第104図 SI59出土遺物(2)写真	147	第150図 SI74写真(2)	204
第105図 SI60(1)(1/60)	150	第151図 SI74出土遺物(1/3)・写真	205
第106図 SI60(2)炉・貯蔵穴(1/30)	151	第152図 SK283(1/40)	206
第107図 SI60(3)遺物分布・接合図(1/60)	152	第153図 SK283写真	206
第108図 SI60写真(1)	153	第154図 SP772(1/40)	207
第109図 SI60写真(2)	154	第155図 SP772写真	207
第110図 SI60写真(3)	155	第156図 弥生時代前期遺構外出土遺物(1/3)・写真	208
第111図 SI60出土遺物(1/3)	156	第157図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物(1/3)・写真	209
第112図 SI60出土遺物写真	157	第158図 古墳時代後期遺構外出土遺物(1/3)・写真	210
第113図 SI62(1)(1/60)	159	第159図 弥生時代～古墳時代土器分布図(1/800)	211
第114図 SI62(2)炉・貯蔵穴(1/30)	160	第160図 古代遺構分布図・区割図(1/800・1/2,000)	213
第115図 SI62(3)赤砂(1/30)・遺物出土状況図(1/60)	161	第161図 古代遺構分布図割図(1)(1/400)	214
第116図 SI62(4)遺物分布・接合図(1/60)	162	第162図 古代遺構分布図割図(2)(1/400)	215
第117図 SI62写真(1)	163	第163図 SI58(1)(1/60)	216
第118図 SI62写真(2)	164	第164図 SI58(2)	217
第119図 SI62写真(3)	165	第165図 SI58(3)カマド・棚状施設(1/30)	218
第120図 SI62出土遺物(1/3)	166	第166図 SI58(4)遺物出土状況図(1/60)	219
第121図 SI62出土遺物写真	167	第167図 SI58(5)遺物分布図(1/60)	220
第122図 SI65(1)(1/60)	171	第168図 SI58(6)遺物分布図(炭化材・炭化種実)(1/60)	221
第123図 SI65(2)	173	第169図 SI58(7)遺物接合図(1/60)	223
第124図 SI65(3)炉・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	174	第170図 SI58写真(1)	226
第125図 SI65(4)遺物出土状況図(1/60)	175	第171図 SI58写真(2)	227
第126図 SI65(5)遺物分布図(1/60)	176	第172図 SI58写真(3)	228
第127図 SI65(6)遺物接合図(1/60)	177	第173図 SI58写真(4)	229
第128図 SI65写真(1)	178	第174図 SI58出土遺物(1)(1/3)	230
第129図 SI65写真(2)	179	第175図 SI58出土遺物(1)写真	231
第130図 SI65写真(3)	180	第176図 SI58出土遺物(2)(1/3)	232
第131図 SI65写真(4)	181		

第177図	SI58出土遺物(2)写真	233	第223図	SI67(1)(1/60)	292
第178図	SI58出土遺物(3)(1/3)	234	第224図	SI67(2)	293
第179図	SI58出土遺物(3)写真	235	第225図	SI67(3)カマド(1/30)	294
第180図	SI58出土遺物(4)(1/3・1/2)・写真	236	第226図	SI67(4)遺物出土状況図(1/60)	295
第181図	SI61(1/60)	240	第227図	SI67(5)遺物分布図(1/60)	296
第182図	SI61写真	241	第228図	SI67(6)遺物接合図(1/60)	297
第183図	SI61出土遺物(1/3)・写真	242	第229図	SI67写真(1)	298
第184図	SI63(1)(1/60)	244	第230図	SI67写真(2)	299
第185図	SI63(2)(1/60)	245	第231図	SI67写真(3)	300
第186図	SI63(3)西カマド(1/30)	246	第232図	SI67出土遺物(1)(1/3)	302
第187図	SI63(4)西カマド	247	第233図	SI67出土遺物(1)写真	303
第188図	SI63(5)北カマド(1/30)	248	第234図	SI67出土遺物(2)(1/3)	304
第189図	SI63(6)東カマド(1/30)	249	第235図	SI67出土遺物(2)写真	305
第190図	SI63(7)遺物分布図(1/60)	250	第236図	SI67出土遺物(3)(1/3)	306
第191図	SI63(8)遺物接合図(1/60)	251	第237図	SI67出土遺物(3)写真	307
第192図	SI63写真(1)	254	第238図	SI67出土遺物(4)(1/3)・写真	308
第193図	SI63写真(2)	255	第239図	SI67出土遺物(5)(1/3)・写真	309
第194図	SI63写真(3)	256	第240図	SI68(1)(1/60)	313
第195図	SI63写真(4)	257	第241図	SI68(2)カマド(1/30)	314
第196図	SI63写真(5)	258	第242図	SI68(3)遺物分布・接合図(1/60)	315
第197図	SI63写真(6)	259	第243図	SI68写真(1)	316
第198図	SI63出土遺物(1)(1/3)	260	第244図	SI68写真(2)	317
第199図	SI63出土遺物(1)写真	261	第245図	SI68写真(3)	318
第200図	SI63出土遺物(2)(1/3)	262	第246図	SI68出土遺物(1/3)・写真	319
第201図	SI63出土遺物(2)写真	263	第247図	SI69(1)(1/60)	321
第202図	SI63出土遺物(3)(1/3)	264	第248図	SI69(2)カマド(1/30)	322
第203図	SI63出土遺物(3)写真	265	第249図	SI69(3)カマド	323
第204図	SI63出土遺物(4)(1/3・1/2)	266	第250図	SI69(4)遺物出土状況図(1/30)	324
第205図	SI63出土遺物(4)写真	267	第251図	SI69(5)遺物分布図(1/60)	325
第206図	SI64(1)(1/60)	271	第252図	SI69(6)遺物接合図(土師器・金属製品)(1/60)	326
第207図	SI64(2)(1/60)	272	第253図	SI69(7)遺物接合図(須恵器・灰釉陶器)(1/60)	327
第208図	SI64(3)カマド・棚状施設(1/30)	273	第254図	SI69写真(1)	328
第209図	SI64(4)遺物分布図(1/60)	275	第255図	SI69写真(2)	329
第210図	SI64(5)遺物接合図(土師器・石製品・金属製品)(1/60)	276	第256図	SI69写真(3)	330
第211図	SI64(6)遺物接合図(須恵器)(1/60)	277	第257図	SI69写真(4)	331
第212図	SI64写真(1)	278	第258図	SI69出土遺物(1)(1/3)	332
第213図	SI64写真(2)	279	第259図	SI69出土遺物(1)写真	333
第214図	SI64写真(3)	280	第260図	SI69出土遺物(2)(1/3)	334
第215図	SI64写真(4)	281	第261図	SI69出土遺物(2)写真	335
第216図	SI64出土遺物(1)(1/3)	282	第262図	SI69出土遺物(3)(1/3)	336
第217図	SI64出土遺物(1)写真	283	第263図	SI69出土遺物(3)写真	337
第218図	SI64出土遺物(2)(1/3)	284	第264図	SI69出土遺物(4)(1/2)・写真	338
第219図	SI64出土遺物(2)写真	285	第265図	SI72(1)(1/60)	342
第220図	SI64出土遺物(3)(1/3・1/6)	286	第266図	SI72(2)カマド(1/30)	343
第221図	SI64出土遺物(3)写真	287	第267図	SI72(3)遺物分布・接合図(1/60)	344
第222図	SI64出土遺物(4)(1/2)・写真	288	第268図	SI72写真(1)	345

第269図	SI72写真(2) .....	346	第310図	SP951・954・958・963・964・969(1/40) .....	398
第270図	SI72写真(3) .....	347	第311図	SP650・653・662・664・666・672・675・680・697～700・ 703・707・769写真 .....	399
第271図	SI72出土遺物(1/3)・写真 .....	348	第312図	SP776・779・781・783・787～791写真 .....	400
第272図	SI73(1)(1/60) .....	350	第313図	SP792～795・797～800・920～923・926・927・930・931 写真 .....	401
第273図	SI73(2)カマド(1/30) .....	351	第314図	SP932・935・941・943・950・951・954・958・963・964・969 写真 .....	402
第274図	SI73(3)カマド .....	352	第315図	包含層出土古代土師器・須恵器・灰釉陶器分布図(1/800) 405	
第275図	SI73(4)遺物分布・接合図(1/60) .....	353	第316図	古代遺構外出土遺物(1)(1/3) .....	406
第276図	SI73写真(1) .....	354	第317図	古代遺構外出土遺物(1)写真 .....	407
第277図	SI73写真(2) .....	355	第318図	古代遺構外出土遺物(2)(1/3) .....	408
第278図	SI73写真(3) .....	356	第319図	古代遺構外出土遺物(2)写真 .....	409
第279図	SI73写真(4) .....	357	第320図	古代遺構外出土遺物(3)(1/3) .....	410
第280図	SI73出土遺物(1/3)・写真 .....	359	第321図	古代遺構外出土遺物(3)写真 .....	411
第281図	古代遺構間接合図(1/800・1/400) .....	362	第322図	古代遺構外出土遺物(4)(1/3) .....	412
第282図	掘立柱建物跡D(1) SP678・743～745・753・754・771・ 785・786・788(1/60) .....	363	第323図	古代遺構外出土遺物(4)写真 .....	413
第283図	掘立柱建物跡D(2) SP678・743～745・753・754・771・ 785・786・788 .....	365	第324図	古代遺構外出土遺物(5)(1/3) .....	414
第284図	掘立柱建物跡D(3) SP678・743～745・753・754・771・ 785・786・788遺物分布・接合図(1/60) .....	366	第325図	古代遺構外出土遺物(5)写真 .....	415
第285図	掘立柱建物跡D写真 .....	367	第326図	古代遺構外出土遺物(6)(1/3) .....	416
第286図	掘立柱建物跡D出土遺物(1/3)・写真 .....	368	第327図	古代遺構外出土遺物(6)写真 .....	417
第287図	掘立柱建物跡E(1) SP767・784・925・937・939・940・ 944・946・947(1/60) .....	369	第328図	古代遺構外出土遺物(7)(1/3・1/4)・写真 .....	418
第288図	掘立柱建物跡E(2) SP767・784・925・937・939・940・ 944・946・947 .....	372	第329図	古代末～中世遺構分布図・区割図(1/800・1/2,000) ..	427
第289図	掘立柱建物跡E写真 .....	373	第330図	古代末～中世遺構分布図割図(1)(1/400) .....	428
第290図	掘立柱建物跡F SP755～760(1/60) .....	374	第331図	古代末～中世遺構分布図割図(2)(1/400) .....	429
第291図	掘立柱建物跡F写真 .....	375	第332図	SD12(1)(1/80・1/500) .....	430
第292図	SK195(1)(1/40) .....	376	第333図	SD12(2)(1/40) .....	431
第293図	SK195(2)遺物分布・接合図(1/40) .....	377	第334図	SD12(3)遺物分布・接合図(1/80・1/500) .....	432
第294図	SK195出土遺物(1)(1/3) .....	378	第335図	SD12写真 .....	433
第295図	SK195出土遺物(1)写真 .....	379	第336図	SD13(1)(1/40・1/80・1/500) .....	435
第296図	SK195出土遺物(2)(1/3)・写真 .....	380	第337図	SD13(2)遺物分布・接合図(1/80・1/500) .....	436
第297図	SK208・210・215・224(1/40) .....	383	第338図	SD13写真 .....	437
第298図	SK217・225・227・228・230(1/40) .....	385	第339図	SD14(1/40) .....	438
第299図	SK229・239・247・248・250(1/40) .....	386	第340図	SD14写真 .....	438
第300図	SK195写真 .....	387	第341図	掘立柱建物跡G SP910～914(1/60) .....	440
第301図	SK208・210・213～215写真 .....	388	第342図	掘立柱建物跡G写真 .....	441
第302図	SK217・224・225・227～229写真 .....	389	第343図	SK190・191(1/40) .....	443
第303図	SK230・239・244・247・248・250・280写真 .....	390	第344図	SK192～194・199・201(1/40) .....	445
第304図	SP650・653・664・666・672・675・680・697～700・781(1/40) 392		第345図	SK202～206(1/40) .....	446
第305図	SP703・769・776・779・783・787(1/40) .....	393	第346図	SK207・209・211・222・226(1/40) .....	448
第306図	SP789～793(1/40) .....	394	第347図	SK231～235(1/40) .....	450
第307図	SP794・795・797・798・920～923(1/40) .....	395	第348図	SK236・240～242(1/40) .....	451
第308図	SP926・927・930～932・935・941・943・950(1/40) .....	396	第349図	SK245・249・269・270(1/40) .....	452
第309図	SP950出土遺物(1/3)・写真 .....	398	第350図	SK190～194・199・201・202写真 .....	453
			第351図	SK203～207・209・211写真 .....	454
			第352図	SK219・222・226・231～235写真 .....	455

第353図 SK236・240～242・245・249・269・270写真	456	第375図 近世以降の遺構分布図割図(2)(1/200)	485
第354図 SK190・191・242出土遺物(1/3・1/4)・写真	458	第376図 近世以降の遺構分布図割図(3)(1/200)	486
第355図 SP632・634・636・637・642～644・648・649・651・652・ 654・774(1/40)	461	第377図 近世以降の遺構分布図割図(4)(1/200)	487
第356図 SP655～658・660・665・667～669・670・674(1/40)	462	第378図 SFK1(1/40・1/120)	488
第357図 SP673・676・677・681・688・694・695・704・708・709・ 725(1/40)	463	第379図 SFK1写真	489
第358図 SP728・729・731～739・746(1/40)	464	第380図 近世以降の遺構全景写真	490
第359図 SP747～749・761～763・768・770・773・775・777(1/40)	465	第381図 近世以降遺構外出土遺物(1/3)・写真	492
第360図 SP778・782・902・905・907・909・915・916・924・928(1/40)	466	第382図 暦年較正結果	501
第361図 SP917～919・929・933・934・936・942・945(1/40)	467	第383図 炭化種実	503
第362図 SP948・949・952・955・959～962(1/40)	468	第384図 炭化材(1)	504
第363図 SP965・966・968・1000・1004(1/40)	469	第385図 炭化材(2)	505
第364図 SP632～634・636・637・640・642～645・648・649・651・ 652・654～658・667・674・733・774写真	470	第386図 炭化材(3)	506
第365図 SP660・665・668～670・673・676・677・681・683・685・ 686～692写真	471	第387図 炭化材(4)	507
第366図 SP694～696・704～706・708～711・713～718写真	472	第388図 試料採取位置(1)(1/1,000)	508
第367図 SP719・721・722・724～729・731・732・734～736・ 739写真	473	第389図 試料採取位置(2)(1/40)	509
第368図 SP737・738・740～742・746～750・752・761～763・ 765・766・768写真	474	第390図 2-6東区試掘坑4東壁の重鉱物組成および火山ガラス比	512
第369図 SP770・773・775・777・778・780・782・901・902・905・ 907～909・915・916写真	475	第391図 2-7区試掘坑12北壁の重鉱物組成および火山ガラス比	512
第370図 SP917～919・924・928・929・933・934・936・942・945・ 948・949写真	476	第392図 2-6東区試掘坑4東壁の火山ガラスの屈折率	513
第371図 SP952・955・959～962・965・966・968・971・1000・ 1004・1005・1007・1008写真	477	第393図 2-7区試掘坑12北壁の火山ガラスの屈折率	513
第372図 中世遺構外出土遺物(1/3)・写真	481	第394図 重鉱物・火山ガラス	516
第373図 近世以降の遺構分布図・区割図(1/800・1/2,000)	483	第395図 分析対象	517
第374図 近世以降の遺構分布図割図(1)(1/200)	484	第396図 平山遺跡その3出土瓦試料測定断面の拡大画像	518
		第397図 平山遺跡その3出土瓦試料各元素分析値の二元分布図	519
		第398図 剥片剥離工程	522
		第399図 弥生時代後期～古墳時代前期集落全体図(1/4,000)	524
		第400図 古代集落変遷図(1/2,000)	527
		第401図 古代竪穴建物跡出土須恵器産地別グラフ	530
		第402図 平山遺跡その1～3調査地点竪穴建物跡出土須恵器産地別 グラフ	531
		第403図 平山遺跡出土コップ形須恵器集成(1/4)	533
		第404図 字限図・調査区と近世以降の遺構(1/2,000・1/1,200)	537

## 表 目 次

第 1 表 調査工程表(全体) .....	5	第 34 表 SI64出土土器観察表(1)～(3) .....	289～291
第 2 表 調査工程表(詳細) .....	6	第 35 表 SI64出土石製品観察表 .....	291
第 3 表 周辺の遺跡一覧 .....	18	第 36 表 SI64出土金属製品観察表 .....	291
第 4 表 SBL2石器計測表 .....	48	第 37 表 SI67出土土器観察表(1)～(3) .....	309～311
第 5 表 旧石器時代遺構外出土石器計測表 .....	48	第 38 表 SI67出土石製品観察表 .....	311
第 6 表 SS15出土土器・土製品観察表 .....	56	第 39 表 SI68出土土器観察表 .....	320
第 7 表 SS15出土石器観察表 .....	56	第 40 表 SI68出土石製品観察表 .....	320
第 8 表 SS17出土土器観察表 .....	62	第 41 表 SI69出土土器観察表(1)～(2) .....	339～340
第 9 表 繩文時代集石一覧表 .....	62	第 42 表 SI69出土金属製品観察表 .....	340
第 10 表 SK289出土土器観察表 .....	71	第 43 表 SI72出土土器観察表 .....	349
第 11 表 繩文時代土坑一覧表 .....	78	第 44 表 SI73出土土器観察表 .....	360
第 12 表 繩文時代ピット一覧表(1)～(2) .....	90・91	第 45 表 古代竪穴建物跡一覧表 .....	361
第 13 表 繩文時代遺構外出土土器観察表(1)～(8)・土製品観察表 .....	114～121	第 46 表 掘立柱建物跡D出土土器観察表 .....	368
第 14 表 繩文時代遺構外出土石器観察表(1)～(2) .....	134・135	第 47 表 SK195出土土器観察表 .....	381
第 15 表 SI59出土土器観察表 .....	148	第 48 表 古代土坑一覧表 .....	391
第 16 表 SI59出土石器・石製品観察表 .....	148	第 49 表 SP950出土土器観察表 .....	398
第 17 表 SI60出土土器観察表 .....	158	第 50 表 古代ピット一覧表(1)～(2) .....	403・404
第 18 表 SI62出土土器観察表 .....	168	第 51 表 古代遺構外出土土器観察表(1)～(6) .....	420～425
第 19 表 SI62出土石器観察表 .....	168	第 52 表 古代遺構外出土瓦観察表 .....	425
第 20 表 SI65出土土器観察表(1)～(2) .....	186・187	第 53 表 古代末～中世溝一覧表 .....	439
第 21 表 SI66出土土器観察表 .....	200	第 54 表 古代末～中世土坑一覧表 .....	457
第 22 表 SI74出土土器観察表 .....	205	第 55 表 SK190・191・242出土土器観察表 .....	459
第 23 表 弥生時代後期～古墳時代前期竪穴建物跡一覧表 .....	205	第 56 表 SK191出土瓦観察表 .....	459
第 24 表 弥生時代後期～古墳時代前期土坑・ピット一覧表 .....	207	第 57 表 古代末～中世ピット一覧表(1)～(3) .....	478～480
第 25 表 弥生時代前期遺構外出土土器観察表 .....	208	第 58 表 中世遺構外出土陶磁器類観察表 .....	481
第 26 表 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土土器観察表 .....	209	第 59 表 近世以降遺構外出土陶磁器類観察表 .....	492
第 27 表 古墳時代後期遺構外出土土器観察表 .....	210	第 60 表 近世以降遺構外出土石製品観察表 .....	492
第 28 表 SI58出土土器観察表(1)～(3) .....	236～238	第 61 表 種実同定結果 .....	494
第 29 表 SI58出土石製品観察表 .....	239	第 62 表 樹種同定結果 .....	497
第 30 表 SI58出土金属製品観察表 .....	239	第 63 表 放射性炭素年代測定結果および曆年較正結果 .....	500
第 31 表 SI61出土土器観察表 .....	242	第 64 表 重鉱物・火山ガラス比分析結果 .....	510
第 32 表 SI63出土土器観察表(1)～(3) .....	268～270	第 65 表 元素組成分析結果 .....	518
第 33 表 SI63出土金属製品観察表 .....	270	第 66 表 古代竪穴建物跡時期別一覧表 .....	526

## I 発掘調査の概要

### 1 調査に至る経緯

本発掘調査は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））事業地内の埋蔵文化財発掘調査である。

一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業計画に基づき、事業者である国土交通省関東地方整備局相武国道事務所（以下、相武国道事務所とする）は、平成 27 年 2 月 9 日に文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の通知を日野市教育委員会を経由して東京都教育委員会に提出し、埋蔵文化財発掘調査に関する協議が開始された。当該範囲は、平山遺跡（日野市 No. 22 遺跡）として周知の遺跡であり、これまでに複数回の発掘調査が行われていることから、日野市教育委員会は、相武国道事務所に平成 27 年 10 月 27 日付けで埋蔵文化財の本格調査が必要であると回答した。

これを受け、相武国道事務所は平成 27 年 11 月 2 日付けで東京都教育委員会に対し埋蔵文化財本調査に係る取り扱いの照会を行い、東京都教育委員会は、平成 27 年 11 月 10 日付けで本調査を公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（現公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター、以下、東京都埋蔵文化財センターとする）が実施する旨を回答した。これにより、関係機関で本調査に係る協議を開始し、平成 27 年 12 月 25 日付けで相武国道事務所及び東京都教育委員会、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））事業地内の埋蔵文化財発掘調査の対象範囲（I 期区間）について、「一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」が締結された。続いて、12 月 28 日付けで相武国道事務所と公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、埋蔵文化財発掘調査の委託契約（細目協定）「一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する細目協定書」が締結された。その後、平成 31 年 3 月 1 日付けで細目協定書の第 4 回変更が行われ、発掘調査対象範囲に 2-6 東・西区が追加され、令和 2 年 3 月 3 日付の第 5 回変更により、2-7 区が追加された。

文化財保護法第 92 条第 1 項に基づく本発掘調査の届出は東京都埋蔵文化財センターが日野市教育委員会に提出し、本調査の準備に入った。

本発掘調査に係る届出とそれに対する東京都教育委員会の発掘調査の通知は、次のとおりである。

発掘調査の実施について：国関整相国調第 23 号 平成 28 年 1 月 8 日

発掘調査の届出：29 号文事埋文第 2818 号 平成 30 年 3 月 30 日 [2-6 西区]

発掘調査の届出：30 号文事埋文第 2720 号 平成 31 年 3 月 22 日 [2-6 西・東区]

発掘調査の届出：31 号文事埋文第 2581 号 令和 2 年 3 月 16 日 [2-6 西・東・2-7 区]

発掘調査の届出：2 号文事埋文第 2617 号 令和 3 年 3 月 22 日 [2-6 東区]

発掘調査の通知：30 教地管埋第 484 号 平成 30 年 5 月 15 日 [2-6 西区]

発掘調査の通知：30 教地管埋第 4591 号 平成 31 年 3 月 31 日 [2-6 西・東区]

発掘調査の通知：2 教地管埋第 32 号 令和 2 年 4 月 24 日 [2-6 西・東・2-7 区]

発掘調査の通知：2 教地管埋第 4626 号 令和 3 年 3 月 31 日 [2-6 東区]



第1図 平山遺跡の位置 (1/25,000) [国土地理院電子地形図 25000に加筆]



第2図 平山遺跡グリッド設定図 (1/10,000)

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 7 都市基交著第7号

## 2 調査の方法と経過

### 1) 調査の方法

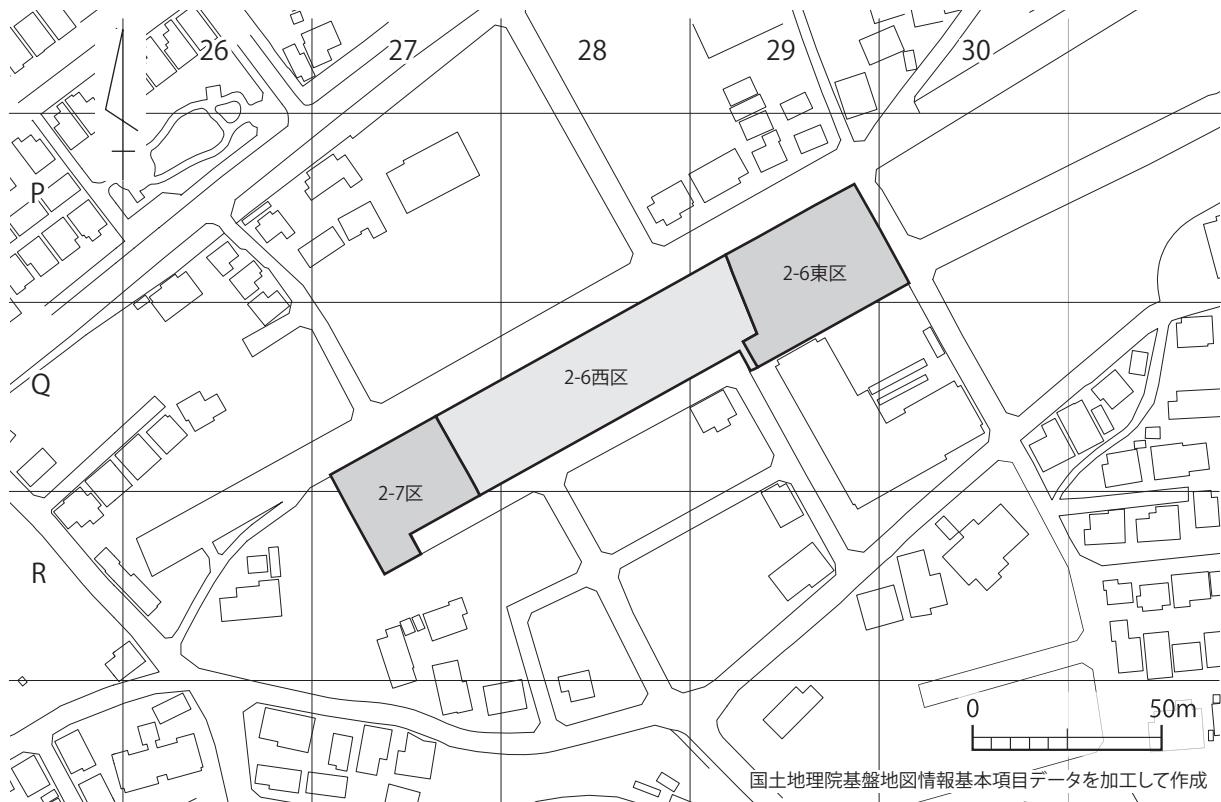
発掘調査に先立って、日野市教育委員会と協議の上、調査区画の設定を行った。平山遺跡における今後の発掘調査を勘案し、本事業の調査地点だけでなく、平山遺跡全域を対象範囲として設定した。

国土座標（世界測地系）を基準とする 50 m四方の大グリッドを設け、測量座標に準拠して北西隅を起点として X 軸には北から南に向け大文字アルファベットを、Y 軸には西から東に向かアラビア数字を付した。大グリッド内に 5m 四方の小グリッドを設け、北西角を起点に西から東、北から南の順で南東角まで 1 ~ 100 の小グリッド番号を付した。グリッド名は、大グリッド名と小グリッド番号で「-」でつなげて表記することとし、個々の小グリッドを「16F-23」のように呼称、表記した。基準とした 16F 北西隅の座標は、X=-38000.00、Y=-42000.00、原点の座標は X=-37750.00、Y=-42750.00 である（第 2 図）。標高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用した。

本報告に掲載する調査地点は、平成 31 / 令和元年度から令和 3 年度にかけて発掘調査を実施した 2-6 東・西区、2-7 区 ( $3,654 \text{ m}^2$ ) である。これらの調査地点は、既に刊行した発掘調査報告書『平山遺跡その 2』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 382 集）に収載した調査地点の西側に位置する。調査地点の番号は発掘調査に着手した順に付した。発掘調査の実施状況に応じて、調査範囲を分割した場合には、枝番号のあとに「東」や「西」を付けて呼称することとした。

遺構番号については、日野市教育委員会と協議の上、東京都埋蔵文化財センターの調査範囲において通番とし、原則として遺構種別毎に 1 号から付すこととした。

発掘調査は、最初の遺構確認面までの盛土及び表土を重機で掘削し、遺構確認や遺構の精査、遺物



第 3 図 調査区設定図 (1/2,000)

包含層の掘削は人力で行った。ただし、遺物が寡少なⅢ層下部（概ねⅢ 3 層に該当）とⅣ層の調査においては人力掘削を行いつつ、一部は重機による掘削も併用した。基本的な遺構確認面は、上からⅡ層上面、Ⅲ層中あるいはⅢ 2 層上面、Ⅴ層上面である。旧石器時代の試掘調査は 2-6 東区と 2-7 区において実施した。2 × 2m の試掘坑を設定し、Ⅴ層上面から 1.5m の深度まで人力掘削を行った。旧石器時代の石器が出土した場合には、出土位置を中心として試掘坑の範囲を拡張した。

各遺構の平面図や調査区の全体図の作成はトータルステーションによる計測とし、断面図や遺物出土状況等の微細図、一部の遺構の平面図は手書きによる作図を行った。発掘調査の記録写真は、35mm 版のフィルムカメラを基本として、デジタルカメラを併用した。出土遺物のうち、遺構出土遺物はトータルステーションで出土位置と標高を記録し、遺構単位で通し番号を振り取り上げた。一方、遺物包含層からの出土遺物は、調査地点ごとに連番とし、出土位置と標高、層位をトータルステーションで記録して取り上げた。なお、表土層及び近世以降の農事関連遺構群から出土した遺物については、グリッド単位で取り上げることとした。

## 2) 発掘調査の経過

今回報告する調査地点の発掘調査は、周辺住民及び関係諸機関と調整を重ね、平成 31 年 3 月 26 日から準備工に取り掛かった。発掘調査に着手した順序は、2-6 西区 (1,780m<sup>2</sup>)、2-6 東区 (1,144m<sup>2</sup>)、2-7 区 (730m<sup>2</sup>) である。2-6 区とした範囲の東部には、東京都埋蔵文化財センターの分室等の事務所棟が建っていた関係で、2-6 区全体のうち西部を「2-6 西区」とし、先行して発掘調査を実施することとした。

煩雑になることを避けるため、調査地点ごとに発掘調査の経過を記す。

### [2-6 西区]

2-6 西区では、平成 31 年 3 月 26 日からの準備工を経て、4 月 2 日から重機による表土掘削に着手し、発掘調査を開始した。当初は 3 月 1 日から準備工に着手する予定だったが、当該地点の引き渡しに遅れが生じたため、準備工の着手に若干の遅れが生じた。

表土掘削は令和元年 5 月 7 日に終了し、その後、Ⅱ層上面の精査、遺構検出を人力にて行った。調査区全域で、近世以降の畝間溝や土坑といった農事関連遺構群を検出し、その全景の撮影や測量を行った。当該遺構面での遺構検出を進める中で、調査区北西隅に大規模な搅乱があり、その深さがⅤ層であるローム層を深く掘り込んでいる状況が判明した。東京都教育委員会と協議を行い、この搅乱を含む一帯の範囲を先行してⅤ層までの発掘調査を実施し、埋め戻したのちに重機やダンプトラックの作業ヤードとして利用することとした。当該範囲の調査は 7 月 10 日から行い、7 月 23 日には埋戻

第 1 表 調査工程表（全体）

	H30 年度	H31/R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
2-6 西区発掘調査	■	■						
2-6 東区発掘調査			■	■				
2-7 区発掘調査				■				
一次整理調査	■	■	■					
二次整理調査					■	■		
報告書作成							■	

		H30年度						H31/R1年度						R2年度						R3年度							
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2-6 西 区	準備工 発振調査	[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]		[■]	
	埋戻し・撤去工 一次整理調査																										
	準備工 発掘調査																										
	埋戻し・撤去工 一次整理調査																										
2-6 東 区	準備工 発掘調査																										
	埋戻し・撤去工 一次整理調査																										
	準備工 発掘調査																										
	埋戻し・撤去工 一次整理調査																										
2-7 区																											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
二次 整理 調査	基礎整理 遺構図修正・ト レース																										
	遺物分類・台帳 作成																										
	遺物実測・拓本・ トレス																										
	遺物写真撮影・ 加工																										
	図版・表作成																										
	原稿執筆・編集																										
	自然科学分析委 託																										
	現地指導																										
	報告書作成																										

第2表 調査工程表（詳細）

しまで終了した。これ以外の範囲では、人力による遺物包含層（Ⅱ層）の掘削や遺構検出を進め、所々で遺物が集中的に出土する場所があることから、古代の竪穴建物跡が複数軒存在することが予想された。

2-6 西区の発掘調査は、並行して実施していた他の調査地点の発掘調査との関係から、7月24日から10月31日まで中断することになった。

11月1日から発掘調査を再開し、引き続き遺物包含層掘削を行った。遺構確認面まで掘り下げ、遺構検出作業を行い、古代末～中世の溝（SD12・13）や土坑、古代の竪穴建物跡（SI61）等を検出した。11月中旬からはこれらの遺構調査にも着手した。溝の調査を進める中で、溝に切られるかたちで弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物跡（SI60・62）や、古代の竪穴建物跡（SI63）があることが判明した。

また、2-6 西区の中央、SD12 と重複する場所にある攪乱に注射器や注射針といった医療廃棄物が含まれている状況が明らかになった。当該場所の調査を含めた取り扱いについて、令和元年12月18日に開催された定例会において、相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市区画整理課等の関係機関と協議を行った。東京都教育委員会の判断により、医療廃棄物の取り扱いが明確になるまでの間、当該場所の調査を休止することが決定した。その後、医療廃棄物を含む攪乱の周辺を精査したところ、1箇所のみならず、小規模ながら複数箇所に散在している状況が判明した。令和2年1月10日には、専門業者による医療廃棄物を確認するための立ち会いが行われた。1月23日の定例会において、関係機関にこの状況を説明し、再度協議を行うことになった。それと同時に、相武国道事務所を通じて、当該場所の以前の土地所有者の特定を日野市区画整理課へ打診した。

水銀やヒ素といった有害物質があることを懸念し、2月3日に医療廃棄物周辺の土壤検査を実施した。検査の結果、基準値を越える項目はなく、当該場所の土壤汚染は認められなかった。

溝や竪穴建物跡の遺構調査と並行して、遺物包含層掘削を進める中で、2-6 西区の西端に被熱した礫が集中的に分布する範囲があり、縄文時代の集石（SS15）として調査を行うこととした。調査を進める中で、SS15 は 2-6 西区のさらに西へと展開する可能性が高くなった。2月4日に同時に発掘調査を実施していた調査地点において空中写真撮影を行う予定だったことから、現時点で確認している古代末～中世の溝や古代の竪穴建物跡の遺構を対象として、2-6 西区においてもラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。その後、調査区西部、SD13 以西の範囲については、V層までの調査が終了し、2月20日の定例会において、東京都教育委員会による終了確認が行われた。この時点で、2-6 西区で検出した主要な遺構は、縄文時代の集石 2 基、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡 4 軒、古代の竪穴建物跡 3 軒である。

2月20日の定例会において、土壤汚染の問題はないこと、今後、専門業者立ち会いのもと、医療廃棄物の処分方法や処分費の打ち合わせを実施することを東京都埋蔵文化財センターから報告した。相武国道事務所からは、当該場所の土地所有者を特定することが難しいため、医療廃棄物の廃棄処分に係る費用は発掘調査委託費を充てる方針が示された。

年度が替わり、令和2年4月も引き続き、各時代の遺構調査と遺物包含層の掘削を実施した。医療廃棄物については、廃棄処分の手続きが整ったため、4月10日から15日にかけて掘り出し、専門業者による廃棄処分が行われた。調査区内から医療廃棄物が除去されたことを受けて、SD12 及

びその周辺の調査をようやく再開することができた。SD12 の調査は 5 月 14 日に終わり、その後、SD12 に切られる SI60 の調査を 6 月 17 日から開始した。7 月 28 日には、弥生時代後期～古墳時代及び古代の遺構を対象とした空中写真撮影を実施した。

8 月 18 日には SD13 南東側の一帯について、9 月 3 日には SD13 北東側の一帯について、東京都教育委員会による終了確認がそれぞれ行われた。これにより、2-6 西区の西部は発掘調査が終了したため、他の場所に先行して埋戻しを行うこととした。

調査区西部以外では、引き続き、遺構調査と遺物包含層掘削を進める中で、調査区中央部に古代の竪穴建物を壊すかたちで掘立柱建物が 2 棟あることが判明した。さらに、その北側において新たに古代の竪穴建物跡 (SI69) を検出した。最終的に 2-6 西区で検出した竪穴建物跡は、弥生時代後期～古墳時代前期が 5 軒、古代が 5 軒になった。これらの遺構調査を進めるとともに、遺構調査を終えた範囲では V 層までの遺物包含層掘削を行った。調査区東部では、V 層上面で縄文時代の陥し穴を 2 基検出した。陥し穴はいずれも楕円形を呈するタイプで、そのうちの 1 基で土坑底面に下部施設を確認した。土坑全体を完掘したのち、長軸で截ち割り調査を行い、下部施設の調査を実施した。

調査区東部については、10 月 15 日・23 日に東京都教育委員会による終了確認が行われた。10 月 22 日には、高所作業車を用いて、掘立柱建物跡の全景を撮影した。その後、記録作業や遺物包含層掘削を進めていき、10 月 30 日には調査区中央部の終了確認が東京都教育委員会により行われた。11 月 2 日には 2-6 西区の発掘調査が全て終了し、その後、調査区全体の埋戻しに移行した。

2-6 西区の埋戻しは 9 月から段階的に進めており、調査区全体の埋め戻しを終えたのは 11 月 30 日である。2-6 西区の日野市区画整理課への引き渡しはすぐに行われず、隣接する 2-6 東区、2-7 区と合わせて、令和 4 年 1 月 21 日に行った。

#### [2-6 東区]

発掘調査着手前の 2-6 東区には、調査区南部には盛土があり、周囲の地面より 1m 程度高い状態になっていた。盛土を除去するにあたり、令和元年 11 月 1 日に、2-6 東区に隣接する集合住宅の管理人及び住人を交えた協議が行われ、住人側から盛土除去作業に際して、小石が飛散する懸念があることが伝えられた。これを受けて、11 月 21 日の定例会において、盛土除去時の小石の飛散防止対策として、道路に面する調査区北側と集合住宅に隣接する南側の仮囲いに高さ 3m の鋼板塀を設置する計画を提案し、相武国道事務所から承諾を得た。その後、鋼板塀やガードフェンスの設置を行い、12 月 12 日から盛土除去作業を開始した。盛土には廃棄物が多く含まれていたため、見込んでいたよりも時間を要したが、令和 2 年 1 月 17 日には終了した。他の調査地点との兼ね合いで、2-6 東区の平成 31 / 令和元年度の作業は、これで一時中断することになった。

年度が替わった令和 2 年 4 月 23 日から重機による表土掘削に着手し、発掘調査を開始した。5 月 15 日には表土掘削が終了し、続けて II 層における遺構検出に取り掛かった。隣接する 2-6 西区と同様に、調査区全体に近世以降の農事関連遺構群が分布する状況だった。遺構検出と並行して、農事関連遺構群の測量と写真撮影を進めた。調査区北部では、農事関連遺構群とは別に溝状の掘り込みを検出した（調査当時は SD15 とし、のちに SFK1 へ変更した）。近世以降の遺構の記録作業を終えたのち、次の遺構確認面である III 2 層まで掘り下げるため、II 層及び III 1 層の包含層掘削を行った。そうした中で、古代末～中世のいわゆる「円形土坑」やピットを確認し、適宜調査を実施した。III 2 層上

面まで掘り下げた段階で、複数軒の竪穴建物跡のプランが見つかり、最終的に竪穴建物跡が5軒あることが分かった。そのうちの1軒(SI74)は調査区東壁にかかるかたちで遺構のプランを検出し、遺構の大部分は現道下へと続いていることが判明した。

10月19日以降、検出した竪穴建物跡の調査に順次着手した。5軒の竪穴建物跡のうち4軒は古代に帰属する遺構で(SI67・68・72・73)、調査区東壁にかかる1軒はその形状から弥生時代後期～古墳時代前期の帰属と判断した。11月17日にはSI68の調査が終了した。これらの遺構調査を進めた12月15日には、2-6東区を対象とした空中写真撮影を実施した。12月21日にはSI72の調査を終え、令和3年1月7日にはSI74、1月26日にはSI73の調査がそれぞれ終了した。古代の遺構調査が終了した範囲から、縄文時代の遺物包含層の掘削を開始した。SI67の調査が2月3日には終了し、これで調査区全体でV層までの掘削を進められる状態になった。

遺物包含層の掘削を進める中で、調査区西側から南西側にかけて埋没谷が存在することが明らかになった。埋没谷に伴う遺構は認められなかつたが、埋没谷の記録を残すこととし、土層断面図の作成やコンターの測量、全景撮影等を適宜行った。また、Ⅲ層中では、弥生時代後期～古墳時代前期と考えられる土坑や縄文時代の陥し穴を検出し、調査を実施した。

調査区全体をV層上面まで掘り下げた状態で、遺構確認を行い、縄文時代の土坑を数基検出した。その後、2×2mの試掘坑を10箇所設定し、V層上面から約1.5m掘り下げて、旧石器時代の試掘調査を実施した。調査の結果、旧石器時代の石器は出土しなかつたが、試掘坑の1箇所で礫層を確認することができた。旧石器時代の試掘調査の記録作業を行い、2-6東区の発掘調査は6月15日に終了した。東京都教育委員会による終了確認は同日に行われ、その後、埋戻しを開始した。埋戻しは7月20日には終了し、車両出入口に設置していたゲートの撤去やガードフェンスへの付け替え等を実施した。2-6東区は、隣接する2-6西区と2-7区とともに、令和4年1月21日に日野市区画整理課へと引き渡した。

#### [2-7区]

本調査地点は、令和2年度中に発掘調査及び埋戻しを終え、日野市区画整理課へと引き渡すことを条件として、発掘調査を実施した。令和2年10月1日からガードフェンスを設置する等の準備工を開始し、10月12日から重機による表土掘削に着手した。表土掘削を進める中で、調査区南西部と27R-7付近グリッドの搅乱は、日野市教育委員会が既に発掘調査を実施し、埋め戻した痕跡であることが判明した。また、調査区北東部の大規模な搅乱は2-6西区西端の搅乱と連続するもので、その深度はV層にまで達していた。表土直下の面を精査したところ、搅乱以外の範囲では近世以降の農事関連遺構群を検出し、調査区西部では、これらを切るようにして根菜のトレッチャーの痕跡を確認した。

2-7区では、表土直下にⅡ層は確認できず、Ⅲ1層が部分的に堆積している状況だった。農事関連遺構群の記録作業を終えたのち、Ⅲ2層まで掘り下げて、中世以前の遺構検出を行った。その結果、2-6西区西端で見つかった16号集石の続きを検出したほか、縄文時代の集石1基と古代～中世と考えられる土坑やピットを確認した。まずは土坑やピットの遺構調査を行い、11月26日から17号集石、12月16日から16号集石の調査をそれぞれ開始した。12月15日には、2-6東区と合わせて、2-7区の空中写真撮影を実施した。

縄文時代の集石の調査と並行して、集石以外の範囲において遺物包含層の掘削を進めた。V層上面で遺構検出を行ったが、縄文時代の遺構は確認できなかった。その後、 $2 \times 2m$  の試掘坑を 5 箇所設定し、旧石器時代の試掘調査を実施した。5 箇所のうち、試掘坑 12 では V 層上面から約 0.8m の深度から剥片等が複数点出土した。この状況を受けて、試掘坑の範囲を拡張して掘削を進めたところ、敲石やナイフ形石器、剥片が出土した。石器の出土状況を確認しつつ試掘坑 12 の範囲を拡張し、最終的には  $5 \times 5m$  になった。石器の出土位置等の記録を行ったのち、試掘坑の一部を深く掘り下げたところ、V 層上面から約 2.3m で礫層に到達することが判明した。

2-7 区の発掘調査は令和 3 年 2 月 22 日に終了した。東京都教育委員会による終了確認は、V 層までの調査を終えた令和 3 年 2 月 2 日に実施され、2 月 24 日に開催された定例会において現地確認が行われた。埋戻しは終了確認を受けたのち、2 月中旬から段階的に進めていき、3 月 3 日に全体の埋戻しが終了した。

当初の計画では令和 2 年度中に引き渡す予定だったため、3 月 24 日の定例会において、日野市区画整理課と引き渡しに関する協議を行ったところ、令和 3 年 4 月以降に引き渡すことになった。しかし、引き渡し時期が具体的にならない状況が続き、やむを得ず仮囲いや防塵ネットを設置した状態を維持していた。その後、改めて日野市区画整理課と協議した結果、令和 4 年 1 月下旬に 2-6 東・西区、2-7 区をまとめて引き渡すことが決定した。1 月中旬に撤去工を行い、1 月 21 日に日野市区画整理課への引き渡しが実現した。

### 3) 整理調査の経過

発掘調査と並行して、出土した遺物の水洗と注記を中心とする一次整理調査を平成 31 年 4 月 1 日から令和 3 年 6 月 15 日まで実施した(令和元年 7 月～10 月は中断)。遺物は洗浄後に、インクジェット式注記用機器と手書きによる注記を行った。なお、注記内容は、日野市教育委員会との協議に基づき、それに準拠するかたちとした。

二次整理調査は、令和 5 年 12 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで実施した。まずは、現場で作成した遺構図や測量データ、フィルム写真やデジタルカメラデータの整理、遺物の分類・計量、各種台帳類の作成といった基礎整理を行った。令和 6 年 4 月以降、本格的に遺構図の修正やパソコンによるトレースに着手した。6 月からは、現場で撮影した遺構写真から報告書に掲載する写真を抽出し、画像の加工・調整、遺構写真図版の作成を開始した。

一方、遺物については 4 月後半から各時代の遺物の接合に着手するとともに、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡から採取した土壤サンプルの水洗選別を実施し、炭化種子の抽出を試みた。接合がある程度進んだ時点で、報告書に掲載する遺物を抽出し、補強や復元が必要な土器については、5 月以降にそれらの作業を実施した。本報告で主体となる弥生時代後期～古墳時代前期、古代の土器の接合を終えた 7 月下旬から、縄文時代の石器や弥生時代後期～古墳時代前期の土器の実測、古代の土器の拓本を開始した。また、同じタイミングで、縄文土器の接合にも着手し、その後、拓本や実測を順次進めた。

4 月から実施していた各遺構の個別図のトレースが 7 月末に終了し、8 月以降は、トレース図と土層説明文をレイアウトし、遺構図版としての体裁を整える作業を行った。

10 月以降は遺物実測図のパソコントレースを本格的に開始するとともに、拓本をスキャンしてデ

ジタル化し、画像を調整する作業も開始した。トレース図や拓本の画像ができあがった遺物については、レイアウトし、遺物図版として整える作業を適宜進めた。また、11月中旬からは遺物の写真撮影に着手した。撮影後に画像の切り抜きや調整を行い、これらをレイアウトし、遺物写真図版の作成も一連の流れで行った。遺物図版や遺物写真図版の作成は、遺構単位や種別ごとに進めていき、これと並行して、遺物観察表の作成を行った。

遺物の接合がひと通り終わり、遺物の接合関係が確定したことにより、9月頃からは遺物の種別ごとの分布図や遺物接合図の作成にも取り掛かった。また、各時代の全体図や、遺構外出土遺物の時期ごとの分布図等の作成も行った。

これらの作業と並行して、6月下旬から12月にかけて、旧石器時代の試掘坑において採取した土壤サンプルの分析委託や、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡等から出土した炭化材の樹種同定と年代測定、炉跡等から採取した土壤サンプルを水洗選別して得られた炭化種実の同定の分析委託をそれぞれ実施した。また、古代の瓦の胎土分析を東京都埋蔵文化財センターにて行った。

自然科学分析に加え、令和7年2月7・10日には、縄文時代の石器や古代の石製品等の石材鑑定に関する現地指導、2月28日には古代の須恵器の産地同定に関する現地指導をそれぞれ専門家に依頼し、指導や助言を受け、発掘調査成果を解釈するための一助とした。

このような二次整理を経て、4月は報告書の編集作業を行い、その後、8月末に報告書を刊行した。なお、本報告にかかる出土品および記録類は日野市教育委員会へと移管した。

#### 4) 普及事業等

令和2年2月17日に、日野市立滝合小学校6年生（児童71名、教員3名）の見学を受け入れた。見学目的は、総合学習「滝合プロジェクト」の一環として、滝合地域を調べることである。当日は、3グループに分かれ、発掘調査の概要説明、2-6西区で実際の発掘調査の様子や調査中の遺構の見学、分室前に展示した各時代の出土品の見学を交互に行った。なお、発掘調査の概要説明では、相武国道事務所による日野バイパス建設事業の説明も行われた。 (小西)



1. 2-6 西区(西側) 全景 南南東から



2. 2-6 西区(東側) 全景 南南東から



3. 2-7 区 全景 南南東から



4. 2-6 東区 全景 南南東から

第4図 2-6西・2-6東・2-7区全景



1. 2-6 西区 調査前状況 東北東から



2. 2-6 西区 北西隅調査完了状況 南南東から



3. 2-6 西区 北西部(SI62・64周辺)調査完了状況 東から



4. 2-6 西区 中央部調査完了状況 西から



5. 2-6 東区 調査完了状況 西北西から



6. 2-6 東区 埋め戻し完了状況 東北東から



7. 2-7 区 調査前状況 西から



8. 2-7 区 埋め戻し完了状況 南東から

第5図 各調査区調査前・調査完了・埋め戻し状況

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

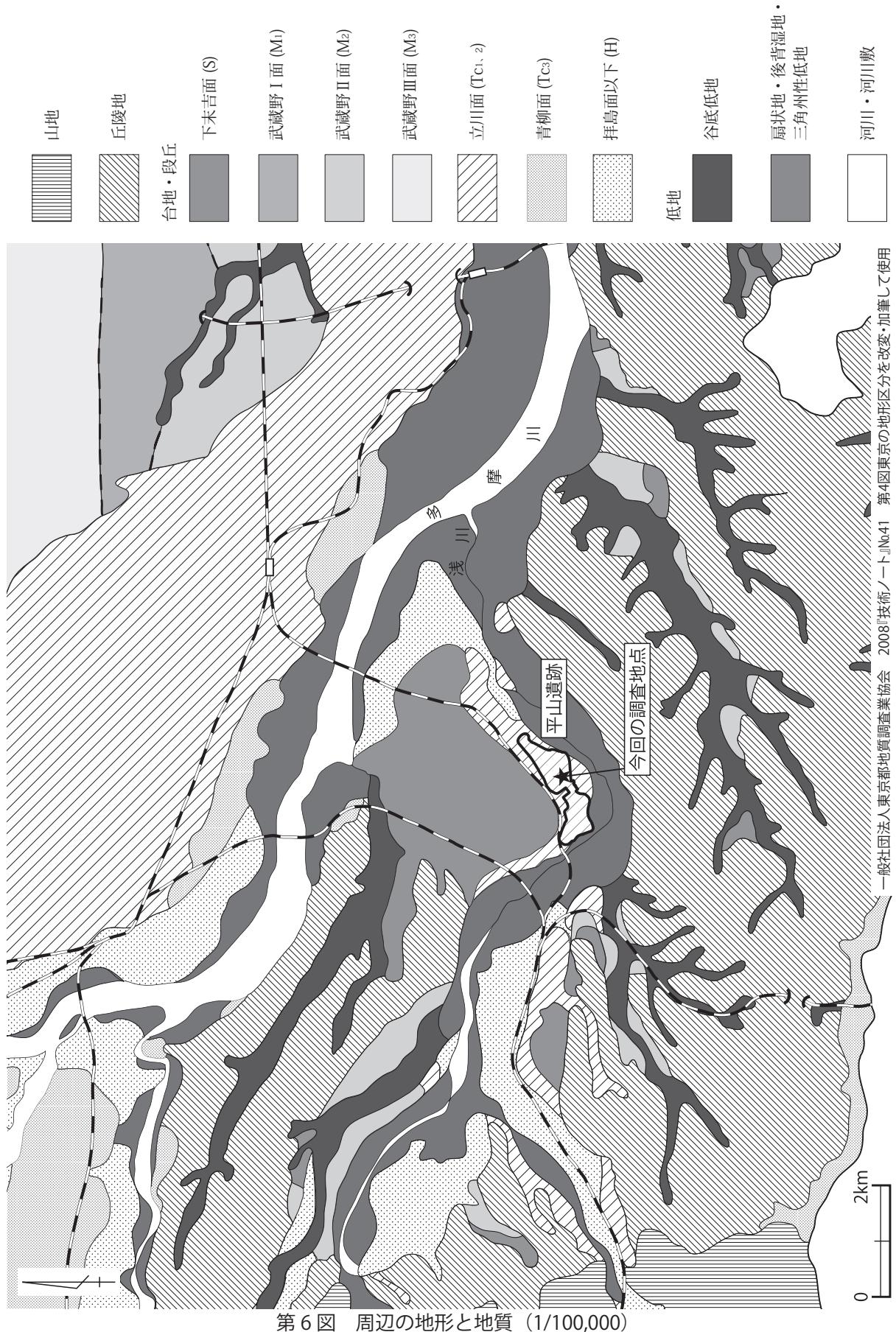
平山遺跡は、東京都日野市豊田二・三丁目、東平山二・三丁目、西平山一・三・四丁目に所在する。平山遺跡はJR 豊田駅の南および南東、京王線平山城址公園駅の北および北西に位置し、浅川の左岸に立地する。遺跡の範囲は東西約 1.9km、南北約 1.3km と広く、JR 中央本線の線路と浅川に挟まれた場所に展開する。

平山遺跡が所在する日野市は東京都のほぼ中央に位置し、市域の東は府中市、南は多摩市、西は八王子市、北は多摩川を挟み立川市や昭島市の各市と接する。市域の北部から西部にかけて、JR 中央本線が走り、市域の南部には京王線、多摩都市モノレール線が通っている。また、市域を横断するように中央自動車道や一般国道 20 号が通っている。都心部へのアクセスが比較的容易であり、日野市はベッドタウンとして発展してきた歴史がある。

日野市の地形を概観すると、市域の北から東を流れる多摩川と市域南部を流れる浅川があり、市域の北西部を占める日野台地、多摩川や浅川により形成された沖積地、市域南部には多摩丘陵が連なる等、地勢豊かな土地であることが分かる。日野台地は多摩川とその支流である浅川や谷地川に挟まれた位置にあり、その西側は加住丘陵、秋留台地、草花丘陵を経て、その先は関東山地へと続く。日野台地の南東側には段丘崖を境にして 4 段の段丘面が形成され、上位から日野台面、多摩平面、豊田面、栄町面である。栄町面の下位には多摩川や浅川による氾濫低地が広がる。日野台面は最上位の段丘面で、西から東へ緩やかに傾斜する。日野台面の下位には多摩平面、その下位には豊田面が位置する。いずれの段丘面も基盤層は上総層群で、その上に段丘砂礫層があり、それを覆うように関東ローム層が堆積する。各段丘面に堆積する関東ローム層の厚さには差異があり、日野台面では 15m 前後、多摩平面では 10 ~ 13m、豊田面では 3 ~ 4m と、下位の段丘面ほど層厚が薄くなっている。栄町面の段丘構成層を確認できる露頭はないものの、多摩川沿いの各地点の柱状図から表面は層厚 2m 前後以下の粘土層や砂層、その下位に段丘砂礫層、砂層～粘土層の上総層群となることが分かっている。角田清美によれば、日野台面は南関東の下末吉面、および武蔵野台地北東部の成増面、多摩平面は南関東の小原台面、豊田面は多摩川中流の立川Ⅱ面、栄町面は拝島面にそれぞれ対比するとしている（角田清美 2012）。

地質学的に見ると、平山遺跡は中位河岸段丘である豊田面に立地する（第 6 図）。その上位にある日野台面や多摩平面付近は地質学的に複雑な部分があるようで、日野台面及び多摩平面に対比する面の解釈が分かれている。本報告では当センター発掘調査報告第 368 集『平山遺跡その 1』を踏襲し、第 6 図のとおり下末吉面としている。鈴木毅彦氏（鈴木 2000）や羽鳥謙三氏等（羽鳥他 2001）は武蔵野面に比定し、『南広間地遺跡』では「下末吉面 or 武蔵野面（M1）」（渋江他 2003）、『平山遺跡－大型四面廂建物跡の保存目的発掘調査〔HY81〕』では「日野台地は下末吉面又は武蔵野面」（宮本涼子・大石絵里子・藤野修一 2020）と記載している。

日野市域の地形を述べるうえで欠くことができないのが湧水である。昭和 30 年頃までは、台地の



第6図 周辺の地形と地質 (1/100,000)

段丘崖や丘陵の裾部のみならず、平地にも豊富な湧水が存在していた。日野台地以外では掘れば必ず井戸水が出るとされ、浅川流域の平山・百草・程久保・高幡・南平・宮・豊田・川辺堀之内・上田には一年中水が自噴する掘抜井戸が各所にあったという。日野市内の湧水は台地にある崖線型の湧水と、丘陵地にある谷戸型の湧水に大別される（法政大学エコ地域デザイン研究所 2010）。崖線型の湧水では、日野台地の日野台面、多摩平面、豊田面の各段丘面の崖線から湧出している。一方、谷戸型の湧水は、谷戸の水源から湧き出すものと谷壁や河床から湧き出すものがある。日野市の人口増加に伴い、宅地造成が進み、山林が失われたことで雨水が浸透することが少なくなり、湧水が減少した。それでも段丘崖や丘陵地の湧水が市内各地に残り、黒川湧水、中央図書館下湧水、小沢緑地の3箇所が東京の名湧水57選に選出されている。

## 2 歴史的環境

日野市域における遺跡の分布状況を見ると、多摩川の右岸や浅川の左岸をはじめ、多摩丘陵の裾部に遺跡が集中する傾向が窺える。特に浅川左岸の台地や低地には吹上遺跡や山王上遺跡、神明上遺跡や南広間地遺跡等、広範囲に及ぶ遺跡が密度濃く分布していて、平山遺跡もそのひとつである。平山遺跡の範囲には、平山古墳群や西平山古墳群、日野市No.45遺跡も含まれている。ここでは、平山遺跡とその周辺の歴史的環境について、第7図・第3表に記載した日野市内の遺跡を中心概観する。

日野市域で旧石器時代の遺跡が発見される可能性がある地域は、神明から多摩平にかけての日野台上と、浅川の南に広がる多摩丘陵である。神明上遺跡第71次調査では、ハードロームから直径約2mの範囲に焼礫と石器の分布が確認された。礫群の周辺には細かい炭化物が集中しており、火を使用した痕跡と考えられる。石器は石核、台石、剥片であり、二次加工が施されたものはない。平山遺跡でも、『平山遺跡』その2収載調査地点で発見された遺物集中部1箇所について報告されている。

縄文時代早期では神明上遺跡があり、複数次の発掘調査で、集石炉や竪穴状遺構が発見されている。第9・23次調査では竪穴状遺構が検出されているが、これは柱穴や炉、床面等が確認されず、住居と断定できないためである。しかしながら、集石炉が東西方向に並列して造られ、その周辺に土器や石器、焼礫等が広く散在していたことや、出土した土器型式が二期混在すること等から、この場所で長期間生活が営まれたと想定している。縄文時代前期では平山遺跡の平山橋北岸の調査地点で3軒の竪穴建物跡が確認された。そのうちの1軒は、不整形な長方形を呈する平面形で、壁際に小ピットが並び、炉跡は焼土のみが検出されるという黒浜式期の典型的な竪穴建物跡である。

縄文時代中期になると集落の様相が大きく変容し、遺跡数が急激に増加する傾向が全国的に見られるが、日野市域も同様である。崖線からの湧水がある台地上に縄文時代中期の遺跡は多く分布していて、吹上遺跡、七ツ塚遺跡、平山遺跡等が挙げられる。また、多摩川の氾濫原に形成された微高地に営まれた神明上北遺跡がある。

遺跡数が爆発的に増加した縄文時代中期から一転して、縄文時代後期にはその数が激減する。日野市域における当該期の遺跡は、南広間地遺跡と川辺堀之内遺跡である。川辺堀之内遺跡では称名寺I式期の敷石住居跡が発見された。本来は柄鏡形を呈するが、柄の部分に当たる出入口部分は後世の用水路敷設により壊されたと考えられる。この調査で確認された敷石住居跡は1軒だが、浅川の低位



第7図 周辺の遺跡 (1/25,000)

第3表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	遺跡の概要	時代
1	平山	日野市No22	豊田二・三丁目、東平山一～三丁目、西平山一・二・四丁目	集落・古墳・墳墓	[旧]ユニット[縄]竪穴建物跡・集石・土坑・炉穴[弥]竪穴建物跡・方形周溝墓[古]竪穴建物跡・古墳[奈][平]掘立柱建物跡・柵列(ピット)[中]地下式坑	[旧][縄早・中][弥後][古][奈][平][中]
2	平山古墳群	日野市No23	東平山一丁目	古墳	[古]円墳・横穴式石室・周溝	[古]
3	日野市No45	日野市No45	東平山一丁目	古墳	[古]横穴式石室	[古]
4	西平山古墳群	日野市No48	西平山三丁目	古墳	[古]周溝・石組	[古]
5	吹上	日野市No18	東豊田三丁目	集落	[縄中]竪穴建物跡[弥後][古][奈][平]	[縄中][弥][古][奈][平][中]
6	日野市No19	日野市No19	東豊田三丁目	古墳	[古]円墳・周溝	[古]
7	日野市No20	日野市No20	東豊田一・二丁目	集落	[奈][平]竪穴建物跡・溝	[奈][平][中]
8	川辺堀之内	日野市No17	川辺堀之内	包蔵地	竪穴状遺構・ピット・集石・土坑・溝・柱穴・落し穴	[縄前～中][平][中]
9	山王上	日野市No50	東豊田三丁目	集落	[縄]土壇・集石・ピット・竪穴建物跡[平]掘立柱建物跡・溝・竪穴建物跡	[縄][奈][平][中]
10	日野市No51	日野市No51	多摩平六丁目	集落	[旧]石器ブロック[縄]土坑・ピット[平]竪穴建物跡・土坑	[旧][縄早～前・後][平][中]
11	神明上	日野市No6	神明一～四丁目、大坂上三・四丁目、多摩平七丁目	集落	竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・集石・溝	[旧][縄早～中][弥][古][奈][平][近]
12	梵天山横穴群	日野市No11	神明一・二丁目	横穴墓		[古][奈]
13	平山台横穴墓	日野市No24	旭が丘一丁目	横穴墓		[古?]
14	平山台2号横穴	日野市No53	旭が丘一丁目	横穴墓	[奈][平]横穴墓	[奈][平]
15	坂西横穴墓群	日野市No8	大坂上一丁目	横穴墓		[奈][平]
16	日野市No7	日野市No7	日野本町二丁目	横穴墓		[奈][平]
17	上人塚	日野市No52	その他(塚)			[平][中]
18	日野市No25	日野市No25	旭が丘六丁目	包蔵地		[旧]
19	日野市No13	日野市No13	大坂上一・二丁目	包蔵地		[縄前～中][古][奈][平]
20	七ツ塚	日野市No1	新町四・五丁目	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・土坑・溝	[旧][縄草創～後][古][奈][平][中]
21	七ツ塚古墳群	日野市No2	新町五丁目	古墳	[古]横穴式石室	[古][奈]
22	新町	日野市No3	新町三丁目	集落	[平]竪穴建物跡・土坑・溝	[平]
23	姥久保	日野市No47	新町一丁目	集落・その他(水田・墓地)	[古]竪穴建物跡[平]道跡・水田[中]掘込炉・集石遺構・井戸・土坑・地下水式坑・火葬墓・道跡[時代不明]掘立柱建物跡	[縄前～中][古][奈][平][中][近]
24	栄町	日野市No4	栄町二丁目	集落	[平]竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑・集石・溝[中]集石状遺構・敷石状遺構	[縄前～後][平][中][近]
25	四ツ谷前	日野市No46	栄町一丁目	集落・社寺	[奈][平]竪穴建物跡・土坑・道路[平]溝[中][近]井戸・土坑・溝・水田・掘込炉・配石遺構・地下水式土壤[中]土壤・火葬址・道路	[縄][古][奈][平][中][近]
26	加賀塚	日野市No44	栄町一丁目	塚		[中]
27	小宮町・粟の須	八王子市No79	小宮町	集落	[縄]集石・陥し穴[奈]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡・集石[中]掘立柱建物跡・竪穴状遺構・井戸・土坑・炭焼土坑・溝	[縄早～中][古][奈][平][中][近]
28	石川	八王子市No480	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・炉穴・土坑	[縄早～後][弥][古][奈][平][近]
29	塚場	八王子市No110	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・炉穴・陥し穴土坑・配石土坑[古]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡[中]掘立柱建物跡・竪穴状遺構・ピット群・土坑・室状遺構・溝状遺構・[近]掘立柱建物跡・溝状遺構[古代]土坑	[縄早～後][古][奈][平][中][近]
30	第八小学校裏	八王子市No109	石川町	集落	[古]竪穴建物跡・土坑[近]掘立柱建物	[縄早～後][古][近]
31	西野	八王子市No108	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・焼土・土壤[古]竪穴建物跡・溝状遺構・墓壙	[旧][縄早～後][古][平][近]
32	石川天野	八王子市No734	石川町・大谷町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・炉穴・焼土・土坑[弥]竪穴建物跡・焼土・方形周溝墓・溝状遺構[古]竪穴建物跡・焼土・土坑・溝[奈]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡	[旧][縄早～後][弥][古][奈][平][近]
33	下耕地	八王子市No733	大谷町	集落	[旧]ユニット[縄]集石・炉穴・土坑[平]竪穴建物跡[近]建物	[旧][縄早～後][古][平][近]
34	北大谷・春日台	八王子市No101	大谷町・宇津木町・石川町	集落	[縄]集石・炉穴・土坑[弥]竪穴建物跡	[旧][縄早～後][弥][古][奈][平][近]
35	富士見町	八王子市No978	大谷町	墳墓	[縄]土坑[弥]方形周溝墓[時代不明]土坑・ピット	[縄][弥後]
36	大和田横穴墓群	八王子市No957	大和田町二・四・五丁目	横穴墓		[古]
37	北野(北野小学校校庭)	八王子市No175	北野町	集落	[縄]敷石住居	[縄中～後]
38	打越中谷戸	八王子市No731	打越町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・土坑[弥]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡・焼土・土坑[近]土坑・溝・土壤	[縄早・中][弥][平][近]
39	打越大畠	八王子市No991	打越町	集落	[縄]土坑[平]竪穴建物跡	[縄早～後][平]
40	長沼館	八王子市No500	長沼町	城館	[中]堀・曲輪	[中]
41	平山氏館	日野市No26	平山五丁目	城館		[平][中]
42	平山氏館及平山城跡	日野市No27	平山六丁目	城館	[中]腰曲輪・虎口	[平][中]
43	平山城跡	八王子市No521	堀之内	城館	[中]腰曲輪・虎口・土塁	[中]
44	堀之内地区No34	八王子市No396	堀之内	集落		[縄早～中][平][近]

時代：[旧] 旧石器 [縄] 縄文 [弥] 弥生 [古] 古墳 [奈] 奈良 [平] 平安 [中] 中世 [近] 近世

段丘面の縁辺部に複数の敷石住居が分布していた可能性が想定されている。

日野市域において弥生時代の集落が確認できるのは、弥生時代後期以降である。それ以前では、散発的に土器等の遺物が出土するのみで、生活の痕跡は認められない。その例として、平山遺跡の事例が挙げられる。平山遺跡第1号墳は古墳時代に造られた古墳であり、その周溝内から弥生時代中期の壺が完形で出土した。壺は東海地方の水神平式の影響を受けたと考えられ、頸部から胴部にかけて条痕文が施されている。なお、周溝内から同時期の遺物は出土しておらず、この壺形土器が完形で出土したことは大きな謎である。

弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、日野市域を含む多摩地域では本格的に集落が営まれるようになる。また、この時期は集落だけでなく、方形周溝墓による墓域も集落の周辺に形成される特徴が見られる。当該期の遺跡として、主に神明上遺跡や平山遺跡、吹上遺跡等が挙げられる。平山遺跡では竪穴建物跡や方形周溝墓が確認されているが、集落域と墓域の関係性を明確に捉えることができた事例は未だない。平山遺跡のこれまでの調査成果によると、竪穴建物跡の分布は豊田三丁目や東平山一丁目、西平山三丁目等各地点で、方形周溝墓は東平山一丁目で4基発見されている。平山遺跡の最近の発掘調査では、本報告の調査地点を含む東平山二丁目付近で複数の方形周溝墓が確認されており、東平山一丁目の方形周溝墓群とは別の方形周溝墓群の存在が想起される。神明上遺跡では、広大な遺跡範囲のうち台地の東縁辺部沿いに当該期の竪穴建物跡を確認している。

古墳時代になると日野市域を含む多摩川中流域に古墳が造られるようになるが、日野市域でそれが確認できるのは古墳時代中期以降である。平山遺跡の範囲に所在する平山古墳群では、発掘調査により11基の古墳の存在が明らかになった。このうち2基の古墳は出土遺物から古墳時代中期の所産と分かり、他の2基の古墳についても古墳時代中期の可能性が想定されている。これらの古墳はいずれも墳丘が削平されていて埋葬施設が確認された事例はないが、古墳時代中期の古墳は竪穴系の埋葬施設が想定されている。平山古墳群では、古墳時代中期から後期にかけて相次いで古墳が築造され、第二号古墳は古墳時代後期に属する古墳の中で最古とされている。第二号古墳は直径15mの円墳で、河原石を用いた横穴式石室を内臓する。七ツ塚古墳群では、砂岩による横穴式石室を埋葬施設とする円墳が1基確認された。軟質な石材を用いる点や、横穴式石室の玄室が胴張り形を呈する点等、南武藏地域の横穴式石室に共通する特徴が見られる。また、七ツ塚古墳群では、日野市域で唯一の人物埴輪が出土している点も特筆される。

南武藏地域における古墳時代の特徴として台地斜面に構築された横穴墓が挙げられるが、それは日野市域も同様である。神明上遺跡には、坂西横穴墓群、梵天山横穴墓群、谷ノ上横穴墓群をはじめ、神明上遺跡第62次調査で発見された横穴墓群、一般国道20号日野バイパス（日野地区）改築工事に伴う発掘調査で発見された横穴墓群が含まれ、日野台地の縁辺部に点々と横穴墓が構築されている。なお、一般国道20号日野バイパス（日野地区）改築工事に伴う発掘調査の調査範囲内には、谷ノ上横穴墓群や神明上遺跡第62次調査の横穴墓群が包括されていた。これらの横穴墓の位置や分布状況を精査したところ、谷ノ上横穴墓群の1号横穴墓と4号横穴墓は一般国道20号日野バイパス（日野地区）改築工事に伴う発掘調査のK区4号横穴墓、L区2号横穴墓であることが確実になった。

神明上遺跡第62次調査では3基の横穴墓とともに、いわゆる「L字状土壙」が3基発見された。L字状土壙は「平面形は確認面において隅丸長方形を呈し、断面形態においてはL字状を呈する」遺

構のことであり（日野市遺跡調査会 1986）、古墳時代から奈良・平安時代にかけての墓の一形態だと考えられている。日野バイパス改築工事に伴う神明上遺跡の発掘調査においても、横穴墓が構築された同じ斜面上に 4 基の L 字状土壙が等高線に沿って分布する状況が確認されている。L 字状土壙に関しては、横穴墓の分布域あるいはその周辺に構築された神明上遺跡の事例の他に、古墳周溝の内側や外側に接するようにして掘り込まれている事例も確認されている。古墳時代の集落については、吹上遺跡や平山遺跡で確認されている。吹上遺跡では古墳時代前期や中期の竪穴建物跡が検出されているものの、同時期の古墳との関連性を積極的に見出せるほどの規模ではない。

奈良・平安時代になると、武蔵国府の成立を契機として、日野市域の各遺跡で集落の形成が本格化する。日野台地に立地する神明上遺跡や山王上遺跡では 8 世紀に入ると集落の形成が活発化する。神明上遺跡では両側に側溝を伴う区画溝をはじめ、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数検出され、計画的に形成された大規模な集落であることが明らかになった。近年の調査成果では、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、区画溝とともに検出された木棺直葬墓が特筆される。土壙からは、副葬品として緑釉陶器の平瓶が出土し、墓壙は 9 世紀後半代の所産とされる。山王上遺跡では、8 世紀第二四半期以降に集落の形成が始まり、9 世紀にかけて竪穴建物跡と掘立柱建物跡で構成される集落が継続的に営まれたことが明らかになっている。平山遺跡でも奈良時代から平安時代にかけての集落が段丘の平坦部に営まれていたことが把握されていたが、近年の発掘調査により、段丘の裾部や低位段丘面にまで集落域が広がることが明らかになった。それを受け、令和 5 年 3 月 31 日付で平山遺跡の包蔵地範囲の一部が拡大された。平山遺跡の調査成果で特筆すべきは、西平山で発見された大型四面廂建物跡（16U-1 号掘立柱建物跡）である。発見に至った発端は、平成 23（2011）年度に行われた区画整地事業に伴う発掘調査である。その際に廂の南西隅の柱穴 4 基が確認された。その後、平成 26（2014）年度の発掘調査で掘立柱建物の西半分の状況が把握され、最終的には桁行 5 間（20.1m）× 梁行 2 間（11.2m）、身舎の四方に廂を有する大型四面廂掘立柱建物跡であることが判明した。この規模は武蔵国府正殿に次ぐ規模であり、その重要性が考慮され、遺構は現地で保存されている。

日野市域の検出される奈良・平安時代の遺構の中で、注目すべきは「円形有段遺構」である。円形有段遺構は円形の平面形で、その断面形が擂鉢状を呈する。遺構の用途は氷の貯蔵施設である氷室である可能性が考えられ、日野市域では七ツ塚遺跡や神明上遺跡、平山遺跡で確認されている。

平安時代末から鎌倉時代にかけての日野市域の様相について、発掘調査成果からそれを把握するには情報が乏しいのが現状である。中世の遺跡では、吹上遺跡、平山遺跡、川辺堀之内遺跡、神明上遺跡、姥久保遺跡、四ツ谷前遺跡等があり、地下式坑をはじめとする遺構や遺物が確認されている。平山遺跡の南東約 1km にある平山氏館や平山館及平山城跡には、鎌倉幕府成立期に活躍した平山季重に由来する痕跡が残されている。平山地区は平山季重が本拠地とした場所であり、現在の京王線平山城址公園駅の南側には市指定史跡平山季重居館跡の看板が掲示されている。この辺りは『新編武蔵風土記稿』によれば曹洞宗大福寺があった場所で、平山季重の居館があったと伝承されている。大福寺は平山季重開基と伝えられ、明治の廢仏毀釈により廃寺となった。大福寺にあった平山季重の墓（五輪塔）は宗印寺に移され、現在は東京都指定旧跡である。平成 19（2007）年に行われた平山氏館の発掘調査では、鎌倉時代、江戸時代、明治から昭和にかけての遺構や遺物が発見された。鎌倉時代の痕跡としては、溝や土坑、12 世紀後半から 13 世紀初頭の青磁や土器等が挙げられる。 （小西）

### III 層序

当調査地点における層序の特徴を記載する（第8～12図）。

地質学的には、第II章第1節にある通り、当調査地点は中位河岸段丘である豊田面に位置し、概ね平坦である。

だが、調査区を横断するように設定した土層観察用の東西ベルト部分（第9図）を詳細にみると、III2層上面では調査区西端部付近の2-7区西側で標高92.6m、2-6東区の東端部付近で標高92.0mであり、東西約154mの間で、0.6mのわずかな高低差があることが分かる。その間、第9図の調査区東西ベルト④付近から同⑤付近にかけて、10mの間で25cm程度下がり標高92.1cm、更には同⑨付近で標高91.7mと最も低くなっている。その先は次第に上がり、同⑪付近で標高92.0mになり、東端へと至っている。また、VS層上面においても、同⑥・⑨付近が谷状に低くなっている。特に同⑨付近においては南に向けて下がる埋没谷が確認されている。全般的には、2023年度報告地点と比べて平坦であると言える。なお、谷部分からは主にIII層中から縄文土器が大量に出土している。

層序については、概ね2023年度報告に準拠するが、II層の上部をII1・II2に細分し得なかった点が異なる。

I層 2.5Y2/1 黒色土層 黒褐色土偏在。直径2mm以下の黄褐色スコリア（2.5Y5/6）を7%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア（5YR4/6）を5%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。部分的にやや砂質。近世以降の旧表土もしくは耕作土。

I'層 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア（5YR4/6）5%、直径3mm以下にぶい黄色スコリア（2.5Y6/4）3%含む。黒色土（10YR1.7/1）10%偏在。粘性ややあり、締まり強、粒子密。近世以降の耕作土。

II層 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア（10YR5/6）5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア（5YR4/6）3%、直径3mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粒子は粗く、部分的に小ブロック状を呈する。粘性、締まりともにややあり。古代から中世にかけての遺物包含層。II層については、2023年度報告ではII1・II2層に細分したが、当調査区においては上部の削平によりII層の検出範囲が限られたため、細分できなかった。また、2-7区においてはII層自体がほぼ検出されなかった。

II3層 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア（10YR5/8）10%、直径1mm以下の赤褐色スコリア（5YR4/6）3%、直径2mm以下の黒色スコリア1%含む。粘性、締まりあり。粒子はやや粗く、顆粒状を呈することもある。多摩ニュータウン遺跡群のIIY層に相当する可能性がある。

III1層 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの赤褐色スコリア（5YR4/8）5%、直径1mmの明黄褐色スコリア（10YR6/6）3%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。縄文時代の遺物包含層。主に、2-6西区北東部から2-6東区全般で確認。

III2層 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア（10YR5/8）3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア（5YR4/6）1%含む。粘性はIII1層より強く、締まりあり。粒子は密。全

般的に含有物が少なく均質な、縄文時代の遺物包含層。

Ⅲ3層 10YR3/4 暗褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)7%含む。Ⅲ2層と比べ、色調が明るく、スコリアの含有量が多い。IV層が混ざっている。粘性強、締まり強、粒子やや密。

IV層 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 いわゆるローム漸移層。直径10mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)7%、直径2mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性強、締まり強、粒子密。

VS層 10YR4/6 褐色土層 いわゆるソフトローム層。7~10mmの赤褐色スコリア(いわゆる青柳スコリア)を斑紋状に20~25%含む。他に直径7mm以下の黒色スコリアを7~15%含む。粘性は弱く、締まりは強い。

VH層 10YR4/6 褐色土層 VS層と比べて硬質。直径7mm以下の赤褐色スコリアを25%、直径5mmの黒色スコリアを15%、小礫を1%含む。粘性が弱く、締まりは非常に強い。

2-7区及び2-6東区においては、V層以下のローム層に試掘坑を設定し、V層上面より1.5m掘り下げて、旧石器時代の遺構や遺物の有無や層序を確認した。2つの調査地点の間は86m離れており、2-6東区では2-7区に比べて、下層のシルト化が進んでいる点をはじめ、両調査地点ではローム層の状況は異なっていた。以下に調査区別の層序を記す。

#### 2-7区

2-7区-A層 10YR4/6 褐色土層 直径10mm以下の赤褐色スコリア(青柳スコリア)を斑紋状に20%、直径7mm以下の黒色スコリアを7%含む。ソフトローム(VS)層。

2-7区-B層 10YR4/6 褐色土層 直径10mm以下の赤褐色スコリアを15%、直径7mm以下の黒色スコリアを7%含む。

2-7区-C層 10YR4/6 褐色土層 直径10mm以下の赤褐色スコリアを10%、直径7mm以下の黒色スコリアを10%、直径1mm以下の灰白色粒子(カンラン石か)を3%含む。

2-7区-D層 10YR4/6 褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリアを7%、直径15mm以下の黒色スコリアを15%含む。C層より暗い。

2-7区-E層 10YR4/6 褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリアを5%、直径10mm以下の黒色スコリアを10%含む。D層より明るい。

2-7区-F層 10YR5/6 黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリアを3%、直径7mm以下の黒色スコリアを10%含む。

2-7区-G層 10YR6/6 明黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリアを2%、直径5mm以下の黒色スコリアを7%、直径3mm以下の極暗褐色スコリア(5YR2/4)を3%含む。やや砂質(シルト質)。

2-7区-Ga層 5YR2/4 極暗赤褐色土層 G・H層の境界に斑紋状に見られる粒子の粗い砂層。

2-7区-H層 10YR4/4 褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリアを2%、直径5mm以下の黒色スコリアを3%、直径3mm以下の極暗褐色スコリアを5%含む。砂質(シルト質)。

2-7区-I層 砂礫層。

2-7区-J層 砂層。粒子は緻密。

## 2-6 東区

2-6 東区 -A 層 10YR4/6 褐色土層 径 1～7mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 20%、径 5mm 前後の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 5%、径 10mm 以下の小礫を 3% 含む。粘性が弱く、締まりは強い。B 層や C 層に比べ、同じ 10YR4/6 でもわずかに白っぽい色調を呈する。

2-6 東区 -B 層 10YR4/6 褐色土層 径 1～5mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 25%、径 5mm 前後の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 3%、径 10mm 前後の小礫を 2% 含む。粘性がやや弱く、締まりは非常に強い。A 層と比べ、明赤褐スコリアの粒径が小さく、量がやや多い。締まりは A 層に比べ強く、締まっている。下層ほど、礫の大きさが大きくなり、含有量が増える。

2-6 東区 -C 層 10YR4/6 褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 30%、径 3～5mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 10%、小礫を 5% 含む。粘性がやや強く、締まりは非常に強い。B 層と比べ粘性が強く、指先でこねるとちぎれずにヒモ状になる。色調は B 層よりも黄色みが強い。全体的にシルト質である。

2-6 東区 -C' 層 10YR4/6 褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 30%、径 3～9mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 20%、径 20mm 前後の礫を 10% 含む。粘性がやや強く、締まりは非常に強い。

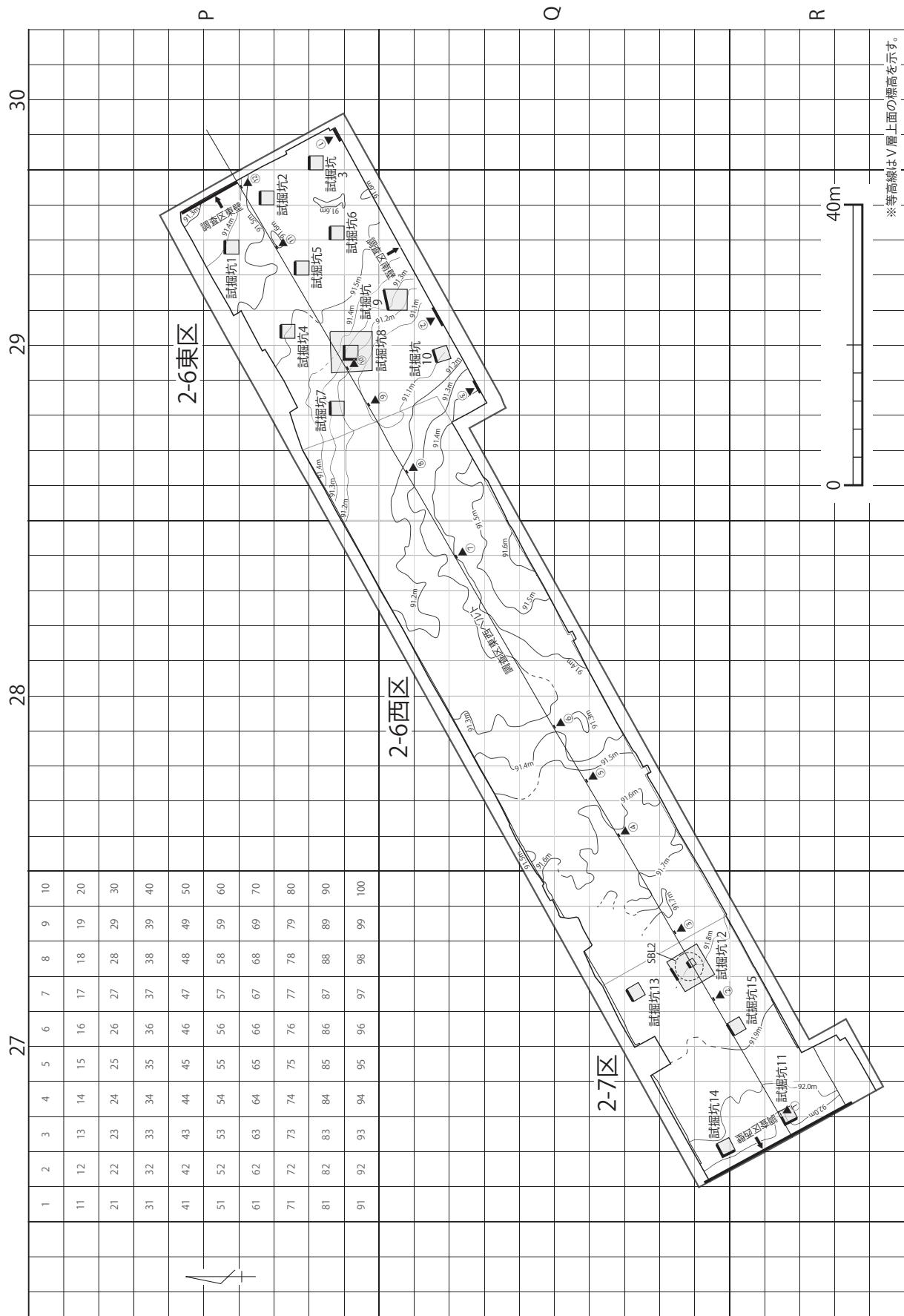
2-6 東区 -D 層 10YR4/6 褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 30%、径 3～9mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 20%、径 10～15mm の小礫を 10% 含む。粘性がやや強く、締まりは非常に強い。C 層と比べ粘性が強いため、指先でこねると容易にヒモ状になる。B 層よりも黄色みが強い色調を呈する。全体的にシルト質である。

2-6 東区 -E 層 10YR4/4 褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 30%、径 3～9mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 15%、径 3mm 前後の暗赤褐 (5YR3/6) 色スコリアを 7%、径 15mm 以上の礫を 15% 含む。粘性がやや弱く、締まりは非常に強い。E 層の黒褐色スコリアは、他に比べ少し淡い色調を呈する。地下水の影響で脱色している可能性がある。D 層に比べ、土の色調が白みが強い。時間の経過とともに、この傾向が顕著になる。全体的にシルト質である。

2-6 東区 -F 層 10YR5/6～10YR4/4 黄褐～褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 20%、径 3～7mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 10%、径 3mm 前後の暗赤褐 (5YR3/6) 色スコリアを 7%、径 10～20mm の礫を 3% 含む。粘性がやや強く、締まりは強い。他の層と比べ、色調のが白みが強い。全体的に砂質で、シルト質砂あるいはシルト混じり砂である。

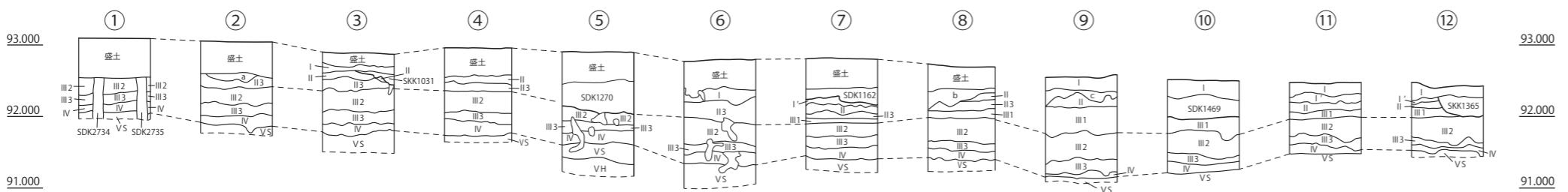
2-6 東区 -G 層 7.5YR4/6 褐色土層 径 1～3mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 15%、径 3～7mm の黒褐 (10YR2/2) 色スコリアを 7%、径 10mm 前後の礫を 2% 含む。粘性がやや強く、締まりは非常に強い。全体的にかなり黄色みが強い色調を呈する。

なお、土壤分析の結果、2-6 東区においては概ね V～C 層が立川ローム層のⅢ層、D・E 層がⅣ層、2-7 区においては A～C 層が立川ローム層のⅢ層、D 層以下がⅣ層に相当するとの結果が出ている（第 V 章第 2 節参照）。（相原）

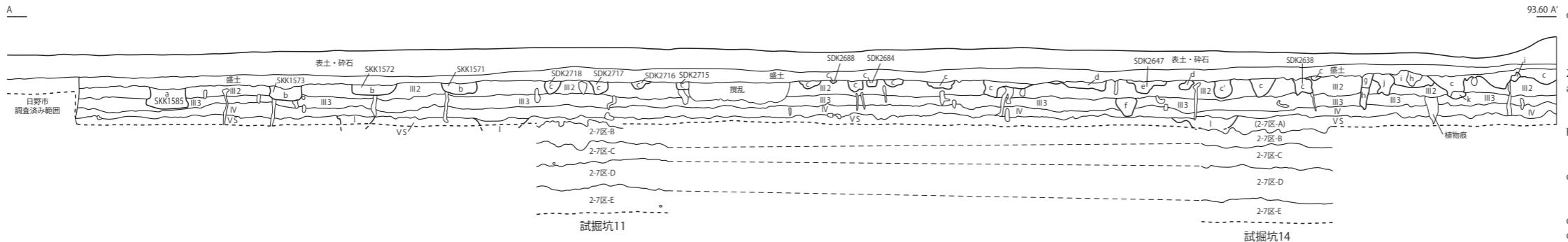


第8図 土層断面・試掘坑位置図(1/800)

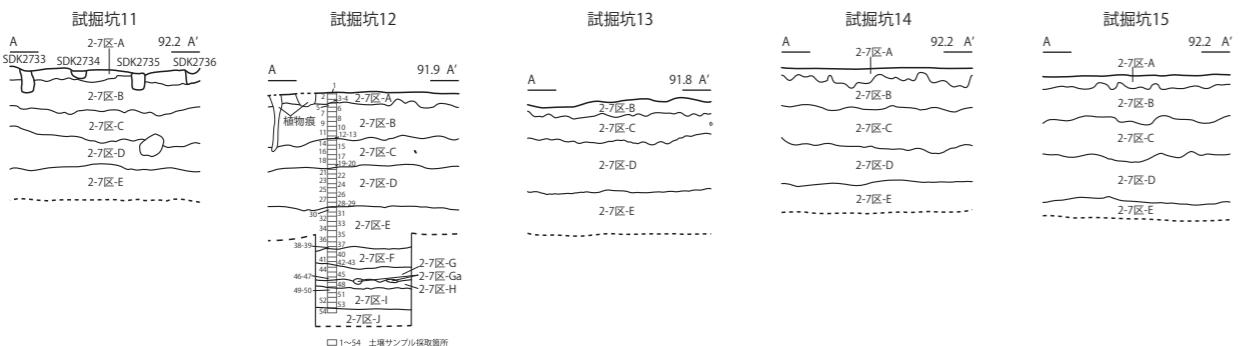
調査区東西ベルト



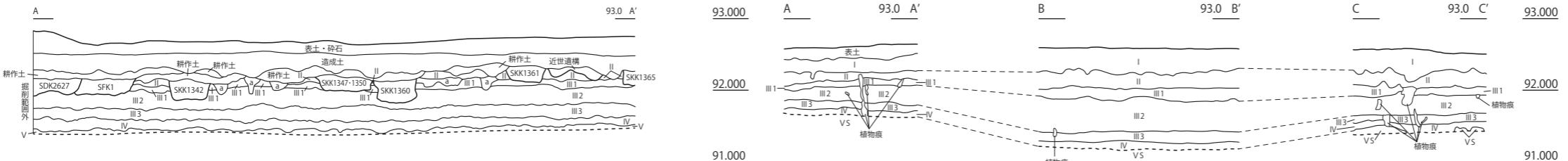
2-7区西壁



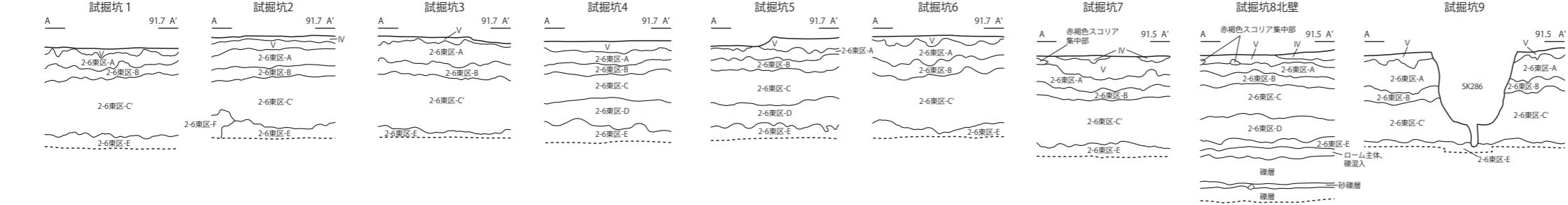
2-7区試掘坑北壁



2-6東区東壁



2-6東区試掘坑北壁



第9図 基本層序 (1/80)

## 調査区東西ベルト

SKK1031 7.5YR2/2 黒褐色土層 I・II層の混合土層。直径 2mm 以下の

赤色スコリア (10R4/8)5%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直  
径 3mm 以下の小礫 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。近世以降の遺構。  
SDK1270 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下のローム粒子

CKW1402 CKW1405 15WD411 横河色上層 直径2~5mm以下の橙色  
(7.5YR6/6)10%、直径2~5mmの橙色スコリア(2.5YR5/8)1%、直径5mm  
以下の小礫3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。近世以降の  
CKW1402 CKW1405 15WD411 横河色上層 直径2~5mm以下の橙色

SDK1469・SKK1365 10YR4/1 褐灰色土層 直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5%、直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5% 含む。締まり強、粘性あまりなし。近世以降の遺構。

- a. 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の褐色スコリア(10YR4/6)7%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%、直径7mm以下の小礫1%、直径3mm以下のローム粒子(10YR7/6)1%含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子密。やや砂質土層。耕作土。
  - b. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/6)5%、直径3mm以下のにぶい黄色粒子(2.5Y6/4)3%含む。黒色土(10YR1.7/1)10%偏在。粘性ややあり、締まり強、粒子密。
  - c. 10YR4/1 褐灰色土層 直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%、直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)5%含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子密。

2-7 区西壁

- a. 7.5YR1.7/1 黒色土層 ロームブロック (10YR3/4)10%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)5%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや粗い。

b. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR3/4)5%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、縮まりやや粗い。

c. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR5/6)3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、小礫 1% 含む。粘性あまりなし、縮まりあり、粒子やや密、やや砂質土層。

d. 10YR2/2 黑褐色土層 aに近似。縮まりなし。

e. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR4/2)15% 偏在。ローム (10YR4/6) ブロック状に 5%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子密。やや砂質土層。

f. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR5/8)3%、長さ 5mm 以下の炭化材片 1%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。

g. 10YR2/2 黑褐色土層 下部にローム (10YR5/8)10% 偏在。直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 1mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)1% 含む。粘性強、縮まり強、粒子密。

h. 10YR2/1 黑色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。

i. 10YR2/1 黑色土層 下部に暗褐色土 (10YR3/4)30% 偏在。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、縮まりややあり、粒子やや粗い。

j. 10YR2/2 黑褐色土層 aに近似。直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。

k. 10YR2/1 黑色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、縮まりややあり、粒子やや粗い。

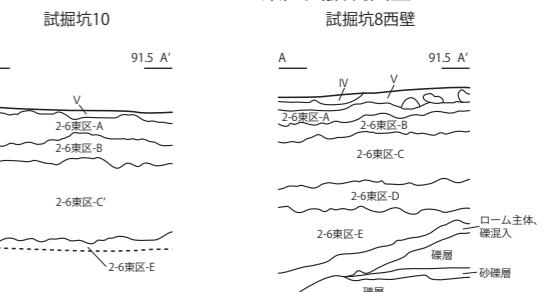
l. 10YR2/1 黑色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、縮まりあまりなし、粒子やや粗い。

m. 10YR3/4 暗褐色土層 IV層土主体。直径 10mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)7%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性強、縮まり強、粒子密。縄文時代の遺構。

## 2-6 東区東壁

- a 10YR1.7/1 黒色 II 層土を主体とし、全体的にⅢ1層土が斑状に混在。直径3mm以下の赤褐(5YR4/6)色スコリア15%、直径3mm前後の黒褐(10YR2/2)スコリア5%含まれ、粒性が弱く、緻密な構造。

2-6東区試掘坑西壁







1. 土層断面 2-6 西区東西ベルト西端部付近 南南東から



2. 土層断面 2-7 区東西ベルト中央部付近 南南東から



3. 土層断面 2-6 西区東西ベルト中央部西寄り付近 南南東から



4. 土層断面 2-6 西区東西ベルト東部付近 南南東から

第 10 図 調査区土層断面 (1)



1. 土層断面 2-6 東区東西ベルト西部付近 南南東から



2. 土層断面 2-6 東区東壁 西西南から



3. 土層断面 2-6 東区南壁 北北西から



4. 土層断面 2-7 西区西壁 東北東から

第 11 図 調査区土層断面 (2)



1. 試掘坑 1 北壁 土層断面 南から



2. 試掘坑 4 北壁 土層断面 南から



3. 試掘坑 6 北壁 土層断面 南から



4. 試掘坑 8 北壁 土層断面 南から



5. 試掘坑 8 深掘り部 南東から



6. 試掘坑 10 北壁 土層断面 南から



7. 試掘坑 12 北壁 土壤サンプル採取箇所 土層断面 南南東から



8. 試掘坑 12 深掘り部北壁 南南東から

第 12 図 2-6 東・2-7 区試掘坑

## IV 遺構と遺物

今回の調査において検出された遺構・遺物は、以下のとおりである。

### 《旧石器時代》

遺構 遺物集中部 1 箇所

遺物 石器（ナイフ形石器、細石刃、石核、剥片、チップ、敲石）、礫

### 《縄文時代》

遺構 集石 3 基、土坑 28 基、ピット 75 基

遺物 土器、土製品、石器（石鏃、石匙、石核、打製石斧、磨石、石皿、敲石、台石）、礫

### 《弥生時代～古墳時代》

遺構 横穴建物跡 6 軒、土坑 1 基、ピット 1 基 [弥生時代後期～古墳時代前期]

遺物 土器〔前期、弥生時代後期～古墳時代前期〕、土師器、須恵器〔古墳時代後期〕、石器・石製品（打製石斧、磨石、編物石）、金属製品、焼成粘土塊、炭化種実、炭化材、礫〔弥生時代後期～古墳時代前期〕

### 《古代》

遺構 横穴建物跡 9 軒、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 19 基、ピット 78 基

遺物 土師器、須恵器、口クロ土師器、灰釉陶器、石製品（砥石、台石）、金属製品（鉄鏃、釘、刀子、鎌、巡方）、炭化種実、炭化材

### 《古代末～中世》

遺構 溝 3 条、掘立柱建物跡 1 基、土坑 31 基、ピット 139 基

遺物 青磁、陶器、炭化材

### 《近世以降》

遺構 道路跡 1 条、溝 726 条、土坑 636 基、ピット 124 基

遺物 陶器、磁器、土製品（不明）、石製品（砥石、環状石製品）、金属製品（銭貨）

P

Q

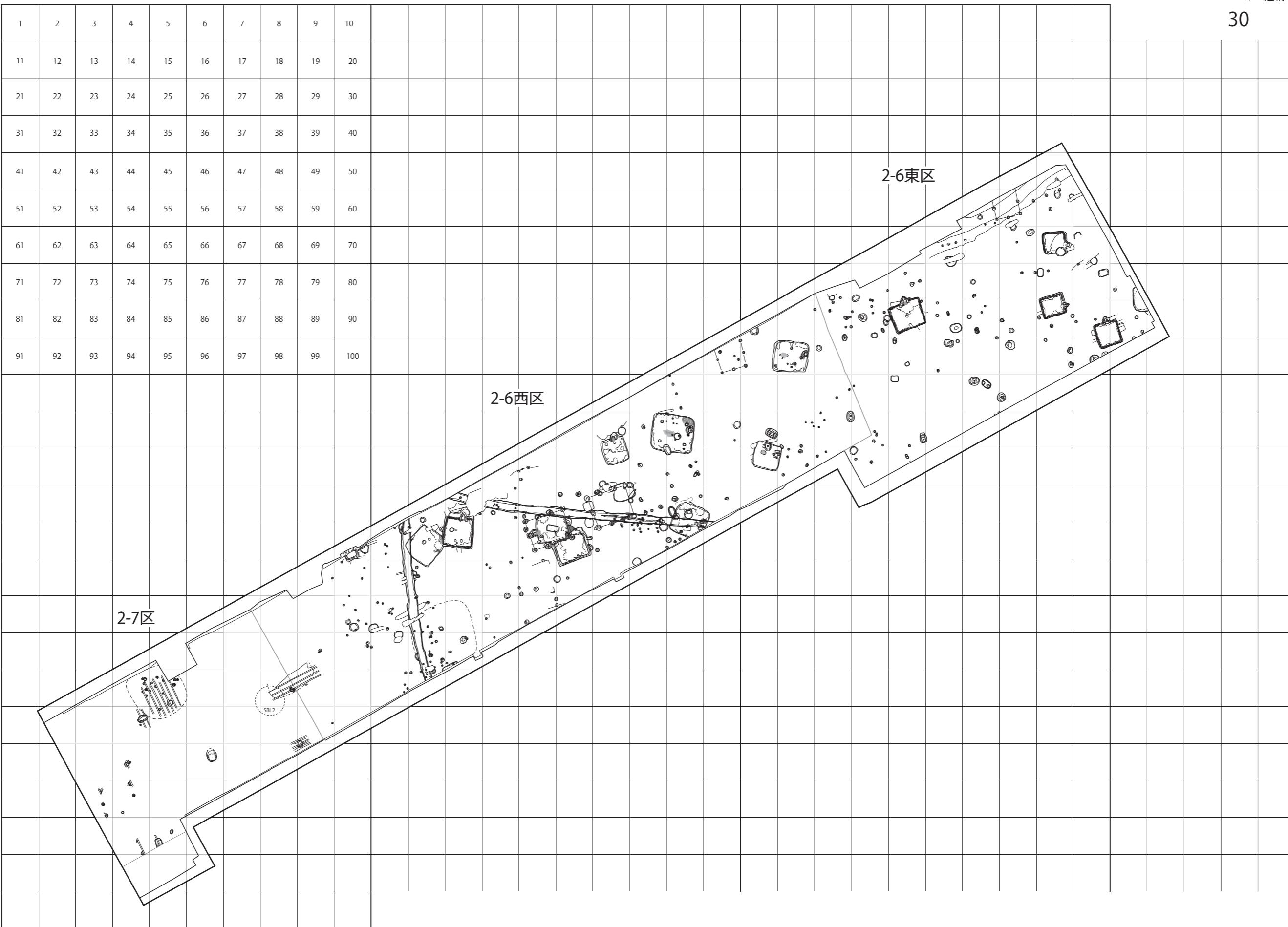
R

27

28

29

30



第13図 旧石器時代～中世遺構全体図(1/500)



## 1 旧石器時代

本書で報告する調査区のうち旧石器時代の遺物は、2-7 区の東側に設定した試掘坑 12において検出された（第 8・13 図）。これは、既刊行報告書のその 2（当センター調査報告第 382 集）で報告された 1 号遺物集中部に続く 2 例目であったことから、当該検出箇所を 2 号遺物集中部と付し、本書においてもその遺構番号を踏襲している。本節では、この 2 号遺物集中部で検出された 35 点の石器と、遺構外出土遺物として 2-6 区で出土した旧石器時代の所産と判断された石器 1 点を報告する。

### 1) 遺物集中部 (SBL) (第 14 ~ 28 図、第 4 表)

本集中部の石器は、破片数で合計 35 点検出され、垂直分布では本書層序の 2-7 区 -B 層から 2-7 区 -D 層（第 9・14 図）にかけて出土しており、特に 2-7 区 -D 層によく集中する。2-7 区 -D 層より上位の 2 層にも僅かに分布し接合関係も認められるが（第 15 図）、当該地点及び周辺はほぼ水平堆積の安定した平坦地であるため、主な帰属層位は 2-7 区 -D 層に求められる。2-7 区 -D 層の間では散漫に分布するため、生活面を特定することは難しいが、少なくとも当該層中にあったと考えられる。

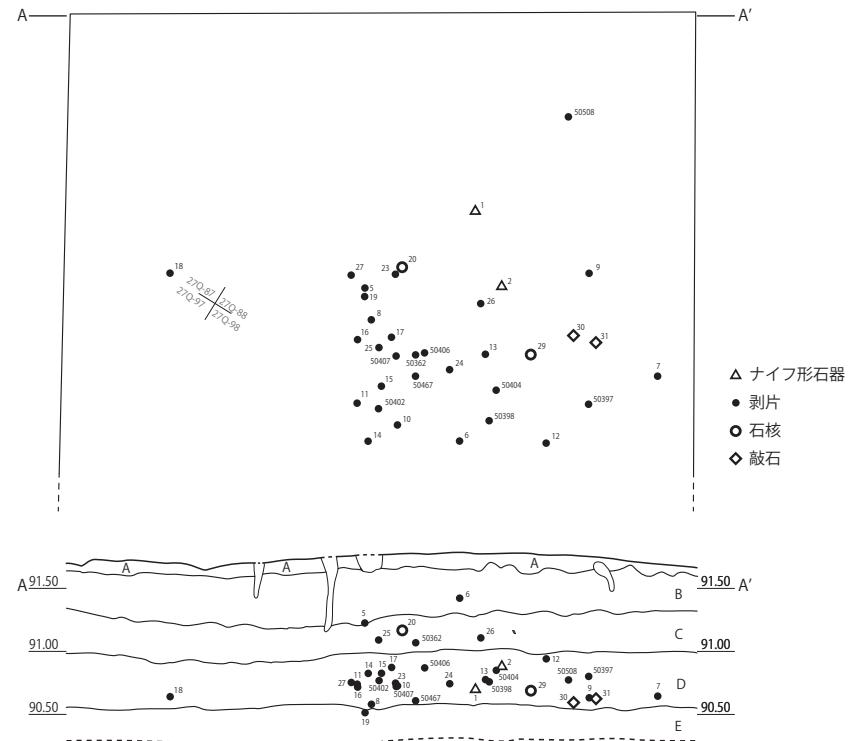
一方、層序に関しては、試掘坑 12 で土層サンプルを採取し、テフラ分析を実施している（第 V 章第 2 節参照）。その分析結果を参考とし、地域的に認識されている層序と照らし合わせると、2-7 区 -A ~ C 層は多摩地域におけるいわゆる VS 層であり、武蔵野台地では立川ロームⅢ層相当となる。また、それ以下は多摩地域の VH 層かつ立川ロームⅣ層以下に相当するが、現場記録の土層区分を合せると、2-7 区 -D 層は立川ロームⅣa 層、2-7 区 -E 層は立川ロームⅣb 層に比定できよう。したがって、本集中部の石器群は、広域層序に対比するならば、立川ロームⅣa 層相当の小型ナイフ形石器を伴う石器群として位置付けることができる。

次に、出土した 35 点 (622.32g) の内訳を見ていく。器種組成は、ナイフ形石器 2 点 (2.75g)、剥片 21 点 (81.53g)、石核 2 点 (58.76g)、チップ 8 点 (4.9g)、敲石 2 点 (474.38g) である。敲石を除く石器は、33 点で重量は 147.94g であり、敲石 1 点にも満たない量である。平面分布としては、集中部の南側に剥片、北側にそれ以外の石器が比較的まとまっている。

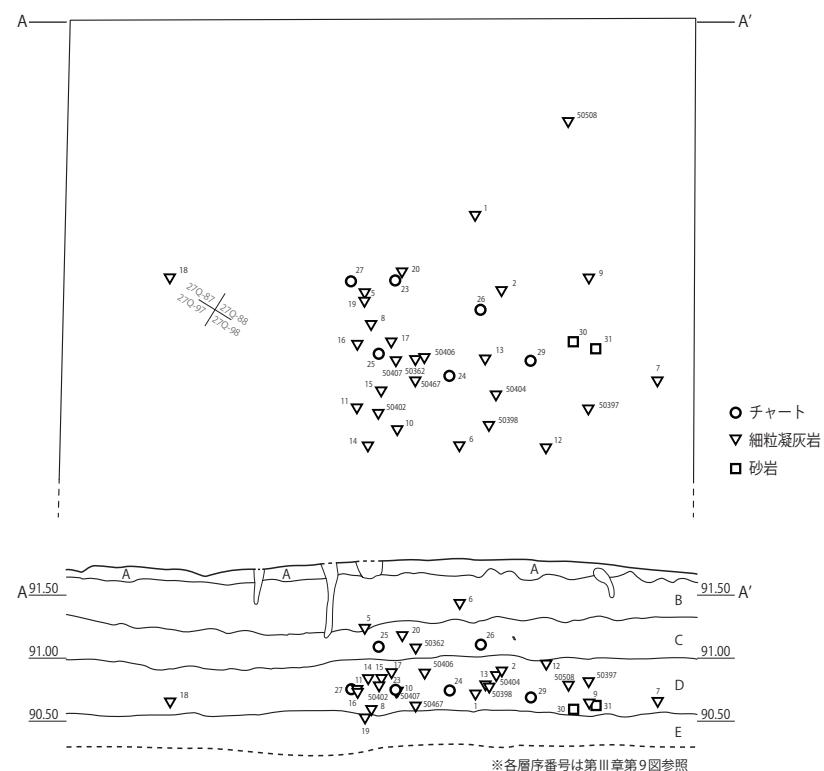
石材組成は、点数の多い順に細粒凝灰岩 27 点 (91.4g)、チャート 6 点 (56.54g)、砂岩 2 点 (474.38g) の 3 種類で構成される。標準土色帖を用いた各石材の特徴としては、細粒凝灰岩は 5Y オリーブ色系を基本に 10Y オリーブ灰色系が縞状に入る色調を呈しており、表面は経年風化により白っぽく退色している。近隣の産地としては相模川流域が考えられる。チャートは、7.5 ~ 10GY 緑黒色あるいは 5 ~ 10BG 青黒色を呈し、節理がやや内在するものの発達した網目状構造はほとんどないため、石材としては良質である。産地は、多摩川上流域あるいは荒川上流域が考えられる。砂岩は典型的な特徴を呈しており、おそらく相模川流域の凝灰岩、あるいは多摩川・荒川上流域のチャートと共に入手したと推察される。石材分布では、平面・垂直共に明確な相違点はなく、重複した状況であることから、同時期に存在した可能性が高いと考えられる。

器種別での石材組成では、ナイフ形石器 2 点はいずれも細粒凝灰岩である (2.75g)。剥片 21 点の内訳では、細粒凝灰岩を石材としているものは 16 点 (52.92g)、チャートは 5 点 (28.61g) である。石核 2 点では、細粒凝灰岩 (30.83g) とチャート (27.93g) が各 1 点、チップ 8 点はすべて細粒凝灰岩 (4.9g)、敲石は 2 点とも砂岩 (474.38g) である。

出土分布（器種別）

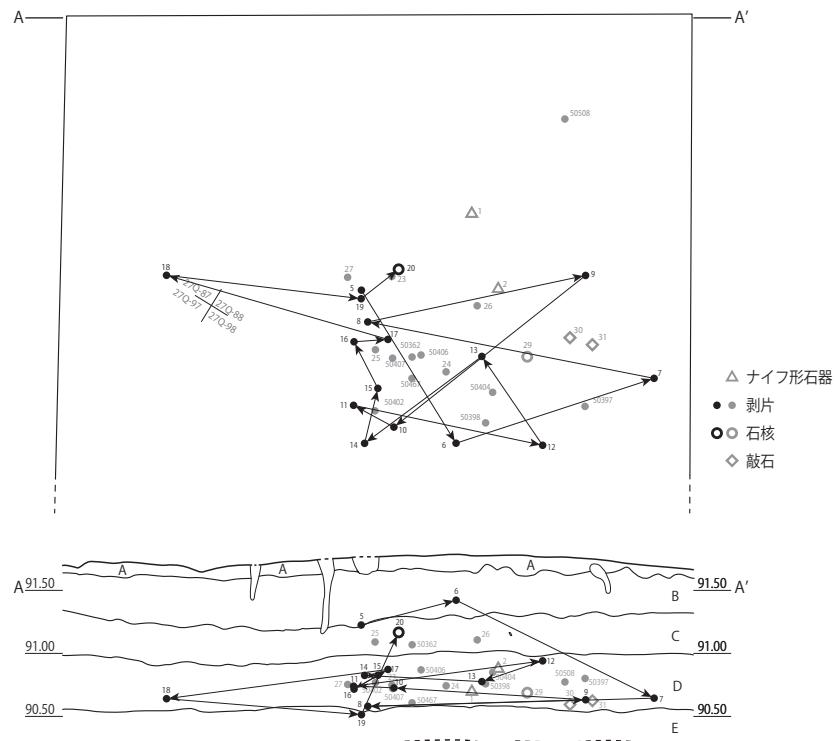


石材別分布

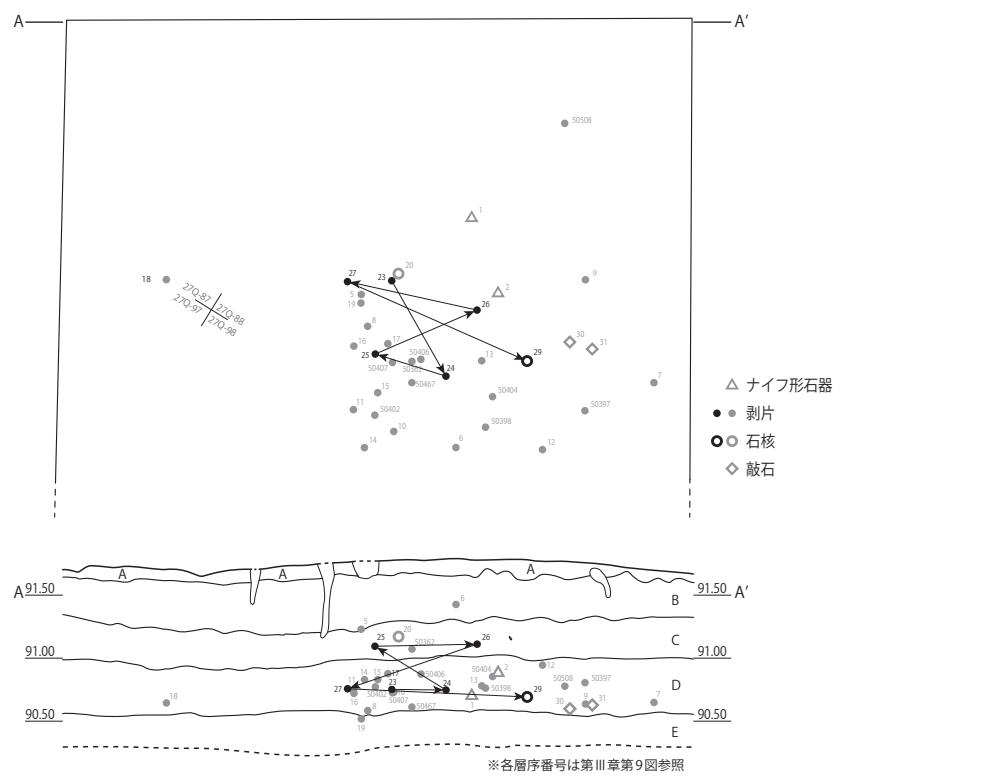


第14図 SBL2(1) 器種・石材別分布図 (1/60)

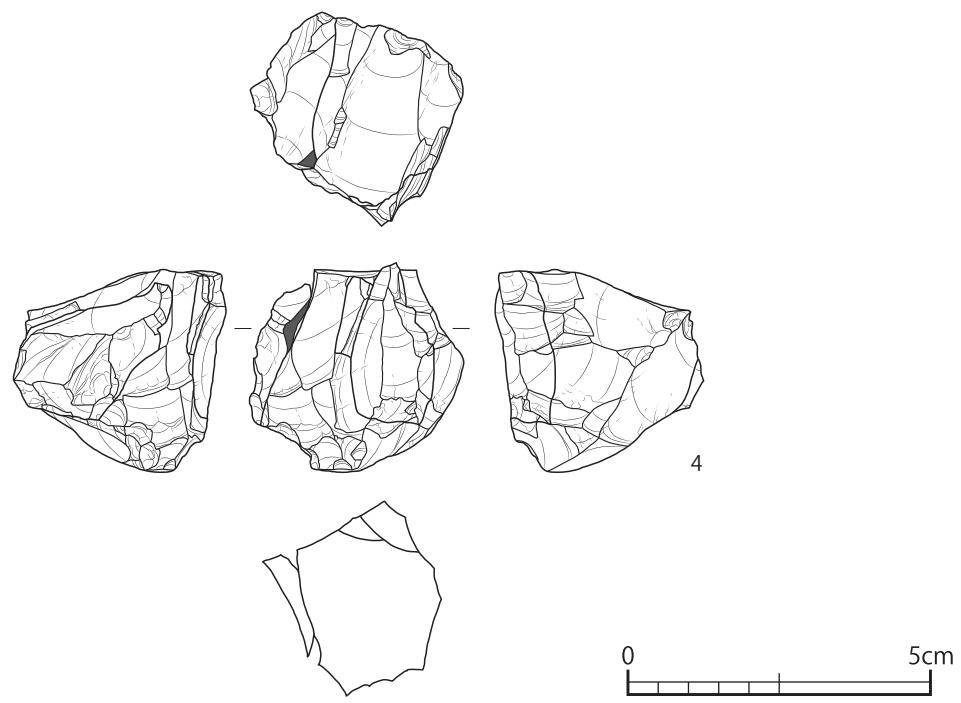
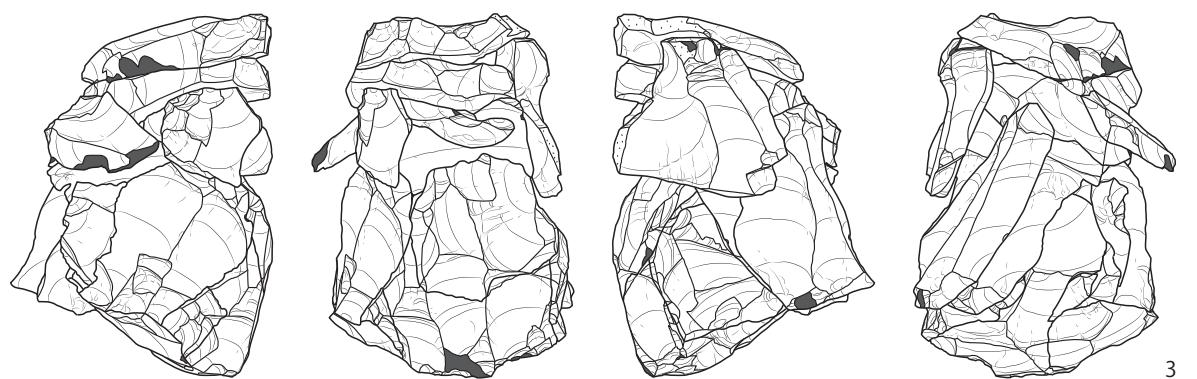
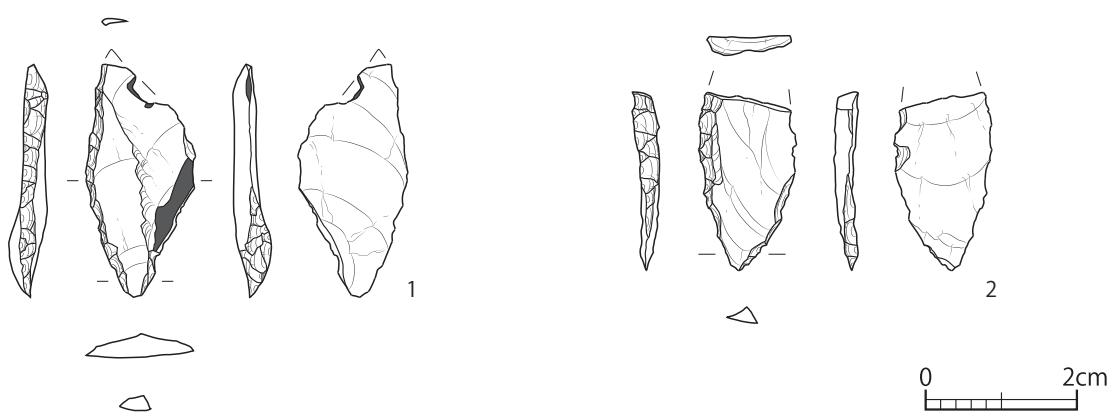
接合個体 A 接合状況



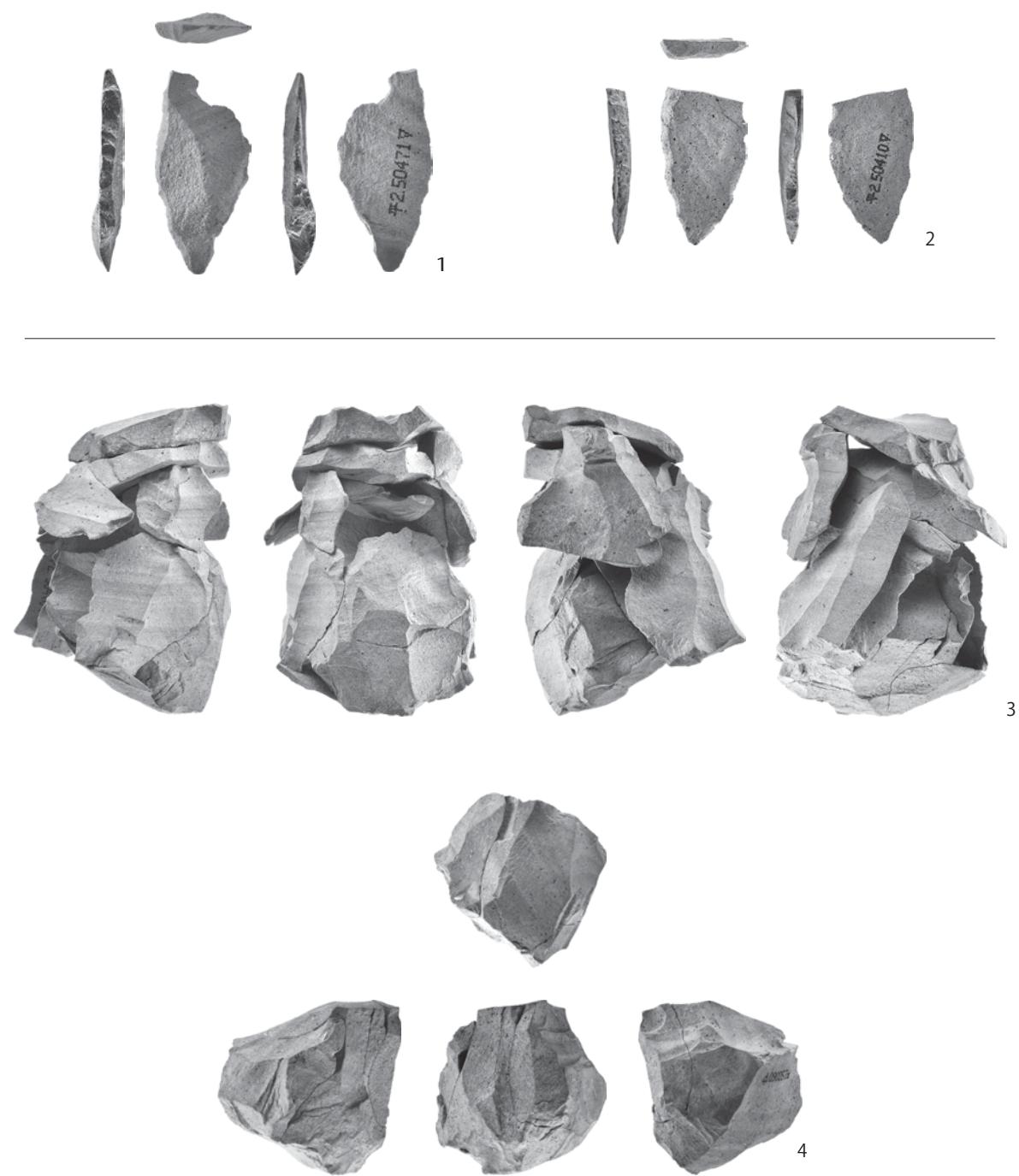
接合個体 B 接合状況



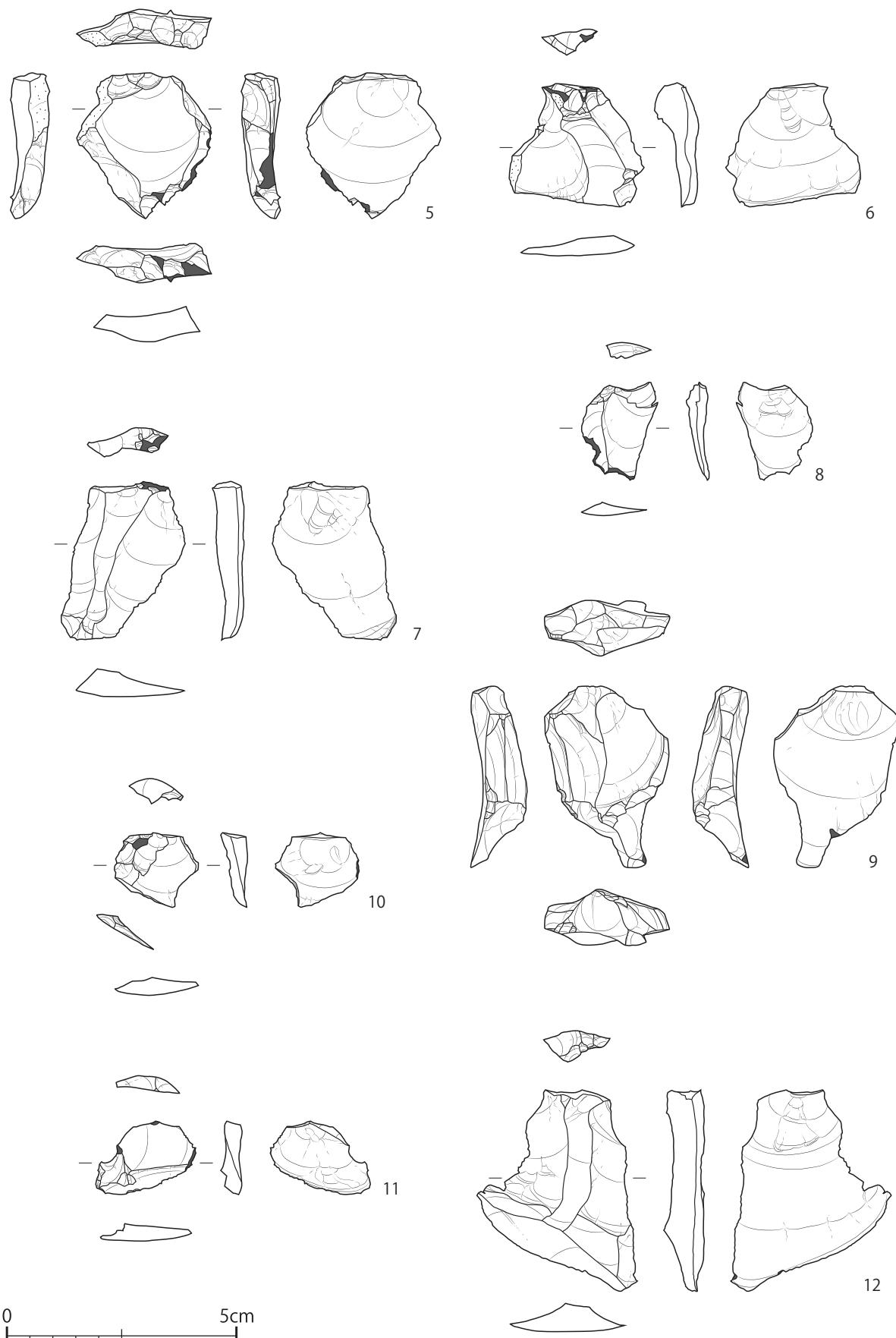
第 15 図 SBL2(2) 石器接合分布図 (1/60)



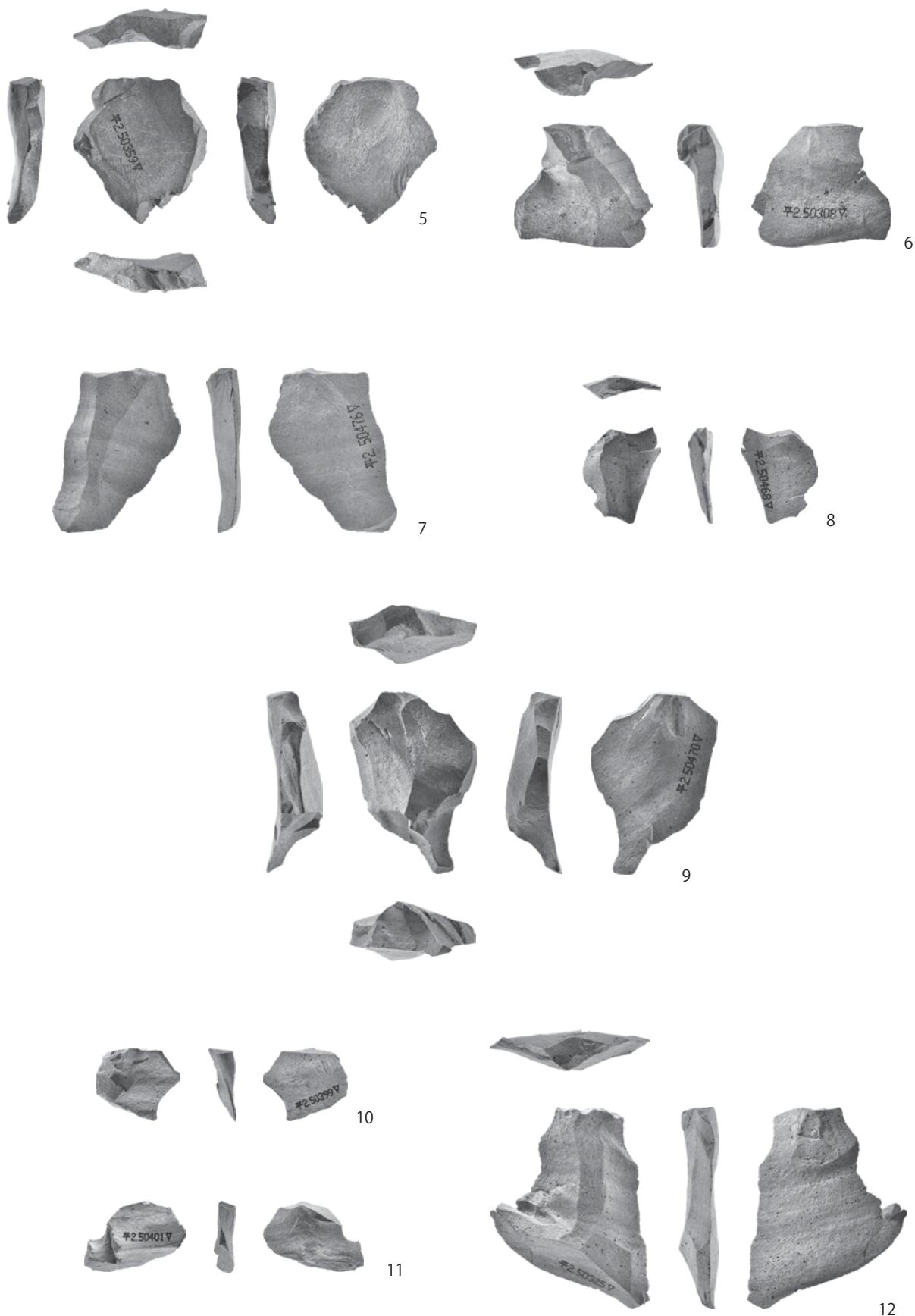
第 16 図 SBL2 出土遺物 (1)(1/1・4/5)



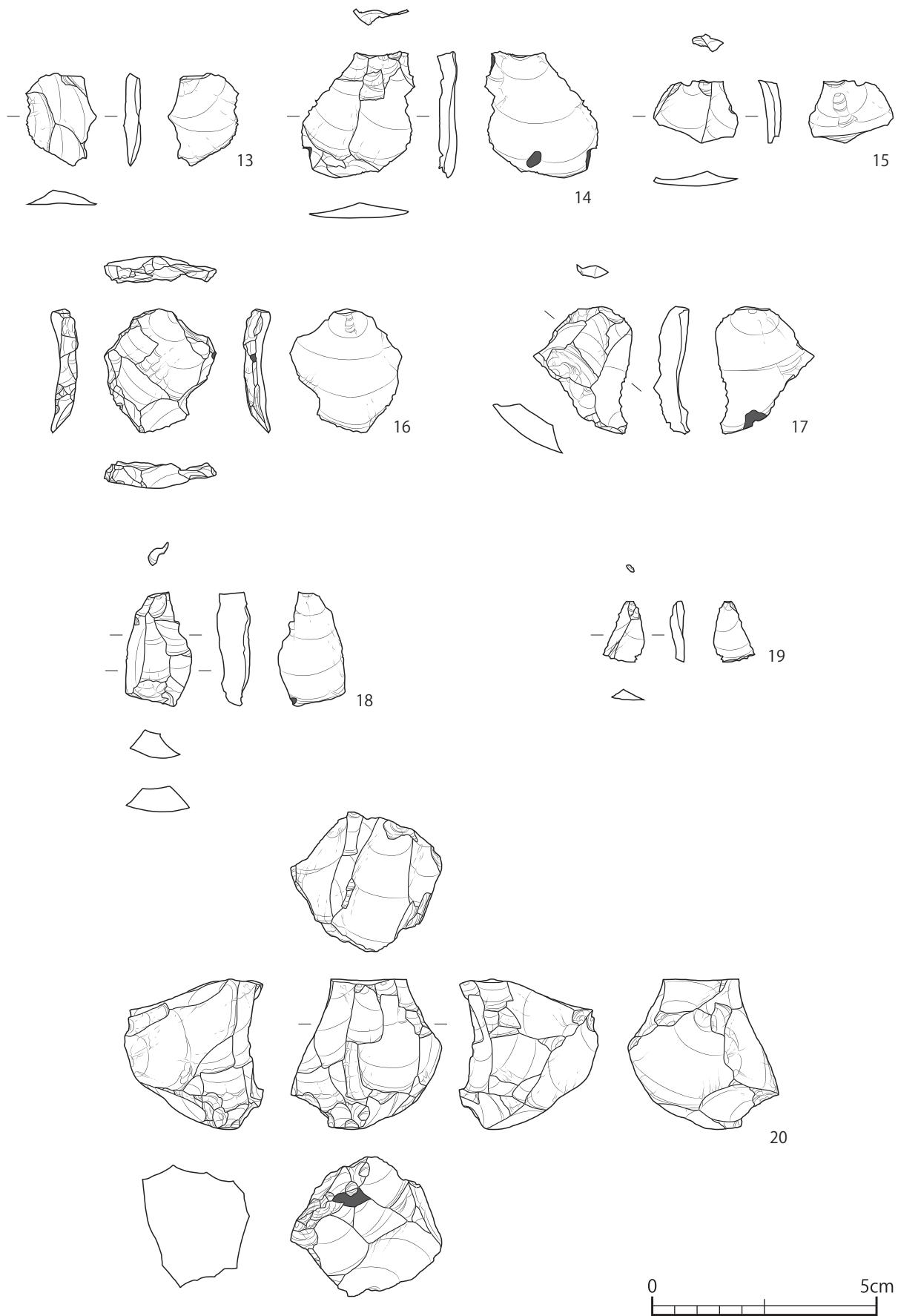
第 17 図 SBL2 出土遺物 (1) 写真



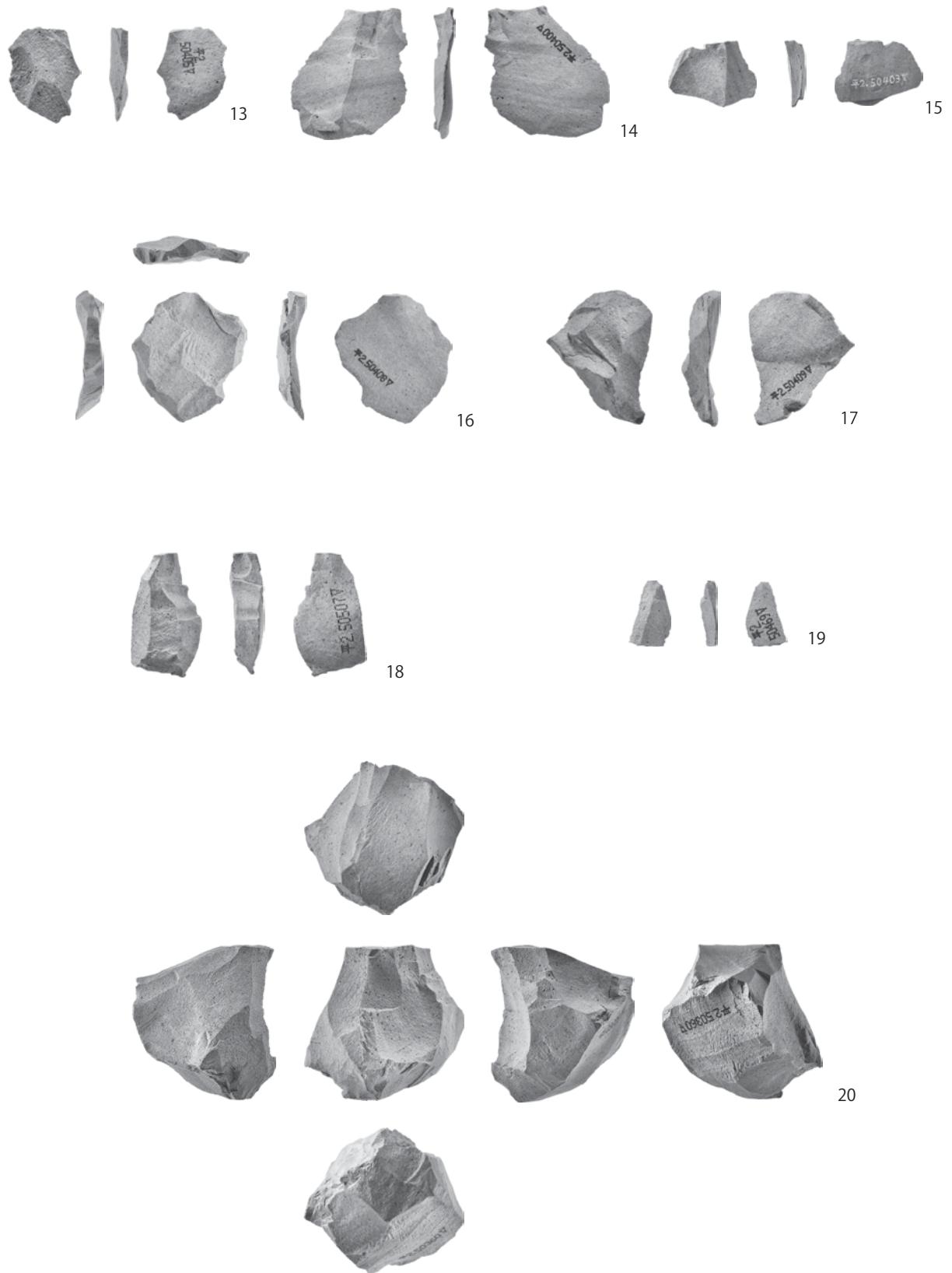
第18図 SBL2出土遺物(2)(4/5)



第 19 図 SBL2 出土遺物 (2) 写真



第 20 図 SBL2 出土遺物 (3)(4/5)



第 21 図 SBL2 出土遺物 (3) 写真

また、1号遺物集中部との分布関係について触れておく。本集中部は、1号遺物集中部と直線距離で約350m離れている。1号遺物集中部は、立川ロームⅢ層下の上部に位置する細石刃石器群である。その一方、2号遺物集中部はⅣa層に位置する小型ナイフ形石器を伴う剥片石器群であることから、層位及び石器群の様相も異なる。したがって、両集中部の形成時期は異なると考えられる。

以降、2号遺物集中部の出土石器について報告する。

ナイフ形石器（第16・17図） 1と2は共に、二側縁加工の右肩に刃部を有するナイフ形石器である。1は打面側を基部とし、腹面側から打面を切り取るような調整が認められ、一方の左側縁は先端から末端まで入念にブランディングが施されている。2は素材剥片の末端側を基部とし、先端側は折れて欠損している。2点とも細粒凝灰岩を用いており、接合はしないものの後述する接合個体Aの石材と同質であることから、石材の入手場所は同じであったと推察される。

接合個体別資料（第16～24図） 本集中部で得られた接合個体は2例である。これらの剥片剥離技術の詳細については第VI章第1節にて総括することとし、ここでは個別資料の状態記載の概要に留める。実測図の掲載順序は、接合状態→中間状況→個別資料（剥離順序順）に並べている。

接合個体A（3・4）は、細粒凝灰岩を石材に用いた資料で、石核を含め接合した破片数は16点（81.59g）である。この状態での法量は、高さ6.0cm、幅4.3cm、奥4.3cmで、全体の形状及び僅かに残る自然礫面から10cm前後の円礫ないし亜円礫の転石を用いていると推察される。5～19までが剥片である。全体的に定形性は低く、末端でステップあるいはヒンジを伴うものがやや認められる。剥片の内5・9・16は打面再生剥片である。接合する剥片に明確な打面調整剥片はないが、打面再生剥片の背面剥離構成中に打面調整が行われた剥離が認められる。20は、サイコロ状の残核である。

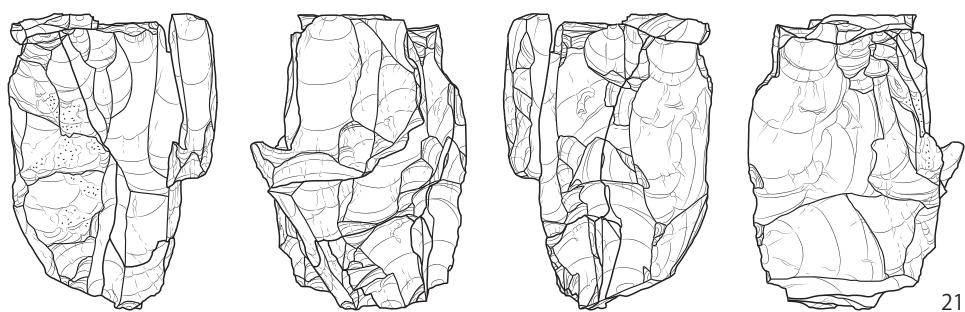
なお、非掲載の接合しない剥片及びチップ9点（7.06g）と前述でも触れたナイフ形石器2点については、全て接合個体Aと同質の細粒凝灰岩であり、同一母岩である可能性が高い。

接合個体B（21・22）は、チャートを石材に用いた資料で、石核を含め接合した破片数は6点（56.54g）である。この状態での法量は、高さ4.9cm、幅3.6cm、奥3.4cmを測る。接合個体Aと同様、10cm前後の転石利用が推察される。23～27まで剥片で、24は打面調整のステップフラクチャーである。28は26と27の接合状態であるが、剥離過程で折れたのであろう。最終残核は29であるが、一段階前は22（28+29）の多角柱状の状態を呈する。

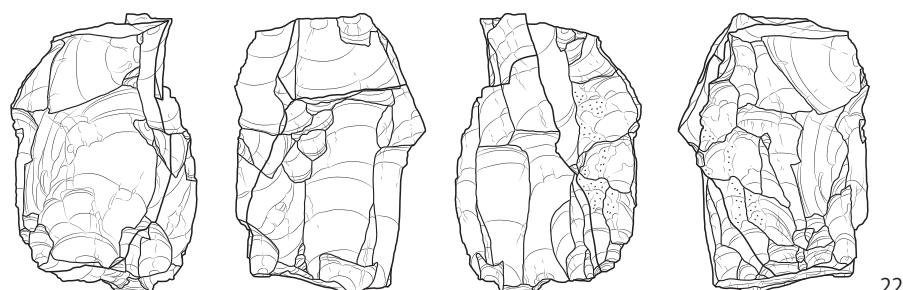
敲石（第25・26図） 30は亜円礫を用いた敲石である。最も著しい敲打痕は下端部に、最大幅のある両サイドにやや頻度が弱い痕跡があり、部位によって使用頻度が異なる様子が認められる。31は円礫を用いた敲石で、上下端部に著しい敲打痕が認められる。ただし、下端部の方が多面的かつ広範囲に敲打痕が残され、利用頻度の高い部位であったことがわかる。

## 2) 遺構外出土遺物（第25・26図、第5表）

2-6西区中央付近に位置する古代の竪穴建物跡（SI58）の覆土中から黒曜石製の細石刃が1点出土した。背面は、主要剥離面と同方向の連続的な6枚の剥離面で構成される。打面は剥離時の衝撃によって消失しているが、リップ状の打点及びその下にやや発達したバルブが認められることから、押圧剥離によって作出されたものと推察される。末端側は、背面側から折れて欠損している状態で、折り取りもしくは偶発的によるものかについては判別できない。石材である黒曜石は、比較的透明度のあるガラス質に筋状の晶子を伴う特徴から、信州系の産地が推測される。 （塚田）

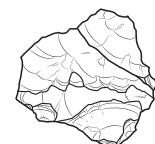


21



22

0 5cm



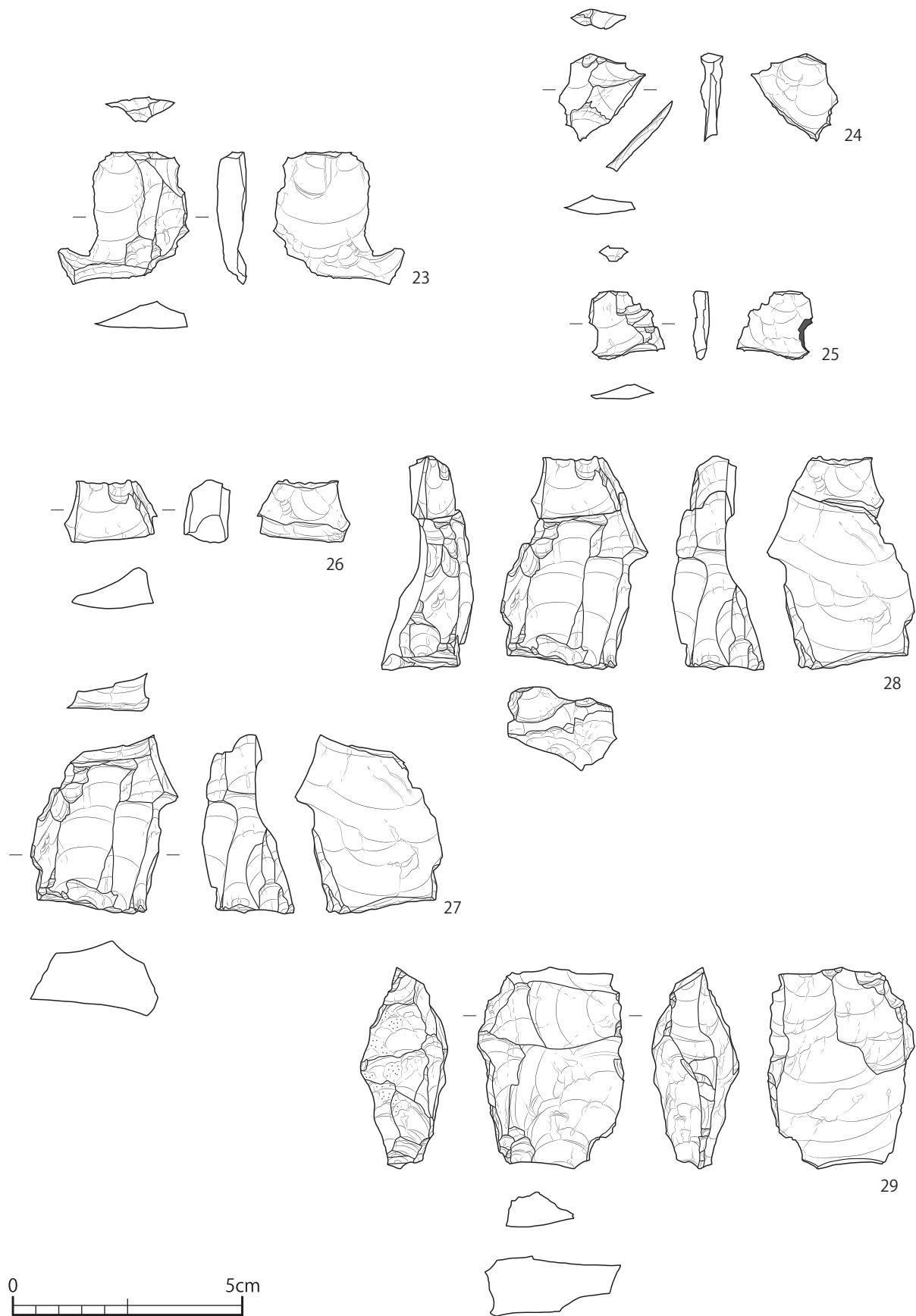
21



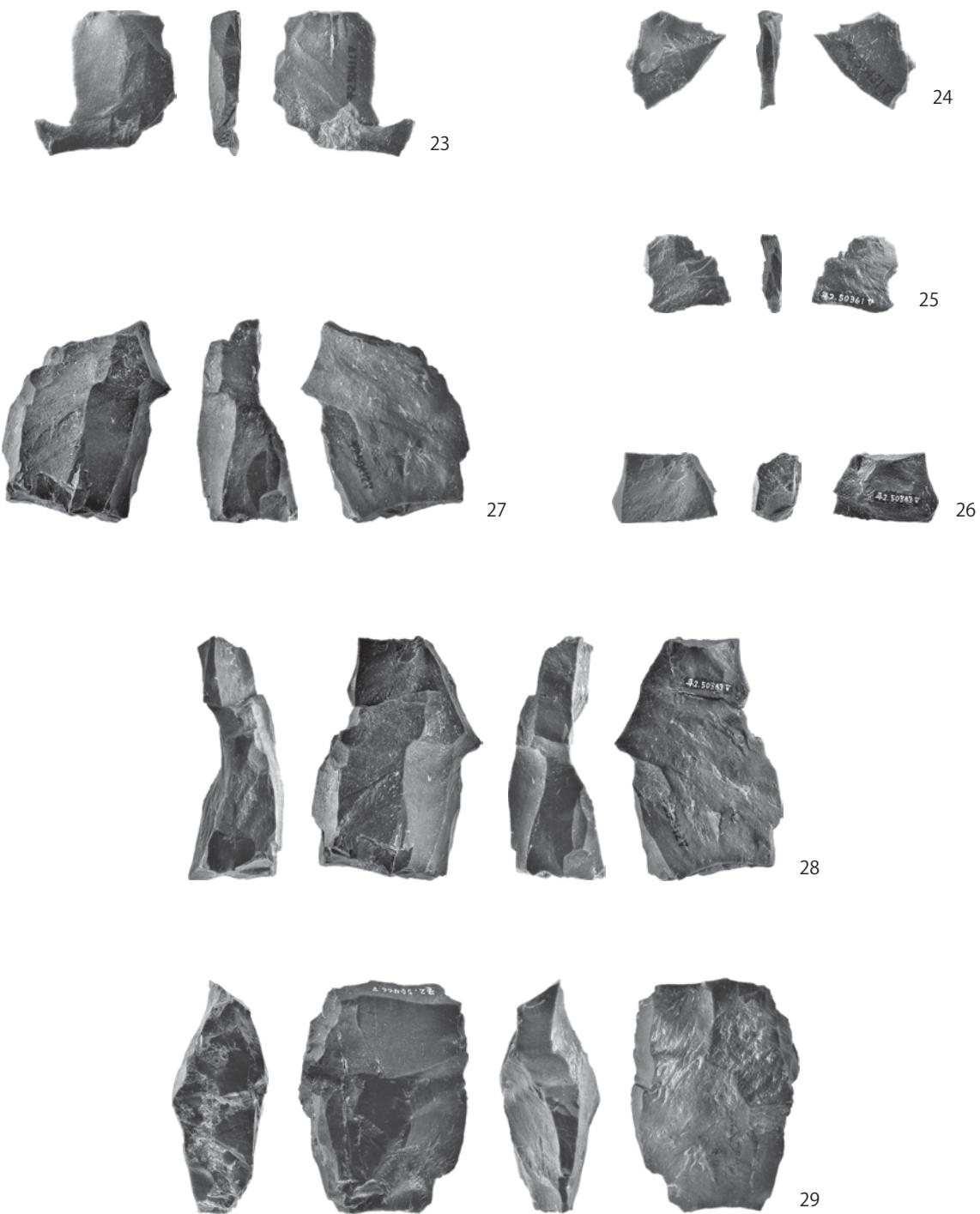
22



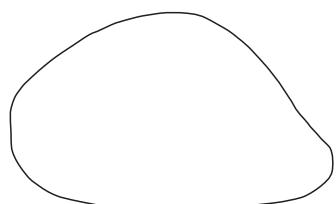
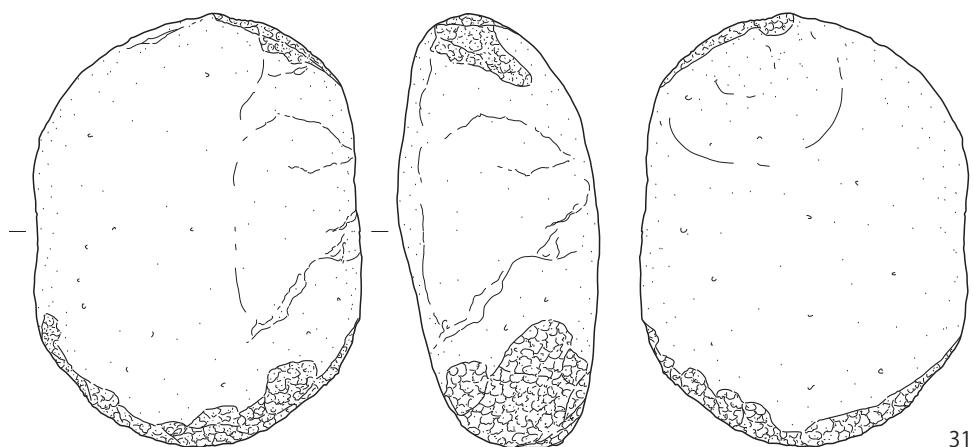
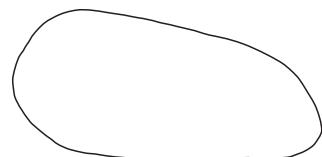
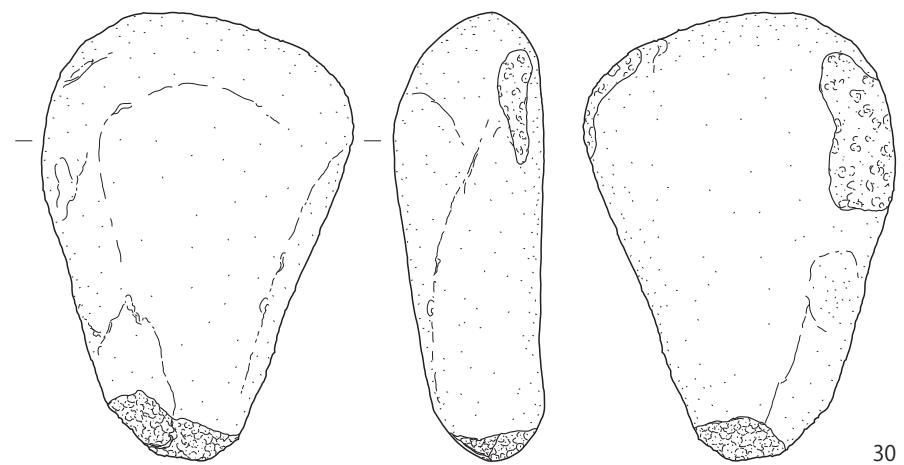
第22図 SBL2出土遺物(4)(4/5)・写真



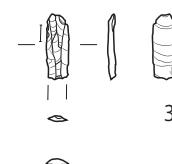
第 23 図 SBL2 出土遺物 (5)(4/5)



第 24 図 SBL2 出土遺物 (5) 写真



遺構外出土遺物



第 25 図 SBL2 出土遺物 (6)・旧石器遺構外出土遺物 (2/3)



30



31

---

遺構外出土遺物



32

第 26 図 SBL2 出土遺物 (6)・旧石器遺構外出土遺物写真

第4表 SBL2 石器計測表

遺物番号	図版番号		出土			石器		計測値				石材	接合(母岩)	備考	出土座標			
	図	写真	区	層	注記番号	器種	状態	被熱	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			X	Y	Z	
1	第16図	第17図	2-7	V	平2.50471 V	Kn	b2	×	3.1	1.4	0.4	1.60	Tf	×		38593.285	-41413.635	90.702
2			2-7	V	平2.50410 V	Kn	b1	△	2.3	1.3	0.3	1.15	Tf	×		38593.683	-41413.142	90.884
5			2-7	V	平2.50359 V	F	a2	△	3.2	2.9	0.7	6.82	Tf	2	打面再生剥片	38594.267	-41414.057	91.229
6			2-7	V	平2.50308 V	F	a2	△	2.5	2.9	0.9	4.73	Tf	2		38594.907	-41412.776	91.426
7			2-7	V	平2.50476 V	F	a2	×	3.5	2.6	0.6	4.56	Tf	2		38593.643	-41411.712	90.642
8	第18図	第19図	2-7	V	平2.50468 V	F	c	×	2.1	1.7	0.4	1.12	Tf	2	打面調整剥片	38594.456	-41413.880	90.581
9			2-7	V	平2.50470 V	F	a2	×	4.0	2.7	1.0	9.62	Tf	2	打面再生剥片	38593.233	-41412.606	90.629
10			2-7	V	平2.50399 V	F	b1	×	1.2	1.8	0.5	1.10	Tf	2	ステップフラクチャー	38595.057	-41413.263	90.725
11			2-7	V	平2.50401 V	F	c	×	1.6	2.2	0.4	1.29	Tf	2		38595.079	-41413.626	90.739
12			2-7	V	平2.50325 V	F	a2	×	4.3	3.6	0.9	8.83	Tf	2		38594.560	-41412.183	90.939
13			2-7	V	平2.50405 V	F	a2	×	2.0	1.6	0.3	0.97	Tf	2		38594.214	-41412.965	90.774
14			2-7	V	平2.50400 V	F	a2	×	2.8	2.5	0.4	2.47	Tf	2		38595.289	-41413.393	90.825
15			2-7	V	平2.50403 V	F	a2	×	1.4	1.9	0.4	0.75	Tf	2	ステップフラクチャー	38594.862	-41413.534	90.827
16	第20図	第21図	2-7	V	平2.50408 V	F	a1	×	2.8	2.5	0.4	2.73	Tf	2	打面再生剥片	38594.649	-41413.890	90.717
17			2-7	V	平2.50409 V	F	c	×	2.8	2.3	0.6	3.14	Tf	2		38594.491	-41413.671	90.873
18			2-7	V	平2.50507 V	F	a1	×	2.6	1.5	0.6	2.37	Tf	2		38594.983	-41415.434	90.642
19			2-7	V	平2.50469 V	F	a1	×	1.3	0.7	0.3	0.26	Tf	2	ステップフラクチャー	38594.326	-41414.023	90.515
20			2-7	V	平2.50360 V	Co	a1	×	3.3	3.4	3.1	30.83	Tf	2		38593.972	-41413.893	91.170
23			2-7	V	平2.50411 V	F	a1	×	2.9	2.8	0.6	4.36	Ch	1		38594.047	-41413.909	90.748
24			2-7	V	平2.50431 V	F	b1	×	1.8	1.9	0.4	1.24	Ch	1	末端部欠損	38594.468	-41413.142	90.741
25	第23図	第24図	2-7	V	平2.50361 V	F	c	×	1.5	1.7	0.4	0.84	Ch	1	ステップフラクチャー	38594.613	-41413.712	91.094
26			2-7	V	平2.50363 V	F	b1	×	1.3	2.1	0.8	2.13	Ch	1		38593.890	-41413.210	91.109
27			2-7	V	平2.50412 V	F	b1	×	4.0	2.9	1.6	20.04	Ch	1		38594.238	-41414.204	90.753
29			2-7	V	平2.50466 V	Co	a1	×	4.3	3.1	1.7	27.93	Ch	1		38594.027	-41412.658	90.686
30	第25図	第26図	2-7	V	平2.50485 V	HS	a1	×	8.9	6.2	3.0	193.26	Sa	×		38593.720	-41412.450	90.592
31			2-7	V	平2.50486 V	HS	a1	×	8.6	6.4	4.0	281.12	Sa	×		38593.675	-41412.269	90.622
—	—	—	2-7	V	平2.50362 V	ch	b1	△	1.5	1.3	0.2	0.29	Tf	×		38594.510	-41413.434	91.071
—	—	—	2-7	V	平2.50397 V	ch	c	△	1.6	0.6	0.2	0.17	Tf	×		38594.121	-41412.060	90.798
—	—	—	2-7	V	平2.50398 V	ch	a2	×	1.0	1.9	0.5	0.87	Tf	×	ステップフラクチャー	38594.646	-41412.662	90.756
—	—	—	2-7	V	平2.50402 V	ch	a1	×	1.6	1.7	0.5	1.00	Tf	×		38595.026	-41413.459	90.769
—	—	—	2-7	V	平2.50404 V	ch	a2	×	1.0	1.7	0.4	0.46	Tf	×	ステップ(ヒンジ)フラクチャー	38594.411	-41412.742	90.848
—	—	—	2-7	V	平2.50406 V	ch	c	△	1.6	1.3	0.2	0.33	Tf	×		38594.459	-41413.382	90.869
—	—	—	2-7	V	平2.50407 V	ch	a1	×	1.5	1.5	0.4	0.75	Tf	×	ステップフラクチャー	38594.598	-41413.561	90.720
—	—	—	2-7	V	平2.50467 V	ch	c	×	1.9	1.5	0.4	1.03	Tf	×		38594.653	-41413.345	90.608
—	—	—	2-7	V	平2.50508 V	F	b1	×	2.2	1.9	0.5	2.16	Tf	×		38592.266	-41413.399	90.771

第5表 旧石器時代遺構外出土石器計測表

遺物番号	図版番号		出土			石器		計測値				石材	接合(母岩)	備考	出土座標			
	図	写真	区	層	注記番号	器種	状態	被熱	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			X	Y	Z	
32	第25図	第26図	遺構外	平2	SI58-2537	MB	b1	×	1.3	0.5	0.2	0.1	Ob	×	SI58 覆土出土	38573.633	-41373.437	91.357

第4・5表 凡例

器種	状態分類	石材
Kn…ナイフ形石器	a1…完形	Ob…黒曜石
MB…細石刃	a2…概ね完形であるがCの影響を受けているもの	Tf…凝灰岩
Co…石核	b1…当時の折面があるもの	Sa…砂岩
F…剥片	b2…b1に加えCの影響を受けているもの	Ch…チャート
ch…チップ(碎片)	c…ガジリ等新しい傷があるもの	
HS…敲石		



1. SBL2 遺物出土状況拡大 西南西から

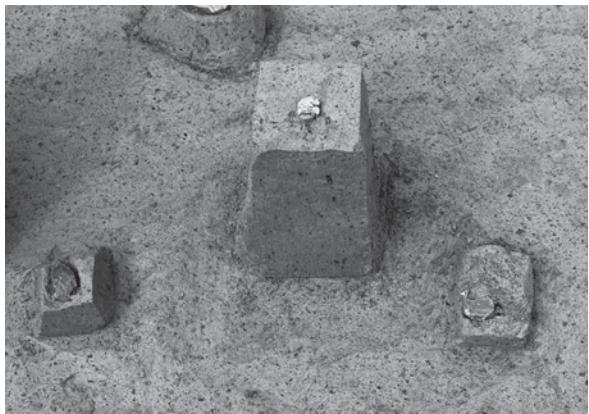


2. SBL2 遺物出土状況(1) 南南東から

第27図 SBL2 写真(1)



1. SBL2 遺物出土状況 (2) 東北東から



2. SBL2 遺物出土状況拡大 南南東から



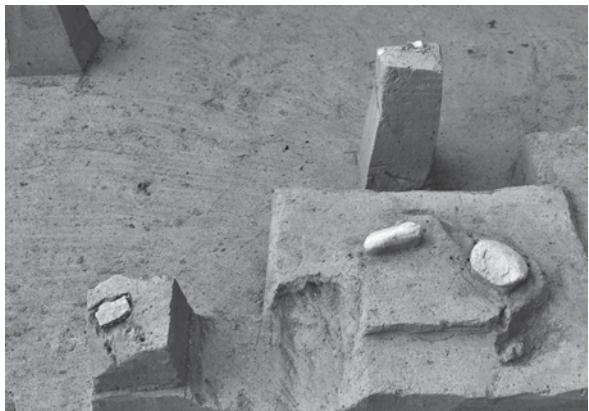
3. SBL2 遺物出土状況拡大 北北西から



4. SBL2 遺物出土状況 (3) 南南東から



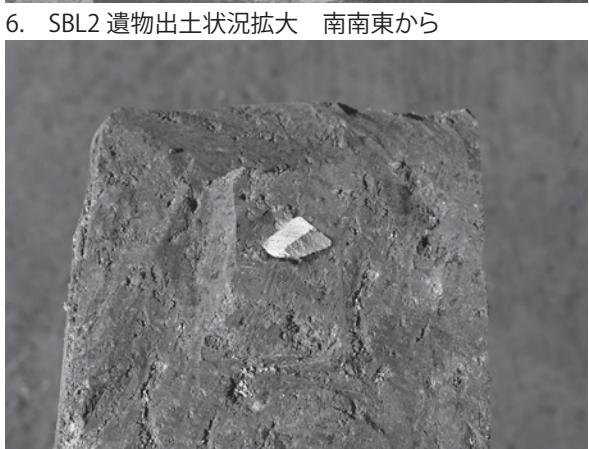
5. SBL2 遺物出土状況拡大 西西南から



6. SBL2 遺物出土状況拡大 南南東から



7. SBL2 遺物出土状況拡大 南南東から



8. SBL2 遺物出土状況拡大 南南東から

第 28 図 SBL2 写真 (2)

## 2 縄文時代

縄文時代の遺構は、集石 3 基、土坑 28 基、ピット 75 基を検出した。

土坑やピットは 2-6 東区で比較的まとまって検出されている一方で、集石は、2-6 西区の西側から 2-7 区にかけて検出されている。

2-6 東区においては、西側で南から北へと下がる埋没谷を確認した。そのため、東西、南北に土層観察用のベルトを設定して調査を行い、また、各層の上面の標高を測量したもののうち、縄文時代の包含層Ⅲ層の最下部であるⅣ層上面を図示した（第 30 図）。これによると、東西ベルトでは最深部である②（標高約 91.1m）と最高部である⑤（同約 91.6m）の比高差は約 50cm、同じく南北ベルトの最深部⑥（同約 91.1m）と最高部⑧（同約 91.6m）の比高差も約 50cm であり、谷の中心は南から北東方面へ向かっていることがわかる。また、2-6 東区の東側は比高差が少なく、比較的平坦である。

遺構の分布状況を見ると、3 基の陥し穴（SK243・284・286）を除いては、谷の底部を避けて構築されている様子が見て取れる。

遺物は、縄文時代の遺物包含層中を中心に早期から晩期にかけての土器、土製品（土製円板）、石器（石鏃、石匙、石核、打製石斧、磨石、敲石、石皿、台石）、礫が出土した。遺物は調査範囲内の各所で包含層を中心に出土しているが、上述した 2-6 東区埋没谷の底部から前期の土器、後述する 2-6 西区の SS15 北側の包含層から、前期や中期の土器がまとまって出ていることが特徴である。また、少數ながら晩期後葉の土器が出土していることも特筆される。

### 1) 集石（第 31～39 図、第 6～9 表）

調査区の西寄りで 3 基が検出された。検出面はⅢ2 層上で、いずれも明確な掘り込みを伴う下部施設は検出されなかった。遺構略号は SS で、2022～2024 年度報告分からの続番であるが、調査の過程で SS14 は欠番とした。

#### SS15（第 31～33・35 図、第 6・7・9 表）

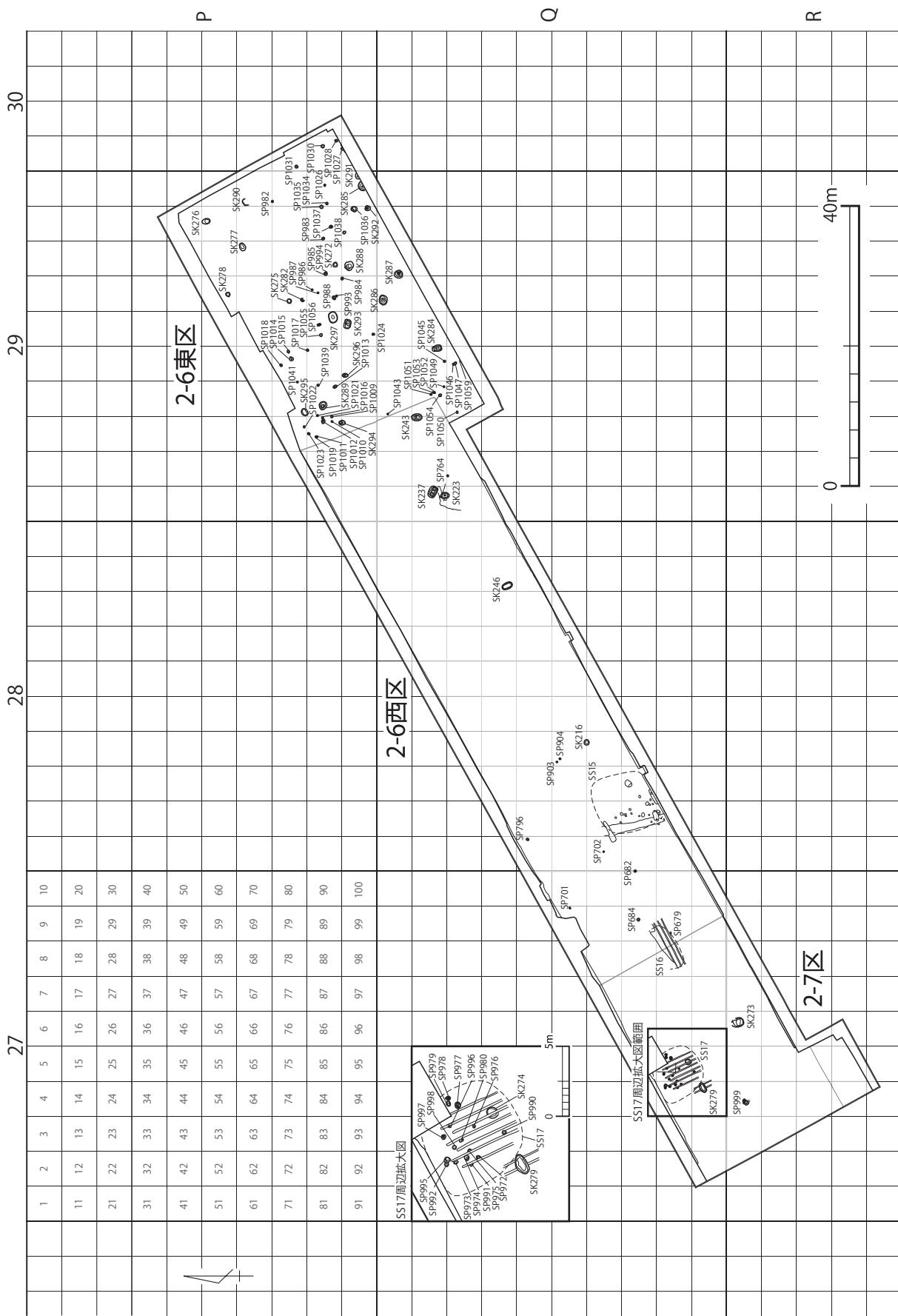
調査区中央やや西寄りの 28Q-62・63・72・73・82 グリッドで検出された。中世以前の遺構検出時、Ⅲ2 層上で複数の焼礫が出土したことから、集石として調査を実施した。

遺構 磕の分布範囲は、西側は古代末～中世の溝 SD13 に切られて途切れ、南は掘削範囲外へと続くとみられるが、検出範囲内では長軸（南北）998cm、短軸（東西）860cm を測る。礫を包含する土壤はⅢ2～Ⅲ3 層に相当している。

集石範囲には、西側に前述の SD13 があるほか、SD14 や複数の土坑やピットが検出されているが、いずれも古代以降に帰属するもので、SS15 に伴う可能性のある縄文時代の土坑やピットは検出されなかった。

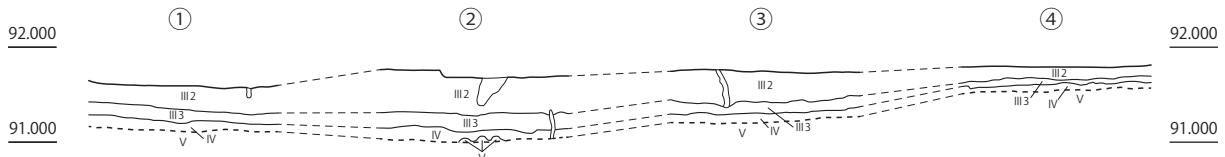
第 31 図に図示した礫は、概ね標高 91.8～92.2m で検出されたものである。これより下層のⅢ3 層に相当する標高 91.8m からⅣ層上面の 91.5m にかけても、ほぼ同じ範囲で複数の礫の分布が確認されたが、小片が主体であった。中心部付近で、比較的礫が集中する箇所が確認されたが、掘り込みを伴う下部施設は確認されなかった。

礫は、1,359 点のうち 98.9% の 1,344 点が焼礫で、そのうち 144 点で煤の付着、1 点ではタール

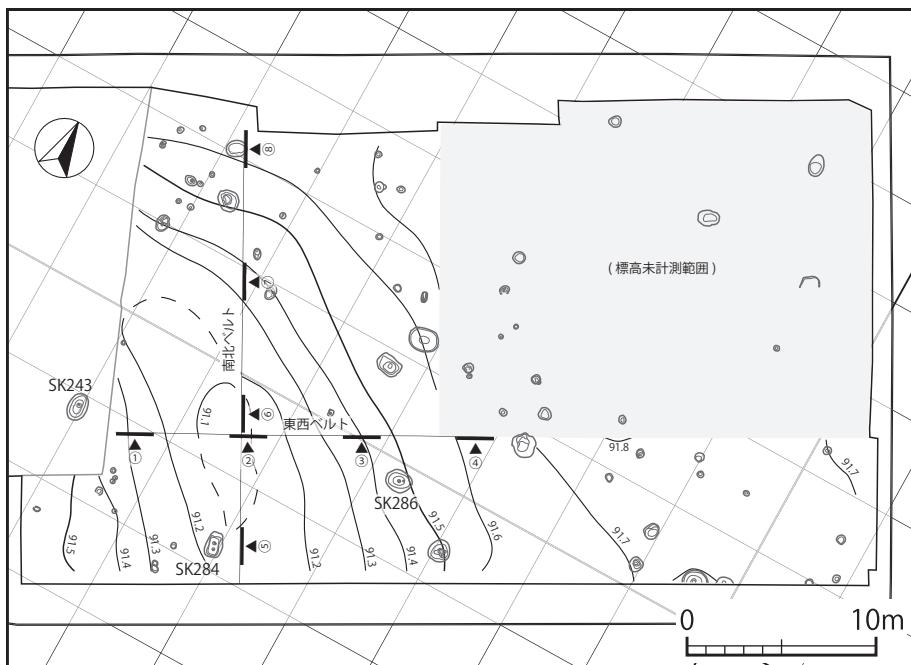
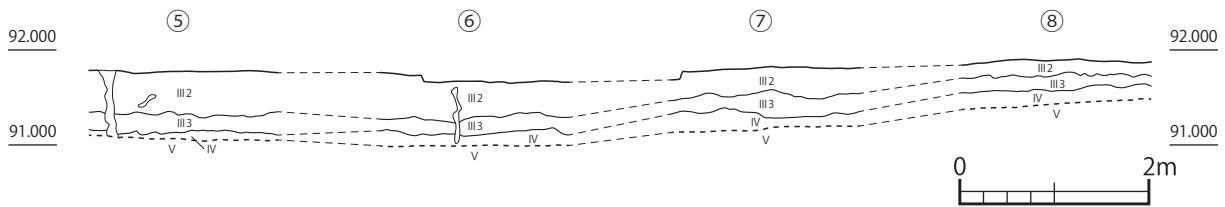


第29図 繩文時代遺構分布図(1/800・1/400)

東西ベルト



南北ベルト

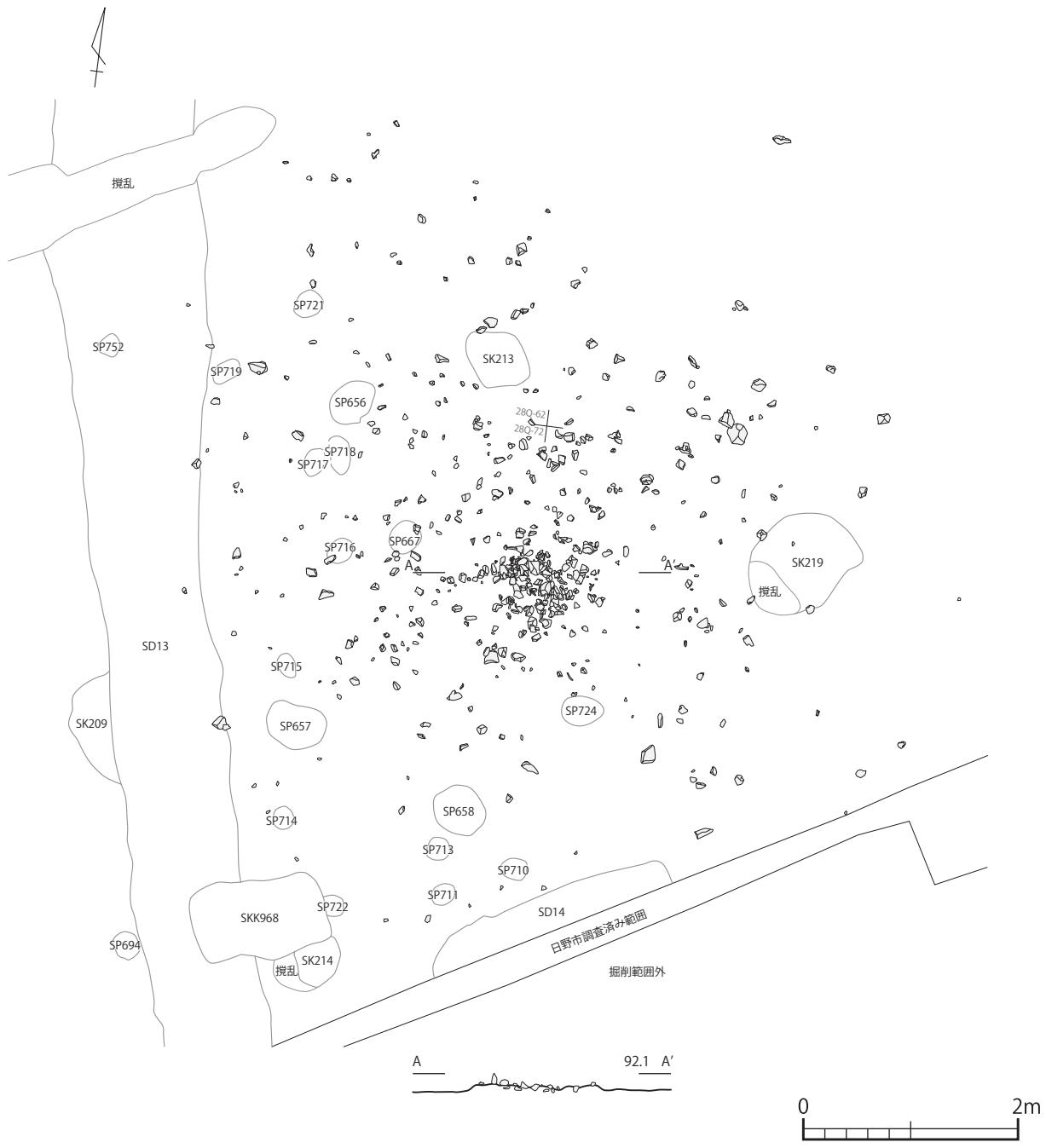


第30図 2-6 東区 埋没谷土層断面図・等高線図(IV層上面)(1/80・1/400)

状の付着物も認められた。また石材別では1,237点(91.0%)が砂岩で、他に礫岩34点(2.5%)、頁岩25点(1.8%)、片状砂岩16点(1.2%)、粘板岩15点(1.1%)、チャート13点(1.0%)、石英6点(0.4%)、細粒緑色凝灰岩4点(0.3%)、中粒緑色凝灰岩、ホルンフェルス各2点(各0.1%)、弱固結シルト質凝灰岩、閃綠岩、粗粒緑色凝灰岩、斑レイ岩、変質安山岩各1点(各0.1%)である。最も多い砂岩をはじめ、浅川で採取できる石材が主体となっている。

礫のうち739点が破碎礫で、104組376点で接合が確認できた。また、遺物包含層出土の16点も、当遺構の礫と接合した。

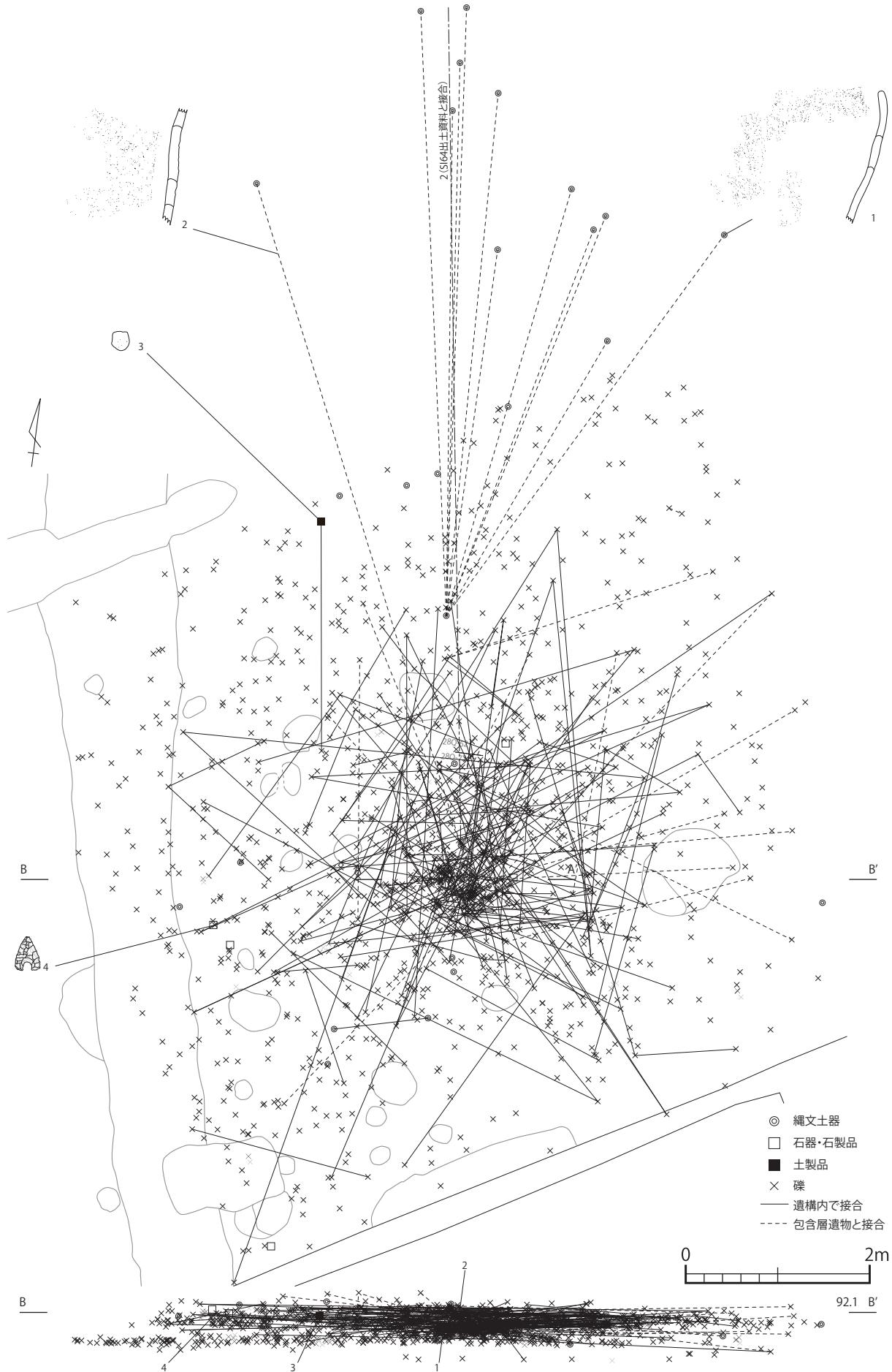
なお、当遺構の北側に隣接する包含層からは、比較的多数の縄文時代の遺物が出土した。掘り込みを伴う遺構は検出されなかったが、この遺物包含層出土の複数の土器片とSS15出土の土器片が接合しており、何らかの関連があるものと思われる。  
(相原)



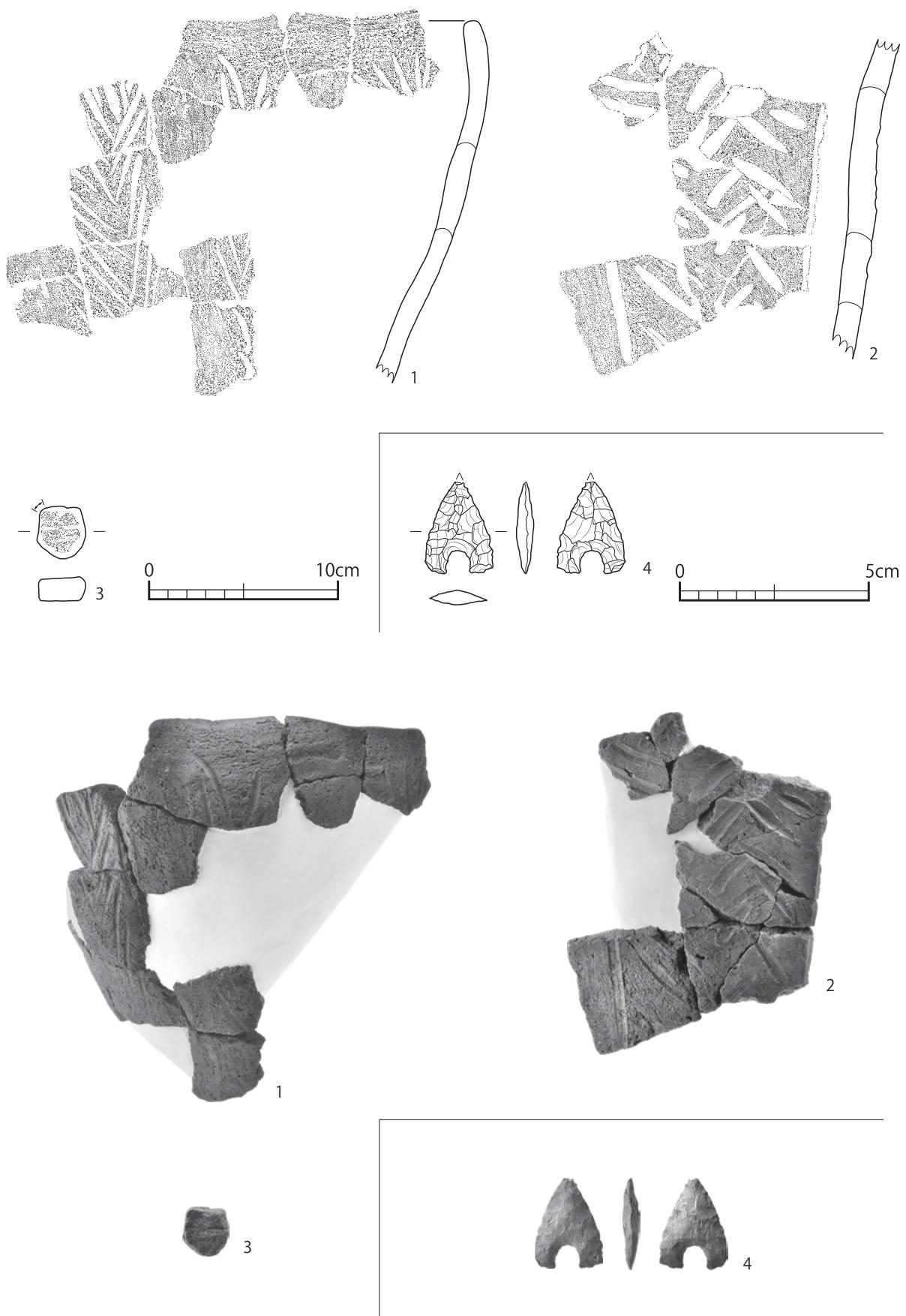
第31図 SS15(1)(1/60)

**遺物** 本遺構からは、縄文土器 15 点 198.1g (諸磯 c 式 1 点 3.9g、諸磯式 1 点 2.3g、勝坂 1 式 1 点 33.6g、加曾利 E3 式 1 点 5.5g、曾利 IV 式 1 点 31.3g、曾利 IV~V 式 3 点 103g、中期型式不明 1 点 14.5g)、土製品 (土製円盤) 1 点 9.7g、石器 6 点 167.4g (石鏃 1 点 1.5g、敲石 1 点 146g、剥片 4 点 19.9g)、礫 1,359 点 77,280g (うち被熱礫 1,344 点 77,002g)、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (壺あるいは甕) 1 点 4.8g、古代の土師器 12 点 29.5g、古代の須恵器 2 点 3.9g、凝灰質砂岩 3 点 13.7g が出土した。これらのうち、縄文土器 2 点、土製品 1 点、石器 1 点を図化し、掲載した。

なお、弥生時代後期～古墳時代前期や古代の土器や凝灰質砂岩は、周囲からの混入だと考えられる。



第32図 SS15(2) 遺物分布・接合図 (1/60)



第33図 SS15出土遺物(1/3・2/3)・写真

第6表 SS15 出土土器・土製品観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第33図	1	SS15・28Q-52・53・63	縄文土器 深鉢	中期	曽利IV式	綾杉状あるいは斜位の短沈線。	砂粒	良好	10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁～胴部破片	重量 285.8g 第78・79図100～102と同一個体。
	2	SS15・SI62・28Q-42・52・53・63	縄文土器 深鉢	中期	曽利IV～V式	沈線による縦位の区画、斜位の短沈線による充填。	小礫・砂粒・白色粒子	良好	5YR5/6 明赤褐	胴部破片	重量 297.0g 第78・79図103・104と同一個体。
	3	SS15	土製品 土製円盤	中期		胴部破片を加工、円形。横位の沈線。	砂粒	やや軟質	外面 10YR5/2 灰黃褐 内面 10YR7/3 にぶい 黄橙	完形	重量 9.7g

第7表 SS15 出土石器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第33図	4	SS15	石鎌	(2.4)	1.8	0.4	1.5g	ほぼ完形	ガラス質黒色安山岩	衝撃剥離あり

第33図1は口縁～胴部にかけての破片で、綾杉状あるいは斜位の短沈線による文様構成である。口縁部文様帯が既に消失しており、口縁部直下から文様が展開している。2は胴部破片で、1と同様に、短沈線による文様が見られ、その両脇に垂下する沈線が認められる。1は曽利IV式、2は曽利IV～V式に位置付けられよう。1・2はいずれも本遺構出土の破片と、遺構外(Ⅲ層)から出土した縄文土器とが接合している。1・2と接合はしないものの、1と遺構外出土遺物の第78・79図100～102、2と第78・79図103～105はそれぞれ同一個体と考えられる。

3は土製円盤で、深鉢の胴部破片が利用されている。一部の側面には研磨した痕跡が確認できる。4はガラス質黒色安山岩製の石鎌である。先端部が欠損しており、使用された際に生じたと考えられる衝撃剥離が観察される。  
(小西)

当遺構の帰属時期は、出土土器片から、縄文時代中期の範疇と推定される。

#### SS16(第34・35図、第9表)

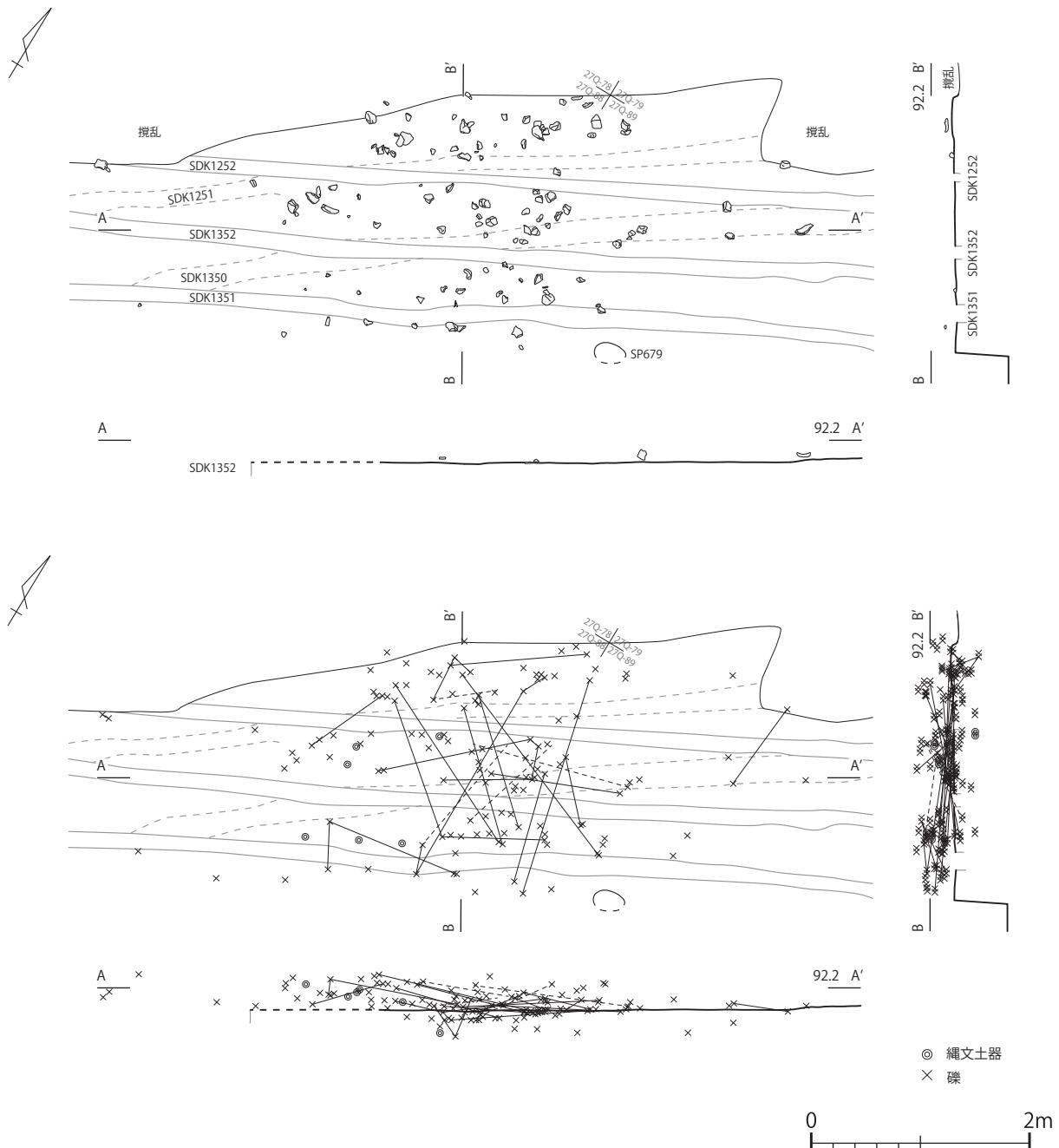
調査区西寄りの2-6西区から2-7区にかけて、27Q-79・88・89グリッドで検出された。2-6西区西端で検出された当初はSS14としていたが、のちに2-7区側も含めてSS16と呼ぶこととし、SS14は欠番とした。

遺構 概ね東西671cm、南北242cmの範囲に、焼礫を中心とする140点の遺物が分布していた。北側は大規模な搅乱により湮滅しており、全体の規模は不明である。また、検出範囲内においても、東西に伸びる近世以降の農事関連遺構群により複数の溝状に搅乱されている。検出面はⅢ2層上で、標高91.8～92.4mに遺物が含まれていた。

遺物は比較的散漫に分布しており、検出した範囲内では、特に集中部は見られない。また、下部施設も検出されなかった。

総数140点のうち、縄文土器は8点で、それ以外の132点は礫である。礫のうち4点を除く128点(97.0%)で被熱が確認された。

礫の石材は、127点が砂岩(96.2%)で、他に細粒緑色凝灰岩2点(1.5%)、石英、ホルンフェルス、



第34図 SS16(1/60)

礫岩各1点（各0.8%）である。礫は20組50点が接合した。そのうち、包含層出土のものは4点である。  
（相原）

遺物 本遺構からは、縄文土器8点21.7g（諸磯a式1点3g、諸磯c式5点17.2g、時期型式不明2点1.6g）、礫132点19,822.9g（うち被熱礫128点19,116g）である。縄文土器はいずれも細片であり、図化は行っていない。  
（小西）

縄文土器8点のうち、時期不明の2点を除く6点が縄文時代前期の諸磯式であることから、当遺構の帰属時期は縄文時代前期の可能性が考えられる。



1. SS15 全景 東北東から



2. SS15 碓集中部 東北東から



3. SS15 下層全景 東北東から

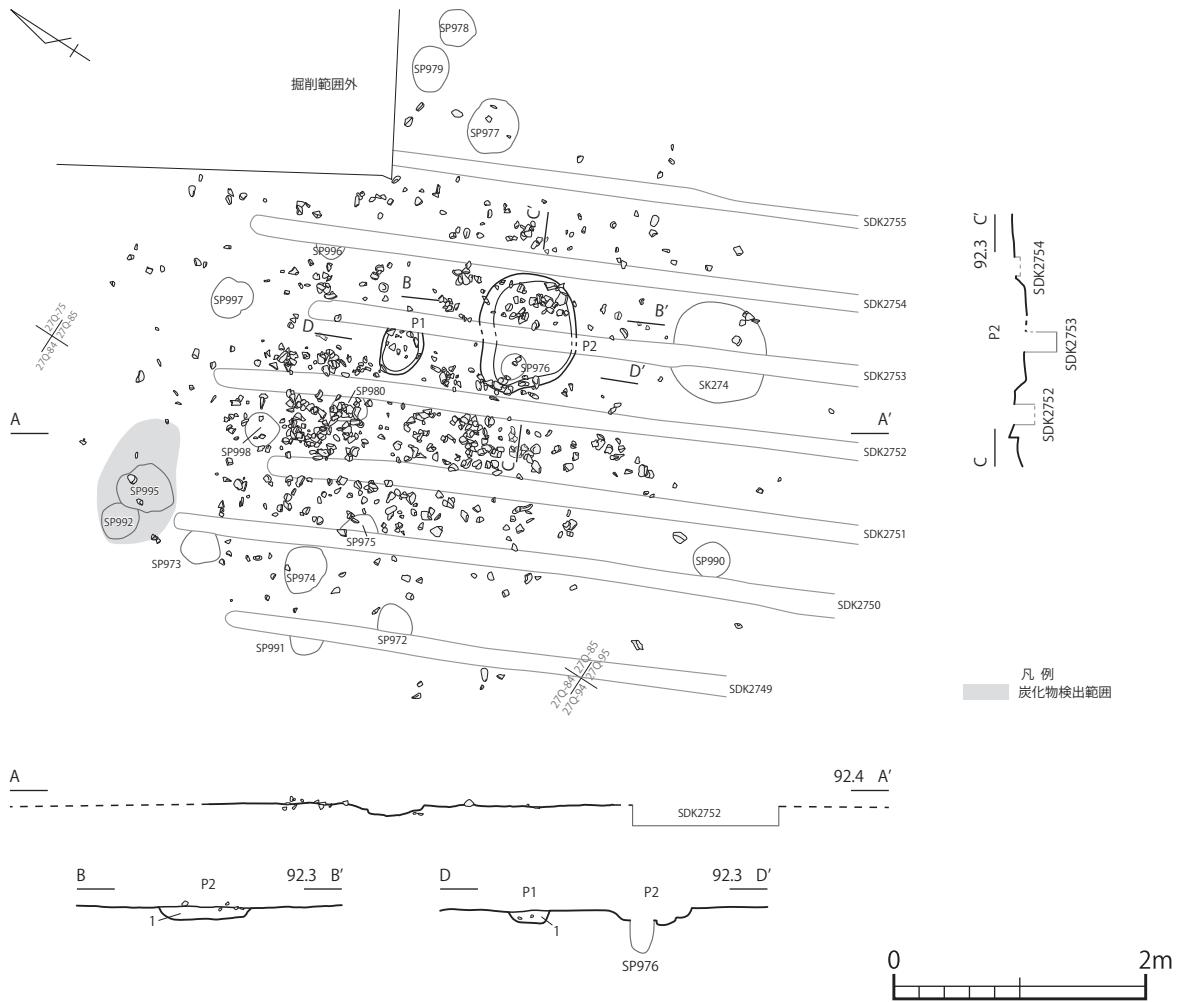


4. SS16 全景(東側) 北北西から



5. SS16 全景(西側) 西南西から

第35図 SS15・16写真



第 36 図 SS17(1)(1/60)

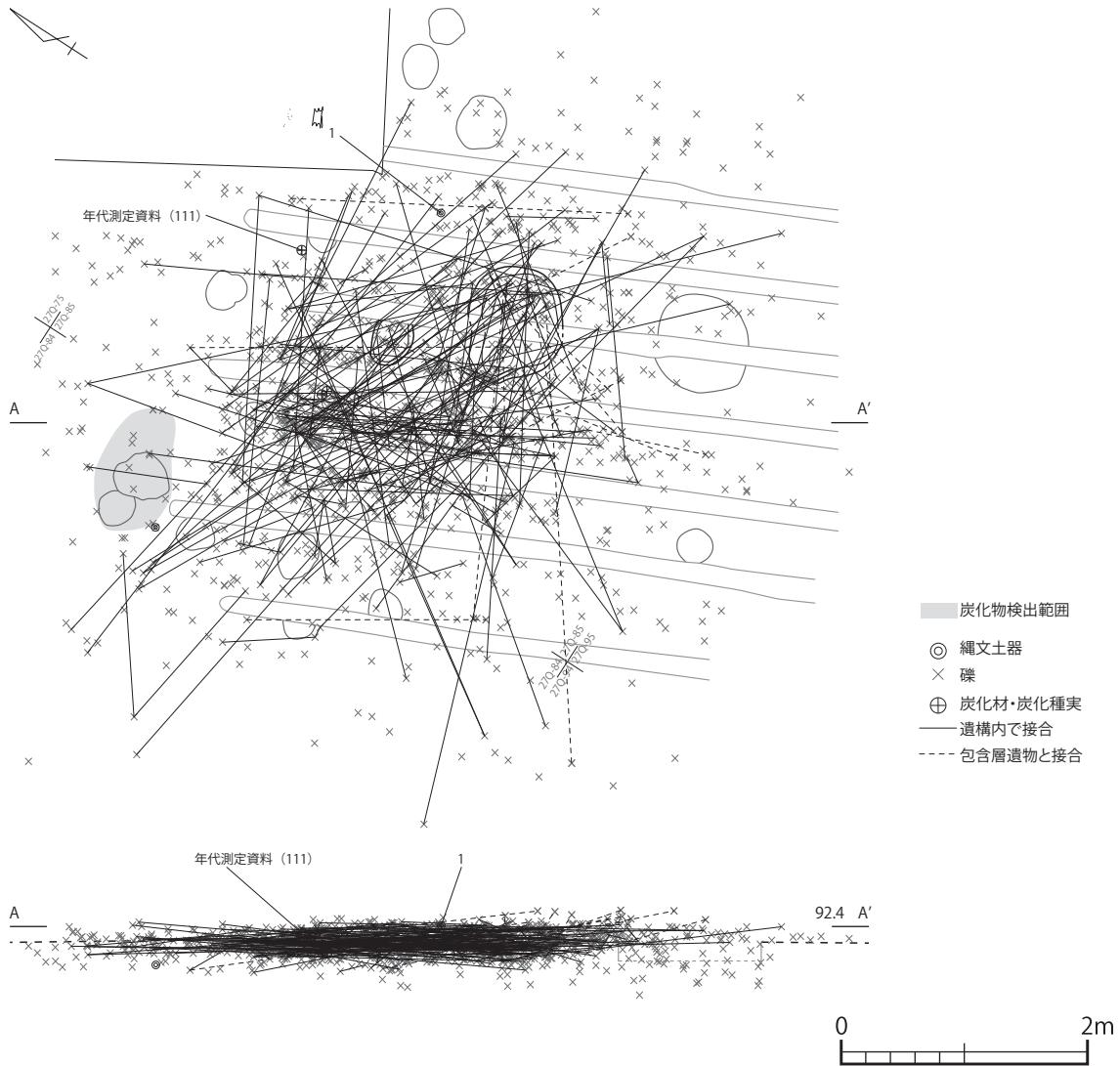
## SS17 (第 36 ~ 39 図、第 8・9 表)

**遺構** 調査区西部の 2-7 区北寄り、27Q-75・84・85・94・95 グリッドで検出された。北側の一部は掘削範囲外へと続くほか、東側は大規模な搅乱、北側は日野市調査済み範囲及び調査範囲外と近接しているが、概ね東西 724cm、南北 822cm の検出範囲内に収まるものと思われる。南北に伸びる近世以降の複数の農事関連遺構により、全体が溝状に搅乱されている。検出面は III 2 層上である。

礫が充填されたような明瞭な下部施設は検出されなかったが、分布範囲の中心部で比較的顕著な礫の集中が認められたほか、SS17 の調査中に、当遺構に伴うと考えられる小規模な掘り込み (P1・2) が検出された。

また、集石の北西部では長軸 107cm、短軸 66cm の範囲内で、炭化物粒子の分布する範囲が平面的に捉えられた。

その他、SS17 の遺物分布範囲内とその縁辺では、16 基のピット (SP972・973・974・975・976・977・978・979・980・990・991・992・995・996・997・998) と土坑 1 基 (SK274) が検出された。



第37図 SS17(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

いざれも集石の遺物を取り上げた後、遺物包含層を精査した際に検出されたものである。SS17とピット群の前後関係は不明であるが、縄文時代に帰属するもので、集石に伴う遺構の可能性も考えられる。なお、ピット群のうちSP992・995は、前述の炭化物粒子分布範囲内で検出されている。

遺物は、総数1,243点のうち、縄文土器は2点、炭化材が3点で、それ以外の1,238点は礫である。礫のうち1,203点(97.2%)で被熱が確認された。

礫の石材は1,116点(90.1%)が砂岩である。他に礫岩37点(3.0%)、片状砂岩33点(2.7%)、粘板岩19点(1.5%)、頁岩14点(1.1%)、チャート13点(1.1%)、石英2点(0.2%)、細粒緑色凝灰岩1点(0.1%)である。礫は128組333点で接合が確認できた。包含層出土礫も16点が接合した。

なお、検出された炭化材の放射性炭素年代測定を実施したが、現代のものとの結果が出た。隣接する近世以降の農事関連遺構からの混入と判断したい(第V章第1節参照)。(相原)

**遺物** 本遺構からは、縄文土器3点16.3g(勝坂2式1点6.9g、中期型式不明2点9.4g)、礫1,238点51,383g(うち被熱礫1,203点50,898g)、炭化物が出土した。これらのうち、遺存状態が比較的



1. 全景 南南東から



2. 碓集中部 南南東から



3. 下部施設検出状況 南南東から



4. 下部施設土層断面 西南西から



5. P1 遺物出土状況 西南西から

第38図 SS17写真



第39図 SS17出土遺物(1/3)・写真

第8表 SS17出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第39図	1	SS17	縄文土器 深鉢	中期	勝坂2式	隆帯に沿ってキャタピラー文を施文。	砂粒・石英	良好	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 10YR4/2 灰黄褐	胴部破片	重量 6.9g

第9表 縄文時代集石一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		規模(cm)		検出面	時期	遺物		備考(重複関係等)
		図面	写真	長さ	幅			種類	数	
SS15	28Q-62・63・72 ・73・82	第31 ～33図	第35図	(998)	(860)	III2	中期か	縄文土器 15点 198.1g、土器1点 4.8g、土師器12点 29.5g、須恵器2点 3.9g、土製品1点 9.7g、石器6点 167.4g、礫 15点 278.0g、焼礫 1,344点 77,002.0g、凝灰質砂岩3点 13.7g	SD13・14、SK213・219、SP656・657 ・658・667・710・711・713・714・ 715・716・717・718・719・721・ 722・724、搅乱に切られる。	
SS16	27Q-79・88・89	第34図	第35図	(671)	(242)	III2	前期か	縄文土器 8点 21.7g、礫 4点 706.9g、焼礫 128点 19,116.0g	SDK1251・1252・1350・1351・ 1352、搅乱に切られる。	
SS17	27Q-75・84・85 ・94・95	第36 ・37図	第38図	(822)	(724)	III2	中期か	縄文土器 3点 16.3g、礫 35点 485.0g、焼礫 1,203点 50,898.0g、 炭化材	SK274、SP972・973・974・975・976 ・977・978・979・980・990・991・ 992・995・996・997・998と切り合 う(前後関係は不明)。SDK2749・2750 ・2751・2752・2753・2754・2755に 切られる。	

※( )内は、遺存範囲内の数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

良い縄文土器1点の図化を行った。

第39図1は、隆帯とそれに沿ってキャタピラー文が施されている。勝坂2式の土器である。(小西)

当遺構の帰属時期は、出土土器片から、縄文時代中期の範疇と推定される。

## 2) 土坑(第40～52図、第10・11表)

土坑(遺構略号SK)は28基が検出された。そのうちSK223・237・243・246・284・286の6基は陥し穴である。陥し穴は隅丸長方形や楕円形、小判形を呈していて、溝型のいわゆる「Tピット」は検出されていない。

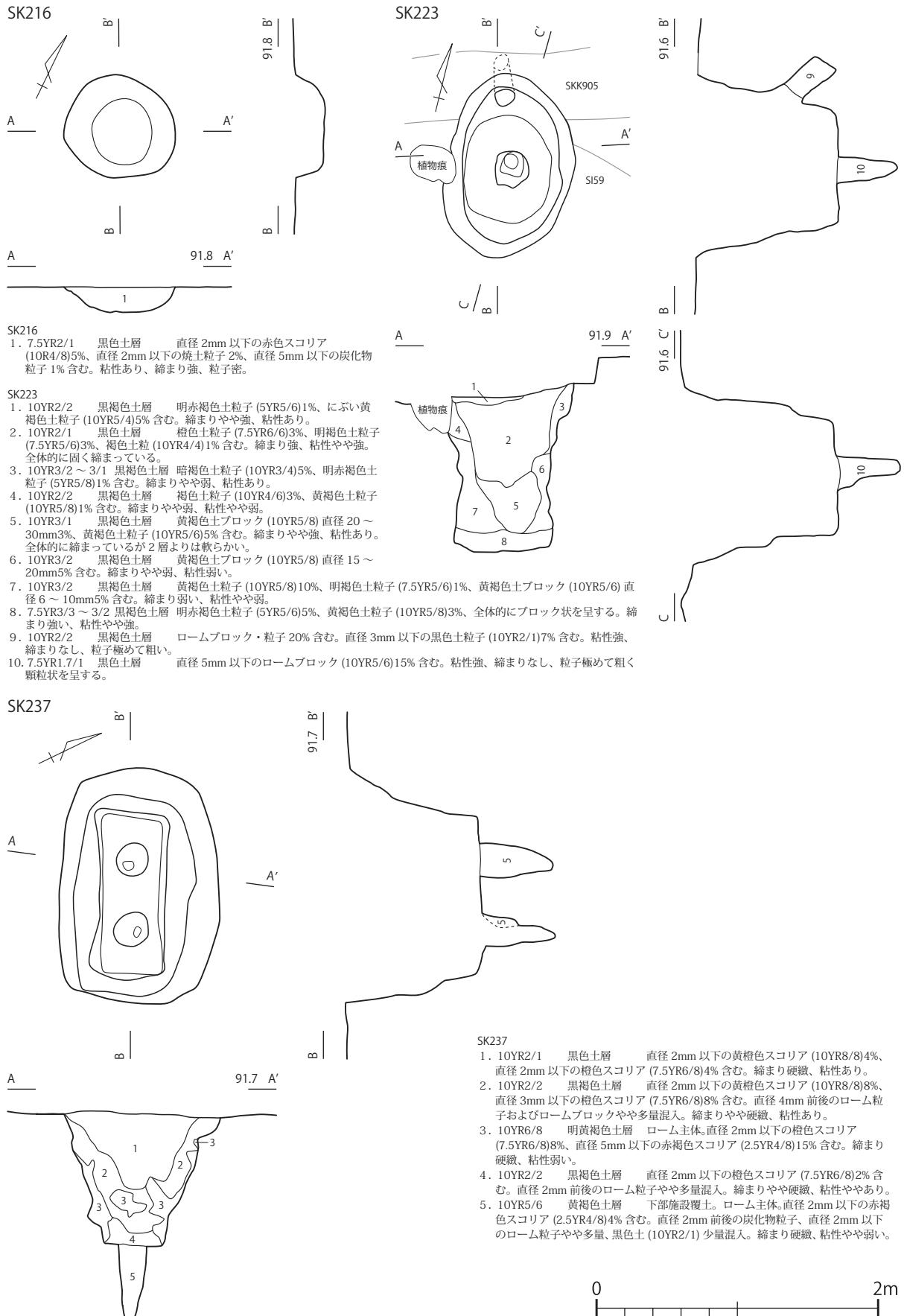
陥し穴以外の土坑は、円形が9基あるほかは、楕円形や隅丸長方形など、平面形態は一定ではない。

遺物は、SK289から縄文土器(第45図1)が1点出土しているほかは、SK243・284・286・289から焼礫がそれぞれ1～2点出土しているのみである。

遺物からの帰属時期を判断することは難しいが、富士黒土層を主体とする覆土の様相と検出された面から、縄文時代に帰属すると判断した。なお、覆土の様相と検出面からすると、SK290は他と比べて新しい時期に帰属すると考えられる。

## SK216(第40・47図、第11表)

III3層で検出された円形の土坑で、底面は中央が窪んでいる。覆土は黒色の単層で、焼土粒子と炭化物粒子を微量含んでいる。



第 40 図 SK216・223・237(1/40)

#### SK223 (第 40・47 図、第 11 表)

平面形態が橢円形を呈する陥し穴である。弥生時代終末期の竪穴建物跡 SI59 を調査中、近接する SKK905 の底面で検出されていたが、SI59 の調査時、ピットと誤認し覆土の一部を掘削してしまった。長軸は概ね南北方向を示している。前述の通り、上部の一部を SI59・SKK905 に削られている。調査はIV層上から掘削を開始している。

本体部分の覆土は、黒色土主体の 1・2 層、黒色土を主体に褐色土を含む 3～5 層、黄褐色土やロームのブロックを多く含む 6～8 層からなる。覆土は、1・2・5・8 層の締まりが強く、それ以外は比較的弱い。

底面は比較的平坦な橢円形を呈し、中心部に直径 25cm、土坑底面からの深さ 43cm を測る下部施設を有している。

また、北側壁面に直径 16cm、奥行き 40cm で斜めに穿たれたピットを確認したが、機能等は判然としなかった。

遺物は出土しなかった。

#### SK237 (第 40・47 図、第 11 表)

平面形態が隅丸長方形を呈する陥し穴である。IV層で検出された。底面は長方形を呈し、比較的平坦である。覆土は 4 層に分けられる。黒色土の 1 層は含有物が少ない。2 層は黒褐色土で、ローム粒子とブロックを多く含む。3 層はローム主体で、2 層と混在している。4 層は底面に堆積した黒褐色土で、ローム粒子を含んでいる。

下部施設は、長軸に沿って 49cm の間隔で 2 基が確認された。平面形態はいずれも卵形で、長軸は南東のものが 26cm、北西が 24cm で、いずれも断面形態は V 字状を呈する。覆土はロームが主体で、炭化物粒子をやや多く含んでいる。

遺物は出土しなかった。

#### SK243 (第 41・48 図、第 11 表)

平面形態が橢円形を呈する陥し穴である。IV層で検出された。底面は小判形を呈し、比較的平坦である。壁は広がりながら立ち上がっている。覆土は 4 層に分けられ、スコリアをやや多く含む黒色土の 1 層、黒褐色土を主体にロームブロックや粒子を含む 2・3 層、ロームを含む暗褐色土の 4 層からなる。4 層は壁面が崩落したものとみられる。

下部施設は底面中央にピットが 1 基あり、直径 23cm、底面からの深さ 34cm の円形で、覆土は、本体下層のものと同じ暗褐色土である。

遺物は、焼礫が 2 点出土した。

#### SK246 (第 41・48 図、第 11 表)

小判形を呈する陥し穴で、検出面は VS 層である。底面は凹凸を有し、壁は底面から垂直に立ち上がり、中程で屈曲して開く。覆土は 6 層からなり、黒褐色土の 1 層、暗褐色土の 2～5 層、底面で確認された褐色土の 6 層に分けられる。下部施設は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

#### SK272 (第 41・48 図、第 11 表)

やや歪な橢円形を呈する土坑である。検出面は IV 層で、検出面からの深さは 14cm と浅い。遺物は出土しなかった。

## SK273 (第 29・48 図、第 11 表)

平面形態が橢円形の土坑である。検出面は VS 層で、倒木痕の可能性も考えたが、試掘坑⑫掘削時の断面観察で、3 層の覆土のうち上層の黒褐色土から炭化材片が認められたこと等から、遺構として扱った。遺物は出土しなかった。

## SK274 (第 29・49 図、第 11 表)

平面形態が円形を呈する土坑だが、南側の一部は、包含層の掘削時に湮滅している。また、中央を SDK2753 に切られている。深さは 19cm と浅い。

遺構全体が集石 SS17 の範囲内にあり、SS17 の礫等を取り上げた後に検出された。そのため、SS17 より古いものと想定したが、SS17 の使用時に構築された可能性も考えられる。

覆土内からは遺物は出土しなかった。

## SK275 (第 41・49 図、第 11 表)

V 層で検出された平面形態が円形の土坑である。底面は比較的平坦で、側面は内湾して立ち上がりっている。覆土には炭化物粒子を少量含んでいる。遺物は出土しなかった。

## SK276 (第 42・49 図、第 11 表)

V 層で検出された土坑で、平面形態が卵形を呈する。暗褐色の覆土には、炭化物粒子を微量含んでいる。遺物は出土しなかった。

## SK277 (第 29・49 図、第 11 表)

平面形態が不整橢円形を呈し、底面には凹凸を有する。暗褐色の覆土には、炭化物粒子を少量含んでいる。遺物は出土しなかった。

## SK278 (第 42・49 図、第 11 表)

平面形態がやや歪な円形を呈し、底面は凹凸が目立つ。黒褐色の覆土は炭化物粒子を微量含み、締まりが非常に強い。遺物は出土しなかった。

## SK279 (第 43・49 図、第 11 表)

2-7 区の V 層上で検出された平面形が橢円形の土坑で、上端の一部が近世以降の SDK2746・2747 に切られている。覆土は 3 層に分けられ、1・2 層には炭化材片、3 層には炭化物粒子を含んでいる。

## SK282 (第 29・49 図、第 11 表)

調査区東西ベルトにかかっており、ベルト南側の深掘りトレンチ掘削の際に、一部が湮滅したが、平面形態は橢円形を呈するとみられる。覆土は黒褐色で、炭化物粒子が少量混入している。

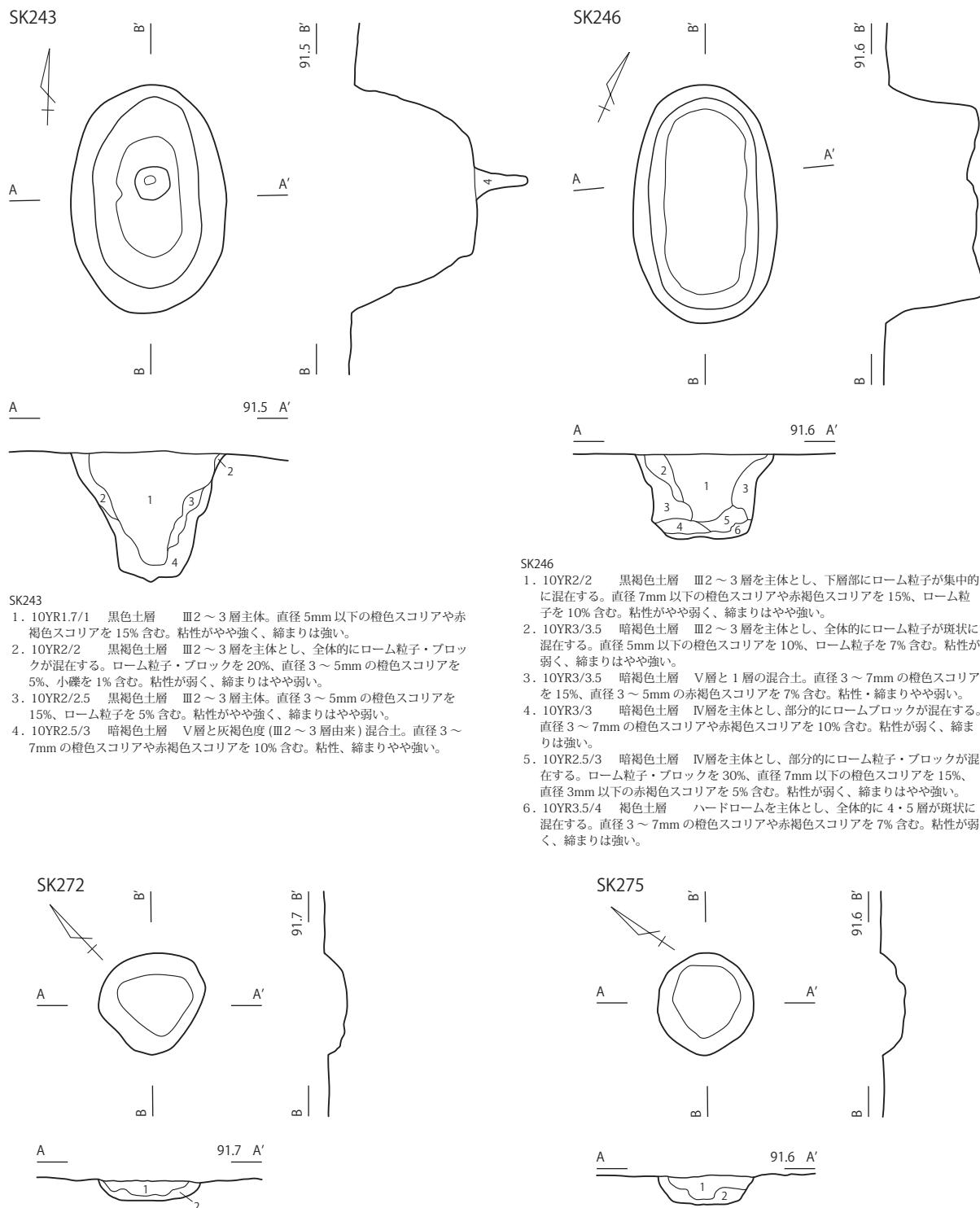
## SK284 (第 42・50 図、第 11 表)

2-6 東区南西部で検出された陥し穴である。検出面は III 3 層で、平面形態が隅丸長方形を呈している。底面は平坦で、長軸に沿って 1 基の下部施設を有している。壁はオーバーハンギング気味に立ち上がり、中位で屈曲してやや開く。

下部施設は 33cm の間隔をあけて 2 基が検出された。

覆土は 8 層に分けられ、1～6 層は締まりが強い陥し穴本体の覆土で、1～3 層が黒褐色土で、1・2 層は含有物が少ないのに対し、3 層はロームの粒子やブロックが目立つ。その下には黒色の 4 層を挟んで再び黒褐色の 5 層が堆積する。6 層は壁面の崩落に伴う層と考えられる。

7・8 層は下部施設の覆土で、締まりは比較的弱い。7 層は暗褐色土で、ロームの粒子やブロック



**SK243**

1. 10YR1.7/1 黒色土層 III2～3層主体。直径5mm以下の橙色スコリアや赤褐色スコリアを15%含む。粘性がやや強く、縮まりは強い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III2～3層を主体とし、全体的にローム粒子・ブロックが混在する。ローム粒子・ブロックを20%、直径3～5mmの橙色スコリアを5%、小礫1%含む。粘性が弱く、縮まりはやや弱い。
3. 10YR2/2.5 黒褐色土層 III2～3層主体。直径3～5mmの橙色スコリアを15%、ローム粒子を5%含む。粘性がやや強く、縮まりはやや弱い。
4. 10YR2.5/3 暗褐色土層 V層と灰褐色土層(III2～3層由来)混合土。直径3～7mmの橙色スコリアや赤褐色スコリアを10%含む。粘性、縮まりやや強い。

**SK246**

1. 10YR2/2 黒褐色土層 III2～3層を主体とし、下層部にローム粒子が集中して混在する。直径7mm以下の橙色スコリアや赤褐色スコリアを15%、ローム粒子を10%含む。粘性がやや弱く、縮まりはやや強い。
2. 10YR3/3.5 暗褐色土層 III2～3層を主体とし、全体的にローム粒子が斑状に混在する。直径5mm以下の橙色スコリアを10%、ローム粒子を7%含む。粘性が弱く、縮まりはやや強い。
3. 10YR3/3.5 暗褐色土層 V層と1層の混合土。直径3～7mmの橙色スコリアを15%、直径3～5mmの赤褐色スコリアを7%含む。粘性・縮まりやや弱い。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 IV層を主体とし、部分的にロームブロックが混在する。直径3～7mmの橙色スコリアや赤褐色スコリアを10%含む。粘性が弱く、縮まりは強い。
5. 10YR2.5/3 暗褐色土層 IV層を主体とし、部分的にローム粒子・ブロックが混在する。ローム粒子・ブロックを30%、直径7mm以下の橙色スコリアを15%、直径3mm以下の赤褐色スコリアを5%含む。粘性が弱く、縮まりはやや弱い。
6. 10YR3.5/4 褐色土層 ハードロームを主体とし、全体的に4・5層が斑状に混在する。直径3～7mmの橙色スコリアや赤褐色スコリアを7%含む。粘性が弱く、縮まりは強い。

**SK272**

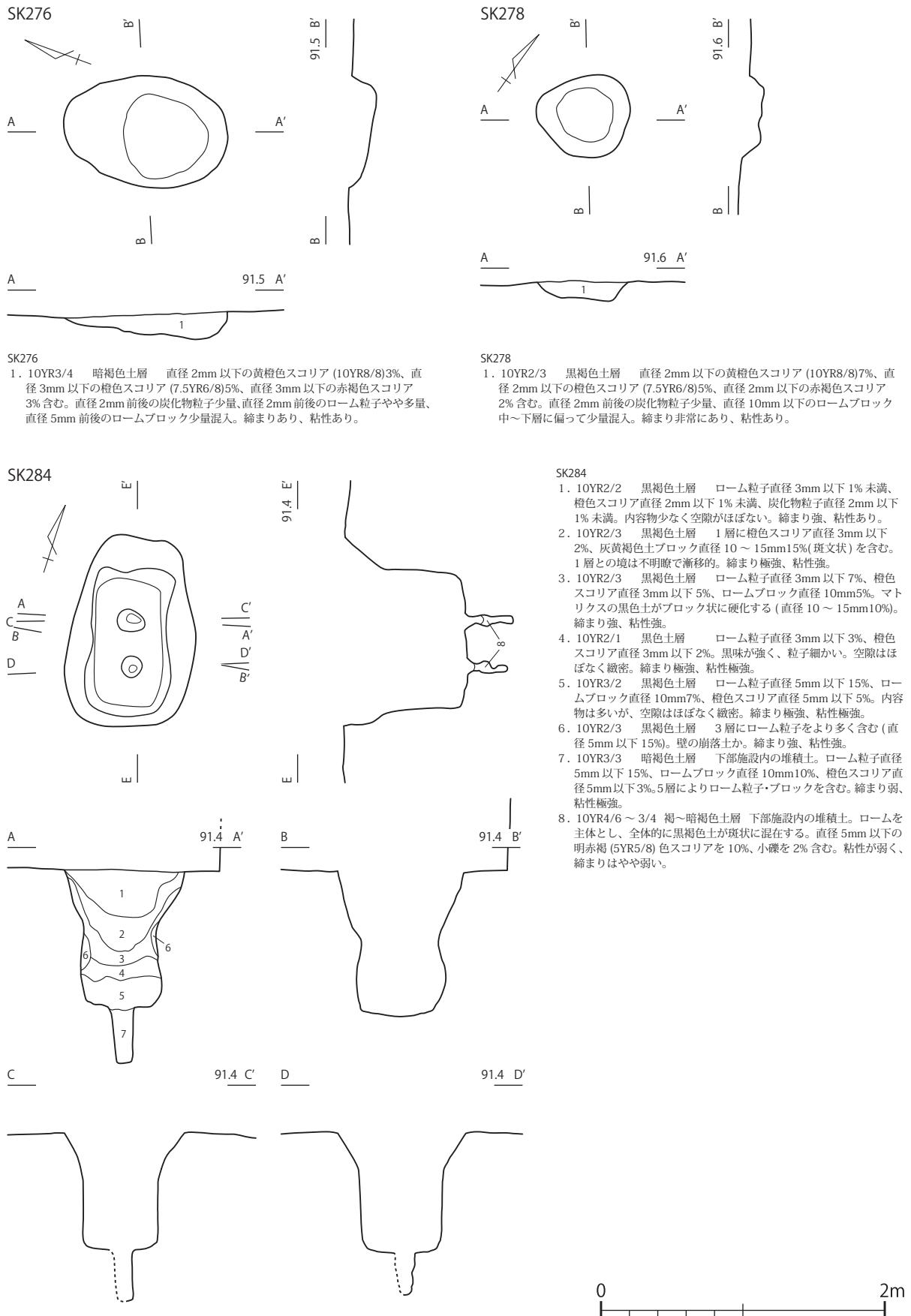
1. 10YR3/3 暗褐色土層 橙色スコリア直径5mm以下3%、ローム粒子直径3mm以下5%、炭化物粒子直径2mm以下1%、ロームブロック直径5～10mm5%(斑文状)。縮まり弱、粘性強。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径5～10mm40%、橙色スコリア直径3mm以下2%、1層にロームブロックを含む。縮まり強・粘性強。

**SK275**

1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径3mm前後のローム粒子や多量混入。縮まりあり、粘性あり。
2. 10YR3/4 暗褐色土層 IV層由来土層。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径2mm前後のローム粒子や多量、直径5mm前後のロームブロック微量混入。縮まりあり、粘性あり。



第41図 SK243・246・272・275(1/40)



第 42 図 SK276・278・284(1/40)

を5層より多く含む。8層はローム主体である。

遺物は焼礫が1点出土した。

SK285 (第29・49図、第11表)

2-6 東区の南東部で検出された。南側は掘削範囲外へと続いている。形状、規模は不明であるが、検出範囲においては円形を呈している。調査区南壁の観察では、IV層上面から掘り込まれている。底面はすり鉢状を呈しており、検出範囲内の中央部分には小ピットが確認されたが、植物痕の可能性もある。

SK286 (第43・50図、第11表)

2-6 東区の南側で検出された陥し穴である。III3層で検出され、平面形態は橢円形、壁は、南北は垂直気味に立ち上がり中位で屈曲して開き、東西は底面から上端まで、開き気味に立ち上がる。底面は比較的平坦だが、下部施設のある中央部付近がやや凹んでいる。

下部施設は底面の中央にあり、直径16cm、底面からの深さ41cmである。中央部の下部施設の北東にも深さ26cmの小ピットが確認されたが、中央部の下部施設と比べると小形である。

覆土は11層からなり、黒褐色土主体で含有物の少ない1～3層、ロームを多く含む5～7層、IV・V層ベースの8～10層、下部施設の覆土11層に大別できる。

遺物は焼礫が1点出土している。

SK287 (第44・51図、第11表)

円形の土坑である。壁は内湾しながら立ち上がっている。底面は不整形で全体的に凹凸を有するが、中心部の凹凸は植物痕の可能性もある。覆土は3層に分けられ、いずれも粘性が非常に強い。中層の2層には炭化物粒子を微量含み、下層の3層にはロームブロックを多く含む。

SK288 (第44・51図、第11表)

2-6 東区の埋没谷を調査するためのベルト部分で、包含層の掘削中に検出された。検出時には上部が湮滅していたが、円形を呈していたものと思われる。壁は内湾しながら立ち上がり、検出面からの深さは38cmを測る。底面には段差を有し、北側が一段高くなっている。覆土は3層に分かれ、下層の3層にはロームブロックをやや多く含む他、2・3層には炭化物粒子を僅かに含んでいる。

SK289 (第44・45・51図、第10・11表)

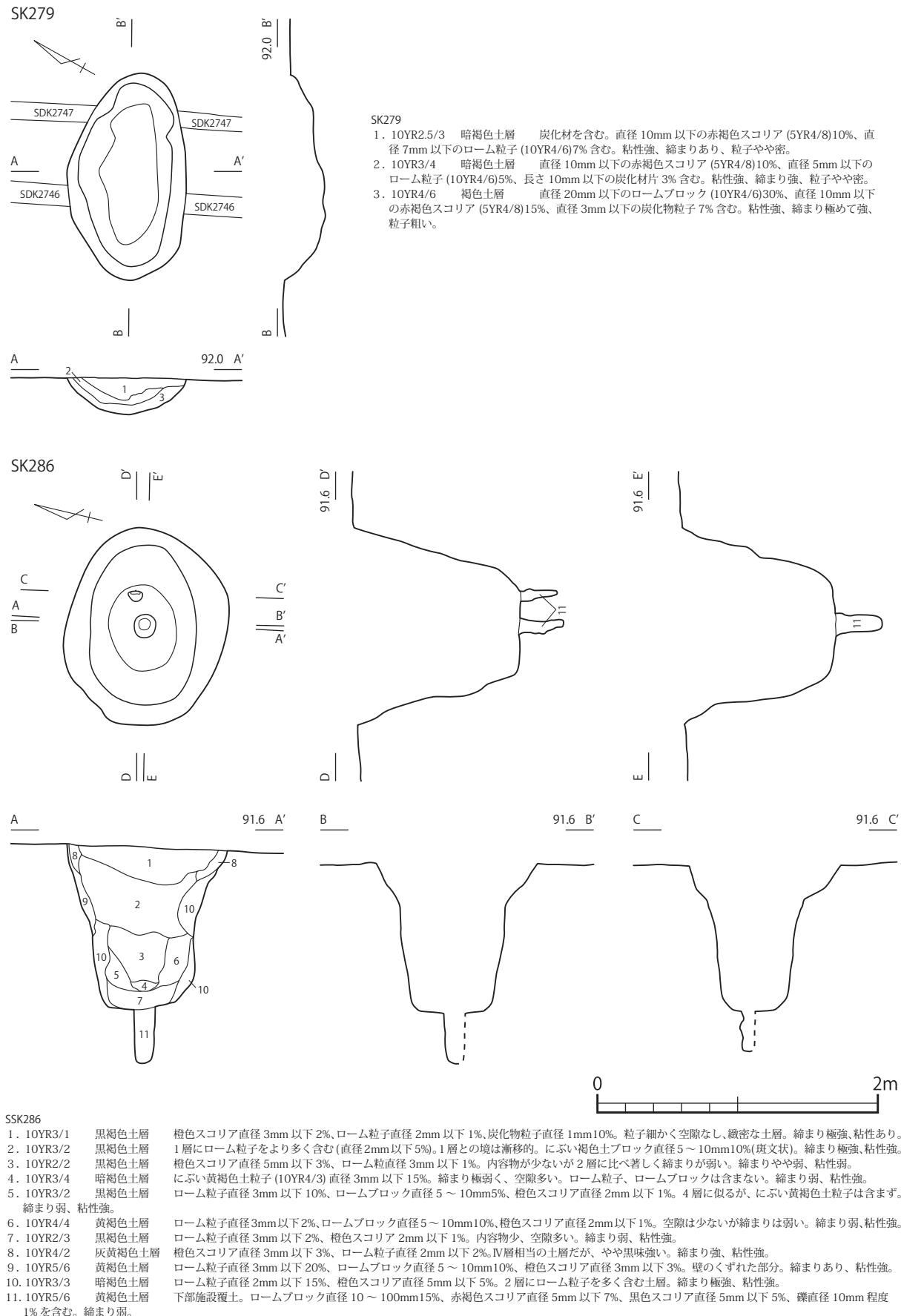
不整形な橢円形を呈する土坑である。SK288と同様、埋没谷を調査するためのベルトに掛かる状態で検出された。遺構の掘削は、ベルト部分を含み全体をIV層上面まで下げた段階で行ったが、遺物は、ベルト内のものも含めてSK289として取り上げた。底面は凹凸を有し、中央付近が一段窪んでいる。壁は内湾しながら立ち上がる。覆土は3層に分けられ、そのうち上層の1層には炭化物粒子を微量に含み、下層の3層にはロームブロックを多く含む。  
(相原)

本遺構からは、縄文土器(五領ヶ台式)1点10.1g、被熱礫2点241.2gが出土した。このうち縄文土器を図化し、掲載した。

第45図1は、波状口縁の波頂部にこぶ状の突起を貼り付け、口唇部に刻みが施されている。胴部の文様構成は不明だが、五領ヶ台式に位置付けられよう。  
(小西)

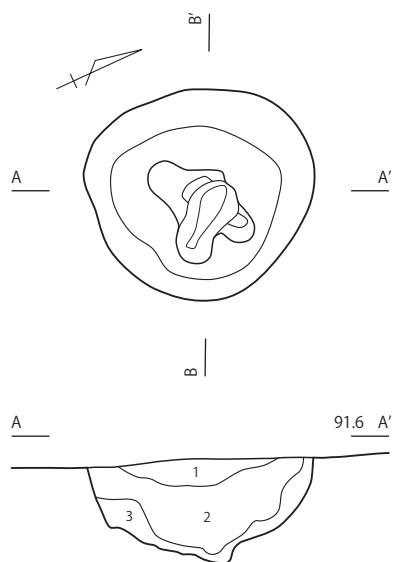
SK290 (第44・51図、第11表)

2-6 東区の調査区東西ベルト断面で検出された土坑である。南半は包含層の掘削時に湮滅しており、

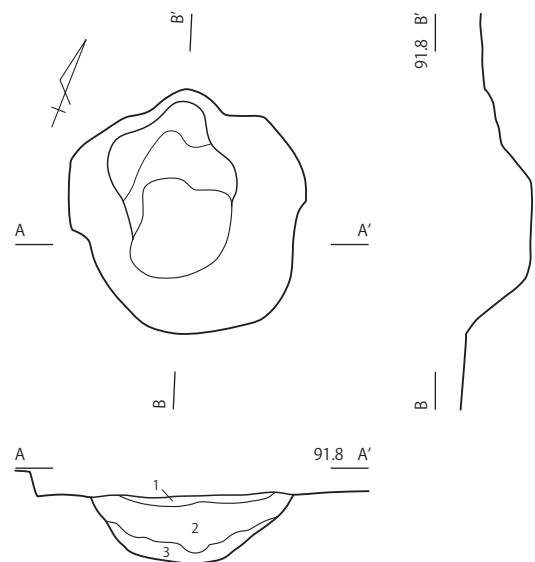


第 43 図 SK279・286(1/40)

SK287



SK288



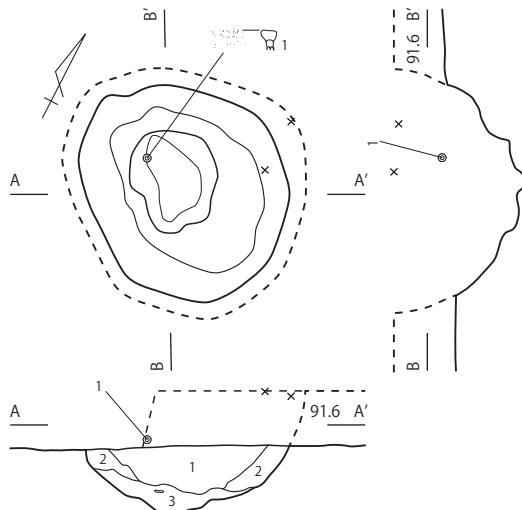
SK287

1. 10YR3/3 暗褐色土層 橙色スコリア直径 5mm 以下 3%、にぶい黄褐色ブロック (10YR5/4) 直径 10mm 3%。締まり極強、粘性極強。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径 10mm 7% (斑文状)、橙色スコリア直径 5mm 以下 3%、炭化物粒子直径 2mm 以下 1%。締まり極強、粘性極強。
3. 10YR5/6 黄褐色土層 ロームブロック直径 5 ~ 15mm 40%、橙色スコリア直径 3mm 以下 2%。締まり極強、粘性極強。

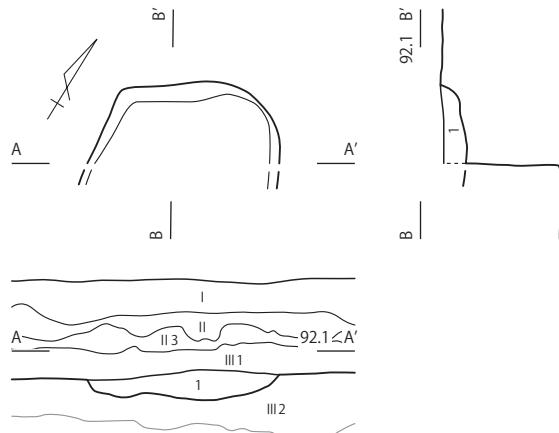
SK288

1. 10YR3/2 黒褐色土層 橙色スコリア直径 5mm 以下 5%、黒色土粒子直径 3mm 以下 7%、ローム粒子直径 3mm 以下 1%、にぶい黄褐色土ブロック直径 5 ~ 10mm (斑文状)。締まり強、粘性強。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 橙色スコリア直径 5mm 以下 5%、ローム粒子直径 5mm 以下 7%、炭化物粒子直径 3mm 以下 2%。締まり強、粘性強。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径 5 ~ 10mm 30% (斑文状)、橙色スコリア直径 3mm 以下 5%、炭化物粒子直径 2mm 以下 1%。締まり強、粘性強。

SK289

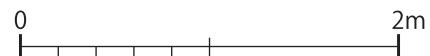


SK290



SK289

1. 10YR2/2 黒褐色土層 III 2 層主体土層。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8) 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム粒子 (10YR5/8) 5% 偏在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム粒子・ブロック (10YR5/8) 40% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5%、直径 5mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3) 2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。



第 44 図 SK287 ~ 290(1/40)



第45図 SK289出土遺物(1/3)・写真

第10表 SK289出土土観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第45図	1	SK289	縄文土器 深鉢	中期	五領ヶ台式	波頂部にこぶ状の突起、口唇部に刻み。	小礫・砂粒・石英	良好	7.5YR7/2 灰褐色	口縁部破片	重量 10.1g

調査できたのは北半のみである。調査範囲での平面形態は隅丸長方形で、東西ベルトの観察により、Ⅲ2層から掘り込まれていることが確認できた。底面は比較的平坦である。

#### SK291 (第29・51図、第11表)

2-6 東区の南東部で検出された。南側は掘削範囲外へと続いており、形状、規模は不明であるが、検出範囲においては、平面形態は円形を呈し、底面はすり鉢状を呈している。調査区南壁の観察では、IV層上面から掘り込まれていることが確認できる。

#### SK292 (第29・51図、第11表)

平面形態がやや小型の円形を呈する土坑である。底面にはピット状の窪みを有し、壁は開いて立ち上がる。覆土は3層に分かれ、下層の3層にはロームブロックをやや多く含む。

#### SK293 (第46・51図、第11表)

平面形態がやや不定形な隅丸長方形の土坑である。底面と壁の境界は不明瞭で、中心部に窪みを有する底面から、そのまま壁が開いて立ち上がっている。

#### SK294 (第46・52図、第11表)

平面形態が橢円形を呈する土坑で、底面は中心部に小ピットを有するほか、北側に棚状の高まりを有する。覆土は2層からなり、上層の1層には炭化物粒子が微量含まれ、下層の2層にはロームブロックが多く含まれている。

#### SK295 (第46・52図、第11表)

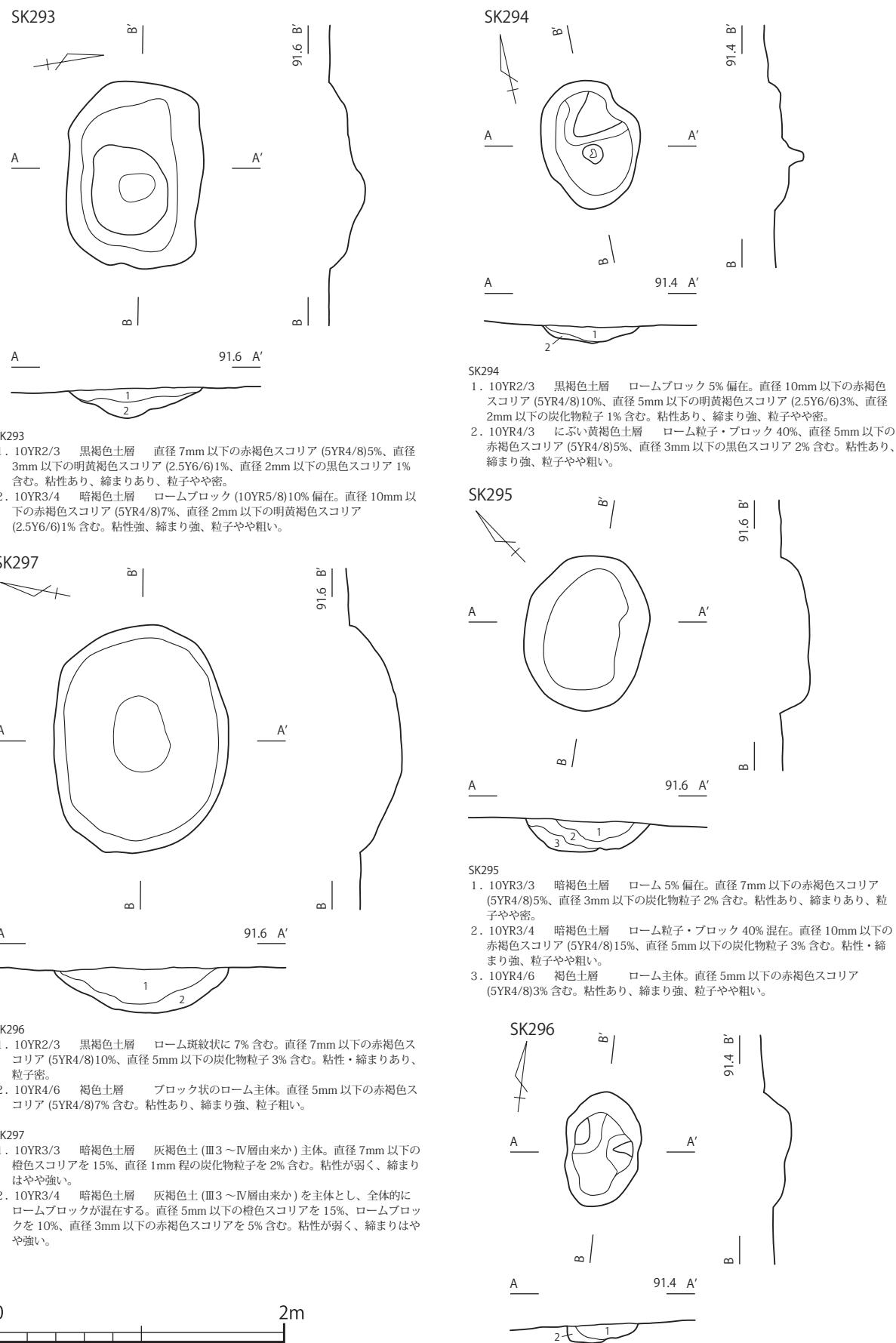
平面形態が橢円形の土坑である。底面は比較的平坦で、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は3層に分けられ、上層の1層は炭化物粒子を微量含む層、2層はロームブロックを多く含む暗褐色土層、3層はローム主体の層である。

#### SK296 (第46・52図、第11表)

平面形態が橢円形を呈する小型の土坑である。底面は不整形で凹凸が目立ち、壁は直立気味に立ち上がる。覆土は2層に分層され、上層の1層は炭化物粒子を少量含み、下層の2層はブロック状のロームを主体とする。

#### SK297 (第46・52図、第11表)

平面形態が判形の土坑である。長軸は163cmと比較的大型で、すり鉢状を呈する。2層に分けられる覆土はいずれも灰褐色土を主体としている。

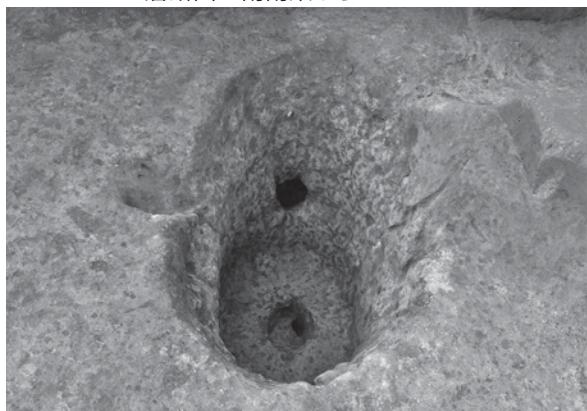




1. SK216 土層断面 南南東から



2. SK223 土層断面 南南東から



3. SK223 全景 南南東から



4. SK223 截ち割り状況 西から



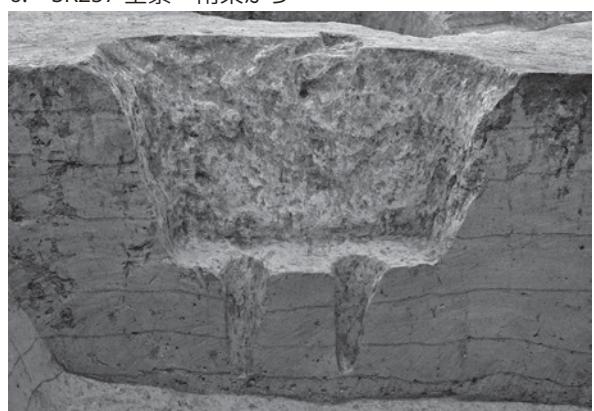
5. SK237 土層断面 南東から



6. SK237 全景 南東から

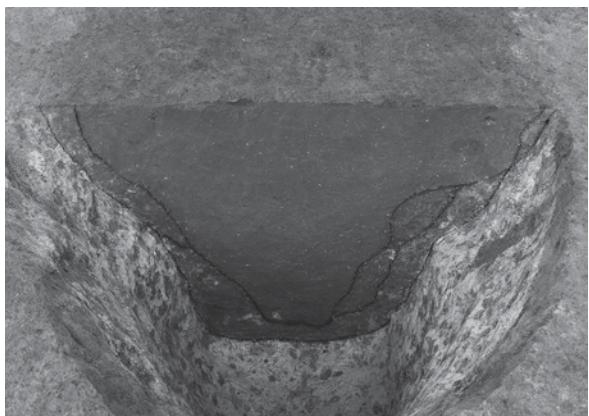


7. SK237 P1 全景 北北東から



8. SK237 截ち割り状況 北東から

第 47 図 SK216・223・237 写真



1. SK243 土層断面 南から



2. SK243 坑底ピット土層断面 東から



3. SK243 全景 南から



4. SK243 截ち割り状況 西から



5. SK246 土層断面 南南東から



6. SK246 全景 南南東から



7. SK272 土層断面 北東から



8. SK273 全景 北北西から

第 48 図 SK243・246・272・273 写真



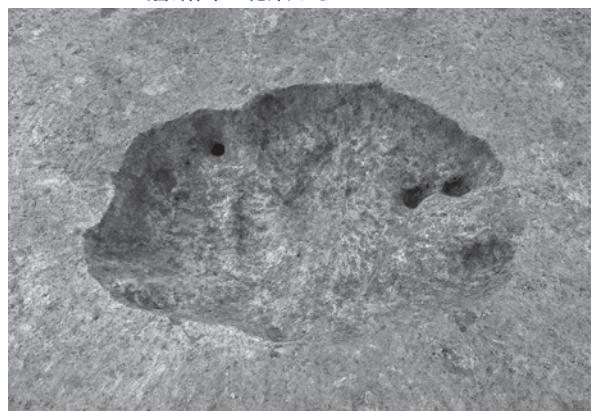
1. SK274 土層断面 西南西から



2. SK275 土層断面 北東から



3. SK276 土層断面 東北東から



4. SK277 全景 北北西から



5. SK278 全景 南南東から



6. SK279 全景 南南東から



7. SK282 土層断面 南南東から



8. SK285 全景 東北東から

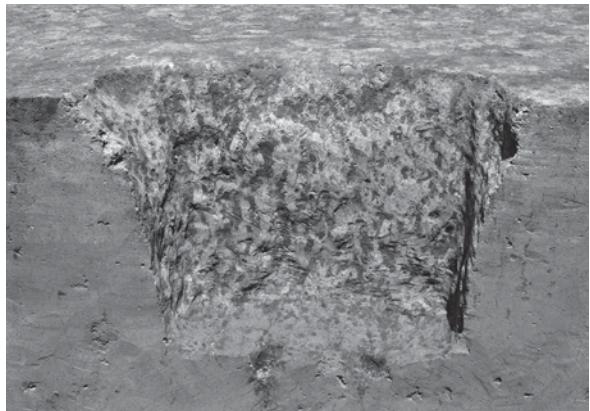
第 49 図 SK274 ~ 279・282・285 写真



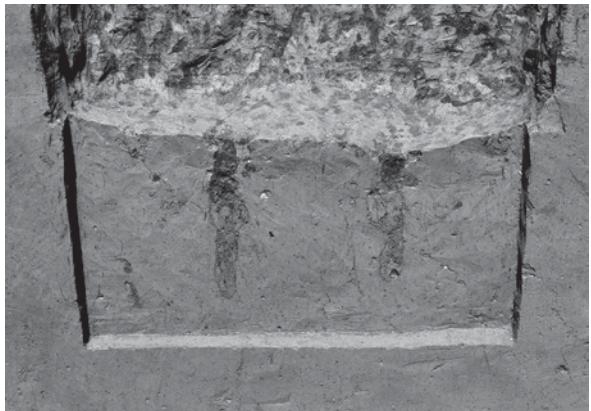
1. SK284 土層断面 南南東から



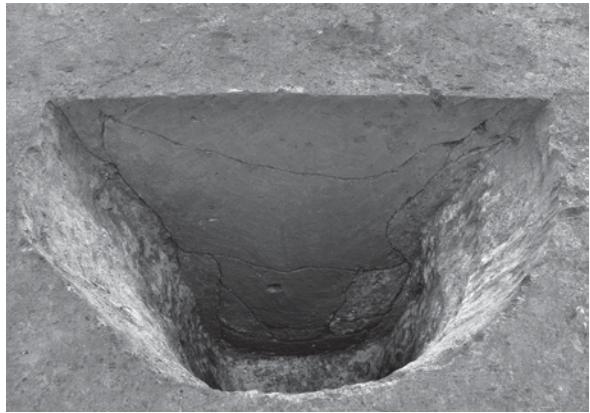
2. SK284 全景 南南東から



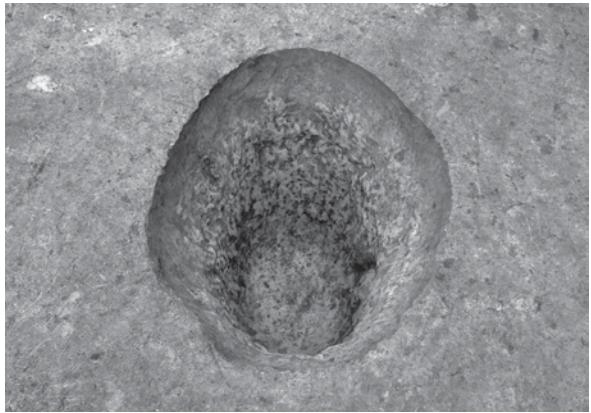
3. SK284 截ち割り状況 西南西から



4. SK284 下部施設截ち割り状況 西南西から



5. SK286 土層断面 西から



6. SK286 全景 西から



7. SK286 截ち割り状況 南南東から



8. SK286 東側下部施設截ち割り状況 南南東から

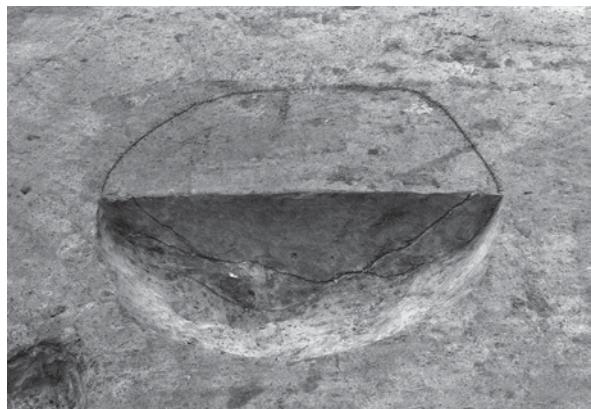
第 50 図 SK284・286 写真



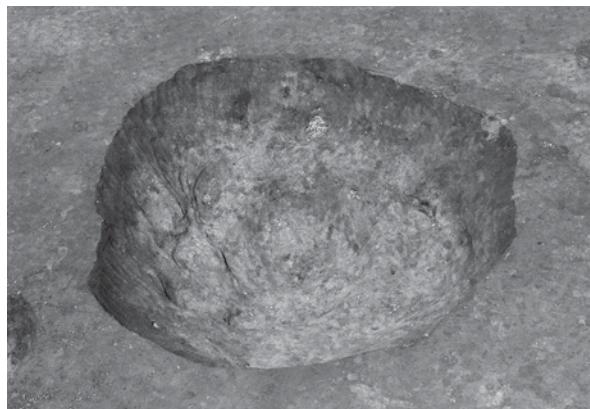
1. SK287 土層断面 南から



2. SK288 全景 南南東から



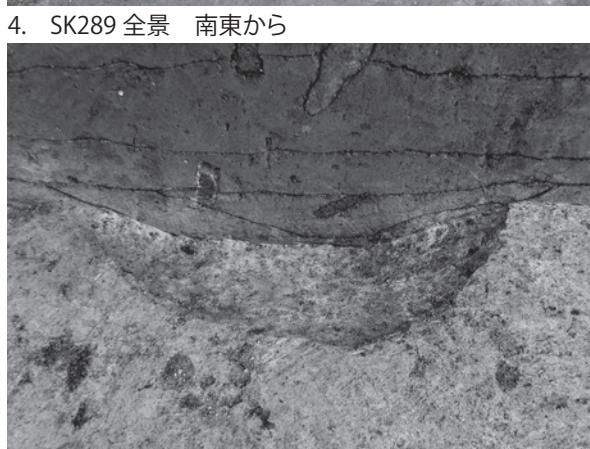
3. SK289 土層断面 南南東から



4. SK289 全景 南東から



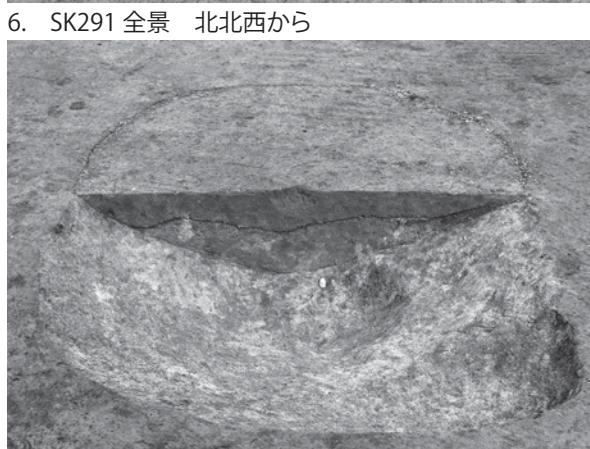
5. SK290 土層断面 西南西から



6. SK291 全景 北北西から



7. SK292 土層断面 北北西から



8. SK293 土層断面 東南東から

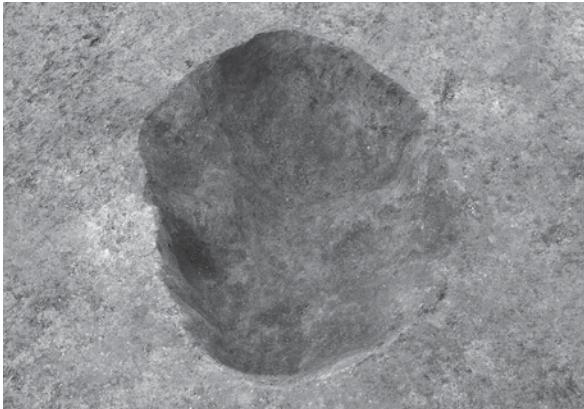
第 51 図 SK287 ~ 293 写真



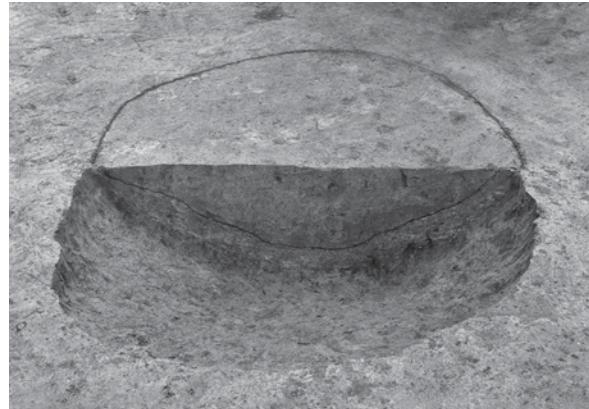
1. SK294 土層断面 南南西から



2. SK295 土層断面 南西から



3. SK296 全景 南から



4. SK297 土層断面 西西南から

第 52 図 SK294 ~ 297 写真

第 11 表 繩文時代土坑一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SK216	28Q-54・64	第 40 図	第 47 図	円形	A	79	70	19	III 3	—	
SK223	29Q-11・21	第 40 図	第 47 図	楕円形	E	131	94	120	IV	—	陥し穴。SI59、SKK905 に切られる。
SK237	29Q-11・12	第 40 図	第 47 図	隅丸長方形	E	168	114	148	IV	—	陥し穴。
SK243	29Q-3・13・14	第 41 図	第 48 図	楕円形	C	148	100	86	IV	焼磧 2 点 1,119.0g	陥し穴。
SK246	28Q-39	第 41 図	第 48 図	小判形	C	152	86	56	V	—	陥し穴。
SK272	29P-88	第 41 図	第 48 図	不整楕円形	A	68	64	14	IV	—	
SK273	27R-6	第 29 図	第 48 図	(楕円形)	E	(149)	(130)	45	V	—	
SK274	27Q-85	第 29 図	第 49 図	(円形)	(A)	(84)	(78)	19	IV	—	SS17範囲内。SDK2753に切られる。
SK275	29P-77	第 41 図	第 49 図	円形	C	66	62	20	V	—	
SK276	29P-59	第 42 図	第 49 図	卵形	C	116	78	20	V	—	
SK277	29P-68	第 29 図	第 49 図	不整楕円形	A	113	83	22	V	—	
SK278	29P-57	第 42 図	第 49 図	円形	C	65	63	15	V	—	
SK279	27Q-94	第 43 図	第 49 図	楕円形	A	148	85	27	V	—	SDK2746・2747 に切られる。
SK282	29P-77	第 29 図	第 49 図	(楕円形)	D	51	42	18	IV	—	調査区東西ベルトにかかる。
SK284	29Q-15・16	第 42 図	第 50 図	隅丸長方形	E	138	92	106	III 3	焼磧 1 点 465.0g	陥し穴。
SK285	29P-100	第 29 図	第 49 図	(円形)	E	(137)	(63)	53	IV	—	
SK286	29Q-7	第 43 図	第 50 図	楕円形	E	140	113	157	III 3	焼磧 1 点 39.9g	陥し穴。
SK287	29Q-7・8	第 44 図	第 51 図	円形	E	122	112	56	IV	—	
SK288	29P-98	第 44 図	第 51 図	円形	A	129	121	38	III 3	—	
SK289	29P-84	第 44 図	第 51 図	不整楕円形	E	123	109	37	IV	縄文土器 1 点 10.1g、 焼磧 2 点 241.2g	
SK290	29P-70	第 44 図	第 51 図	(隅丸長方形)	C	(102)	(43)	16	III 2	—	調査区東西ベルトにかかる。
SK291	29P-100	第 29 図	第 51 図	(円形)	A	(90)	(30)	24	V	—	
SK292	29P-99・100	第 29 図	第 51 図	円形	E	77	71	37	V	—	
SK293	29P-96	第 46 図	第 51 図	隅丸長方形	A	135	108	22	V	—	
SK294	29P-83・93	第 46 図	第 52 図	楕円形	E	90	80	13	V	—	
SK295	29P-74・84	第 46 図	第 52 図	楕円形	D	109	85	24	V	—	
SK296	29P-95	第 46 図	第 52 図	楕円形	D	81	53	14	V	—	
SK297	29P-86	第 46 図	第 52 図	小判形	A	163	130	32	V	—	

※ ( ) 内は、遺存範囲内の数値・状況を示す。

## 3) ピット（第 53～63 図、第 12 表）

縄文時代のピットは 75 基を検出した。2-6 東区では埋没谷の周縁で多くみられる傾向がある。また、2-7 区では SS17 の範囲内で複数を検出した。

遺物は、6 基から計 8 点の焼礫が出土したのみである。土坑と同様、遺物から帰属時期を同定することはできなかったが、検出した面や、Ⅲ～Ⅳ層ベースの覆土を持つなどの様相から縄文時代に帰属するものと判断した。

以下に、特徴的な一部のピットについて、概略を記述する。なお、全ピットの規模等は、第 12 表の一覧表に記載した。

SP972・973・974・975・976・977・978・979・980・990・991・992・995・996・997・998 縄文時代の集石 SS17 の範囲とその周縁に位置するピット群で、長軸の長さは平均 29.7cm、深さの平均 28.0cm と小形である。いずれも、SS17 の遺物を全て取り上げた後で検出されたものだが、SS17 との切り合い関係は不明である。周囲と比べ、SS17 の礫の分布範囲にこれらのピットが集中して検出されていることから、何らかの関連性があるものとみられる。遺物は、6 基のピットから計 8 点の焼礫が出土したのみである。

SP977 上記の SS17 範囲内のピットのうちの 1 基である。4 層からなる覆土のうち、1・2 層は柱痕跡、3・4 層は掘方覆土とみられる。また、底面の形状から柱の据え替えが行われた可能性も考えられる。

SP978 同じく SS17 の範囲内の東端部に位置するピットである。検出面から北側に向けて斜めに穿たれている。

SP992・995 SS17 の炭化物集中範囲内で検出された。2 基が接しているが、前後関係は不明である。両ピットとも、覆土に炭化材の小片を含む。

SP982 小形で円形を呈するピットである。3 層に分層される覆土の各層で少量の焼土粒子が見られる。

SP999 比較的大きなピットで、長軸 69cm、短軸 60cm、深さ 101cm を測る。南西から北東へ斜めに掘り込まれていて、北東側の側面には、足掛け状の窪みが確認された。覆土は 5 層に分けられ、いずれも粒子が粗い。下層の 4 層はロームの粒子やブロックが主体で、最下層の 5 層はロームブロックを含む黒褐色土である。

SP1011・1019 2-6 東区の北西部で検出された 2 基のピットである。SP1011 が SP1019 を切っている。

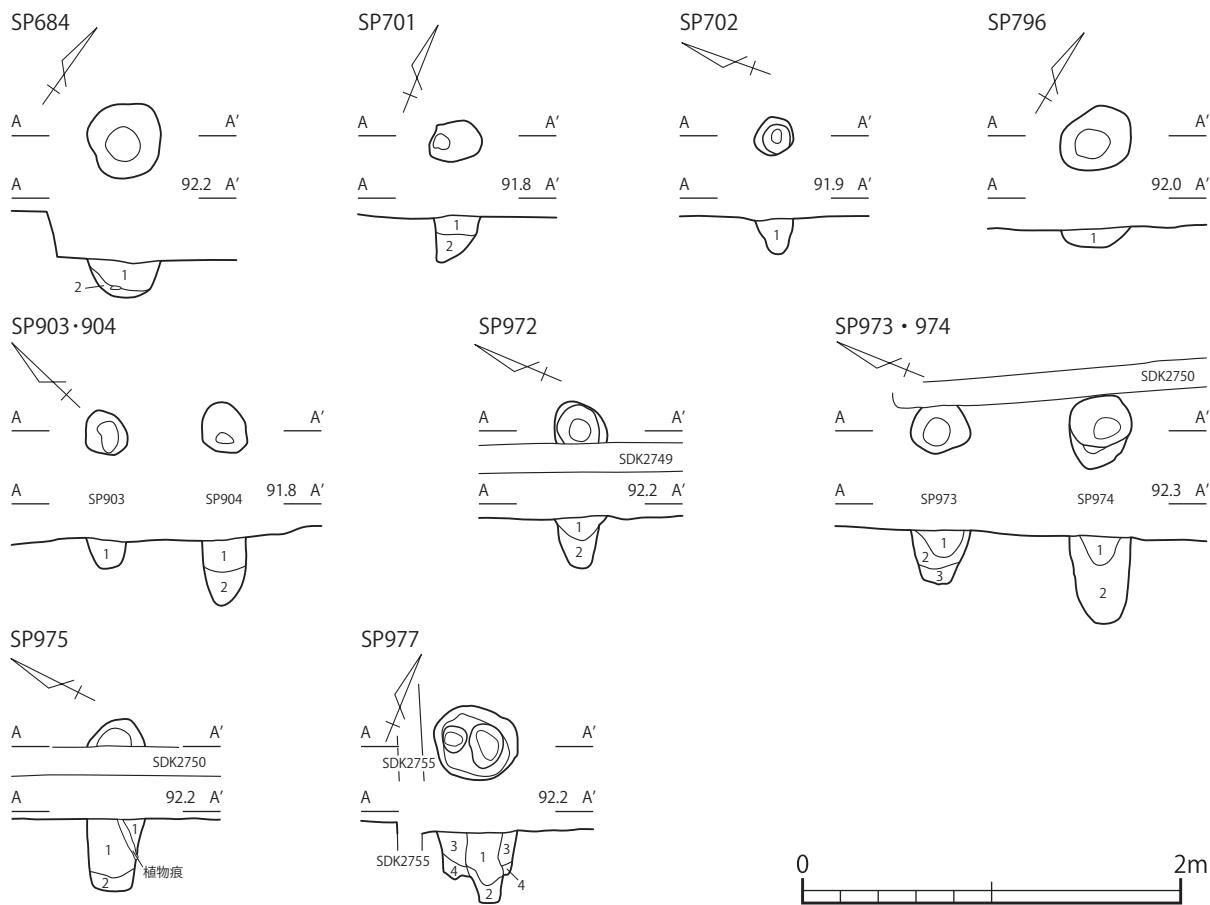
SP1024 楕円形を呈するピットで、断面は V 字状を呈する。2 层からなる覆土のうち、1 层は柱痕跡とみられる。

SP1035 多角形を呈するピットである。2 层からなる覆土のうち、Ⅳ層土主体の 2 層には炭化物粒子が少量混入している。

SP1036 長軸 79cm、短軸 75cm とやや大型のピットである。覆土はⅢ 3 層土主体の黒褐色土で、炭化物粒子が少量混入している。

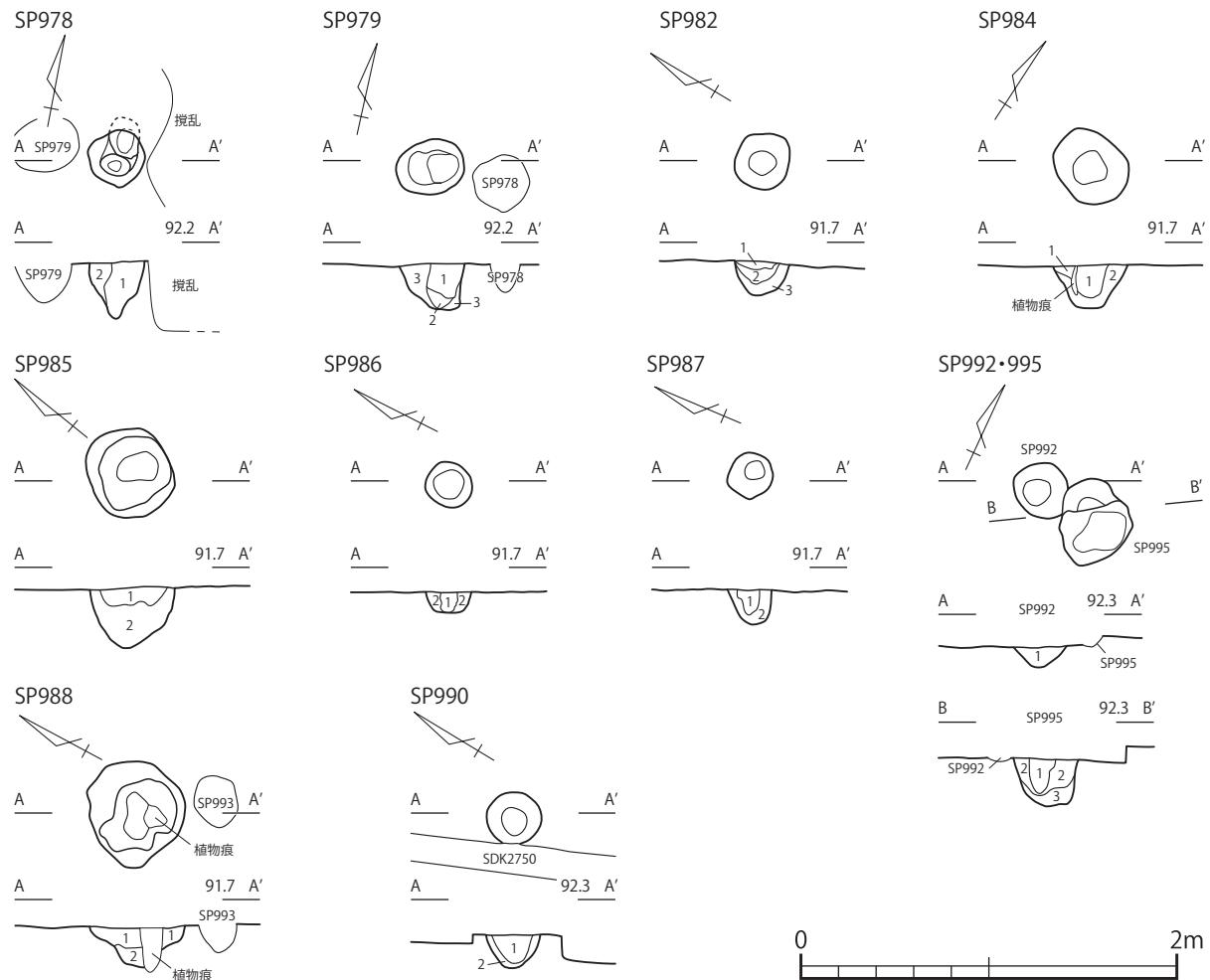
SP1037 楕円形を呈するピットで、底面の南東側が 1 段窪んでいる。3 層の覆土のうちの 2・3 層に炭化物粒子少量混入している。

SP1039・1041・1043 2-6 東区の埋没谷を囲むように分布するピットである。それぞれの距離は離れているが、いずれも单層からなる小ピットで、覆土は暗褐色土からなり、炭化物粒子が少量混入し



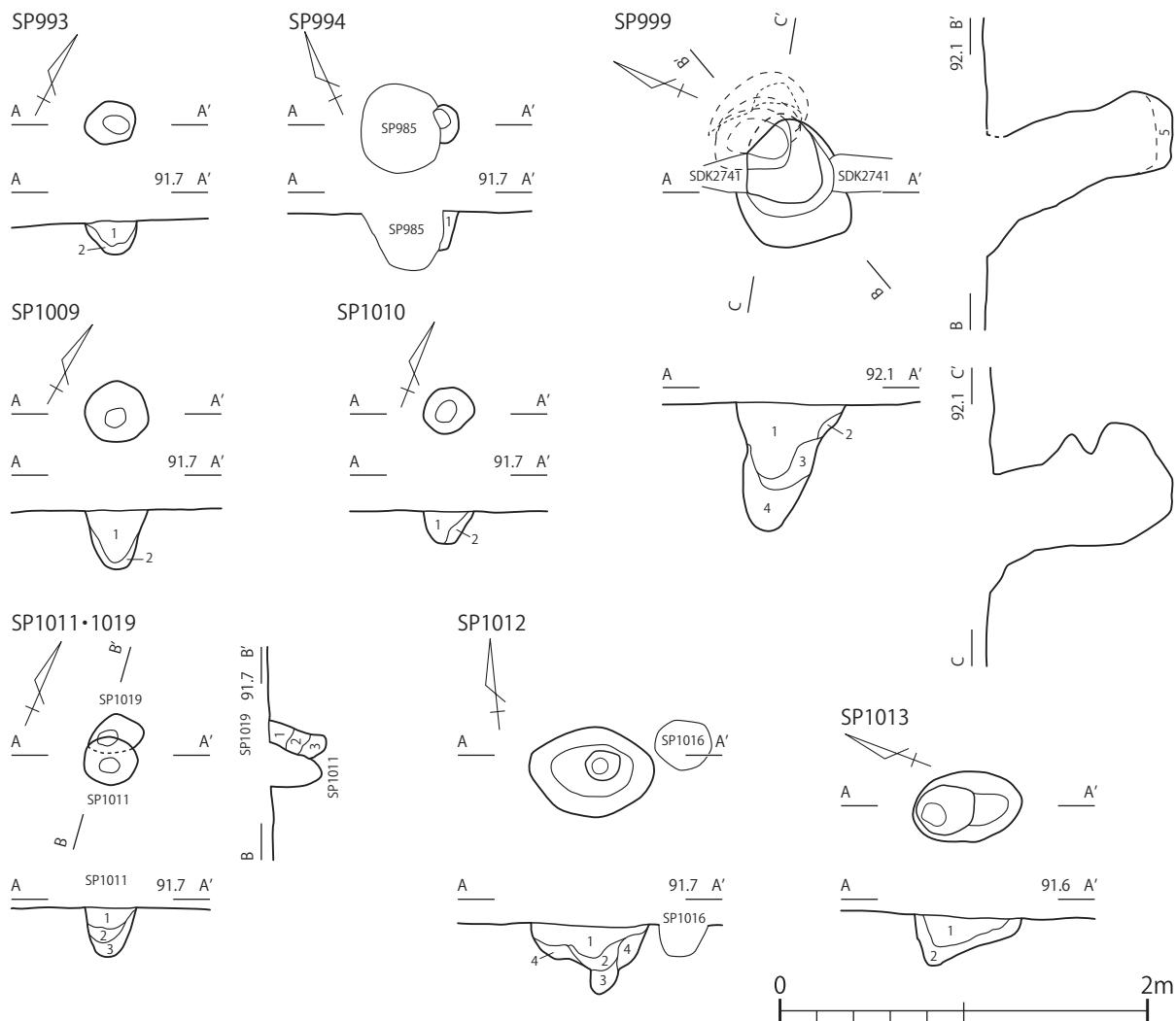
- SP684**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR4/3)15% 含む。粘性ありなし、縮まりなし、粒子粗い。
  2. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子やや密。
- SP701**
1. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 3mm 以下の赤色スコリア (10R4/8)3%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2% 含む。黒色土 (10YR2/1)10% 偏在。粘性あり、縮まり強、粒子粗い。
  2. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤色スコリア (10R4/8)7%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 5%、直径 10mm 以下のロームブロック (10YR4/6)10% 含む。粘性あり、縮まり強、粒子粗い。
- SP702**
- SP796**
- SP903・904**
1. 10YR2/2 SP903 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤色スコリア (10R4/8)3%、直径 1mm の黒色スコリア 3% 含む。ローム 30% 偏在。粘性あり、縮まり強、粒子やや粗い。
  2. 10YR4/6 SP904 褐色土層 ローム主体。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子やや密。
- SP972**
- SP973・974**
- SP975**
- SP977**
- 0 2m
- SP684**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子密。
  2. 10YR2/2 黒褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6)30% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
- SP903**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。ロームを斑文状に 10% 含む。粘性あり、縮まり極めて強、粒子やや密。
- SP904**
1. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)2% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子密。
  2. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム (10YR4/4) 斑文状に 20% 含む。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや粗い。
- SP972**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6) 斑文状に 10%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子密。
  2. 10YR2/2 黑褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6)30% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
- SP973**
1. 10YR2/2 黑褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6) 斑文状に 10%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子密。
  2. 10YR2/2 黑褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6)30% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
  3. 10YR4/6 褐色土層 黑褐色土 (10YR2/2)30% 混在。粘性強、縮まり強、粒子やや粗い。
- SP974**
1. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、縮まり強、粒子密。
  2. 10YR2/2 黑褐色土層 黄褐色土 (10YR5/6)30% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
- SP975**
1. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子密。
  2. 10YR2/2 黑褐色土層 ローム (10YR4/4)20% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや粗い。
  3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
  4. 10YR5/8 黄褐色土層 ローム主体。粘性強、縮まりあり、粒子やや粗い。

第 53 図 SP684・701・702・796・903・904・972～975・977(1/40)



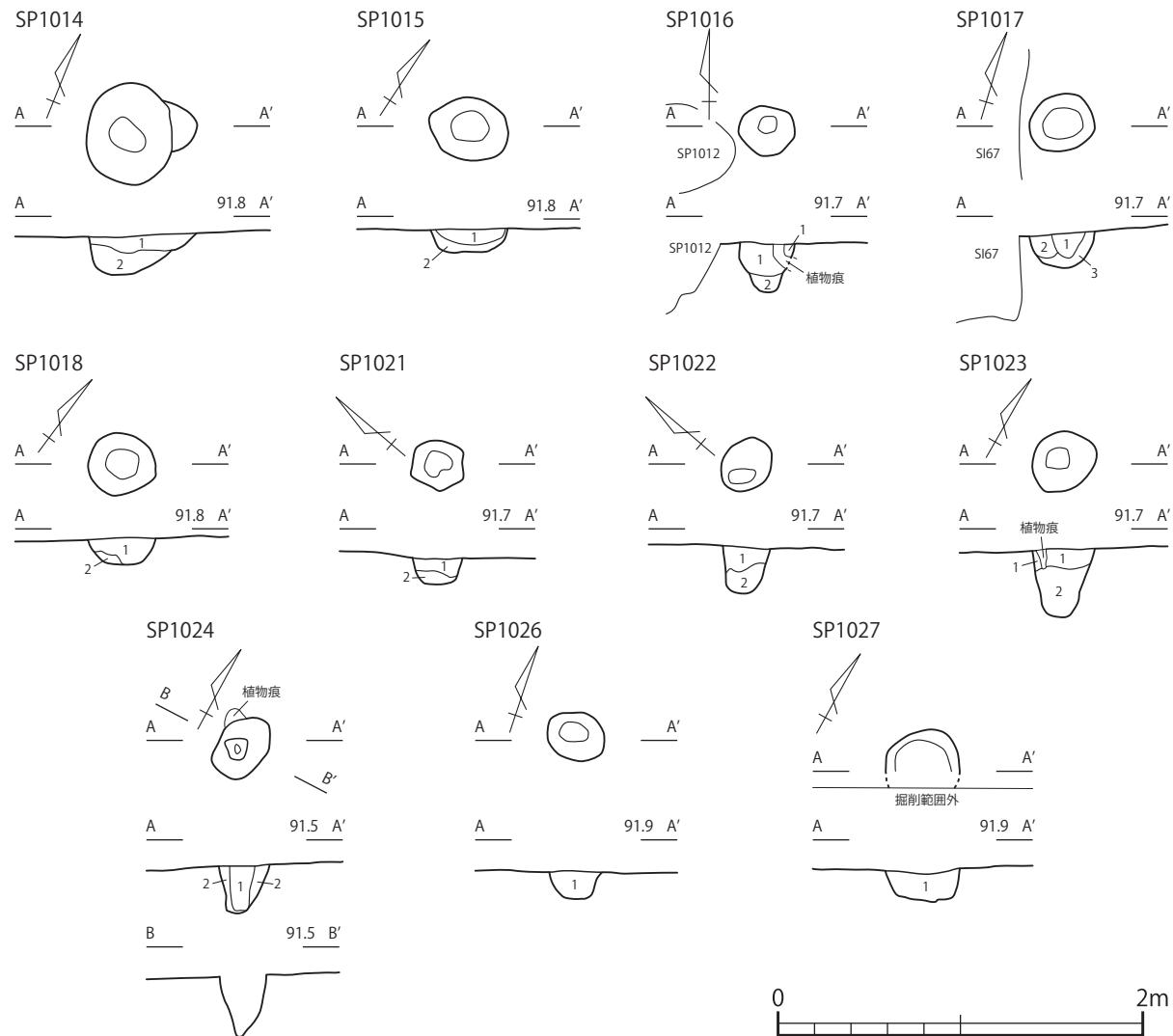
- SP978**
1. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム(10YR4/4)10%混在。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
  2. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム(10YR4/4)20%混在。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP979**
1. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム(10YR4/4)10%混在。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
  2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径20mm以下のロームブロック(10YR4/4)10%、直径15mm以下の黒褐色土ブロック(10YR2/3)15%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
  3. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム(10YR4/4)20%混在。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP982**
1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm前後のローム粒子少量、直径3mm以下の焼土粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性ややあり。
  2. 10YR2/3 黒褐色土層 1層と類似。焼土粒子・ローム粒子が1層と比べてやや多い。
  3. 10YR2/3 黒褐色土層 1層と類似。ローム粒子が1・2層より多量で、ブロックが少量堆積している。
- SP984**
1. 10YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子直径3mm以下2%、ロームブロック直径5mm5%(斑文状)、橙色スコリア直径2~5mm3%。締まり極強、粘性あり。
  2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒子直径3mm以下10%、ロームブロック直径5mm5%、橙色スコリア直径3mm以下5%。締まり極強、粘性強。
- SP985**
1. 10YR3/2 黒褐色土層 ローム粒子直径2mm以下3%、橙色スコリア直径3mm以下3%、炭化物粒子直径2mm以下1%。締まりあり、粘性あり。
  2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径5~10mm30%、ローム粒子直径3mm以下10%、炭化物粒子直径2mm以下2%、橙色スコリア直径2mm以下1%、IV層土主体。締まり強、粘性強。
- SP986**
1. 10YR3/2 黒褐色土層 ロームブロック直径5mm5%(斑文状)、橙色スコリア直径3mm以下1%、炭化物粒子直径1mm1%。締まり強、粘性あり。
  2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 ローム粒子直径2mm以下3%、炭化物粒子直径3mm以下2%、橙色スコリア直径2mm以下1%、IV層土主体。締まり強、粘性強。
- SP987**
1. 10YR3/2 黒褐色土層 ロームブロック直径5mm5%(斑文状)、橙色スコリア直径3mm以下1%、炭化物粒子直径1mm1%。締まり極強、粘性強。
  2. 10YR5/4 にぶい黄褐色土層 ローム粒子直径2mm以下3%、炭化物粒子直径3mm以下2%、橙色スコリア直径2mm以下1%、IV層土主体。締まり極強、粘性強。
- SP988**
1. 10YR3/4 暗褐色土層 橙色スコリア直径3mm以下5%、ローム粒子直径2mm以下3%、ロームブロック直径5~7mm5%(斑文状)、炭化物粒子直径2mm以下1%。締まり極強、粘性弱。
  2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径5~10mm30%、橙色スコリア直径2mm以下3%、IV層土主体。締まり強、粘性強。
- SP990**
1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
  2. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム(10YR4/4)30%偏在。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
- SP992**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 ローム(10YR4/4)斑文状に10%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
- SP995**
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)5%、直径5mm以下のロームブロック(10YR4/4)2%、長さ5mm以下の炭化材片3%含む。下部にローム(10YR5/6)斑文状に10%偏在。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
  2. 10YR3/3 暗褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、長さ3mm以下の炭化材片2%含む。ローム(10YR5/6)20%偏在。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
  3. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体土層。直径7mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)5%、長さ3mm以下の炭化材片2%含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。

第54図 SP978・979・982・984～988・990・992・995(1/40)



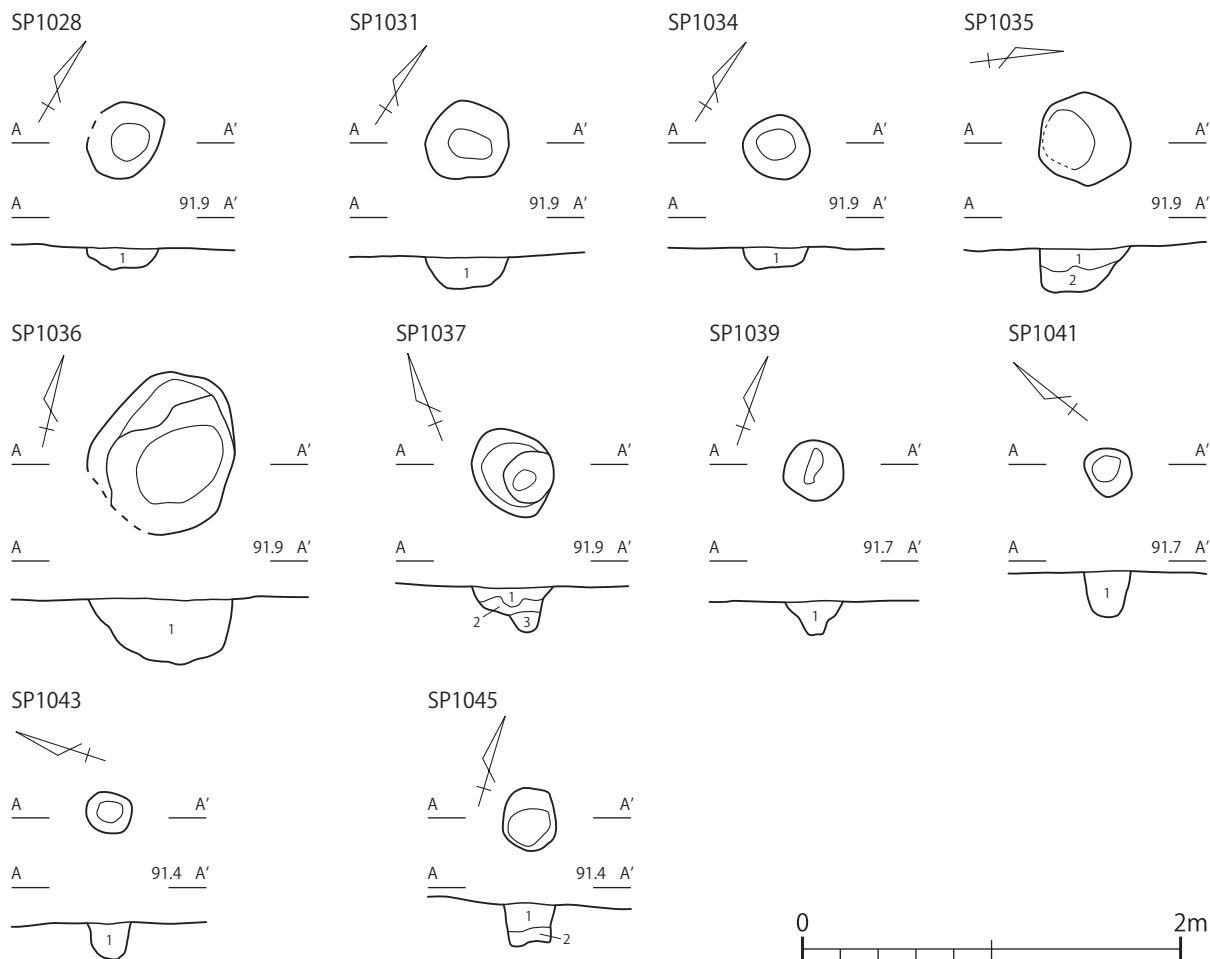
- SP993**
1. 10YR3/4 暗褐色土層 橙色スコリア直径 3mm 以下 5%、ローム粒子直径 2mm 以下 3%、ロームブロック直径 5 ~ 7mm 5% (斑文状)、炭化物粒子直径 2mm 以下 1%。締まり強、粘性強。
  2. 10YR5/3 にぶい黄褐色土層 ロームブロック直径 5 ~ 10mm 30%、橙色スコリア直径 2mm 以下 3%。IV層土主体。締まり強、粘性強。
- SP994**
1. 10YR3/2 黒褐色土層 橙色スコリア直径 3mm 以下 3%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。
- SP999**
1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 7%、直径 10mm 以下の黒褐色土ブロック (10YR2/2) 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
  2. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5% 含む。ローム (10YR4/6) 10% 混在。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
  3. 7.5YR3/3 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5% 含む。ローム (10YR4/6) 30% 混在。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
  4. 10YR4/6 褐色土層 ローム粒子・ブロック主体。直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 5% 含む。黒褐色土 (10YR2/2) 10% 混在。粘性強、締まり強、粒子粗い。
  5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR5/8) 10%、直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8) 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- SP1009**
1. 10YR3/1 黒褐色土層 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 2mm 以下 1%。均質な黒褐色土。III 2 層に相当。締まり強、粘性強。
  2. 10YR3/3 暗褐色土層 1 層にロームブロック直径 10mm 20% 含む (斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1010**
1. 10YR3/1 黒褐色土層 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 2mm 以下 1%。均質な黒褐色土。III 2 層に相当。締まり強、粘性強。
  2. 10YR3/3 暗褐色土層 1 層にロームブロック直径 10mm 20% 含む (斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1011・1019**
1. 10YR2/3 SP1019 暗褐色土層 SP1011 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。
  2. 10YR3/3 暗褐色土層 SP1011 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。
- SP1012**
1. 10YR3/1 SP1019 暗褐色土層 91.7 A' SP1016 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。
  2. 10YR3/3 暗褐色土層 91.7 A' SP1016 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。
- SP1013**
1. 10YR3/1 暗褐色土層 橙色スコリア直径 3mm 以下 1%、ローム粒子直径 5mm 以下 3%。内容物少なく均質な黒褐色土。締まりあり、粘性弱。

第 55 図 SP993・994・999・1009～1013・1019(1/40)



- SP1014**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 橙色スコリア直径3mm以下1%、ローム粒子直径2mm以下1%。均質な黒褐色土。Ⅲ2層に相当。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR3/3 暗褐色土層 1層にロームブロック直径10mm20%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1015**  
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 橙色スコリア直径3mm以下1%、ローム粒子直径2mm以下1%、ロームブロック直径10mm5%含む(斑文状)。均質な黒褐色土。Ⅲ2層に相当。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR3/3 暗褐色土層 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1016**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 橙色スコリア直径3mm以下1%、ローム粒子直径2mm以下1%。均質な黒褐色土。Ⅲ2層に相当。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1017**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 SI67 91.7 A' 1層にロームブロック直径10mm7%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 SI67 91.7 A' 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1018**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 91.8 A' 1層にロームブロック直径10mm20%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1021**  
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 91.7 A' 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1022**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 91.7 A' 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1023**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 91.7 A' 1層にロームブロック直径10mm30%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1024**  
 1. 10YR3/2 植物痕 91.5 A' 1層にロームブロック直径10mm5%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 91.5 B' 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1026**  
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 91.9 A' 1層にロームブロック直径15mm10%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1027**  
 1. 10YR3/2 黒褐色土層 91.9 A' 1層にロームブロック直径10mm30%含む(斑文状)。締まり強、粘性強。
- SP1022**  
 1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。Ⅲ3層土由来土層。締まり非常にあり、粘性あり。  
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア2%含む。直径2mm前後のローム粒子やや多量混入。締まり・粘性非常にあり。
- SP1023**  
 1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径2mm以下のローム粒子微量混入。Ⅲ3層土由来土層。締まり非常にあり、粘性あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 1層に近似。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm前後のローム粒子少量混入。Ⅲ3層土由来土層。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1024**  
 1. 10YR3/1 黒褐色土層 褐色土(10YR4/2)粒子直径3mm以下3%、橙色スコリア直径2mm以下1%。締まり強、粘性強。  
 2. 10YR4/3 にぶい褐色土層 ロームブロック直径5~10mm20%、橙色スコリア直径2mm以下1%。締まり強、粘性強。
- SP1026**  
 1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)5%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)6%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量混入。直径2mm前後のローム粒子微量混入。Ⅲ3層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

第56図 SP1014～1018・1021～1024・1026・1027(1/40)



#### SP1028

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 2mm 前後のローム粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

#### SP1031

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 以下の炭化物粒子少量、直径 2mm 前後のロームブロック少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

#### SP1034

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。  
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

#### SP1035

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性ややあり。

#### SP1037

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。  
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 3mm 以下のローム粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。  
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8) 含む。直径 3mm 以下のローム粒子多量、直径 4mm 以下のロームブロック少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層・V層合土。締まり非常にあり、粘性ややあり。

#### SP1039

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性ややあり。

#### SP1041

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性ややあり。

#### SP1043

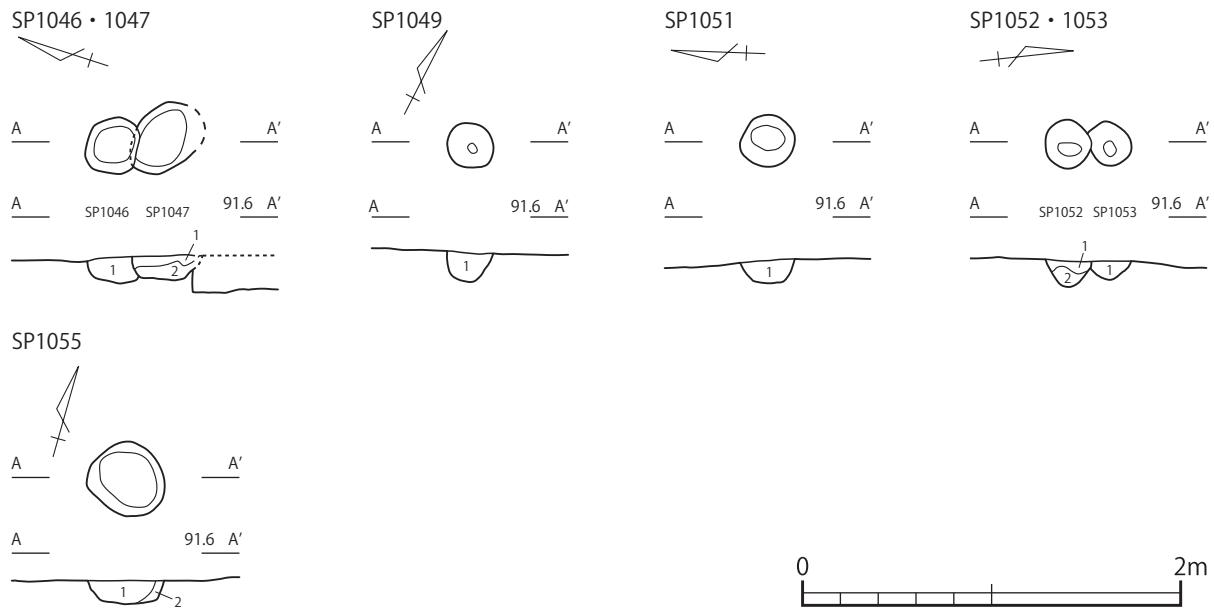
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 4mm 前後のロームブロック少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

#### SP1045

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 2mm 前後のローム粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5% 含む。直径 10mm 以下のロームブロックやや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

第 57 図 SP1028・1031・1034～1037・1039・1041・1043・1045(1/40)



- SP1046**  
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1047**  
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 2mm 以下の炭化物粒子微量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。  
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 以下の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1049**  
1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 以下の炭化物粒子少量混入。Ⅳ層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1051**  
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子微量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1052・1053**  
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。
- SP1055**  
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 2mm 以下の炭化物粒子微量混入。Ⅲ3 層土主体。締まり非常にあり、粘性あり。

第 58 図 SP1046・1047・1049・1051～1053・1055(1/40)

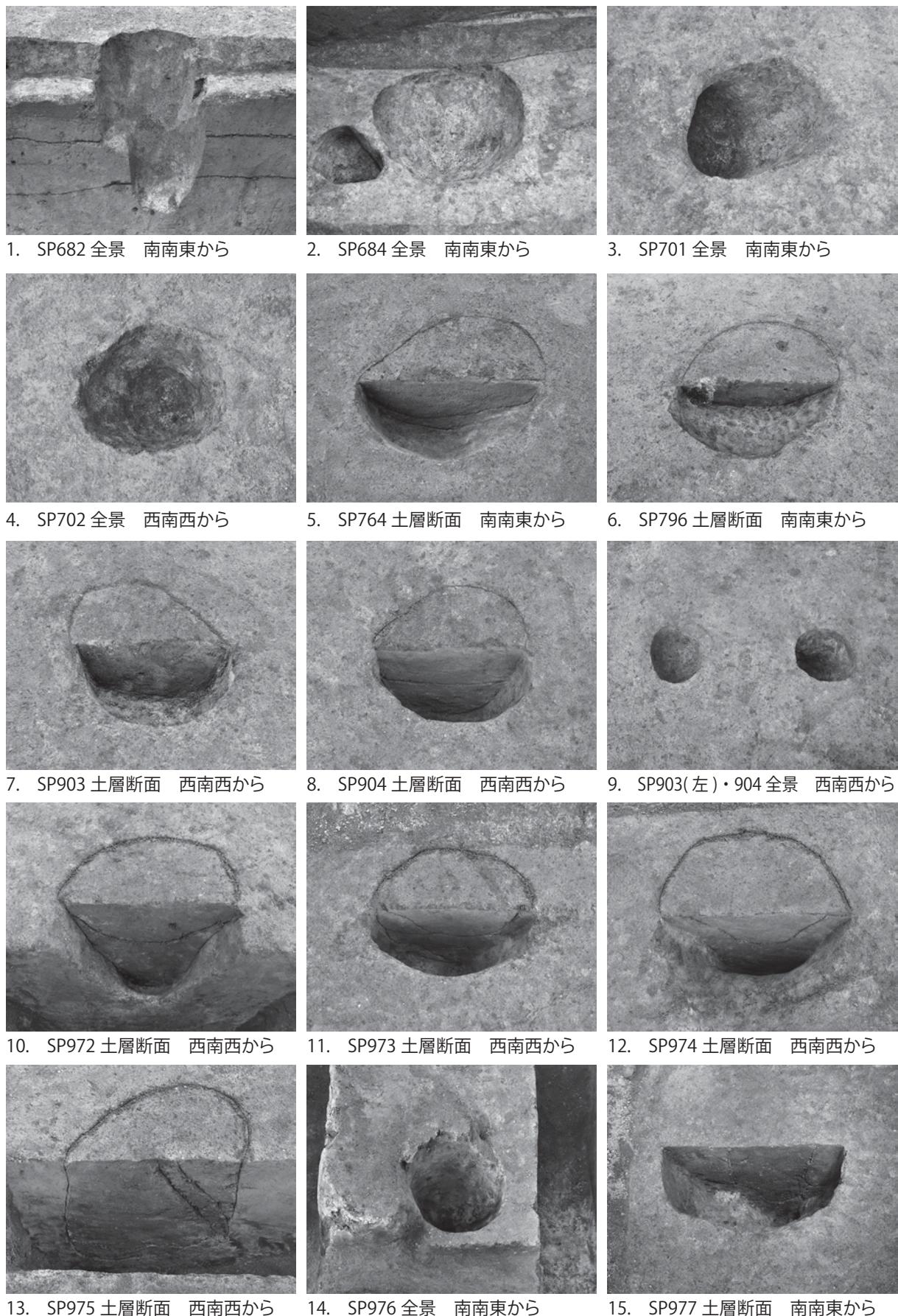
ている。

**SP1045** 2-6 東区の埋没谷に比較的近い位置で検出された。覆土は 2 層に分けられ、いずれも Ⅲ 3 層土が主体で、共に炭化物粒子が少量混入している。

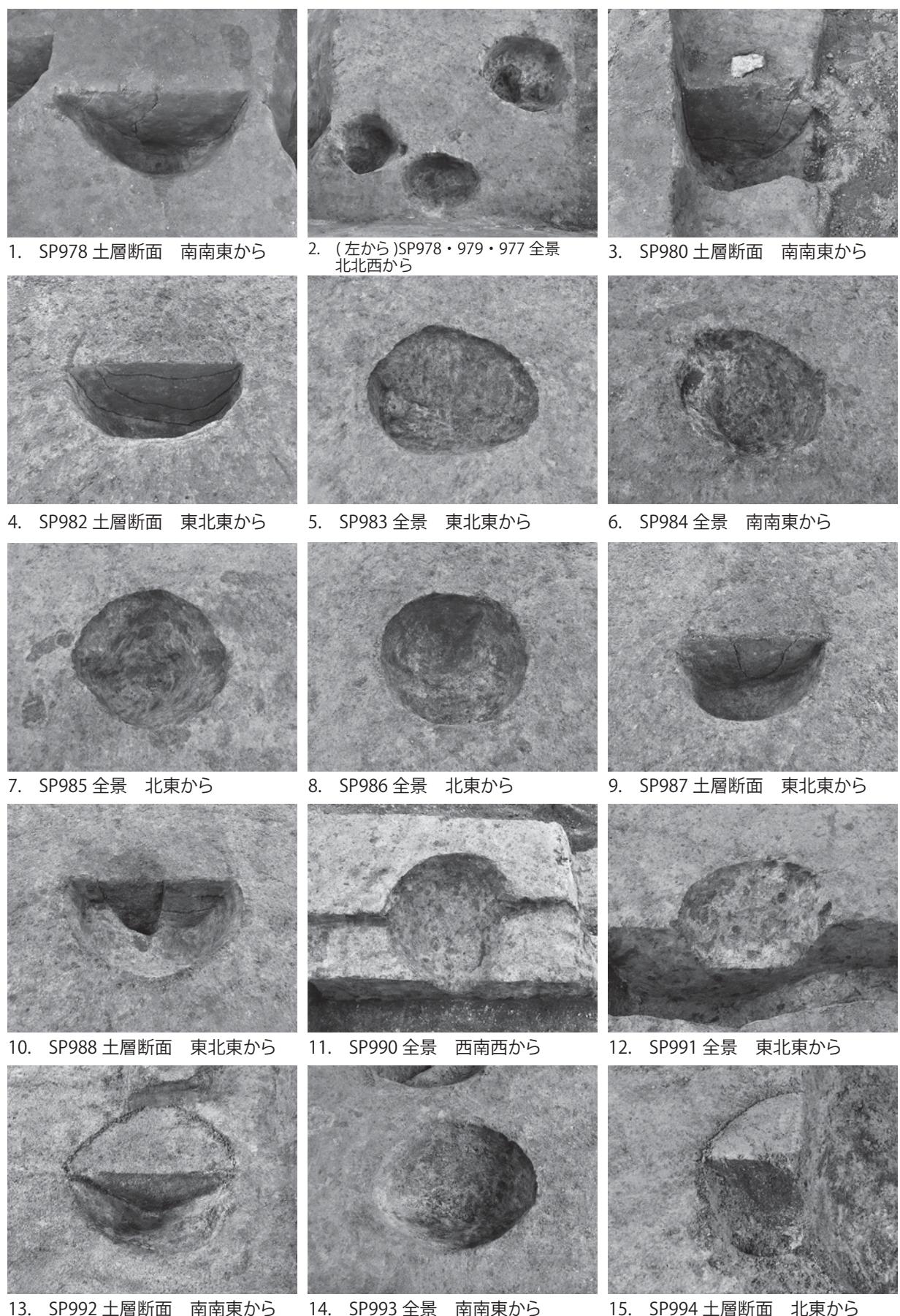
**SP1046・SP1047** SP1047 が SP1046 を切っている。SP1046・1047 共に覆土に炭化物粒子が少量混入している。

**SP1049** 長軸 26cm の小さな円形のピットで、Ⅳ層土を主体とする覆土には炭化物粒子が少量混入している。

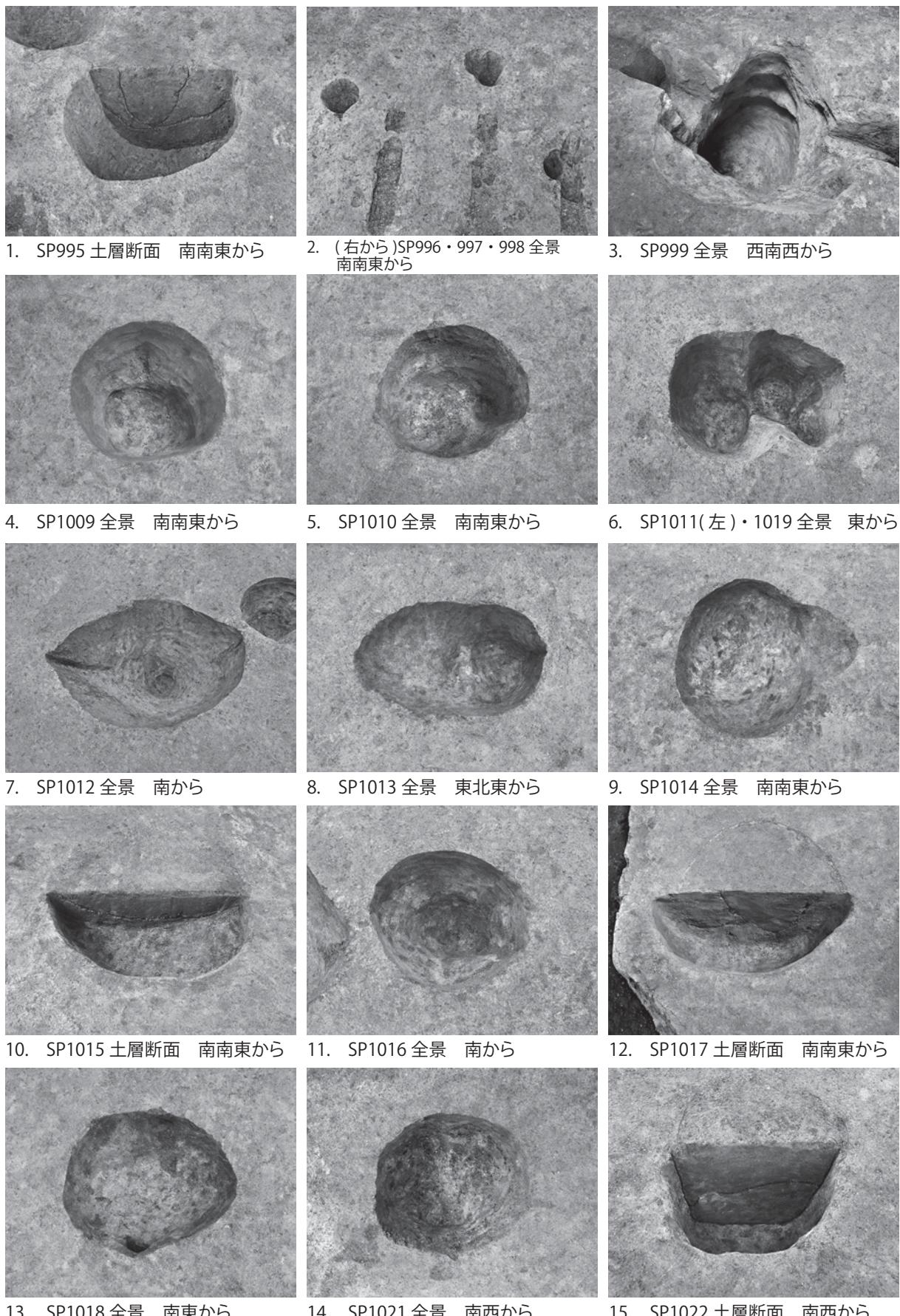
**SP1052・1053** 2 基のピットが切合っており、SP1052 の方が新しい。SP1052 の 2 層からなるの覆土の双方に、炭化物粒子が少量混入している。 (相原)



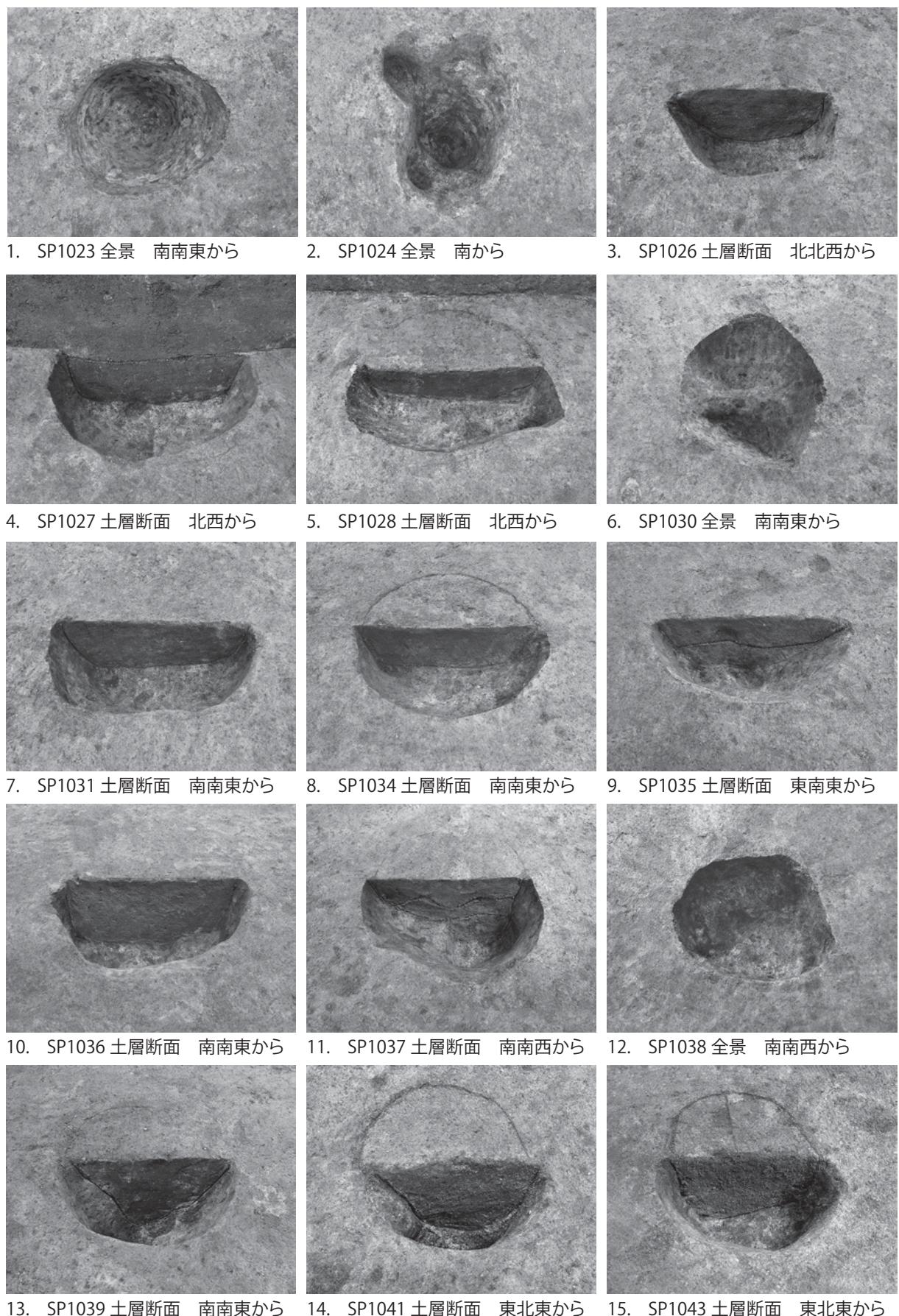
第 59 図 SP682・684・701・702・764・796・903・904・972～977 写真



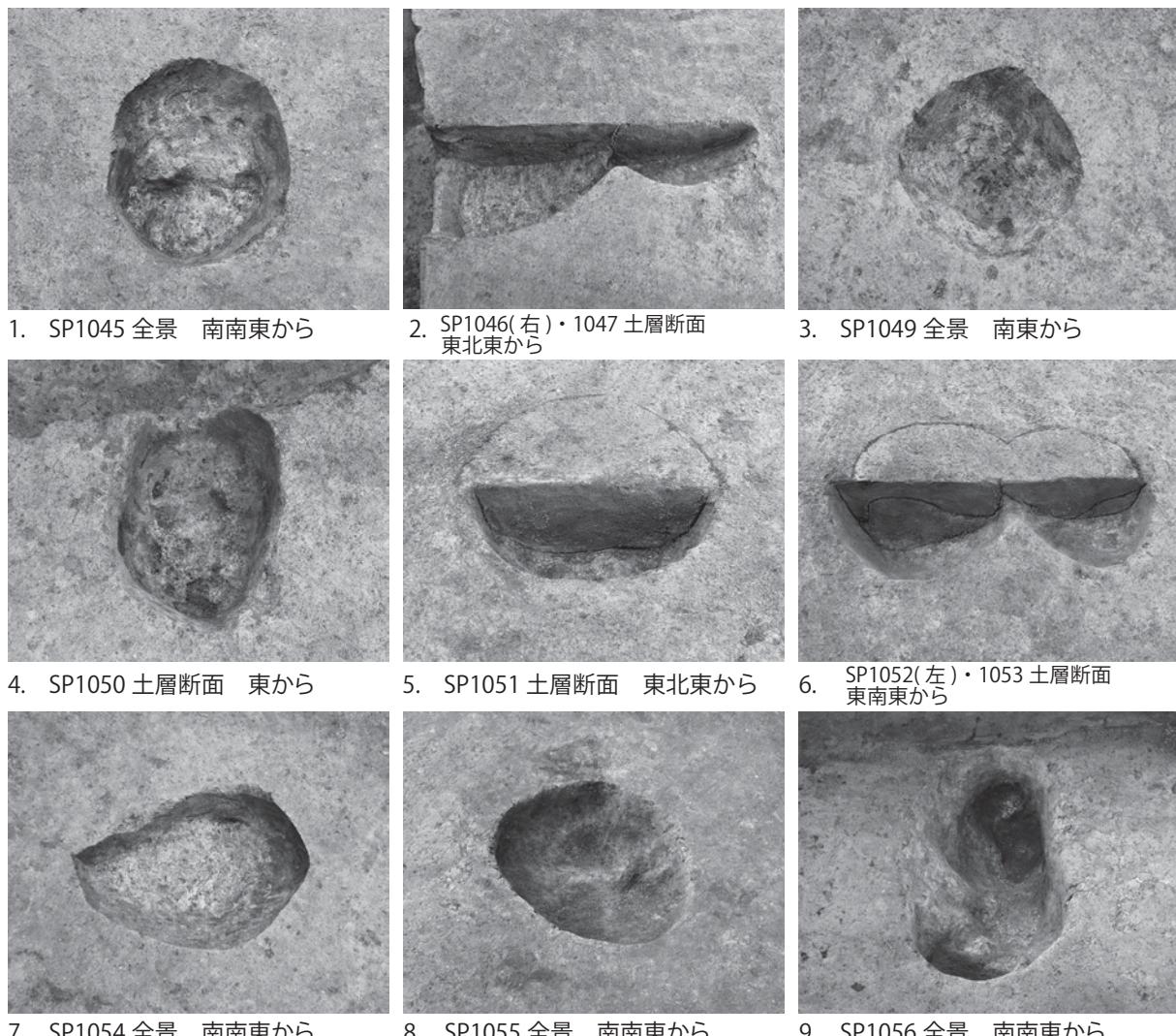
第 60 図 SP978～980・982～988・990～994 写真



第 61 図 SP995 ~ 999・1009 ~ 1019・1021・1022 写真



第62図 SP1023・1024・1026～1028・1030・1031・1034～1039・1041・1043写真



第 63 図 SP1045 ~ 1047・1049 ~ 1056 写真

第 12 表 縄文時代ピット一覧表 (1)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP679	27Q-89	第 29 図	—	(卵形)	B	(27)	(8)	17	東西ベルト (III2)	—	東西ベルトにかかる。
SP682	27Q-80・ 28Q-71	第 29 図	第 59 図	(隅丸長方形)	D	(30)	(22)	42	東西ベルト (III2)	—	東西ベルトにかかる。
SP684	27Q-79	第 53 図	第 59 図	円形	A	40	40	21	IV	—	
SP701	27Q-59	第 53 図	第 59 図	多角形	B	28	21	25	V	—	
SP702	28Q-61	第 53 図	第 59 図	卵形	B	20	19	19	IV	—	
SP764	29Q-22	第 29 図	第 59 図	円形	D	28	27	25	III2	—	
SP796	28Q-41	第 53 図	第 59 図	楕円形	C	40	32	11	III3	—	
SP903	28Q-54	第 53 図	第 59 図	卵形	A	25	23	17	IV	—	
SP904	28Q-54	第 53 図	第 59 図	卵形	B	28	24	36	IV	—	
SP972	27Q-84	第 53 図	第 59 図	(卵形)	B	(20)	(10)	28	IV	—	SS17 範囲内。 SDK2749に切られる。
SP973	27Q-84	第 53 図	第 59 図	(卵形)	C	(31)	(24)	29	IV	焼燭 1 点 15.7g	SS17 範囲内。 SDK2750に切られる。
SP974	27Q-84	第 53 図	第 59 図	楕円形	A	40	33	47	IV	焼燭 1 点 92.7g	SS17 範囲内。

第12表 繩文時代ピット一覧表(2)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模(cm)			検出面	遺物	備考(重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP975	27Q-84・85	第53図	第59図	(円形)	C	(30)	(14)	39	IV	—	SS17範囲内。 SDK2750に切られる。
SP976	27Q-85	第29図	第59図	円形	B	22	19	33	IV	焼燭2点 122.4g	SS17P2範囲内。
SP977	27Q-85	第53図	第59・60図	円形	E	45	38	39	IV	焼燭1点 10.3g	SS17範囲内。
SP978	27Q-85	第54図	第60図	多角形	D	30	27	31	IV	—	SS17範囲内。
SP979	27Q-85	第54図	第60図	卵形	D	36	29	25	IV	焼燭2点 73.0g	SS17範囲内。
SP980	27Q-85	第29図	第60図	(楕円形)	A	(30)	(20)	29	IV	焼燭1点 32.7g	SS17範囲内。 SDK2752に切られる。
SP982	29P-70・80	第54図	第60図	円形	A	32	28	16	IV	—	—
SP983	29P-89	第29図	第60図	多角形	C	46	38	20	IV	—	—
SP984	29P-87・97	第54図	第60図	楕円形	C	42	34	24	V	—	—
SP985	29P-88	第54図	第60図	円形	B	49	43	37	V	—	SP994を切る。
SP986	29P-87	第54図	第60図	円形	C	24	22	11	V	—	—
SP987	29P-87	第54図	第60図	多角形	A	24	24	34	V	—	—
SP988	29P-87	第54図	第60図	不整楕円形	E	53	50	22	V	—	—
SP990	27Q-95	第54図	第60図	(円形)	A	28	27	18	IV	—	SS17範囲内。 SDK2750に切られる。
SP991	27Q-84	第29図	第60図	(円形)	C	(27)	(14)	16	IV	—	SS17範囲内。SDK2749に切られる。
SP992	27Q-84	第54図	第60図	(卵形)	B	29	28	11	IV	—	SS17炭化物範囲内。 SP995に切られる。
SP993	29P-87	第55図	第60図	卵形	A	27	25	19	V	—	—
SP994	29P-88	第55図	第60図	(卵形)	A	(19)	(10)	21	V	—	SP985に切られる。
SP995	27Q-84	第54図	第61図	多角形	D	46	37	26	IV	—	SS17炭化物範囲内。 SP992を切る。
SP996	27Q-85	第29図	第61図	卵形	B	23	18	29	V	—	SS17範囲内。 SDK2754に切られる。
SP997	27Q-85	第29図	第61図	不整楕円形	E	35	31	27	V	—	SS17範囲内。
SP998	27Q-85	第29図	第61図	円形	C	27	26	21	V	—	SS17範囲内。
SP999	27R-4	第55図	第61図	(楕円形)	C	69	60	101	V	—	SDK2741に切られる。
SP1009	29P-83・84	第55図	第61図	円形	A	34	33	33	III3	—	—
SP1010	29P-83	第55図	第61図	円形	A	28	24	18	III3	—	—
SP1011	29P-83	第55図	第61図	円形	B	29	26	28	III3	—	SP1019を切る。
SP1012	29P-83	第55図	第61図	卵形	E	67	56	39	III3	—	—
SP1013	29P-84	第55図	第61図	卵形	D	60	37	28	III3	—	—
SP1014	29P-75	第56図	第61図	不整楕円形	D	61	47	23	III3	—	—
SP1015	29P-75	第56図	第61図	楕円形	C	44	36	14	III3	—	—
SP1016	29P-83	第56図	第61図	多角形	A	38	28	28	III3	—	—
SP1017	29P-75・85	第56図	第61図	円形	A	35	30	20	III3	—	—
SP1018	29P-75	第56図	第61図	円形	A	37	34	15	III3	—	—
SP1019	29P-83	第55図	第61図	(不整楕円形)	B	(26)	(18)	32	III3	—	SP1011に切られる。
SP1021	29P-83・84	第56図	第61図	多角形	C	30	26	15	IV	—	—
SP1022	29P-73	第56図	第61図	楕円形	A	30	26	27	IV	—	—
SP1023	29P-83	第56図	第62図	円形	A	36	35	38	IV	—	—
SP1024	29P-96	第56図	第62図	楕円形	B	37	28	27	IV	—	—
SP1026	29P-90	第56図	第62図	卵形	A	33	29	16	IV～V	—	—
SP1027	30P-81・91	第56図	第62図	(楕円形)	C	(40)	(22)	19	IV	—	—
SP1028	30P-81	第57図	第62図	(多角形)	A	44	34	12	IV	—	—
SP1030	30P-81	第29図	第62図	円形	A	50	47	18	IV	—	—
SP1031	30P-71	第57図	第62図	円形	A	44	37	17	IV	—	—
SP1034	29P-90	第57図	第62図	円形	C	35	33	12	IV	—	—
SP1035	29P-89・90	第57図	第62図	多角形	C	49	47	25	IV	—	—
SP1036	29P-99	第57図	第62図	(不整楕円形)	A	79	75	35	IV	—	—
SP1037	29P-89	第57図	第62図	卵形	D	50	42	25	IV	—	—
SP1038	29P-99	第29図	第62図	卵形	A	45	38	11	IV	—	—
SP1039	29P-84	第57図	第62図	円形	E	32	31	19	IV	—	—
SP1041	29P-74	第57図	第62図	(不整長方形)	A	25	21	25	IV	—	—
SP1043	29Q-4	第57図	第62図	円形	A	24	21	20	IV	—	—
SP1045	29Q-15	第57図	第63図	楕円形	C	33	28	24	IV	—	—
SP1046	29Q-25	第58図	第63図	楕円形	A	30	(27)	14	IV	—	SP1047に切られる。
SP1047	29Q-25	第58図	第63図	(卵形)	A	(42)	(32)	14	IV	—	SP1046を切る。
SP1049	29Q-14	第58図	第63図	円形	A	26	24	16	IV	—	—
SP1050	29Q-24	第29図	第63図	(楕円形)	C	29	26	17	IV	—	—
SP1051	29Q-14	第58図	第63図	円形	A	29	27	13	IV	—	—
SP1052	29Q-14	第58図	第63図	円形	A	25	22	15	IV	—	SP1053を切る。
SP1053	29Q-14	第58図	第63図	(円形)	A	(23)	(21)	10	IV	—	SP1052に切られる。
SP1054	29Q-14	第29図	第63図	多角形	A	42	38	18	III3	—	—
SP1055	29P-86	第58図	第63図	円形	C	39	37	13	V	—	—
SP1056	29P-86	第29図	第63図	(隅丸長方形)	D	54	31	33	V	—	—
SP1059	29Q-25	第29図	—	—	(C)	—	—	(17)	南壁断面 (III3)	—	—

※( )内は、遺存範囲内の数値・状況を示す。

#### 4) 遺構外出土遺物（第 64～94 図、第 13・14 表）

##### A 土器（第 64～81 図、第 13 表）

本報告の調査地点で出土した縄文時代の遺構外出土遺物は、土器、土製品、石器である。縄文土器については、断続的ではあるものの、早期から晩期に至るまでの土器を確認している。縄文土器全体の破片数は 1,154 点、重量は 14,809.1g である。時期別の内訳は、早期 18 点 232g、前期 446 点 5,690.8g、中期 415 点 6,921.2g、中期～後期 1 点 10.4g、後期 80 点 894g、晩期 10 点 46.1g である。また、時期及び型式が不明な土器は 184 点 1,014.6g である。縄文土器全体を占める割合を見ると、前期が約 38%、中期が約 35% で、他の時期と比べ、割合の高さが際立っている。本報告で特筆すべきは、微量ながら晩期に帰属する土器が出土したことである。この中には、晩期後半に位置付けられる大洞 A～A' 式併行と捉えられる土器も含まれている。

縄文土器の分布図を第 64・65 図に示した。時期別の分布状況では、出土量の少ない早期と晩期では、局所的に分布していることが窺える。前期と中期では調査区全域に分布が見られるが、各時期ともに、分布が特に集中する部分があることが読み取れる。前期では、大きく分けて 29Q-4～6 グリッド付近と、28Q-53・54・63・64 グリッド付近の 2 箇所に集中している。29Q-4～6 グリッド付近では、Ⅲ層下部～Ⅳ層で検出した埋没谷との関連性が指摘できる。埋没谷を検出した際に、諸磯 b 式土器がややまとまった状態で出土しているからである。一方、中期に関しては、28Q-42～44・52～54・62・63 グリッド付近の集中部に近接して縄文時代の集石を検出していることから、それに関連する可能性が考えられよう。後期の土器の分布は 29Q-5 グリッド付近にやや集中する様子が見られるが、散漫な状況である。

##### 早期の土器

第 66・67 図 1・2 は早期前半の撚糸文系土器の夏島式～稻荷台式、3 は早期前半の田戸下層式、4～6 は早期後半の条痕文系土器である。1 は底部に近い胴部の破片で、撚糸文 L が縦方向に施文される。2 は砂粒を多く含む胎土で、外面には撚糸文 R が見られる。1・2 はいずれも撚糸の条間が比較的細かい。3 は横位の沈線による文様が見られる。4～6 は条痕文系土器の破片であろう。いずれも胎土に纖維を含むが、無文である。

##### 前期の土器

第 66・67 図 7～第 72・73 図 44 は前期後半の諸磯式に帰属する。45 は前期の土器と考えられるが、型式は判然としない。

第 66・67 図 7～第 68・69 図 19 は同一個体である。口縁部は平口縁で、少なくとも 2 箇所に山形の小突起が付くことが想定される。文様は、単節 RL 縄文を地文とし、口縁部には半截竹管を用いた横位の沈線、それより下方には斜交する沈線による文様が見られる。18・19 のように、胴部でも底部付近では単節 RL 縄文のみが施されている。18 の器高 13.9cm、復元した底径は 10cm、19 の器高は 6cm、復元した底径は 10cm である。20 は口縁部が「く」の字状に屈折する器形で、外面は無文である。21 は胴部破片で、無節 R 縄文が施文されている。第 66・67 図 7～第 68・69 図 21 はいずれも諸磯 b 式である。

22 は内外面ともに横位のナデといった調整痕が見られるが、外面は無文と考えられる。一部に竹

管文のような圧痕が認められるが、施文ではなく、偶発的に付いたものと推察される。22の復元した口径は16cm、器高は8.3cmである。23・24は胴部破片で、これらも無文である。輪積み痕が明瞭に残っている。22～24は同一個体と考えられ、諸磯b～c式に比定できよう。

25～第70・71図31は同一個体である。口縁部が内傾し、頸部は緩くくびれる器形と想定される。頸部を境にして、口縁部文様帯と胴部文様帯が分けられる。口縁部文様帯は、集合沈線と細い粘土紐に連続する刻みを加えた結節浮線文で構成される。口唇部に沿って同様の結節浮線文が見られるほか、口唇部直下より3本1単位の結節浮線文が山形に配置されている。胴部文様帯は、斜位あるいは縦位の集合沈線に粒状の浮線文がランダムに貼り付けられている。32は、口縁部内面から外面にかけて折り返すように棒状の隆帶が貼り付けられている。隆帶以外では、集合沈線が認められる。33・34は斜位あるいは縦位の集合沈線を施したのち、粒状の浮線文が貼り付けられている。35は集合沈線のみが確認できる。34・35は同一個体である。36～38は集合沈線による施文で、胎土や色調等から同一個体だと考えられる。第68・69図25～第70・71図38は諸磯c式である。

39～41はいずれも器壁が厚く、胎土の粒子が粗い特徴から同一個体であり、41の底部には網代痕が残る。網代は2本潜り1本越えと考えられ、縦と横とで幅が異なる素材が用いられている。復元した底径は15.2cm、器高は3.9cmである。第72・73図42～44は同一個体の胴部破片で、無文で調整痕のみが認められる。第70・71図39～第72・73図44は諸磯式とした。

45は胎土等の様相から前期後半の帰属としたが、無文であり、型式は不明である。

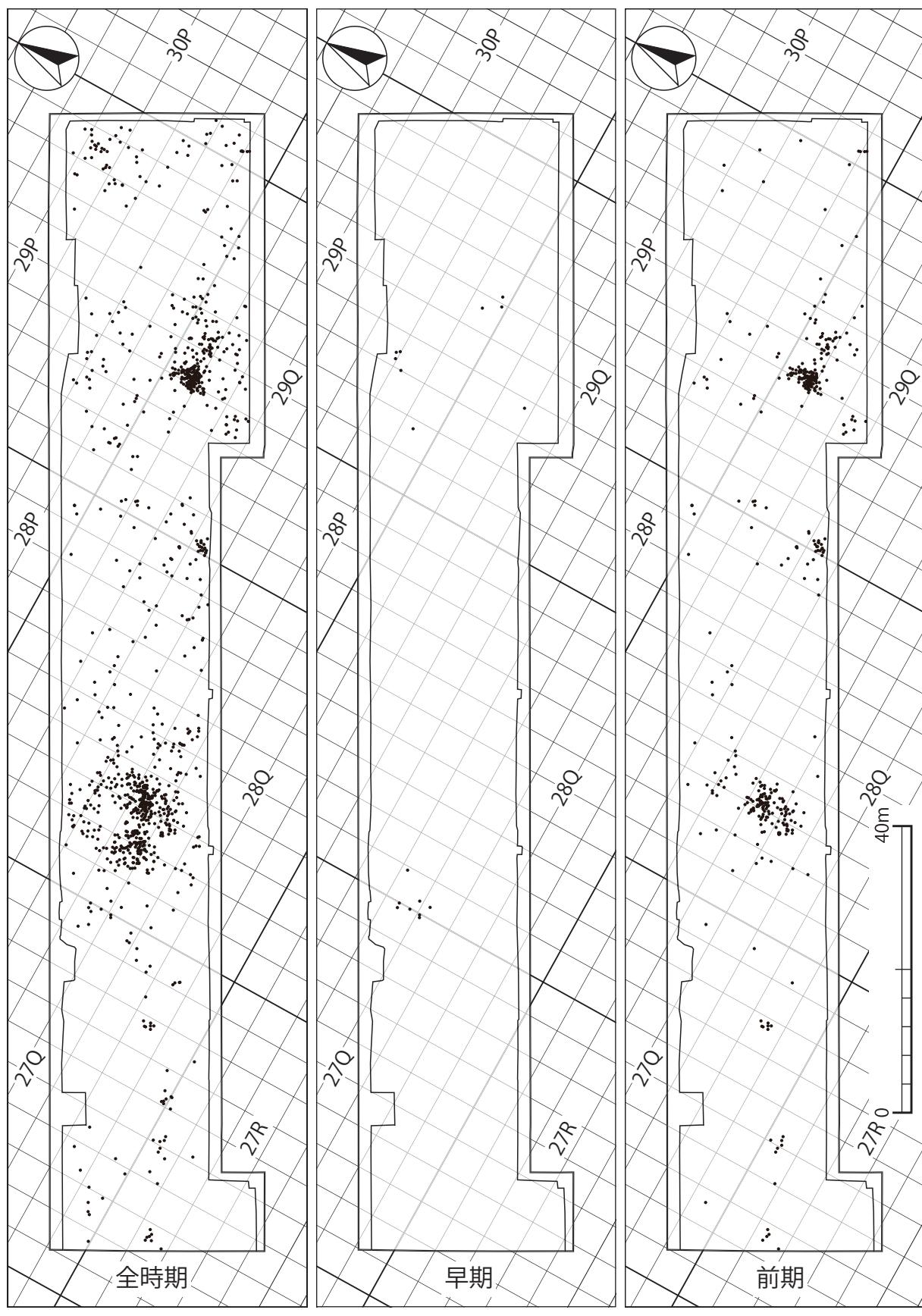
#### 中期の土器

第72・73図46～55は中期初頭の五領ヶ台式、56は阿玉台式、第74・75図57～75は中期前半の勝坂式、76～第76・77図94は中期後半の加曾利E式、第78・79図95・96は中期後半の連弧文土器、97～108は中期後半の曾利式とした。109～113は中期の土器と考えられるが、型式は特定できなかった。

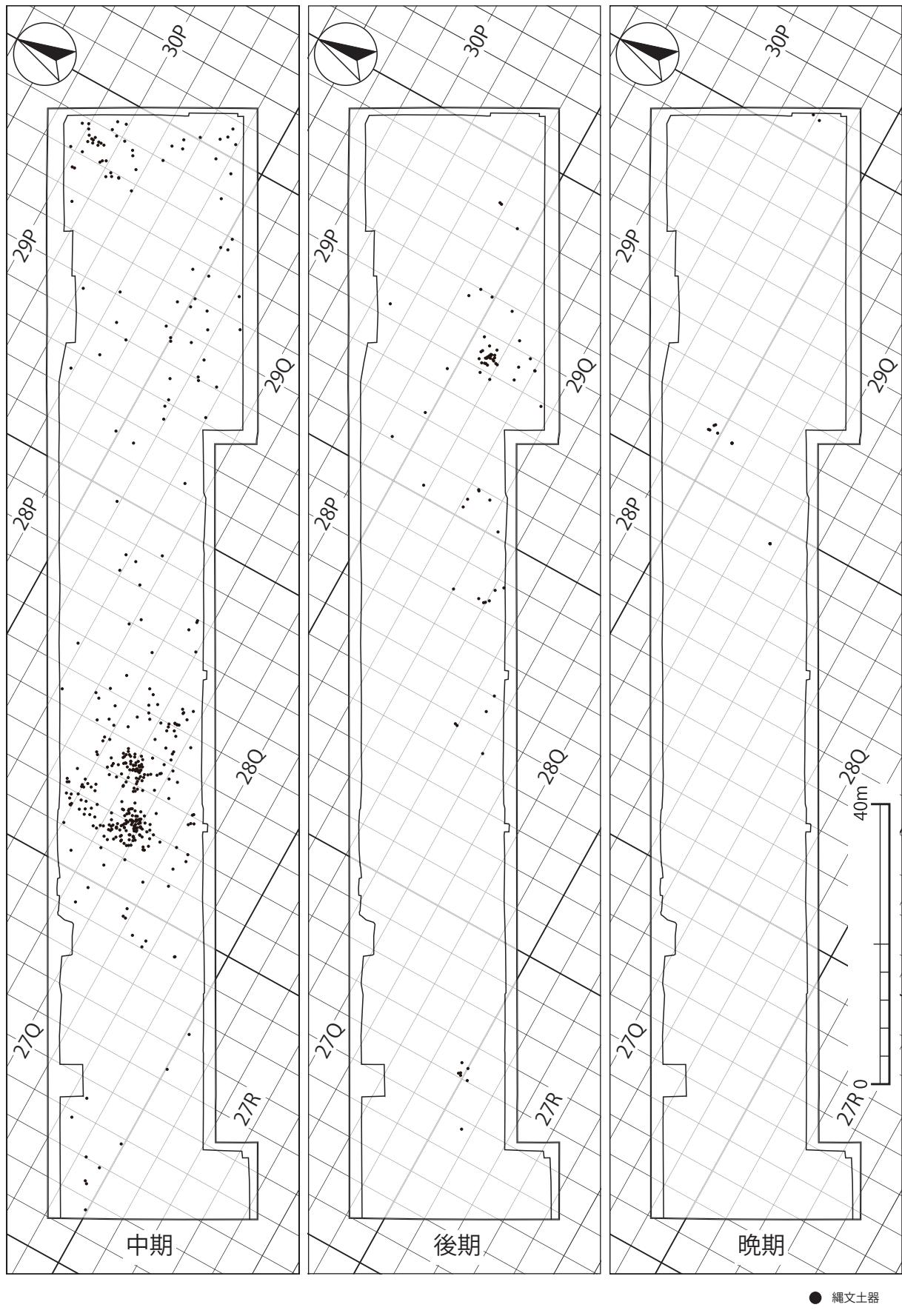
第72・73図46～48は同一個体で、波状口縁を有する。口唇部を肥厚させ、46・47のように、波頂部には棒状工具による刻みが3ないし4単位施されている。口縁部直下では部分的に縄文が施文されており、47は無節R縄文が認められる一方で、46・48は無文である。46～48は五領ヶ台II式である。49は口唇部に波状の隆帶を貼り付けた口縁部である。半截竹管による曲線状の沈線と、同じく半截竹管を用いた刺突が施されている。50は口唇部に棒状工具による刻みが付けられ、隆帶と上下の交互刺突による施文が認められる。金雲母と石英が非常に多く含まれ、粒子が粗くざらついた胎土が特徴的である。51は横位の隆帶と縦位の沈線による文様である。52は胴部破片で、単節RL縄文が施されている。胎土には金雲母や石英が多く含まれ、特徴的な様相を示している。53・54は縄文を地文として、縦位の隆帶と沈線による文様である。55も縄文を地文とし、縦位の沈線が施されている。49～55は五領ヶ台式とした。

56は口唇部に隆帶を貼り付け肥厚させた器形で、口縁部直下には角押文による施文が認められる。56の胎土にも金雲母や石英が多く含まれている。56は阿玉台Ia～Ib式に比定される。

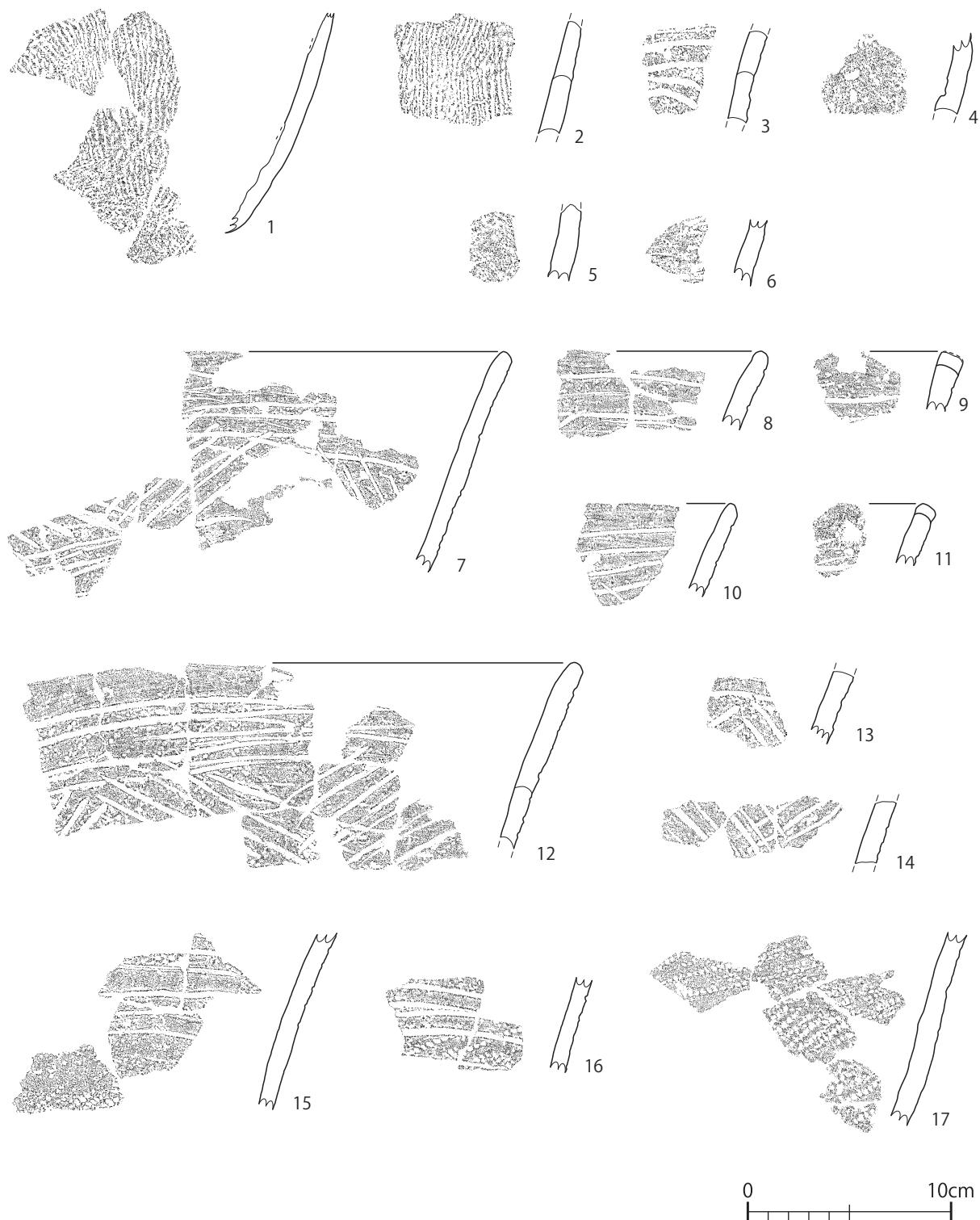
第74・75図57～63は同一個体であり、57～30の形状から口縁部は波状口縁と推察される。波頂部には渦巻き状の隆帶が貼り付けられ、それが蛇行して口縁部へと下る。波状部の口唇部には棒状工具による刻みが施されている。口縁部から胴部にかけては、Y字状あるいは縦位の隆帶文が施文



第 64 図 縄文時代土器分布図 (1)(1/800)

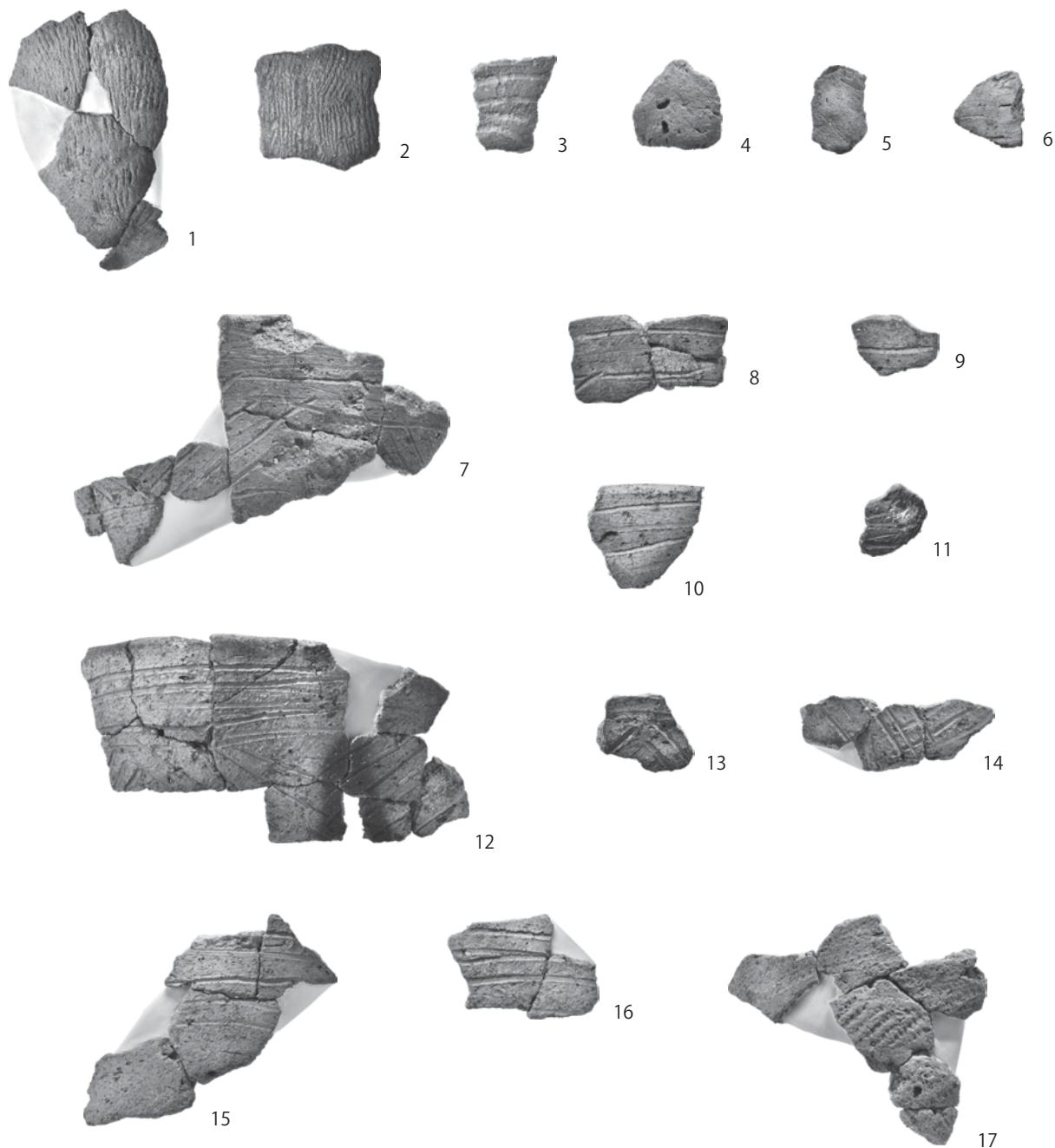


第 65 図 縄文時代土器分布図 (2)(1/800)



第 66 図 縄文時代遺構外出土遺物 (1)(1/3)

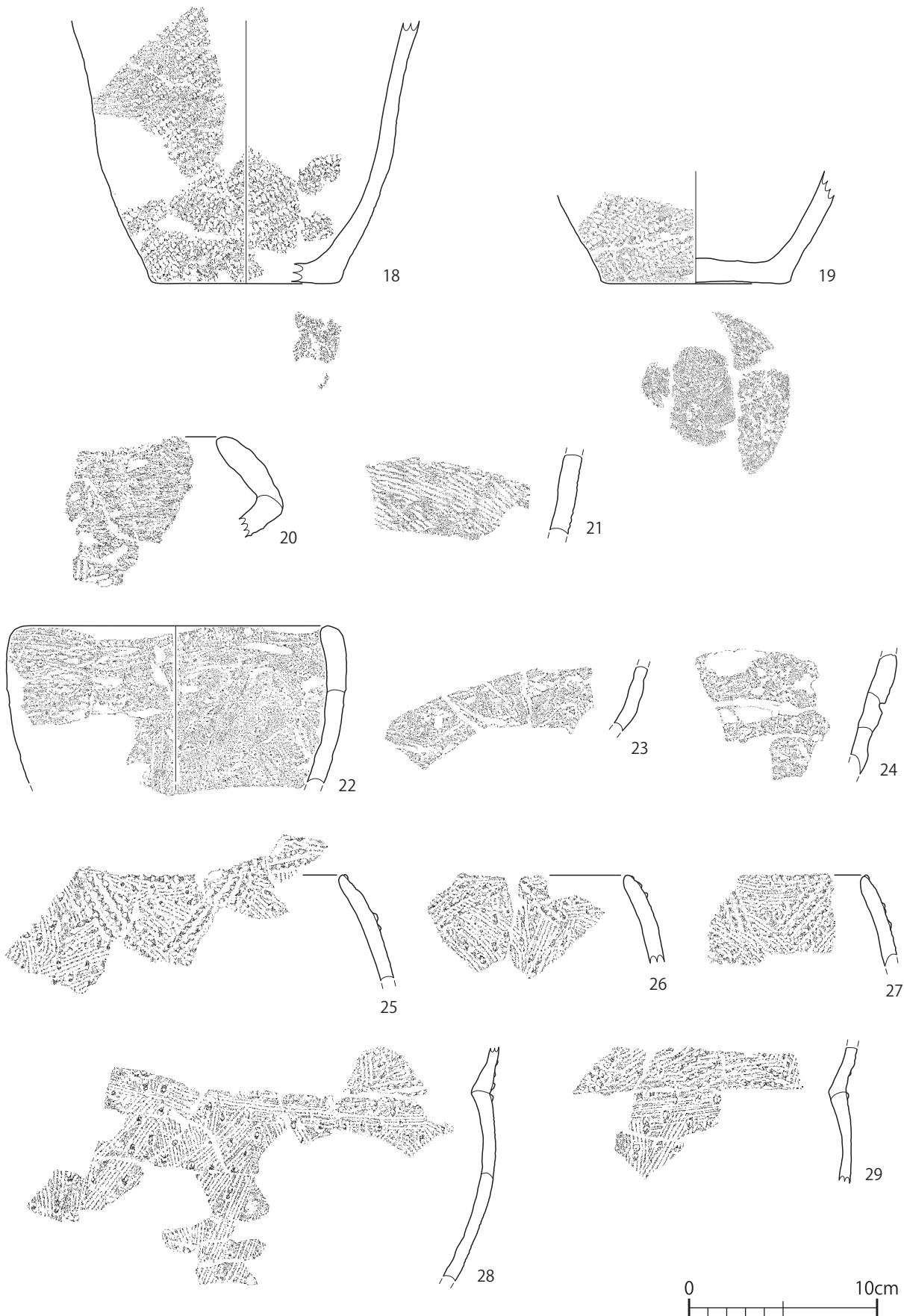
されている。63 のように、縦位の隆帯は底部まで垂下している。底部外面にはヘラナデのような調整痕が残る。63 の器高は 7cm、復元した底径は 14.6cm である。部位によって多寡はあるものの、第 74・75 図 57～63 の胎土にも石英が多く含まれている。64・65 の口縁部文様帶は隆帯による



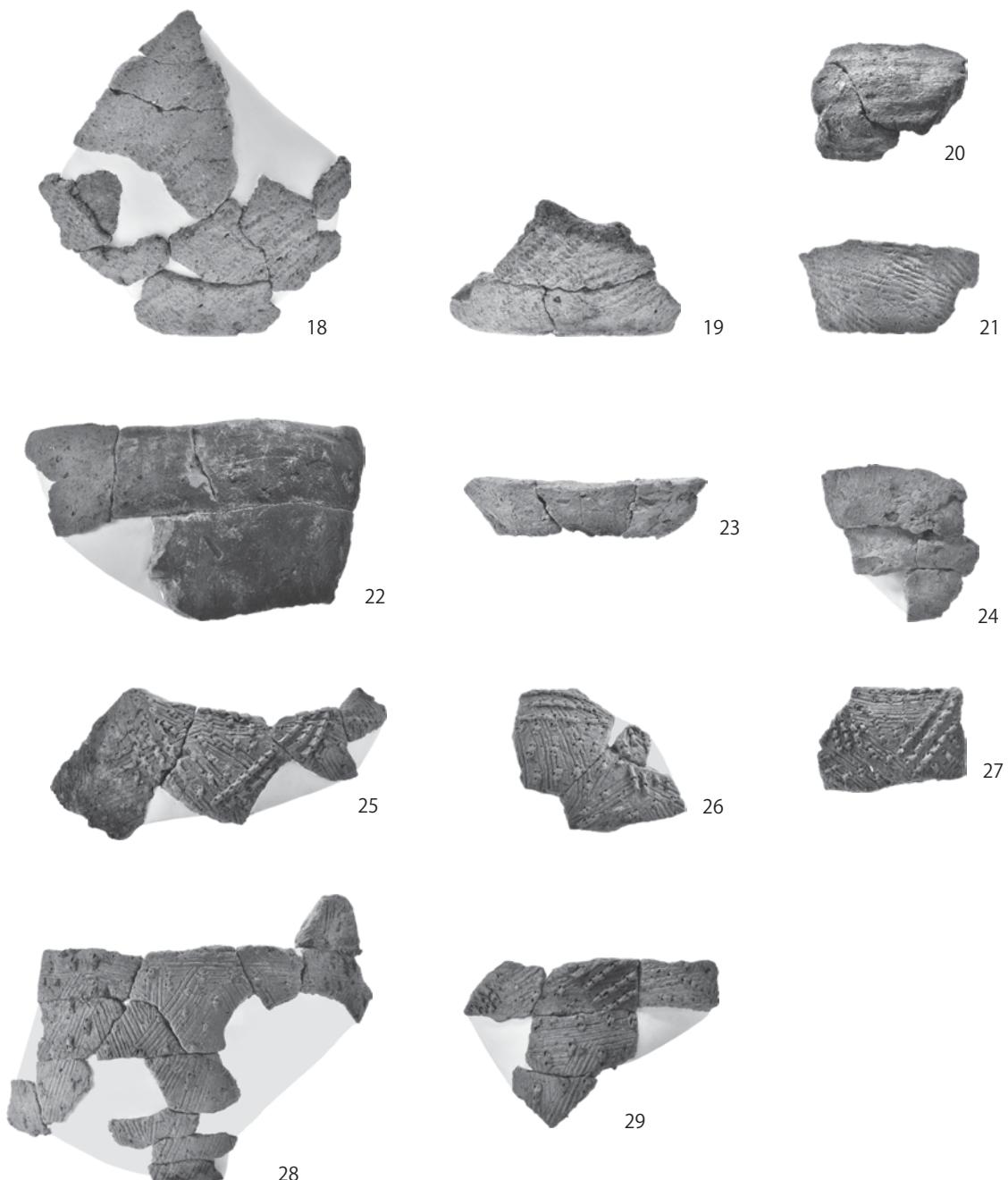
第 67 図 縄文時代遺構外出土遺物 (1) 写真

長橿円形の区画が施され、区画内には隆帯に沿って角押文が見られる。64 では区画文の間にこぶ状の突起が付加され、65 では区画どうしを逆 U 字状の隆帯でつなげている。66 は隆帯による区画が施され、67 では角押文が横位にめぐる。64～67 は同一個体であり、胎土に含まれている金雲母が特徴的である。68 は頸部から胴部の破片で、縦位の沈線と角押文が施文されている。69 は頸部の破片で、横位の隆帯により口縁部を区画し、その上部に横位と縦位に角押文が施されている。70 は胴部破片であり、ヒダ状の接合痕が顕著に残る。57～70 は、胎土や文様等から勝坂 1 式とした。

71 は単節 LR 縄文を地文として、口縁部に波状沈線と、その直下に沈線による円形文が見られる。



第 68 図 繩文時代遺構外出土遺物 (2)(1/3)



第69図 繩文時代遺構外出土遺物(2)写真

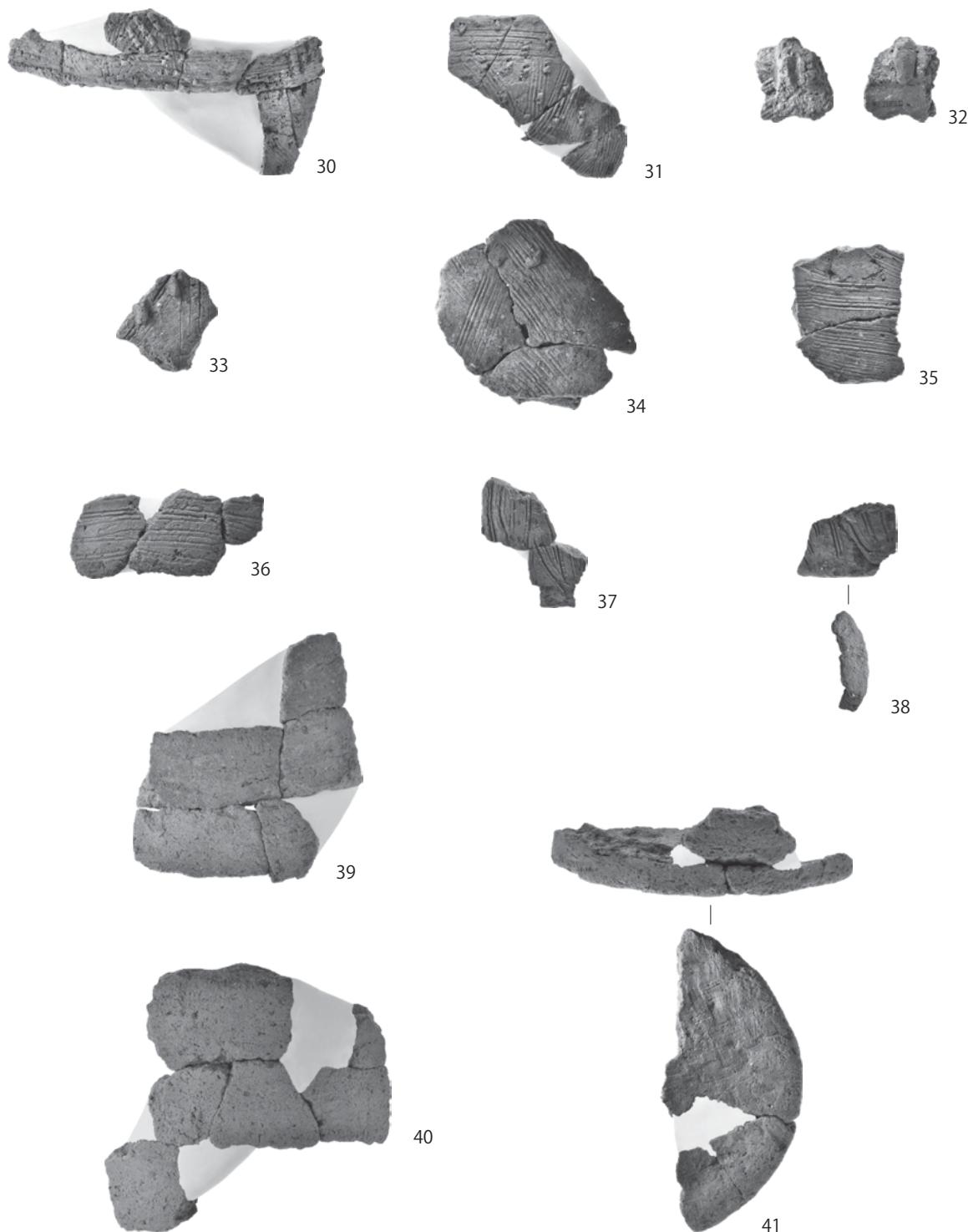
72は口縁部が内湾する器形を呈する。口縁部から頸部にかけて、曲線状の隆帯区画文が施文され、その内部は沈線と棒状工具による刺突で充填されている。73は隆帯による文様である。74はペン先状工具による三角押文と半截竹管による爪形文が並行して施文されている。75は隆帯の周囲にキャタピラー文がめぐり、その周りに鋸歯状の沈線が施されている。71～75は勝坂2式である。

76は撚糸文Lが施文された胴部破片である。加曾利E1式に比定されよう。77の口縁部文様帶は、隆帯と沈線による区画が施され、地文には単節RL繩文が用いられている。78は円筒状の突起が付帶する口縁部で、突起上部がやや窪んでいる。無節R繩文を地文として、2本一対の沈線による矩



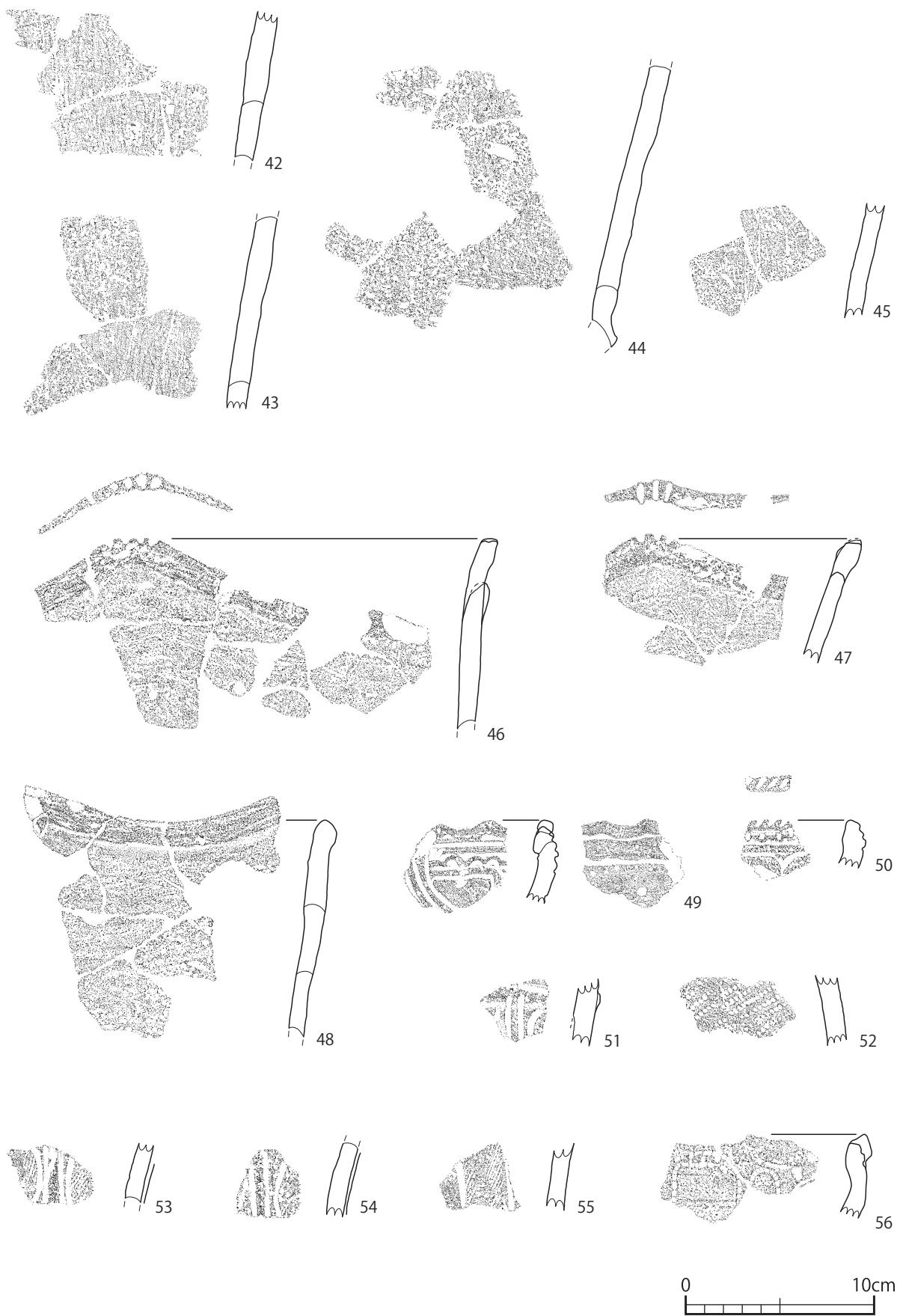
第 70 図 縄文時代遺構外出土遺物 (3)(1/3)

形あるいは逆 U 字状の区画が施されている。第 76・77 図 79・80 は口縁部文様帯が消失した段階の土器で、口縁部直下から胴部文様が展開している。無節 R 縄文を地文として、2 本沈線による逆 U 字状の区画が見られる。これらは同一個体であるが、施文や調整等の特徴から第 74・75 図 78 も同

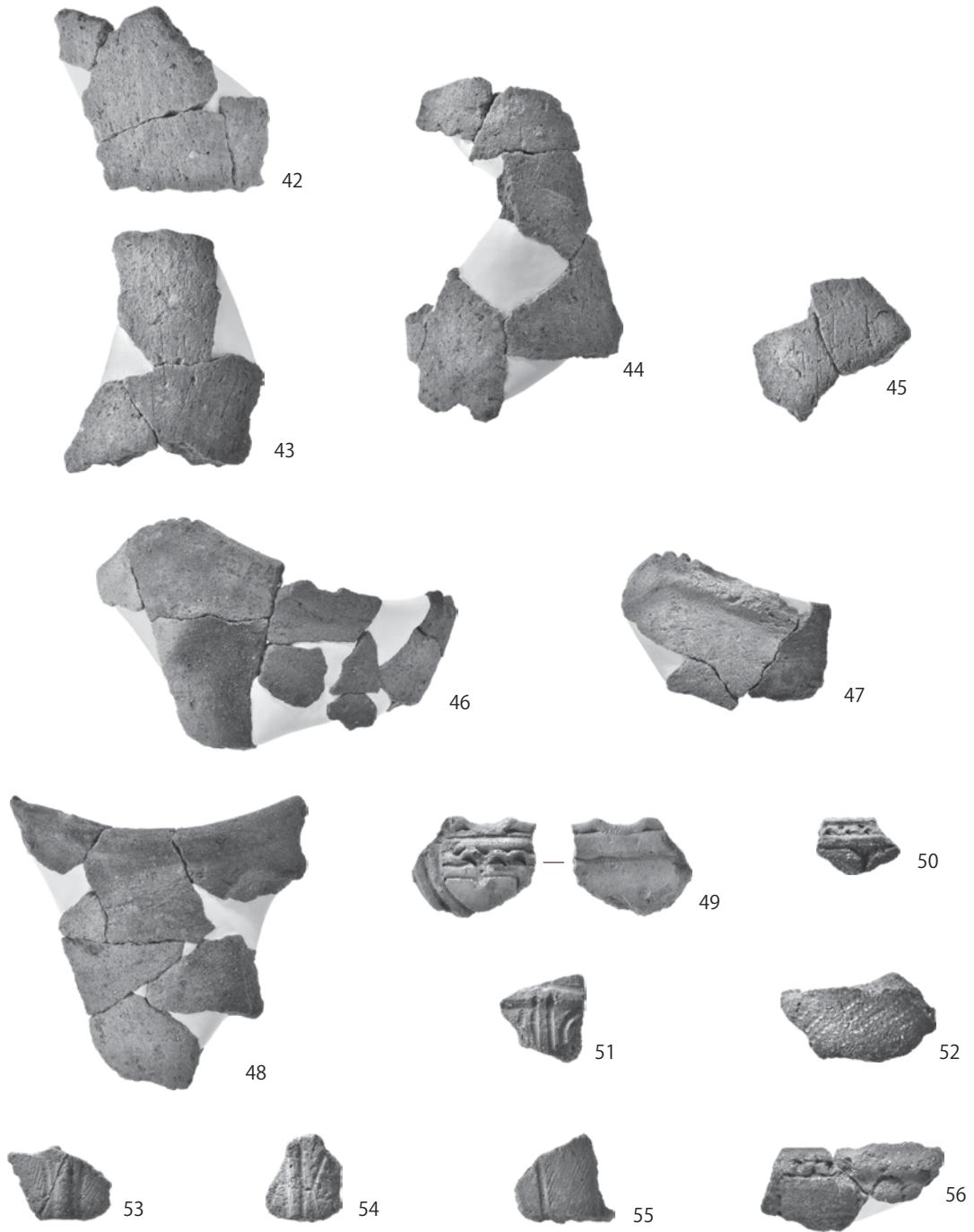


第 71 図 繩文時代遺構外出土遺物 (3) 写真

一個体の可能性が考えられる。81～83 も口縁部文様帯が消失した段階の土器である。地文は単節 RL 繩文で、口縁部では横方向に、胴部では縦方向に施文されている。逆 U 字状の無文帯と蛇行沈線とが交互に配置されており、82 では蕨手状の沈線も認められる。84・85 はいずれも単節 LR 繩文を地文とし、沈線が垂下する文様である。84 には粗い繩文が用いられており、同様の繩文が施文され



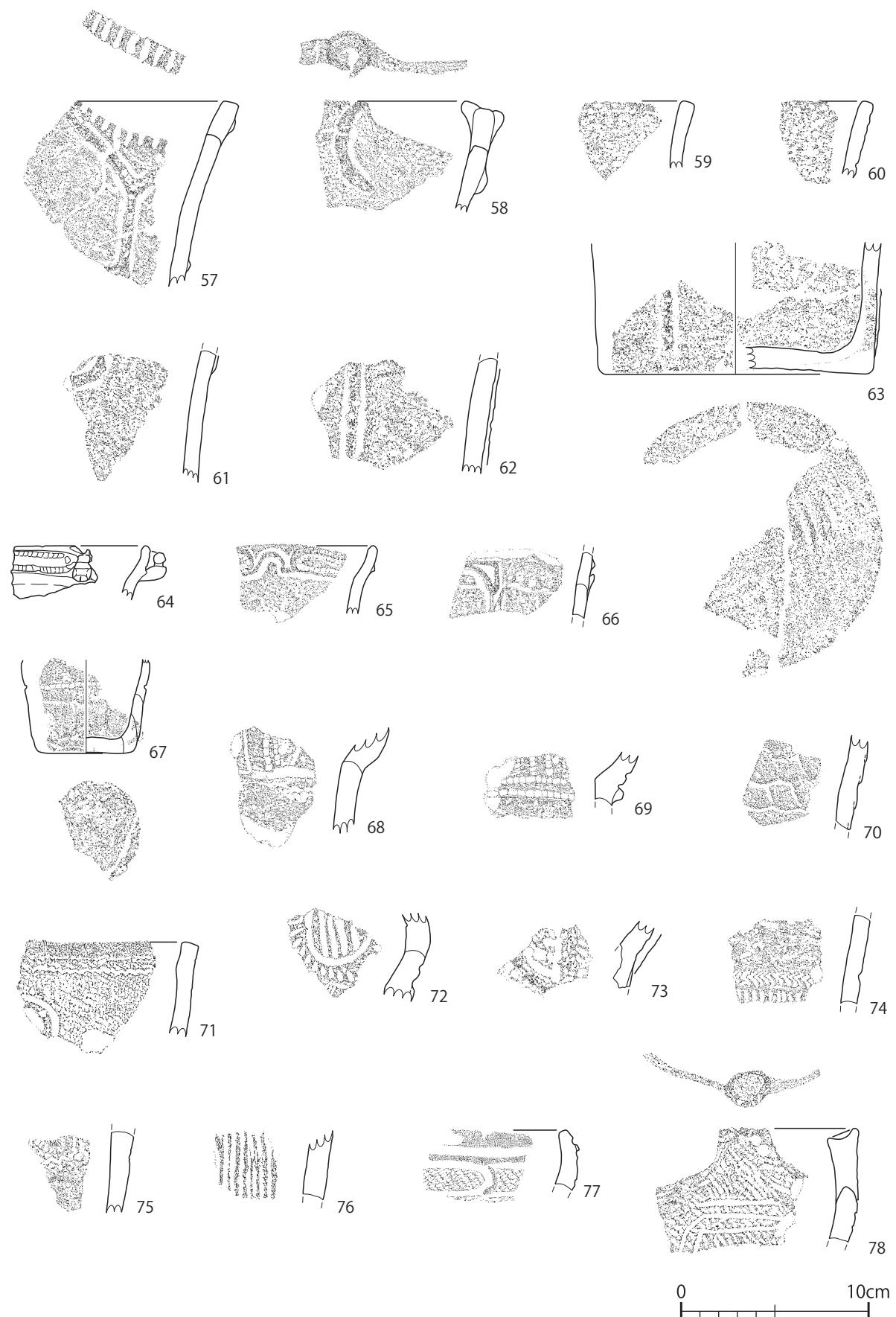
第72図 繩文時代遺構外出土遺物(4)(1/3)



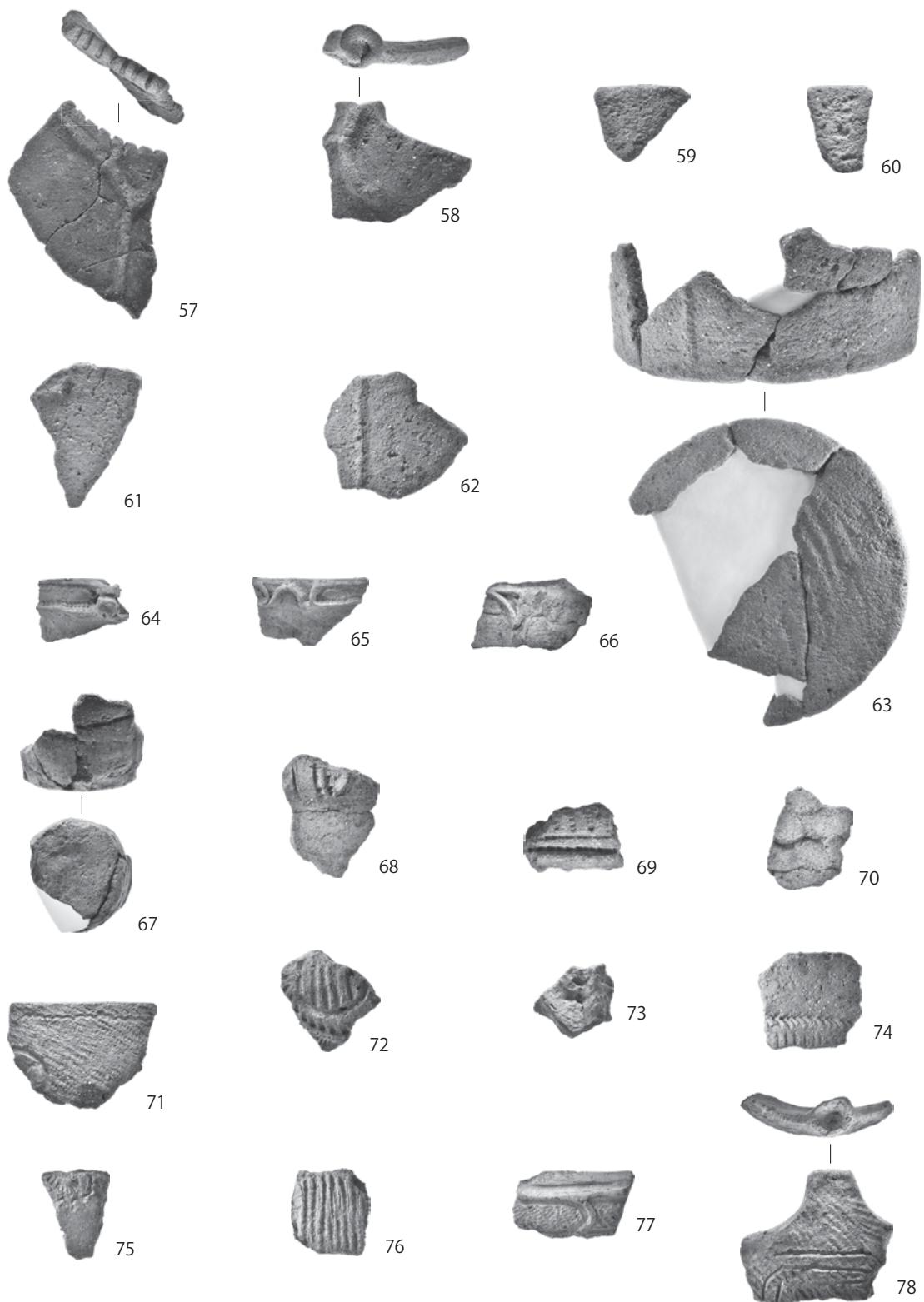
第73図 縄文時代遺構外出土遺物(4)写真

た破片は見つかっていない。77～85は加曾利E3式である。

86～90は同一個体で、波状口縁の深鉢である。口唇部は微隆帯により肥厚させ、87には橋状把手が付くと想定される。細沈線による区画文が施され、その内部には単節LR縄文の充填文が見られる。86～90は加曾利E4式に比定される。91・92は隆帯による区画が施されている。93は微隆起線文による区画が施文されている。94は浅鉢の肩部で、隆帯と沈線による横位の区画が見られ、区内は縦位の条線で充填されている。91～94は加曾利E2～3式とした。



第74図 繩文時代遺構外出土遺物(5)(1/3)

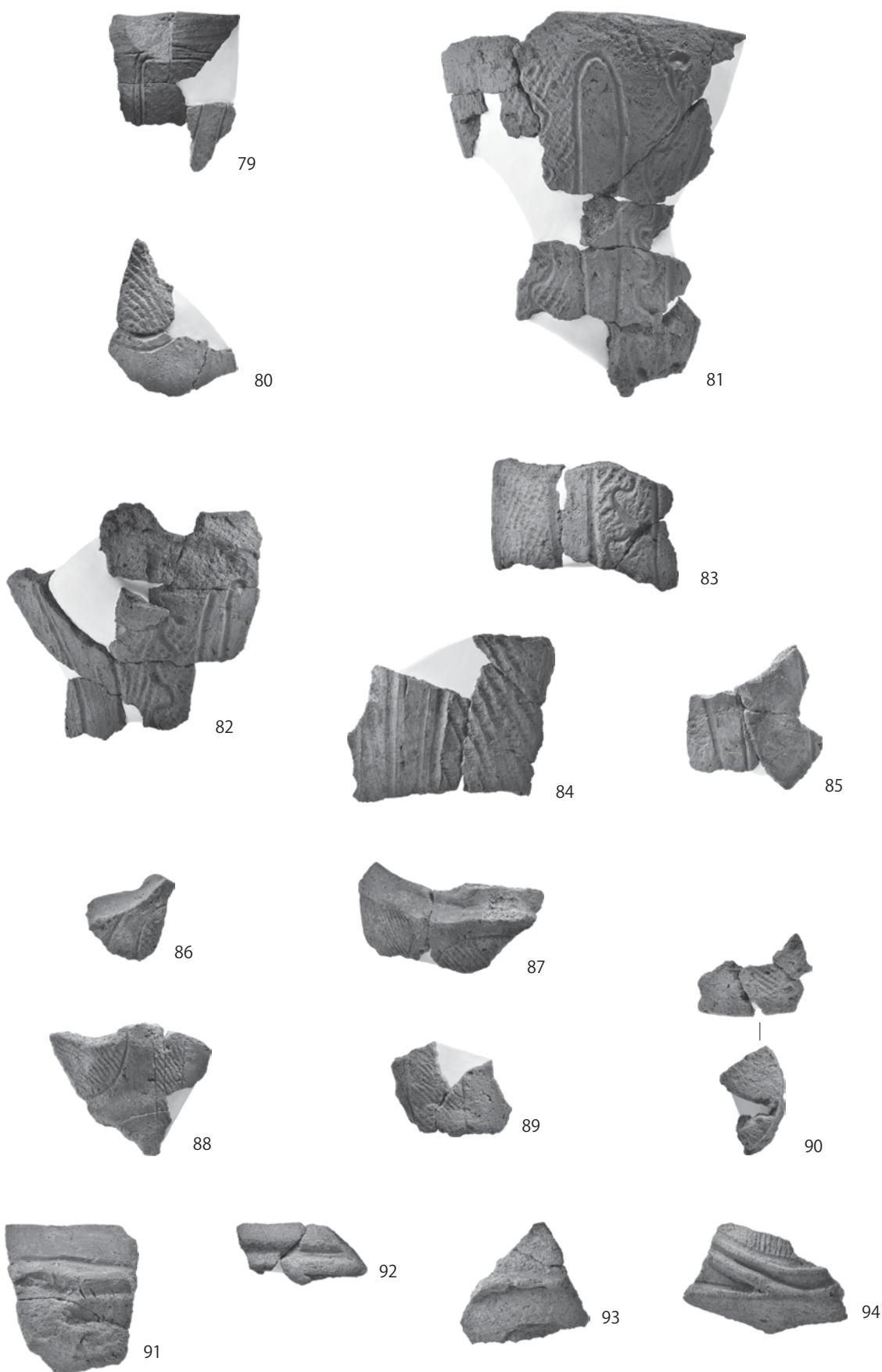


第 75 図 繩文時代遺構外出土遺物 (5) 写真

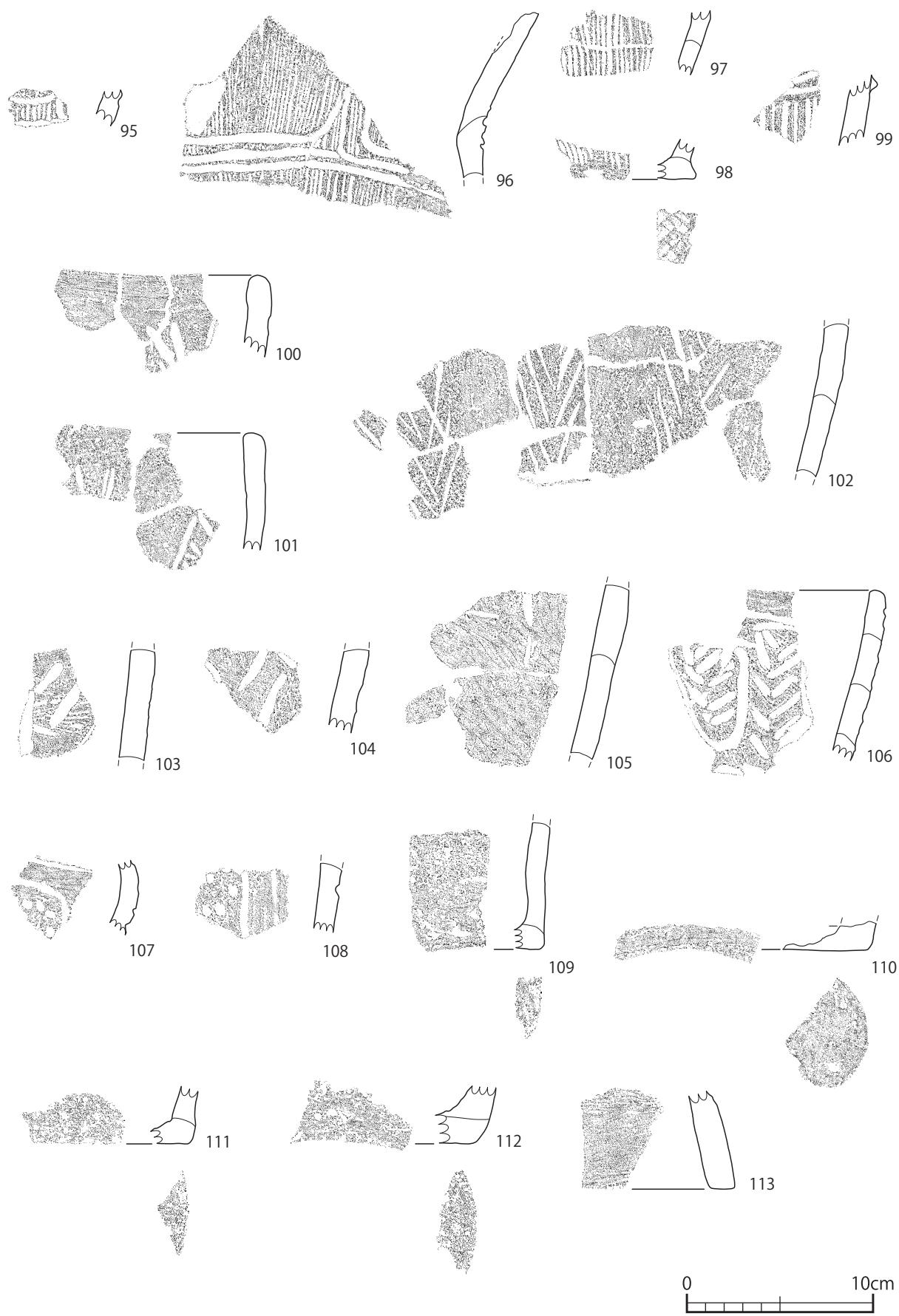
第 78・79 図 95・96 は加曾利 E 式併行の連弧文土器で、いずれも条線を地文として、太めの沈線による区画文が施されている。



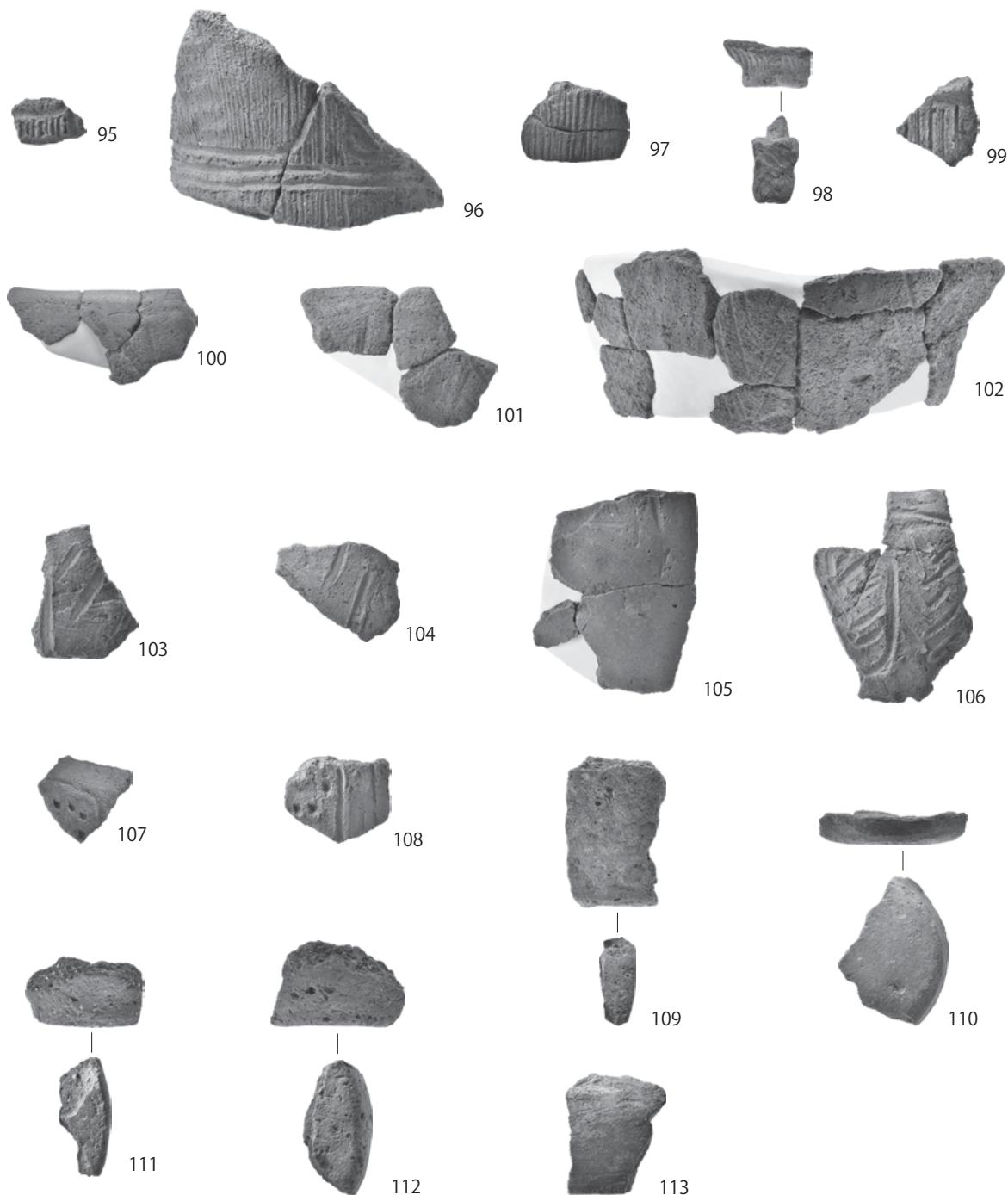
第 76 図 繩文時代遺構外出土遺物 (6)(1/3)



第 77 図 繩文時代遺構外出土遺物 (6) 写真

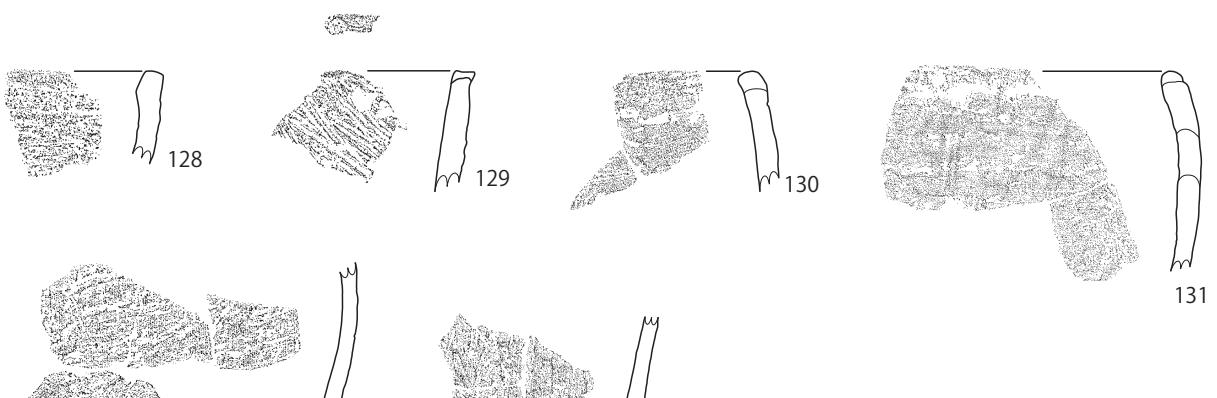
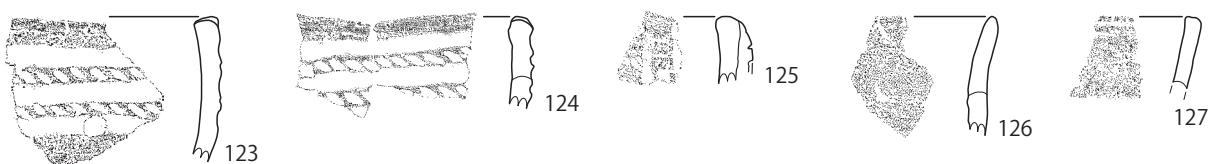
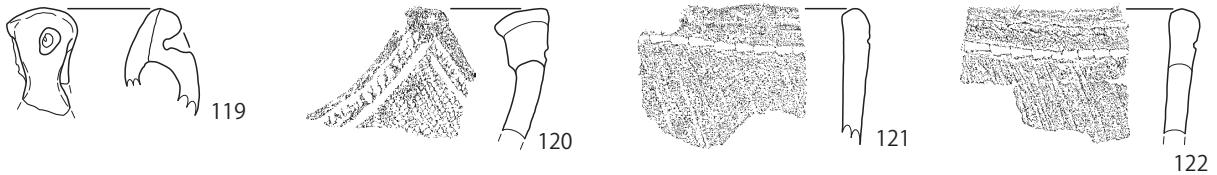
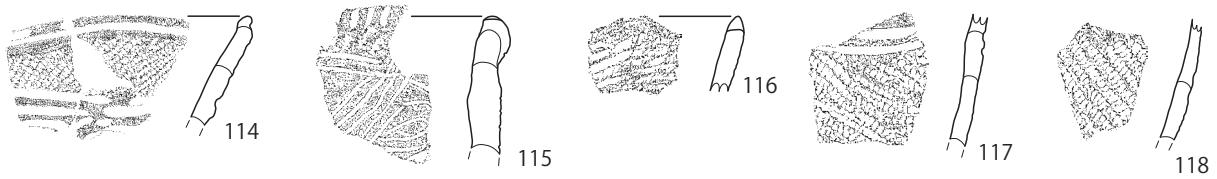


第78図 繩文時代遺構外出土遺物(7)(1/3)

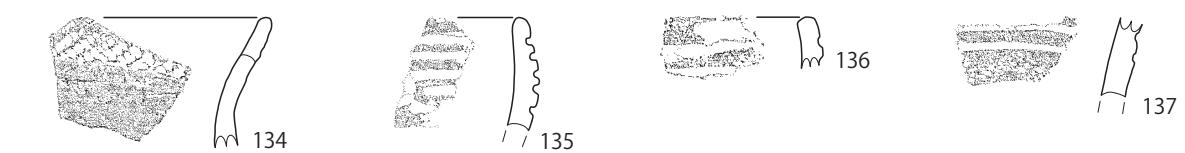


第79図 縄文時代遺構外出土遺物(7)写真

97・98は曾利式に分類できよう。いずれも、縦位の条線が施文されている。98の底部には網代痕が残る。99は横位の隆帯と半截竹管を用いた縦位の沈線による施文で、曾利II式とした。100～102は胎土や文様等から同一個体と判断した。また、これらと同一個体の破片がSS15出土遺物にも含まれている（第33図1）。SS15出土の破片も含めると、この土器は口縁部文様帯が消失した段階であり、口縁部直下から胴部文様が施文されている。垂下する沈線は見られないようで、綾杉状あるいは斜位の沈線による文様構成と考えられる。103～105は斜位の短い沈線による文様が認められ

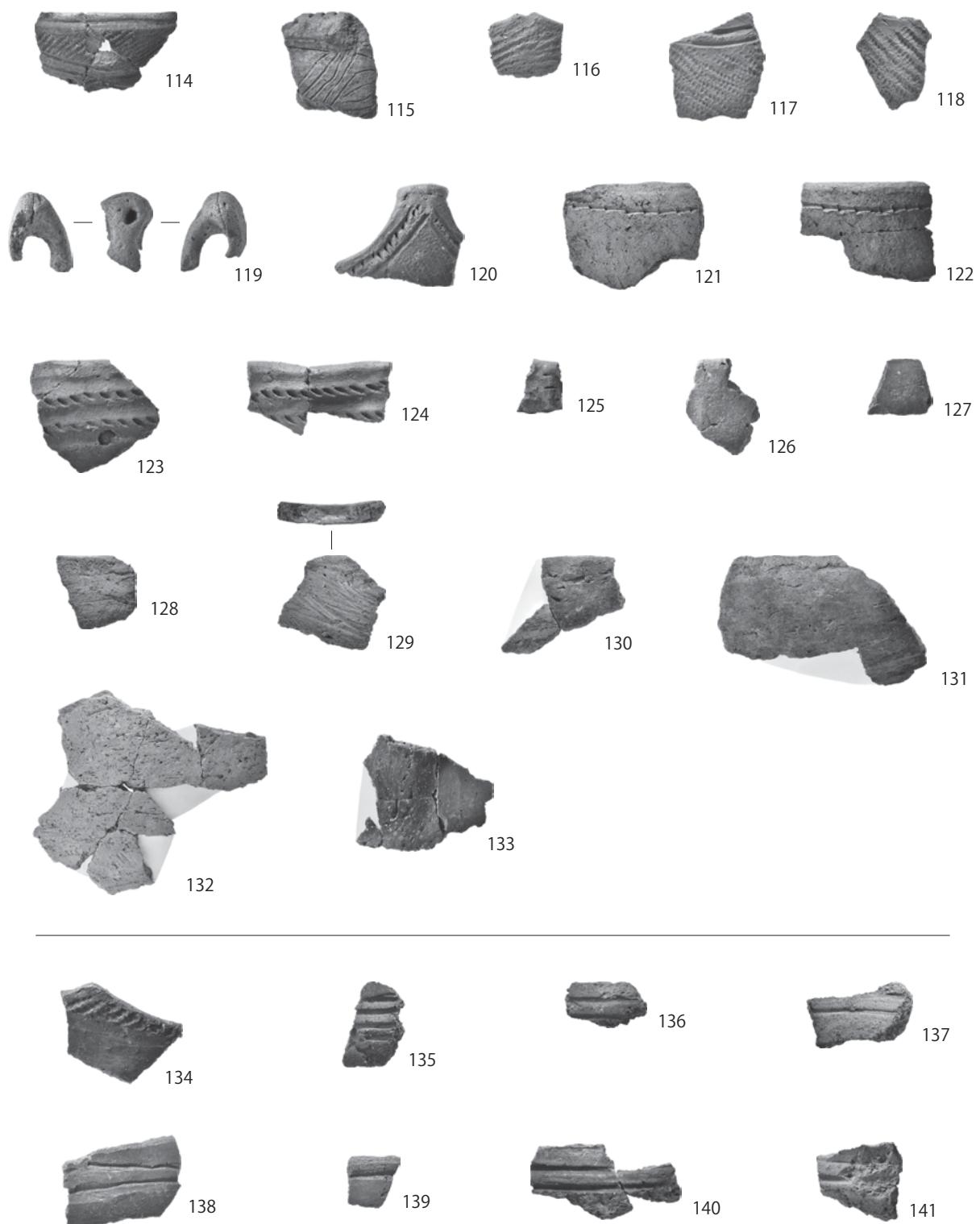


0 10cm



0 5cm

第80図 繩文時代遺構外出土遺物(8)(1/3・1/2)



第81図 繩文時代遺構外出土遺物(8)写真

る。105では沈線が破片上部のみに見られることから、底部に近い破片だと考えられる。なお、103～105とSS15出土の第33図2は同一個体である。106は口縁部付近に横位の沈線がめぐり、沈線による区画内外に「ハ」の字状の短沈線が充填されている。107・108は沈線区画の内部に刺突が施

されている。これらは同一個体と考えられる。100～108は曾利IV～V式である。

109～112は中期に帰属するであろう土器の胴下部から底部破片である。文様が見られず、型式の特定は難しいが、111は胎土に石英が含まれている特徴から、中期前半の土器と考えられる。113は、形状から器台の脚部と判断した。外面に施文は見られず、調整痕のみが認められる。

#### 後期の土器

第80・81図114～119は後期前半の堀之内式、120は後期後半の加曾利B式、121・122は後期後半の曾谷～安行1式併行、123～125は後期後半の粗製土器である。126～133は後期の土器ではあるが、型式は不明である。

第80・81図114は沈線による横位の区画が施され、区画内には単節LR縄文が充填される。115は口縁部を隆帯で肥厚させ、口唇部には棒状工具による刻みが施されている。隆帯の下には沈線による重三角文が認められる。116は波状口縁の口縁部で、外面には無節Lが施文されている。117は並行する2本の沈線と、その下方に単節LR縄文が認められる。118にも単節LRが施文されている。第80・81図114～118は堀之内1式とした。

119は注口土器の把手部分である。把手の外側には、竹管のような工具による深い刺突がみられる。把手部分の形状等から、堀之内1～2式と判断した。

120は加曾利B式の波状を呈する口縁部で、波頂部には円形の突起が張り付けられている。口縁部に沿って、連続する刺突と沈線による山形の区画が設けられ、内部は単節LR縄文が充填されている。121・122は同一個体で、いずれも縦位のナデののち、口縁部直下に横位に連続する刺突が施されている。刺突の幅は、0.6～1cm程度である。これらは、曾谷式～安行1式の粗製土器と考えられる。

123・124は竹管あるいは指等で幅広の沈線を多条に引き、わずかに隆起した部分に棒状工具による刻みが施されている。125は口縁部から垂下する隆帯に刻みが施されている。123～125は後期後半の粗製土器で、いずれも同一個体である。

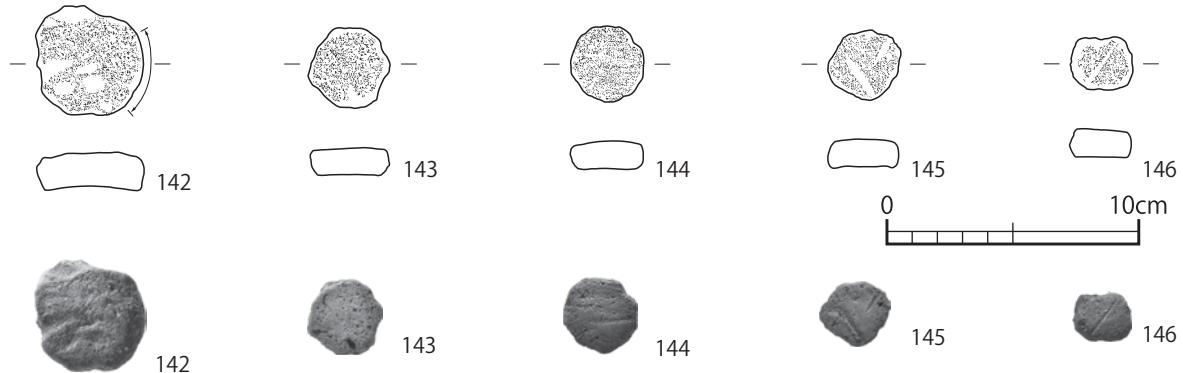
126～128はいずれも無文の粗製土器である。129は口唇部の一部を押捺し、平坦な面がつくり出されている。外面には条線状の調整痕が認められる。130・131は同一個体と考えられ、外面は無文だが、横位のミガキが施されている。132・133は同一個体の胴部破片である。いずれも無文で、横位のケズリや縦位のミガキといった調整痕のみが認められる。126～133は型式不明である。

#### 晩期の土器

第80・81図134は晩期前半の安行3a～3b式併行、135～145は晩期後半の大洞A式・A'式併行の一群である。134は波状口縁の鉢で、波頂部が2つ連続する形状と想定される。口縁部に沿って単節LR縄文が横位に施文されている。135～145はいずれも鉢の口縁部あるいは体部の破片で、沈線による工字文ないしは変形工字文が描出されていると考えられる。いずれも細片であり、具体的な文様構成は不明である。137では沈線の下方に単節LR縄文が横位に施文されている。135や137のように、外面に赤色顔料が付着している破片も含まれている。

#### B 土製品（第82図、第13表）

遺構外から5点、67.4gの土製品が出土した。いずれも深鉢胴部破片を打ち割り、研磨し、加工した土製円盤である。形状は142～145が円形を呈し、146のみ隅丸長方形に近い。142の側面の一



第 82 図 繩文時代遺構外出土遺物 (9)(1/3)・写真

部には明瞭な研磨痕が認められるが、それ以外はあまり研磨していないようである。

### C 石器（第 83～94 図、第 14 表）

遺構外から出土した石器は 106 点を数え、総重量は 22,857.4g である。器種別の内訳は、石鏸 8 点 6.7g、石匙 2 点 23.2g、石核 2 点 621.5g、打製石斧 24 点 3,132.6g、敲石 7 点 2,872.7g、磨石 7 点 3,259.2g、石皿 5 点 8,593.6g、台石 1 点 3,083g、二次加工剥片 2 点 4.9g、剥片 47 点 1,259.8g である。石器として用いられた石材では、黒曜石をはじめ、砂岩やホルンフェルス、チャート、変質安山岩、閃綠岩、斑レイ岩等が見られる。

第 83・84 図 1～8 は石鏸である。いずれも無茎である。7 のような小形のものから 5 のように大形のものまで、サイズにはばらつきがある。6 のように基部の抉りが深い形態も含まれている。4・6 は平面形態から、早期前半に帰属する可能性が高い。石材は黒曜石が多く、次いでチャートが多い。7・8 は未製品と判断した。

9・10 は石匙である。9 は細粒緑色凝灰岩の横長剥片を用いているが、刃部の調整加工が不十分のようであり、未製品の可能性がある。10 も横長剥片が用いられているが、基部や刃部の大半を欠損している。

11・12 は石核である。11 は黒曜石、12 はチャートの大形の残核である。いずれも打面を移しながら打点の角度を変え、剥片石器の素材を割り出したと推察される。

第 85・86 図 13～第 87・88 図 24 は打製石斧である。使用された石材はホルンフェルスが多いが、砂岩や細粒緑色凝灰岩、変質安山岩、変質玄武岩、珪質粘板岩等多様である。平面形態で分類すると、13～20 が短冊形、第 87・88 図 21・22 が撥形、23・24 が分銅形である。13・14・18・20 は、柄の装着用と想定される敲打痕が両側縁に認められる。また、16 は右側縁の一部に使用により生じたと思われる摩耗痕が見られる。

25～第 89・90 図 31 は敲石である。26・27・29～31 は礫の端部や側縁の一部に敲打痕があるので、25・28 は片面、あるいは両面に敲打痕が見られる。特に 28 はよく使用されたようで、凹状に窪んでいる。用いられた石材は全て砂岩である。

32～第 91・92 図 38 は磨石である。磨石とした石器の中には敲打痕があるものも含まれているが、主たる痕跡を考え、分類した。32・33・34・36～38 のように、広範囲に摩耗痕が認められるものが多く、特に 33 は上下の端部と左側縁以外に摩耗痕が見られ、摩耗が顕著である。35 は片面のみ

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(1)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第66・67図	1	29P-74・84	III・IV層	縄文土器深鉢	早期前半	夏島式～稻荷台式	撚糸文L、撚糸の条間が細かい。	砂粒・赤褐色粒子・石英	良好	10YR7/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 59.9g
	2	29P-92(SI66)	一	縄文土器深鉢	早期前半	夏島式～稻荷台式	撚糸文R、撚糸の条間が細かい。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR4/2灰黄褐 内面 10YR7/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 41.1g
	3	29P-96	II層	縄文土器深鉢	早期前半	田戸下層式か	横位の沈線。	小礫	良好	外面 7.5YR5/4にぶい褐 内面 7.5YR6/4にぶい橙	胴部破片	重量 19.2g
	4	28Q-61	III層	縄文土器深鉢	早期後半	条痕文	無文、纖維土器。	小礫・砂粒	良好	外面 7.5YR5/6明褐 内面 10YR4/1褐灰	胴部破片	重量 19.1g
	5	27Q-60	III層	縄文土器深鉢	早期後半	条痕文	無文、纖維土器。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 7.5YR5/6明褐 内面 10YR7/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 13.6g
	6	29Q-14	III層	縄文土器深鉢	早期後半	条痕文	無文。	砂粒・石英	良好	10YR7/3にぶい黄橙	胴部破片	重量 11.0g
	7	29Q-4・5・14・15	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	口縁部から胴部にかけて、半截竹管による横位と斜交する平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR5/1褐灰・ 10YR6/2灰黄褐 内面 10YR6.5/3にぶい黄橙	口縁～胴部破片	重量 135.7g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	8	29Q-4・14	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	口縁部に横位の沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/2灰黄褐 内面 10YR6.5/3にぶい黄橙	口縁部破片	重量 33.8g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	9	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	横位の沈線。 波状口縁。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR4/1褐灰 内面 10YR6/3にぶい黄橙	口縁部破片	重量 12.9g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	10	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	半截竹管による横位の平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/2灰黄褐 内面 10YR6/3にぶい黄橙	口縁部破片	重量 24.2g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	11	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	横位の沈線。 波状口縁。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR4/1褐灰 内面 10YR6/3にぶい黄橙	口縁部破片	重量 9.4g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	12	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	地文は単節RL縄文。口縁部から胴部にかけて、半截竹管による横位と斜交する平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR5/1褐灰・ 10YR6/2灰黄褐 内面 10YR6.5/3にぶい黄橙	口縁～胴部破片	重量 223.0g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	13	29Q-6	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	地文は単節RL縄文。半截竹管による横位と斜交する平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR4/1褐灰 内面 10YR6/3にぶい黄橙	胴部破片	重量 16.5g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	14	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	半截竹管による斜交する平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/2灰黄褐 内面 10YR6/3にぶい黄橙	胴部破片	重量 30.0g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。
	15	29Q-4・5	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	半截竹管による斜交する平行沈線、地文は単節RL縄文。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/3にぶい黄橙 内面 10YR7/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 62.5g 第66・67図7～17・第68・69 図18・19は同一個体。

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(2)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第66・67図	16	29Q-5	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	地文は単節RL縄文。半截竹管による横位の平行沈線。	小礫・砂粒・石英	良好	10YR7/5にぶい黄橙	胴部破片	重量 30.1g 第66・67図7~17・ 第68・69図18・19は同一個体。
	17	29Q-4・5	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	単節RL縄文。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR7/3にぶい黄橙 内面 10YR7/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 68.6g 第66・67図7~17・ 第68・69図18・19は同一個体。
第68・69図	18	29Q-4・5	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	単節RL縄文。	小礫・砂粒・石英	良好	10YR7/5にぶい黄橙	胴～底部破片	重量 150.0g 第66・67図7~17・ 第68・69図18・19は同一個体。
	19	29Q-4・5	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	単節RL縄文。	礫・砂粒・石英	良好	10YR7/5にぶい黄橙	底部 1/3	重量 296.8g 第66・67図7~17・ 第68・69図18・19は同一個体。
	20	27R-6	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	口縁部は「く」の字状に屈曲する。 頸部に縄文か。	小礫・砂粒・石英・角閃石	良好	10YR6/4にぶい黄橙	口縁部破片	重量 62.8g
	21	29P-90	—	縄文土器深鉢	前期	諸磯b式	無節R縄文。	砂粒・石英・角閃石	良好	外面 5YR5/4にぶい赤褐 内面 10YR6/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 43.6g
	22	29P-83	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b～c式	無文。内外面に調整痕。	砂粒	良好	5YR5/4にぶい赤褐・7.5YR2/1黒	口縁～胴部破片	重量 171.6g 外面に煤付着。
第70・71図	23	29Q-15・24	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b～c式	無文。輪積み痕が明瞭に残る。	砂粒	良好	5YR6/6橙・10YR6/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 41.5g
	24	29Q-24	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯b～c式	無文。輪積み痕が明瞭に残る。	砂粒	良好	5YR5/6明赤褐	胴部破片	重量 45.3g
	25	28Q-53・63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	口縁部外面に沿って1条の結節浮線文。集合沈線に3条1単位の結節浮線文を山形に配置。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/4にぶい黄橙 内面 7.5YR6/6橙	口縁～胴部破片	重量 67.3g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	26	28Q-53・63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	口縁部外面に沿って1条の結節浮線文。集合沈線に3条1単位の結節浮線文を山形に配置。	小礫・砂粒・石英	良好	7.5YR6/6橙	口縁部破片	重量 40.3g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	27	28Q-63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	口縁部外面に沿って1条の結節浮線文。集合沈線に3条1単位の結節浮線文を山形に配置。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/4にぶい黄橙 内面 7.5YR6/6橙	口縁部破片	重量 33.5g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
第70・71図	28	28Q-53・54・63・64	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	頸部以下は集合沈線に粒状の結節浮線文をランダムに貼付。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/4にぶい黄橙 内面 7.5YR6/6橙	頸～胴部破片	重量 117.2g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	29	28Q-53・63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	頸部以上は集合沈線に3条1単位の結節浮線文、頸部以下は集合沈線に粒状の結節浮線文をランダムに貼付。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 7.5YR6/4にぶい橙 内面 7.5YR6/6橙	頸～胴部破片	重量 53.4g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	30	28Q-63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	頸部以上は集合沈線に3条1単位の結節浮線文、頸部以下は集合沈線に粒状の結節浮線文をランダムに貼付。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 10YR6/4にぶい黄橙 内面 7.5YR6/6橙	頸～胴部破片	重量 84.6g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	31	28Q-62・63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	集合沈線に粒状の結節浮線文をランダムに貼付。	小礫・砂粒・石英	良好	外面 7.5YR6/6橙 内面 10YR6/4にぶい黄橙	胴部破片	重量 42.4g 第68・69図25～29・第70・71図30・31は同一個体。
	32	29Q-31	Ⅲ層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	口縁部内面から外面にかけて折り返すように棒状の隆帯を貼付。 地文は集合沈線。	砂粒・赤褐色粒子	良好	7.5YR5/4にぶい橙	口縁部破片	重量 12.9g
	33	29Q-31	Ⅲ層	縄文土器深鉢		諸磯c式	集合沈線に粒状の浮線文を貼付。	砂粒・石英・赤褐色粒子	良好	7.5YR5.5/6橙	胴部破片	重量 15.5g

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(3)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第70・71図	34	29Q-11	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	集合沈線に粒状の浮線文を貼付。	礫・赤褐色粒子	良好	外面 10YR5/2灰黄褐 内面5YR5.6/6 橙	胴部破片	重量92.4g 第70・71図 34・35は同一個体。
	35	28Q-20・29	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	集合沈線。	礫・赤褐色粒子	良好	外面 10YR5/2灰黄褐 内面5YR5.6/6 橙	胴部破片	重量54.5g 第70・71図 34・35は同一個体。
	36	28Q-54	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	横位の集合沈線。	砂粒・石英	良好	5YR4/4にぶい 赤褐	胴部破片	重量34.4g 第70・71図36 ~38は同一個体。
	37	27R-5・6	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	縦位の集合沈線。	砂粒・石英	良好	外面 5YR4/4にぶい 赤褐 内面 7.5YR3/3暗褐	胴~底部 破片	重量17.2g 第70・71図36 ~38は同一個体。
	38	27R-5	—	縄文土器深鉢	前期	諸磯c式	縦位の集合沈線。	砂粒・石英	良好	外面 5YR4/4にぶい 赤褐 内面 7.5YR3/3暗褐	胴~底部 破片	重量15.6g 第70・71図36 ~38は同一個体。
	39	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、横位のナデ。	小礫・砂粒・ 石英	良好	外面 7.5YR6/6 内面 10YR6/3にぶい 黄橙	胴部破片	重量133.0g 第70・71図39 ~41は同一個体。
	40	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、横位のナデ。	小礫・砂粒・ 石英	良好	外面 7.5YR6/6 内面 10YR6/3にぶい 黄橙	胴部破片	重量135.4g 第70・71図39 ~41は同一個体。
	41	28Q-44・53	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、横位のナデ。底部の網代痕。 網代は縦と横で幅が異なる素材 を使用、2本潜り1本越え。	小礫・砂粒・ 石英	良好	外面 7.5YR6/6 内面 10YR5/1 褐灰	底部1/2	重量178.1g 第70・71図39 ~41は同一個体。
	42	28Q-43・44・54	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、調整痕。	礫・砂粒	良好	外面 7.5YR5/5にぶい 褐 内面 7.5YR4/4 褐	胴部破片	重量98.4g 第72・73図42 ~44は同一個体。
第72・73図	43	28Q-53・54	III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、調整痕。	砂粒	良好	外面 7.5YR5/5にぶい 褐 内面 7.5YR4/4 褐	胴部破片	重量100.7g 第72・73図42 ~44は同一個体。
	44	28Q-24・44・53・54	II・III層	縄文土器深鉢	前期	諸磯式	無文、調整痕。	小礫・砂粒	良好	外面 7.5YR5/5にぶい 褐 内面 7.5YR4/4 褐	胴部破片	重量136.8g 第72・73図42 ~44は同一個体。
	45	29Q-11・31	III層	縄文土器深鉢	前期後半		無文、調整痕。	砂粒・石英	良好	外面 5YR4/4にぶい 赤褐 内面 5YR5/4にぶい 赤褐	胴部破片	重量35.4g
	46	28Q-44・53・54・ SI63	II・III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台II式	波状口縁、波頂部に4つの刻み 外面は無文、内面は横位のナデ。	砂粒・白色粒子	良好	10YR5/3にぶい 黄褐・7.5YR4/4 褐	口縁~胴部 破片	重量166.4g 第72・73図46 ~48は同一個体。
	47	28Q-36・44・ SI64	II・III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台II式	波状口縁、波頂部に3つの刻み 外面は口縁部直下に無節R縄文。 内面は横位のナデ。	砂粒・白色粒子	良好	7.5YR5/5にぶい 褐・7.5YR3/1 黒葛	口縁~胴部 破片	重量63.8g 第72・73図46 ~48は同一個体。
	48	28Q-44・54	II・III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台II式	波状口縁。外面は無文、内面は 横位のナデ。	砂粒・白色粒子	良好	7.5YR4/2		重量154.1g 第72・73図46 ~48は同一個体。
	49	28Q-16	III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	口唇部に波状の隆帯を貼付。半 截竹管による曲線状の沈線に、 半截竹管による刺突。	砂粒	良好	外面 5YR5/6明赤褐 内面 7.5YR4/4 褐	口縁部破 片	重量28.3g
	50	27Q-70	III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	口唇部に棒状工具による刻み。 隆帯と交互刺突による施文。	砂粒・石英・ 金雲母	良好	10YR4.5/3にぶい 黄褐	口縁部破 片	重量11.7g 胎土の粒子が粗 い。
	51	27Q-92	II層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	横位の隆帯と縦位の沈線。	砂粒・石英・ 金雲母	良好	外面 10YR3/2黒褐 内面 7.5YR4/4 褐	胴部破片	重量15.5g 胎土の粒子が粗 い。

第13表 繩文時代遺構外出土土器観察表(4)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第72・73図	52	29Q-22	II層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	単節LR縄文。	砂粒・石英・金雲母	良好	10YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 30.3g
	53	28Q-48	III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	隆帯と沈線による区画、区画内に縄文。	砂粒・白色粒子・金雲母	良好	外面 5YR4/6 赤褐 内面 7.5YR4/3 褐	胴部破片	重量13.7g 胎土の粒子が粗い。 第72・73図53・54は同一個体。
	54	28Q-10	III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	隆帯と沈線による区画、区画内に縄文。	砂粒・白色粒子・金雲母	良好	外面 5YR4/6 赤褐 内面 7.5YR4/3 褐	胴部破片	重量14.5g 胎土の粒子が粗い。 第72・73図53・54は同一個体。
	55	29P-95	III層	縄文土器深鉢	前期	五領ヶ台式	縦位の沈線による区画、区画内に無節R縄文。	砂粒・金雲母	良好	外面 5YR4/6 赤褐 内面 10YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 16.0g 胎土の粒子が粗い。
	56	28Q35・SI64	III層	縄文土器深鉢	前期	阿玉台Ia～Ib式	口唇部に隆帯を貼付、角押文。	砂粒・石英・金雲母	良好	7.5YR4/3.5 褐	口縁部破片	重量 35.5g 胎土の粒子が粗い。
	57	28Q-57	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	波状口縁、口唇部に棒状工具による刻み。Y字状の隆帯文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	7.5YR4/3 褐	口縁～胴部破片	重量 63.5g 第74・75図57～63は同一個体。
第74・75図	58	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	波状口縁、波頂部に渦巻き状の突起とそれから垂下する隆帯。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 7.5YR4/2 灰褐	口縁部破片	重量 43.2g 第74・75図57～63は同一個体。
	59	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	無文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 10YR4/4 褐	口縁部破片	重量 13.3g 第74・75図57～63は同一個体。
	60	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	無文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 10YR4/4 褐	口縁部破片	重量 12.1g 第74・75図57～63は同一個体。
	61	28Q-54	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	隆帯による円形文、それ以外は無文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 10YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 31.0g 第74・75図57～63は同一個体。
	62	28Q-44	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	縦位の隆帯、それ以外は無文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 10YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 52.4g 第74・75図57～63は同一個体。
	63	28Q-44・54・SI64	II・III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	縦位の隆帯、それ以外は無文。底部外面には調整痕。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 10YR3/2 黒褐	底部2/3	重量 335.9g 第74・75図57～63は同一個体。
第76・77図	64	28Q-44	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	隆帯による楕円区画、区画に沿つて角押文を施す。	砂粒・石英	良好	外面 10YR5/4 にぶい黄褐 内面 10YR3/1 黑褐	口縁部破片	重量 11.0g
	65	28Q-34	II層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	隆帯による楕円区画、区画に沿つて角押文を施す。	砂粒・石英	良好	10YR5/4 にぶい黄褐	口縁部破片	重量 15.6g
	66	28Q-73	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	隆帯による区画文。	砂粒・石英	良好	10YR5/4 にぶい黄褐	胴部破片	重量 16.2g
	67	29P-84	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	横位の角押文。	砂粒・角閃石・赤褐色粒子	良好	底部外面 10YR5/4 にぶい黄褐 それ以外 10YR4/1 褐灰	胴～底部2/3	重量 45.1g
	68	29Q-17	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	縦位の沈線と角押文。	砂粒・石英・白色粒子・金雲母	良好	5YR5/5 にぶい赤褐	頸～胴部破片	重量 38.2g
	69	28Q-24	—	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	横位と縦位の角押文、横位の隆帯。	砂粒・石英	良好	外面 10YR5/2 灰黃褐 内面 10YR4/1 褐灰	頸～胴部破片	重量 26.5g
	70	28Q-61	—	縄文土器深鉢	中期	勝坂1式	ヒダ状の接合痕が明瞭に残る。	砂粒・赤褐色粒子	良好	10YR6/4 にぶい黃橙	胴部破片	重量 20.1g
第78・79図	71	27Q-94	III層	縄文土器深鉢	中期	勝坂2式	単節LR縄文に波状沈線と沈線による円形文。	砂粒・石英・角閃石	良好	外面 5YR4/4 にぶい赤褐 内面 7.5YR4/3 褐	口縁部破片	重量 46.0g

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(5)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第74・75図	72	29P-69	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	勝坂2式	口縁部が内湾する器形。隆帯区画文内を沈線と棒状工区による刺突を施す。	砂粒・赤褐色粒子	良好	10YR5/3にぶい 黄褐	口縁部破片	重量 24.8g
	73	29P-86	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	勝坂2式	縦位の隆帯。	砂粒・赤褐色粒子	良好	5YR4/4にぶい 赤褐	胴部破片	重量 15.8g
	74	29P-57	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	勝坂2式	ベン先状工具による三角押文と爪形文を横位に施す。	砂粒・石英・金雲母	良好	外面 5YR4/4にぶい 赤褐 内面 7.5YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 29.5g
	75	28Q-61	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	勝坂2式	隆帯とその周間にキャタピラー文、鋸歯状の沈線。	砂粒・石英	良好	外面 5YR4/4にぶい 赤褐 内面 7.5YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 15.7g
	76	28Q-44	Ⅱ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E1式	撚糸文L。	砂粒・白色粒子	良好	外面 10YR7/6 明黄褐 断面 10YR4/1 褐灰	胴部破片	重量 20.3g
	77	28Q-64	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	沈線と隆帯による横位の区画、地文は単節RL縄文。	小礫・砂粒・石英	良好	10YR7/4にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 21.0g
	78	28Q-42	—	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	波状口縁、波頂部に突起。無節R縄文の地文に沈線による矩形の区画。	砂粒	良好	外面 10YR5/3にぶい 黄褐 内面 7.5YR6/6 橙	口縁部破片	重量 55.2g 第74・75図 79・80と同一個体の可能性あり。
	79	28Q-32・33・42・52	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は無節R縄文、沈線による矩形の区画。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 7.5YR5.5/6 橙	口縁部破片	重量 39.7g 第74・75図78・76・77図80と同一個体の可能性あり。
第76・77図	80	28Q-53・63	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は無節R縄文、沈線による曲線状の区画。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 10YR7/4にぶい 黄橙 内面 5YR6/6 橙	胴部破片	重量 27.8g 第74・75図 78・第76・77図79と同一個体の可能性あり。
	81	29P-49・58・59・68	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は単節RL縄文、沈線による逆U字状の無文帯と蛇行沈線を交互に配置。	小礫・砂粒・白色粒子	良好	5YR5/6明赤褐	口縁～胴部破片	重量 252.9g
	82	29P-59・68・69・71	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は単節RL縄文、沈線による逆U字状の無文帯と蛇行沈線を交互に配置、無文帯の中に蕨手文を施す。	礫・砂粒	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 5YR6/6 橙・ 10YR6/3にぶい 黄橙	口縁～胴部破片	重量 161.9g
	83	29P-60・30P-81	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は単節RL縄文、沈線による無文帯と蛇行沈線を配置。	礫・砂粒・石英・白色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR5/3にぶい 黄褐	胴部破片	重量 76.4g
	84	28Q-38・48(SK195)	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は単節LR縄文、非常に粗い縄文。沈線による縦位の区画。	小礫・砂粒	良好	外面 5YR5/6明赤褐 内面 7.5YR4/2 褐灰	胴部破片	重量 94.9g
	85	28Q-62	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E3式	地文は単節LR縄文、沈線による縦位の区画。	砂粒・赤褐色粒子	良好	7.5YR6/6 橙・ 10YR3/2 黒褐	胴部破片	重量 33.9g
	86	29P-84	—	縄文土器深鉢	中期	加曾利E4式	波状口縁、口唇部に微隆帯を貼付。沈線による区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	10YR6.5/4にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 15.9g
	87	28Q-46・55(SI58)	Ⅲ層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E4式	波状口縁、橋状把手を欠損。口唇部に微隆帯を貼付。沈線による区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	10YR6.5/4にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 39.4g
	88	28Q-56	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E4式	沈線による区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR7/4にぶい 黄橙	胴部破片	重量 34.7g
	89	28Q-55	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E4式	沈線による区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR7/4にぶい 黄橙	胴部破片	重量 21.1g

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(6)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第76・77図	90	28Q-55	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E4式	単節LR縄文。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR7/4 にぶい 黄橙	胴～底部 破片	重量 28.3g
	91	29P-73	III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E2-3式	隆帶による横位の区画。	砂粒	良好	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 80.8g
	92	29P-68	II・III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E2-3式	隆帶による横位の区画。	小礫・砂粒	良好	内外面 7.5YR6/6 橙 断面 2.5Y5/2 暗灰黄	口縁部破片	重量 23.6g
	93	29Q-3	III層	縄文土器深鉢	中期	加曾利E2-3式	微隆起線による横位の区画。	小礫・砂粒・赤褐色粒子	良好	7.5YR6/4 にぶい 橙	口縁部破片	重量 39.2g
	94	28Q-48	III層	縄文土器浅鉢	中期	加曾利E2式	隆帶と沈線による横位の区画、区画内に条線を充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	10YR7/4 にぶい 黄橙	肩部破片	重量 70.9g
第78・79図	95	29P-79	III層	縄文土器深鉢	中期	連弧文	地文は条線、沈線による区画文。	砂粒	良好	外面 5YR5/5 明赤褐 内面 10YR6/6 明赤褐	胴部破片	重量 7.1g
	96	29P-59	III層	縄文土器深鉢	中期	連弧文	地文は条線、沈線による区画文。	砂粒・石英・赤褐色粒子	良好	7.5YR6/4 にぶい 橙	頸～胴部 破片	重量 158.9g
	97	29P-95・29Q-5	II層	縄文土器深鉢	中期	曾利式	縦位の条線。	砂粒・石英・角閃石	やや軟質	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	胴部破片	重量 21.6g
	98	29Q-15	II層	縄文土器深鉢	中期	曾利式	縦位の条線。底部に網代痕。	砂粒・角閃石	やや軟質	2.5Y7/3 浅黄	胴～底部 破片	重量 13.9g
	99	29Q-4	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利Ⅱ式	横位の隆帶に縦位の沈線。	砂粒・赤褐色粒子	良好	内外面 10YR7/4 にぶい 黄橙 断面 2.5Y5/1 黄灰	胴部破片	重量 15.1g
	100	28Q-52	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV式	斜位の短沈線。	小礫・砂粒	良好	10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 46.0g 第33図1・第78・79図100～102と同一個体。
	101	28Q-52・53	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV式	斜位の短沈線。	砂粒・角閃石	良好	10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁～胴部 破片	重量 53.0g 第33図1・第78・79図100～102と同一個体。
	102	28Q-33・52・53	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV式	綾杉状あるいは斜位の短沈線。	砂粒・石英	良好	7.5YR6/4 にぶい 橙・10YR6/4 にぶい 黄橙	胴部破片	重量 243.5g 第33図1・第78・79図100～102と同一個体。
	103	28Q-32	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV～V式	斜位の短沈線。	砂粒・石英	良好	7.5YR5/4 にぶい 褐	胴部破片	重量 45.2g 第33図2・第78・79図103・104は同一個体。
	104	28Q-53	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV～V式	斜位の短沈線。	砂粒・石英・白色粒子	良好	5YR5/6 明赤褐	胴部破片	重量 36.7g 第33図2・第78・79図103・104は同一個体。
	105	28Q-42	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV～V式	斜位の短沈線。	砂粒	良好	7.5YR6/6 橙	胴部破片	重量 123.2g
	106	27Q-93・94	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV～V式	沈線によるU字状区画と「ハ」の字状の短沈線による充填。	砂粒	良好	7.5YR6/6 橙	口縁～胴部 破片	重量 78.8g
	107	28Q-53	III層	縄文土器深鉢	中期	曾利IV～V式	沈線による区画と刺突による充填。	砂粒・石英	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい 褐 内面 7.5YR4/1 褐灰	胴部破片	重量 17.7g
	108	28Q-53	II層	縄文土器深鉢	中期	曾利式	沈線による区画と刺突による充填。	砂粒	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR6/2 灰黄褐	胴部破片	重量 26.6g
	109	28Q-55	III層	縄文土器深鉢	中期		無文。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい 黄橙 内面 2.5Y3/1 黒褐	胴～底部 破片	重量 50.6g

第13表 縄文時代遺構外出土土器観察表(7)

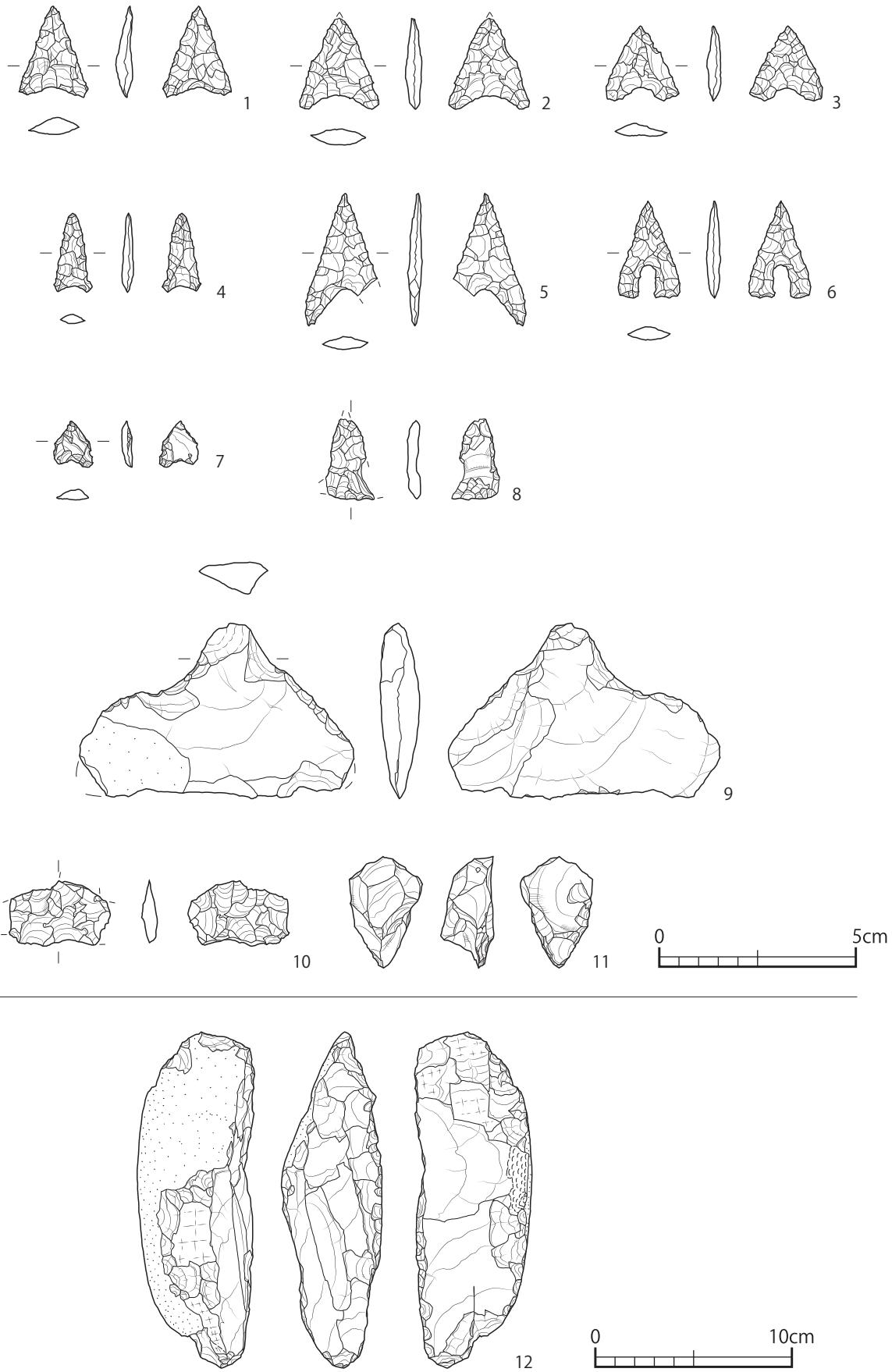
※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第78・79図	110	27Q-59	—	縄文土器深鉢	中期		無文。横位のミガキ。	砂粒・白色粒子	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 7.5YR4/4 褐	底部1/3	重量 36.6g
	111	28Q-25	III層	縄文土器深鉢	中期		無文。	砂粒・石英	良好	外面 5YR4.5/4 にぶい赤褐 内面 10YR5/3 にぶい黄褐	胴～底部 破片	重量 32.3g
	112	30P-81	II層	縄文土器深鉢	中期		無文。	礫・砂粒	良好	外面 7.5YR5/6 明褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	胴～底部 破片	重量 59.8g
	113	27Q-60	III層	縄文土器器台か	中期		無文。横位のナデ。	砂粒・石英・角閃石・赤褐色粒子	良好	外面 10YR5/3 にぶい黄褐 内面 10YR4/1 褐灰	脚部破片	重量 43.3g
第80・81図	114	28Q-45	II・III層	縄文土器深鉢	後期	堀之内1式	沈線による横位の区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 10YR6/3 にぶい黄橙	口縁～胴部破片	重量 30.1g
	115	29P-94	III層	縄文土器深鉢	後期	堀之内1式	口唇部に棒状工具による刻み、沈線による重三角文。	砂粒	良好	外面 5YR6/6 橙 内面 10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 36.4g
	116	29Q-24	II層	縄文土器深鉢	後期	堀之内1式	波状口縁。無節L縄文。	小礫・砂粒・角閃石	良好	7.5YR6.5/4 にぶい橙	口縁部破片	重量 11.0g
	117	28Q-39(SI60)	—	縄文土器深鉢	後期	堀之内1式	横位の沈線と単節LR縄文。	砂粒	良好	7.5YR5/4 にぶい褐	胴部破片	重量 22.8g SI60 覆土出土
	118	28Q-39(SD12)	—	縄文土器深鉢	後期	堀之内1式	単節LR縄文。	砂粒	良好	7.5YR6/6 橙	胴部破片	重量 12.2g SD12 覆土出土
	119	29Q-21(SI59)	II層	縄文土器注口土器	後期	堀之内1～2式	橋状把手の外面に竹管のような工具による深い刺突。	砂粒・赤褐色粒子	良好	7.5YR6.5/6 橙	把手	重量 18.7g SI59 覆土出土
	120	28Q-57	III層	縄文土器深鉢	後期	加曾利B式	波状口縁、波頂部に円形の突起。連続の刺突と沈線による区画、区画内を単節LR縄文で充填。	砂粒	良好	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 10YR3/1 黒褐	口縁部破片	重量 41.0g
	121	29Q-21	II層	縄文土器深鉢	後期	曾谷～安行1式	外面は縦位のナデのち、口縁部直下に横方向に連続した刺突。	砂粒・白色粒子	良好	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 45.9g 粗製土器。 第80・81図121・122は同一個体
	122	28Q-49(SI60)	—	縄文土器深鉢	後期	曾谷～安行1式	外面は縦位のナデのち、口縁部直下に横方向に連続した刺突。	砂粒・白色粒子	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 42.4g 粗製土器。 第80・81図121・122は同一個体 SI60 覆土出土
	123	29Q-5・14	II・III層	縄文土器深鉢	後期	後葉	竹管あるいは指による幅広の沈線を引き、隆起した部分に棒状工具による刻みを施す。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR5/3 にぶい黄褐	口縁部破片	重量 32.0g 第80・81図123・124は同一個体
	124	29Q-5	II層	縄文土器深鉢	後期	後葉	竹管あるいは指による幅広の沈線を引き、隆起した部分に棒状工具による刻みを施す。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 5Y4.5/4 灰 内面 10YR6.5/3 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 26.4g 第80・81図123・124は同一個体
	125	29Q-5	III層	縄文土器深鉢	後期	後葉	垂下する隆帯に刻み。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 5Y4.5/4 灰 内面 10YR6.5/3 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 6.5g 粗製土器。
	126	29Q-25	II層	縄文土器深鉢	後期		無文。	砂粒・角閃石・赤褐色粒子	良好	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部破片	重量 11.1g
	127	29P-89	III層	縄文土器深鉢	後期		無文。	砂粒・角閃石	良好	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 6.9g

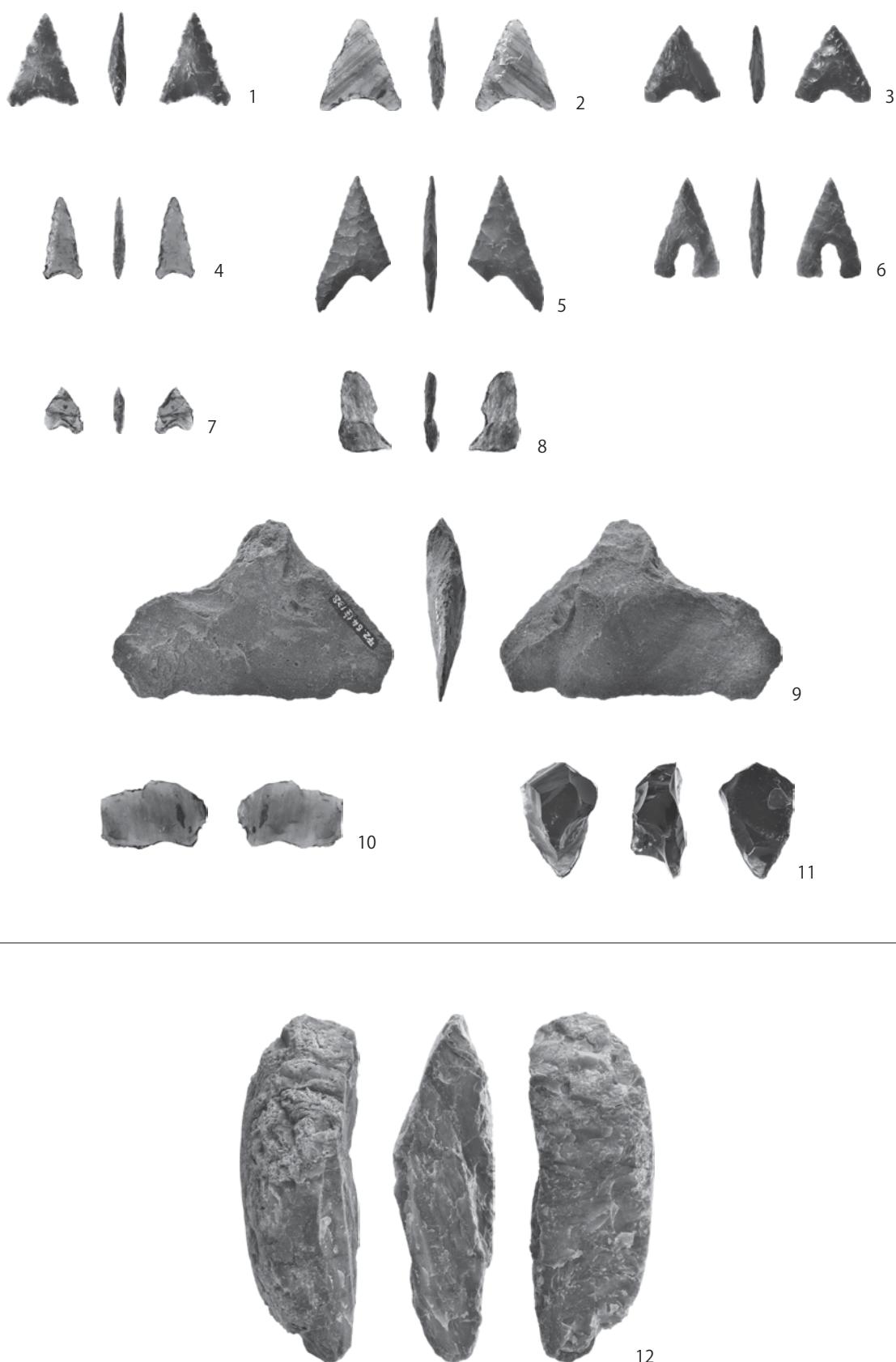
第13表 繩文時代遺構外出土土器観察表(8)・土製品観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

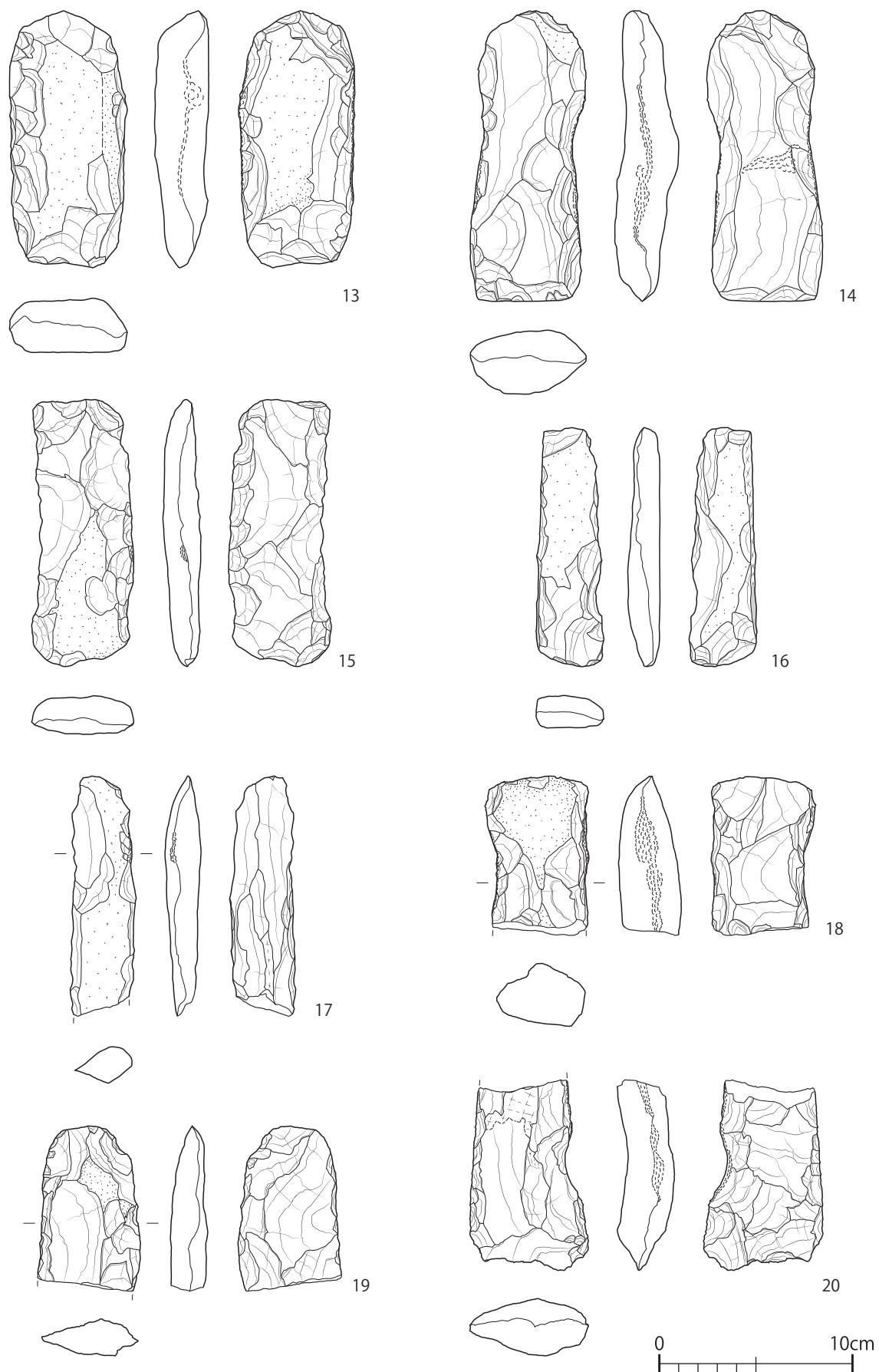
挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	時期	型式	文様・特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第80・81図	128	28Q-65	Ⅲ層	縄文土器 深鉢	後期		無文。	砂粒	良好	5YR6/6 橙	口縁部破片	重量 15.4g
	129	29Q-16	II層	縄文土器 深鉢	後期		口唇部の一部を押捺、外面は条線状の調整痕。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 10YR7/4 にぶい 黄橙	口縁部破片	重量 22.7g
	130	27Q-97・27R-7	II層	縄文土器 深鉢	後期		無文、外面は横位のミガキ。	礫・砂粒	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁～胴部破片	重量 20.1g 第80・81図 130・131は同一個体。
	131	27Q-97	II層	縄文土器 深鉢	後期		無文、外面は横位のミガキ、内面は横位のナデ。	小礫・砂粒	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい 褐 内面 10YR6/4 にぶい 黄橙	口縁～胴部破片	重量 66.2g 第80・81図 130・131は同一個体。
	132	29Q-5・15	II・III層	縄文土器 深鉢	後期		無文、外面は横位のケズリか。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外表面 10YR6/3 にぶい 黄橙 断面 10YR5/1 褐灰	胴部破片	重量 67.3g 第80・81図 132・133は同一個体。
	133	29Q-4・5	II・III層	縄文土器 深鉢	後期		無文、外面は横位のナデか。	砂粒・赤褐色粒子	良好	外表面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR6/3 にぶい 黄橙	胴部破片	重量 25.1g 第80・81図 132・133は同一個体。
	134	29P-92(SI66)	—	縄文土器 鉢	晩期前半	安行3a～3b式併行か	波状口縁で、2つ連続する波頂部か。単節LR縄文を横位に施文。	砂粒	良好	10YR2/1 黒	口縁部破片	重量 7.7g
	135	30P-81(SI74)	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	沈線による変形工字文か。	砂粒・石英	良好	外表面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR4/1 褐灰	体部破片	重量 3.4g 外表面に赤色顔料付着。
	136	28Q-30	III層	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	横位の沈線による施文。	砂粒	良好	外表面 7.5YR5/4 にぶい 褐 内面 10YR5/4 にぶい 黄褐	口縁部破片	重量 2.7g 外表面に赤色顔料付着。
	137	30P-71(SI74)	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	横位の沈線による施文。沈線の下に単節LR縄文。	砂粒	良好	10YR7/3 にぶい 黄橙	体部破片	重量 5.0g 外表面に赤色顔料付着。
第82図	138	29Q-2(SI74)	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	沈線による変形工字文。	砂粒	良好	外表面 7.5YR4/4 褐 内面 10YR3/1 黒褐	体部破片	重量 9.6g 外表面に赤色顔料付着。
	139	29P-92	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	横位の沈線による施文。	砂粒	良好	7.5YR6/4 にぶい 橙	体部破片	重量 2.0g 外表面に赤色顔料付着。
	140	29P-92(SI66)	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	横位の沈線による施文。	砂粒	良好	外表面 7.5YR4/1 褐灰 内面 10YR5.5/2 灰黄褐	体部破片	重量 7.7g 第80・81図 140・141は同一個体。
	141	29P-92(SI66)	—	縄文土器 鉢	晩期後半	大洞A・A'式併行	横位の沈線による施文。	砂粒	良好	10YR6/2 灰黄褐	体部破片	重量 3.8g 第80・81図 140・141は同一個体。
	142	29P-84	II層	土製品 土製円盤			胴部破片を加工、円形。側面の一部に研磨痕。	砂粒	良好	外表面 2.5Y5/2 暗灰黄 内面 10YR6/2 灰黄褐	完形	重量 31.3g
	143	30P-71(SI74)	—	土製品 土製円盤	中期		胴部破片を加工、円形。無文。	砂粒・赤褐色粒子	良好	7.5YR7/5 橙	完形	重量 11.2g
	144	28Q-52	III層	土製品 土製円盤	中期		胴部破片を加工、円形。無文	砂粒・角閃石	良好	7.5YR5/6 明褐	完形	重量 9.6g
	145	28Q-53	II層	土製品 土製円盤	中期後半か		胴部破片を加工、円形。斜位の沈線。	小礫・砂粒	良好	7.5YR5/6 明褐	完形	重量 9.0g
	146	28Q-53	III層	土製品 土製円盤			胴部破片を加工、隅丸長方形。 沈線。	砂粒・角閃石	良好	7.5YR6/6 橙	完形	重量 6.4g



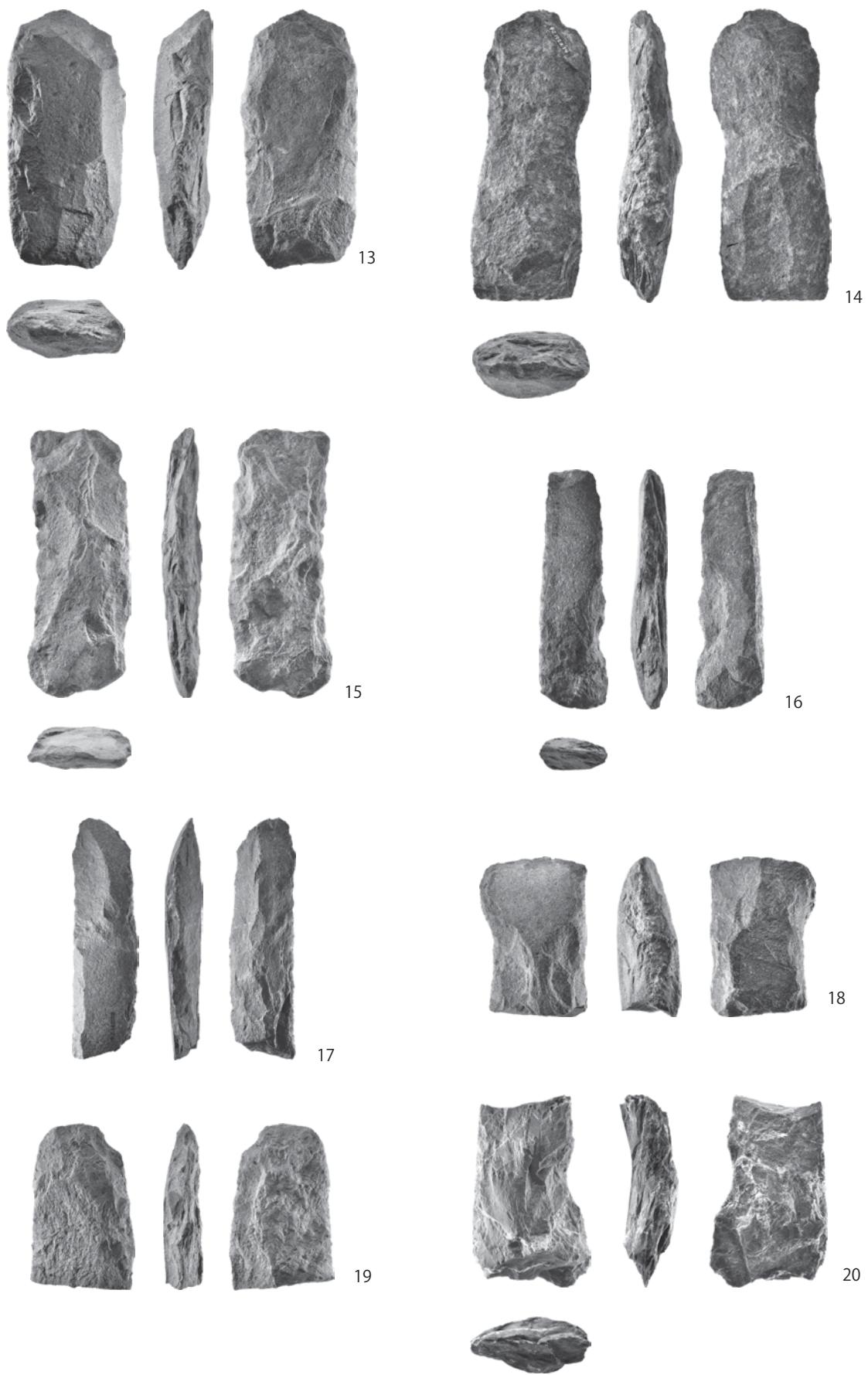
第 83 図 繩文時代遺構外出土遺物 (10)(2/3・1/3)



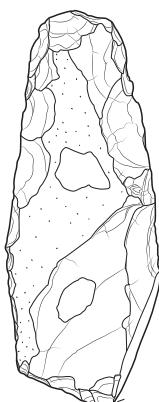
第 84 図 繩文時代遺構外出土遺物 (10) 写真



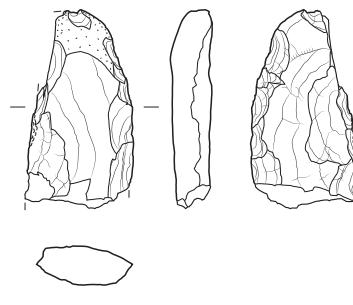
第85図 繩文時代遺構外出土遺物(11)(1/3)



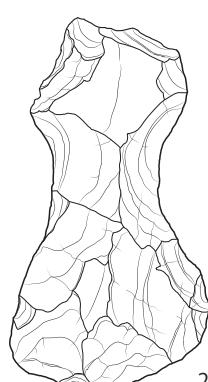
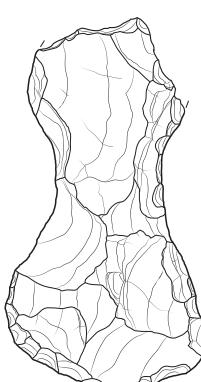
第 86 図 繩文時代遺構外出土遺物 (11) 写真



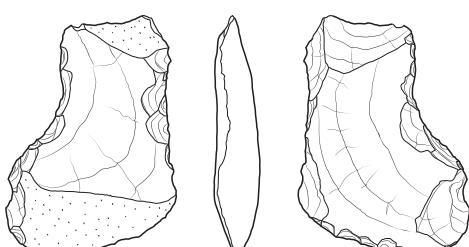
21



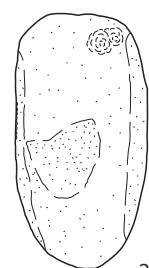
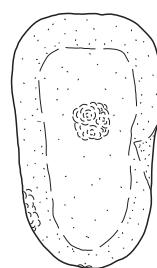
22



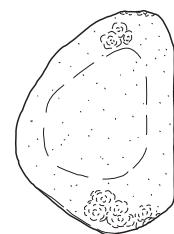
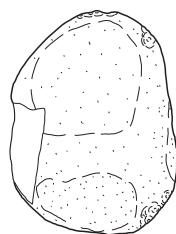
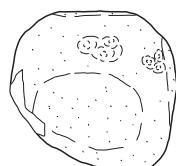
23



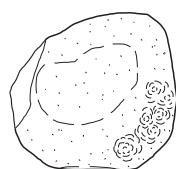
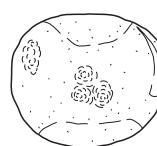
24



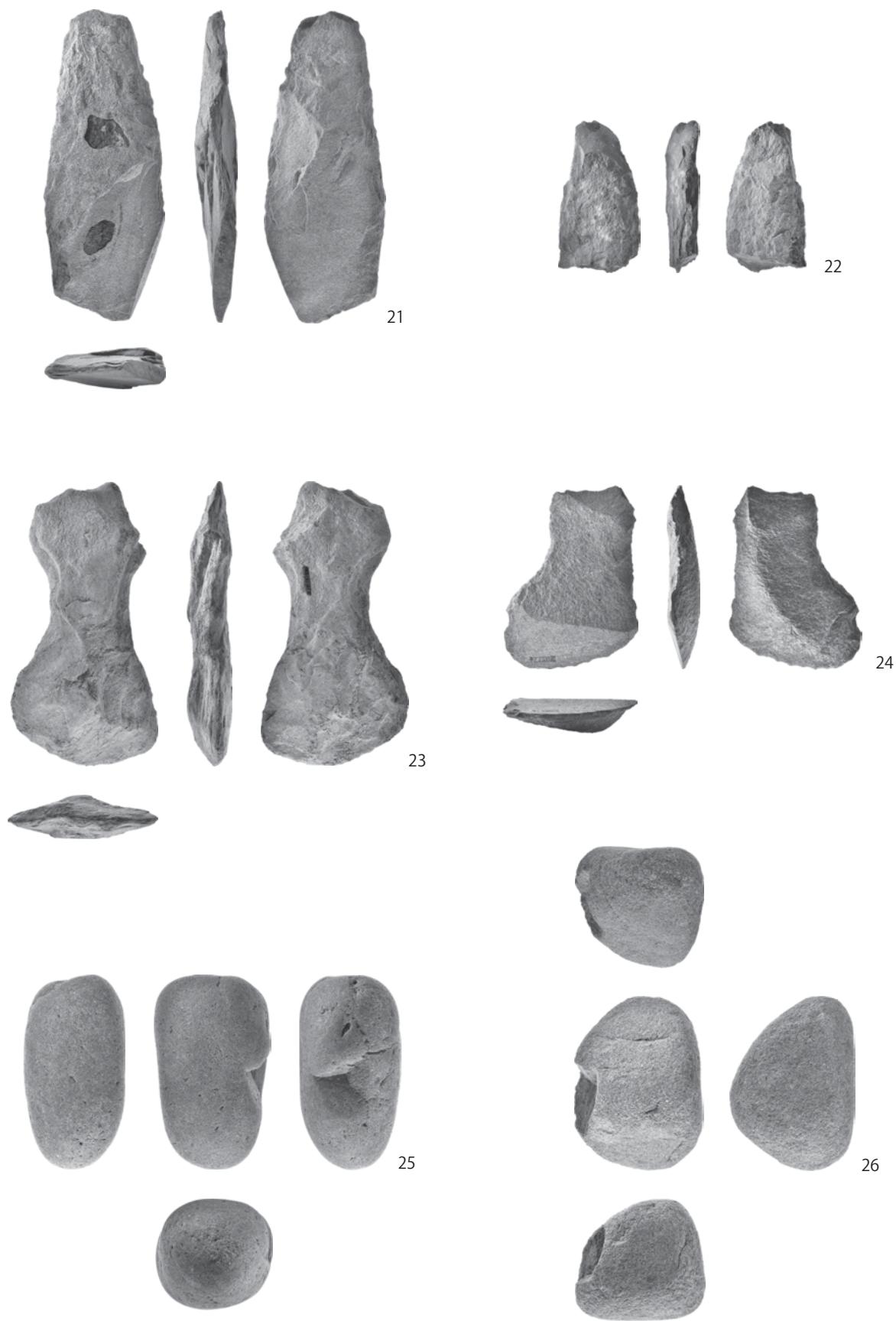
25



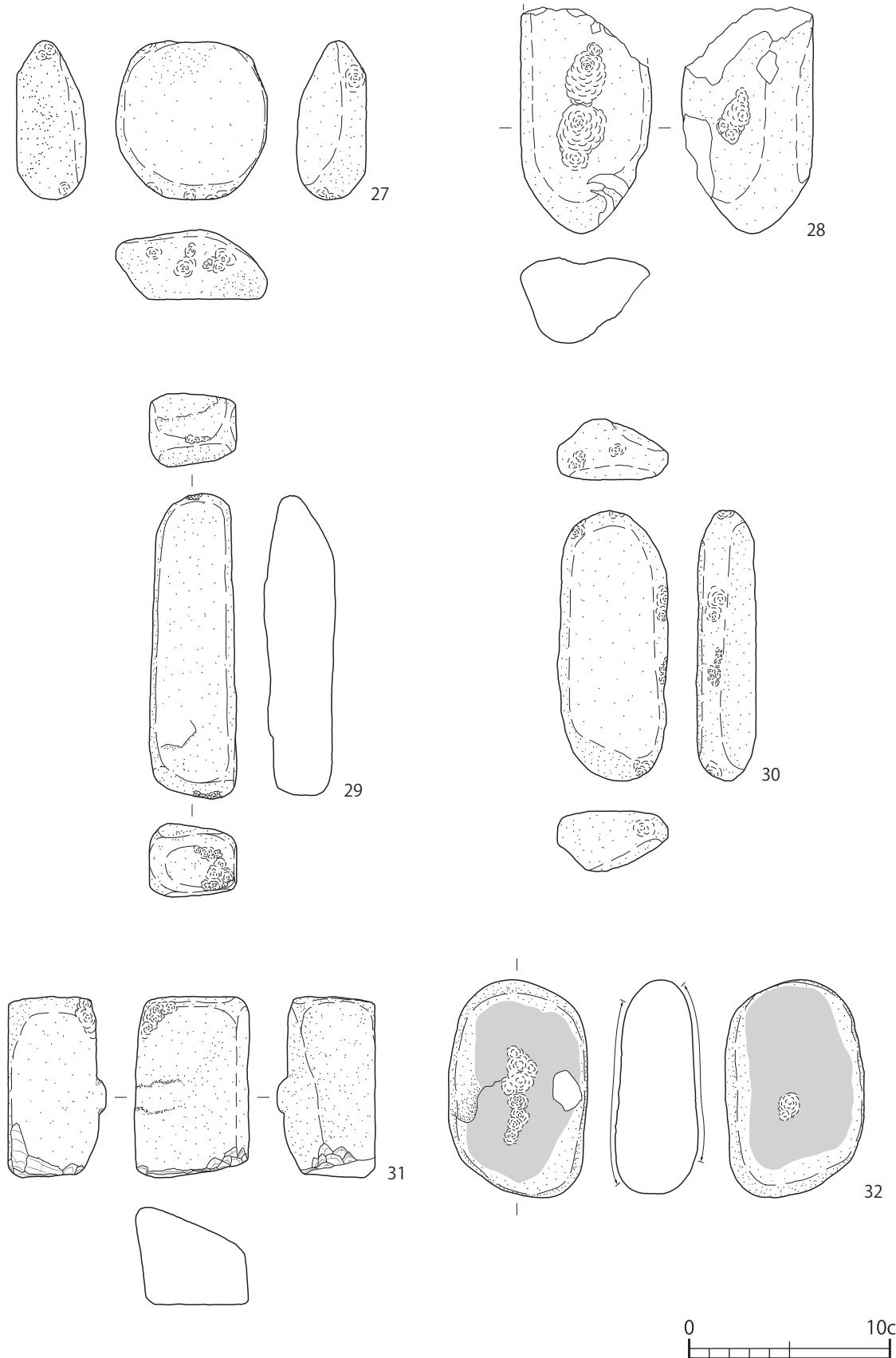
26



第 87 図 繩文時代遺構外出土遺物 (12)(1/3)



第 88 図 繩文時代遺構外出土遺物 (12) 写真

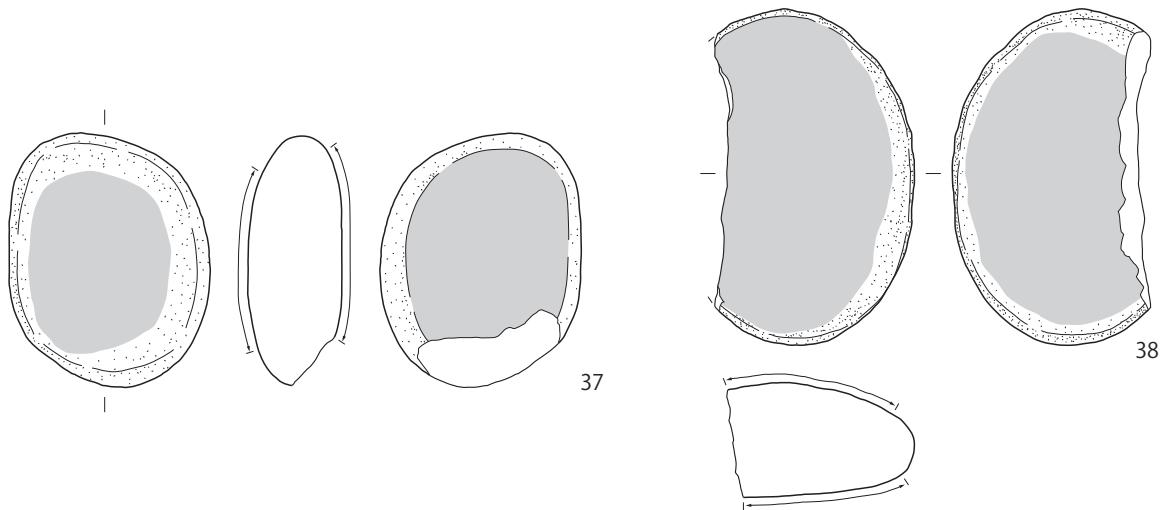
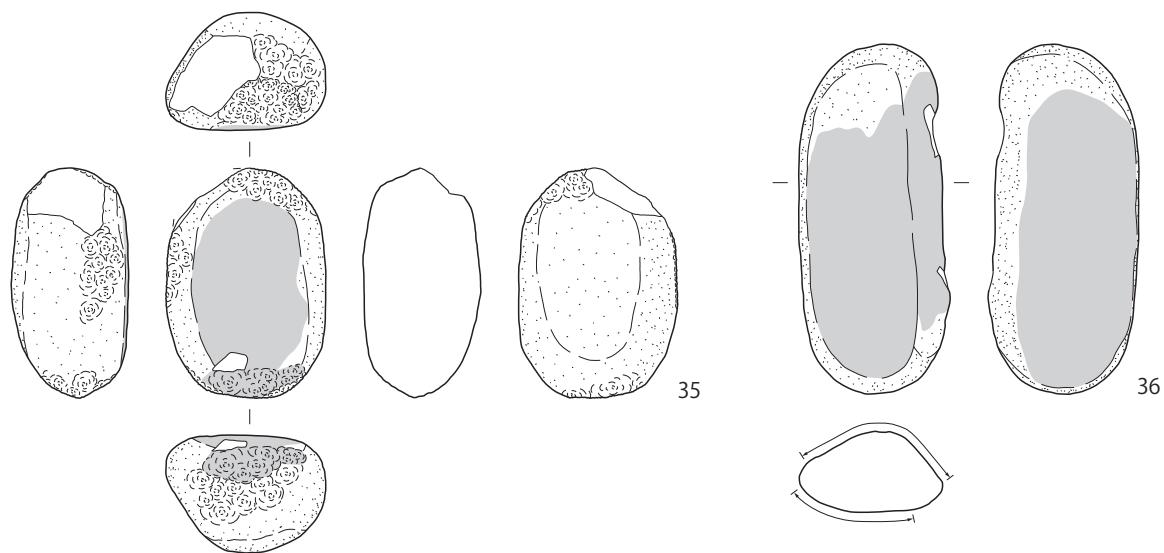
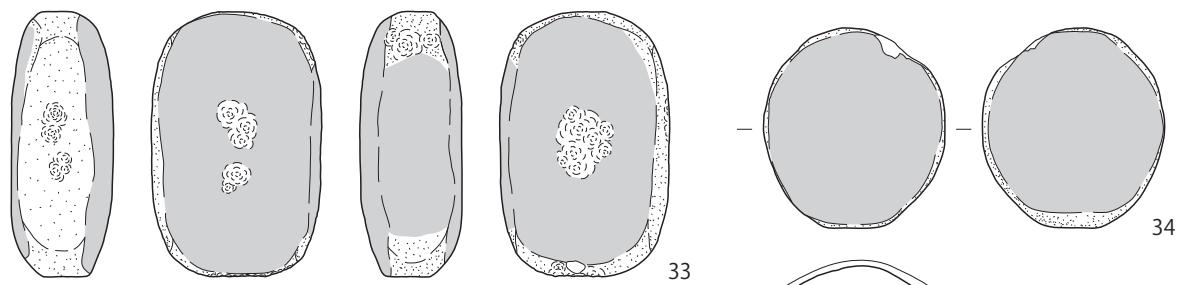


第 89 図 繩文時代遺構外出土遺物 (13)(1/3)



第 90 図 縄文時代遺構外出土遺物 (13) 写真

に摩耗痕を観察したが、その面が非常に平滑になっている。また、35 は端部や側縁に敲打痕が明瞭に見られるほか、下端部のように敲打痕と摩耗痕との両方の痕跡が認められる部分もある。敲打と摩耗との前後関係は定かではないが、摩耗により面が形成されていることから、繰り返し使用されていたと推察する。石材は、砂岩が最多で、それ以外に閃緑岩やホルンフェルス、流紋岩が用いられている。



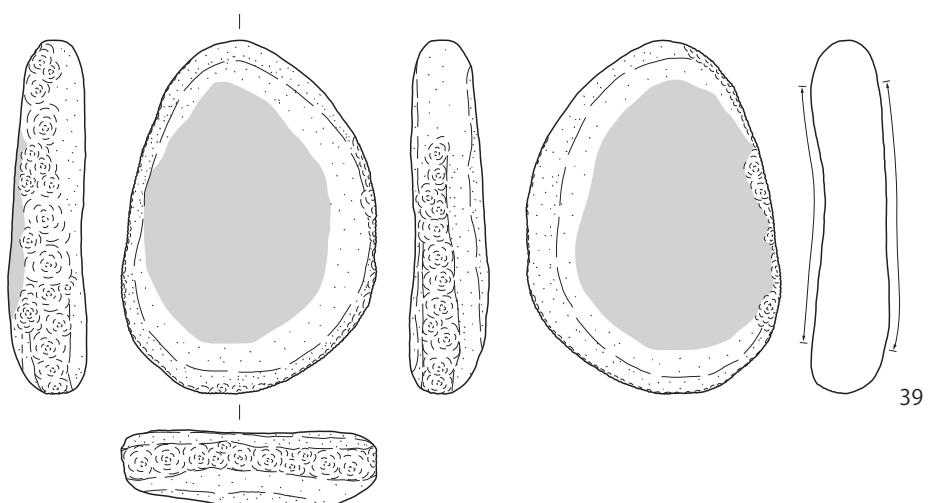
0 10cm

第 91 図 繩文時代遺構外出土遺物 (14)(1/3)

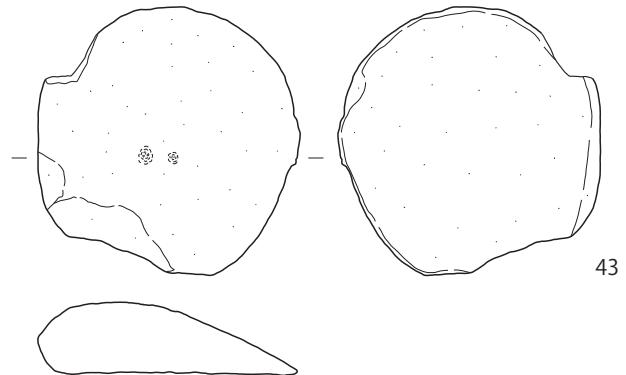
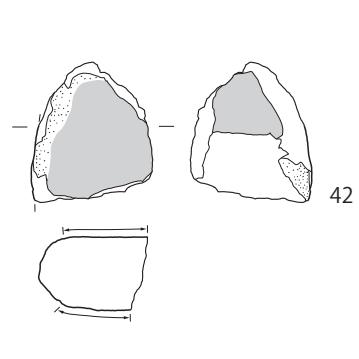
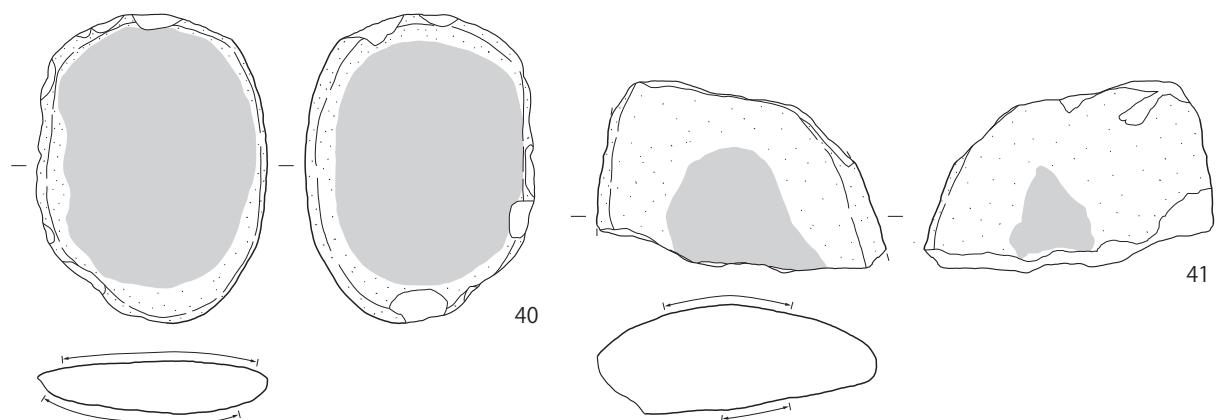


第 92 図 縄文時代遺構外出土遺物 (14) 写真

第 93・94 図 39～43 は石皿・台石である。いずれも扁平な亜円礫が素材として用いられている。サイズは 39 のような比較的小形のものと、40 や 41 のように大形のものがある。39 は下端部や側縁部に敲打痕が見られ、両面ともに摩耗痕が観察できる。特に片面は摩耗が顕著であり、使用によりレンズ状に窪んでいる様子が断面図から読み取れる。43 は礫全体が風化しているためか摩耗痕が見られず、敲打痕のみを確認した。台石として使用されたと考えられる。  
(小西)



0 10cm

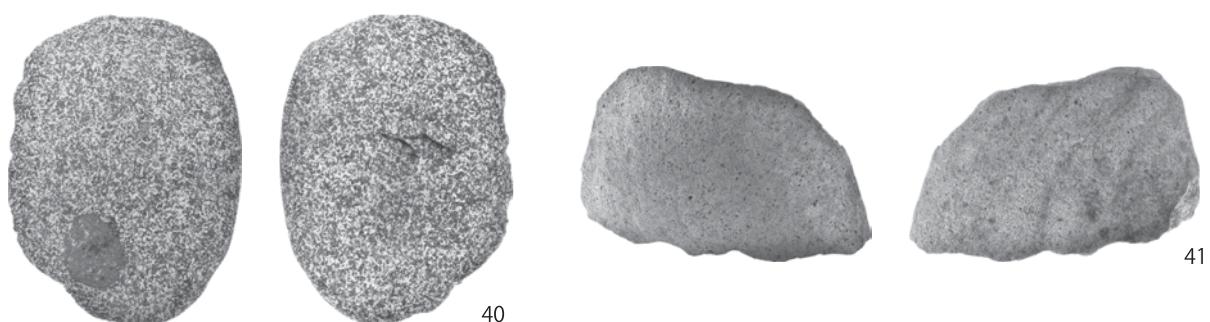


0 20cm

第 93 図 繩文時代遺構外出土遺物 (15)(1/3・1/6)



39



40



41



42



43

第 94 図 繩文時代遺構外出土遺物 (15) 写真

第14表 縄文時代遺構外出土石器観察表(1)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第83・84図	1	(SI61)	—	石鎌	2.3	1.8	0.5	1.1g	完形	チャート	
	2	29P-75	II層	石鎌	2.3	2.0	0.4	1.2g	完形	黒曜石	
	3	28Q-54	III層	石鎌	1.9	1.9	0.4	0.8g	完形	黒曜石	
	4	29P-68	II層	石鎌	2.0	1.0	0.3	0.4g	完形	黒曜石	
	5	27Q-93	II層	石鎌	3.3	(1.9)	0.4	1.3g	一部欠損	チャート	
	6	28Q-42	III層	石鎌	2.5	1.6	0.4	0.9g	完形	チャート	
	7	28Q-48	II層	石鎌	1.2	1.0	0.3	0.3g	完形	黒曜石	未製品
	8	29P-58	III層	石鎌	(2.1)	(1.3)	0.3	0.7g	一部欠損	黒曜石	未製品
	9	(SI64)	—	石匙	4.5	6.9	1.0	21.5g	完形	細粒緑色凝灰岩	
	10	29Q-15	II層	石匙	(1.6)	(2.6)	0.4	1.7g	一部欠損	黒曜石	未製品
	11	(SI66)	—	石核	2.8	1.9	1.4	5.5g	完形	黒曜石	
	12	28Q-53	III層	石核	17.1	6.0	5.1	616.0g	完形	チャート	
第85・86図	13	29Q-17	III層	打製石斧	13.3	6.1	2.8	354.0g	完形	変質玄武岩	両側縁に敲打痕
	14	(SK195)	—	打製石斧	15.0	6.0	3.3	300.0g	完形	砂岩	両側縁に敲打痕
	15	28P-100	III層	打製石斧	13.8	5.3	2.0	177.1g	完形	ホルンフェルス	右側縁の一部に敲打痕
	16	29P-73	III層	打製石斧	12.3	3.5	1.7	96.3g	完形	片状砂岩	右側縁の一部に摩耗痕
	17	28Q-56	III層	打製石斧	12.4	3.3	1.9	92.0g	完形	砂岩	
	18	29Q-8	III層	打製石斧	(8.2)	5.4	3.3	183.5g	約1/2	砂岩	両側縁に敲打痕
	19	29Q-14	III層	打製石斧	(8.5)	5.3	2.0	105.9g	約1/2	変質安山岩	
	20	27Q-90	II層	打製石斧	(9.9)	6.2	3.0	165.8g	約1/2	珪質粘板岩	右側縁に敲打痕
第87・88図	21	27Q-88	—	打製石斧	15.7	(6.2)	2.2	187.0g	一部欠損	ホルンフェルス	
	22	29Q-5	III層	打製石斧	(7.9)	4.3	1.7	66.9g	約1/2	細粒緑色凝灰岩	
	23	29P-83	III層	打製石斧	(14.8)	8.0	2.4	254.5g	一部欠損	ホルンフェルス	
	24	29P-94	III層	打製石斧	(9.5)	6.8	1.8	107.7g	約1/2	ホルンフェルス	
	25	28Q-53	III層	敲石	10.1	6.1	5.3	498.0g	完形	砂岩	
	26	28Q-33	II層	敲石	9.0	(6.7)	6.3	484.5g	ほぼ完形	砂岩	
第89・90図	27	28Q-44	III層	敲石	7.9	7.6	3.5	297.1g	完形	砂岩	
	28	29P-59	III層	敲石	(11.3)	6.5	4.4	387.0g	約1/2	砂岩	
	29	28Q-46	II層	敲石	15.2	4.3	3.7	435.0g	完形	砂岩	
	30	29Q-16	II層	敲石	13.5	5.5	3.0	334.5g	完形	砂岩	
	31	28Q-30	II層	敲石	9.0	5.7	4.9	436.6g	完形	砂岩	

第14表 縄文時代遺構外出土石器観察表(2)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第89 ・ 90 図	32	28Q-28	II層	磨石	10.8	6.9	4.1	464.5g	完形	砂岩	
第91 ・ 92 図	33	28Q-38	III層	磨石	10.5	6.8	4.1	528.0g	完形	閃緑岩	
	34	28Q-35	II層	磨石	7.9	7.2	5.1	409.0g	完形	ホルンフェルス	
	35	28Q-41	III層	磨石	9.1	6.3	4.7	400.1g	完形	砂岩	
	36	27Q-98	III層	磨石	13.9	6.0	3.2	347.3g	完形	砂岩	
	37	28Q-35	III層	磨石	10.1	8.0	3.7	446.5g	完形	砂岩	
	38	(SD12)	—	磨石	13.3	(7.9)	4.6	663.0g	約3/4	流紋岩	
第93 ・ 94 図	39	28Q-52	III層	石皿	14.0	10.1	3.2	690.0g	完形	斑れい岩	
	40	28Q-55	III層	石皿	24.5	18.2	4.2	2941.0g	完形	斑れい岩	
	41	29P-68	III層	石皿	(15.2)	(23.0)	8.7	4144.0g	約1/4	変質安山岩	
	42	27R-8	III層	石皿	(11.2)	(9.7)	5.9	766.5g	破片	砂岩	
	43	28Q-52	III層	台石	21.3	20.8	5.9	3083.0g	ほぼ完形	変質安山岩	

### 3 弥生時代～古墳時代

弥生時代～古墳時代に帰属する遺構は、弥生時代後期あるいは終末期の竪穴建物跡 6 軒の他、弥生時代後期～古墳時代前期とみられる土坑及びピットを各 1 基検出した。竪穴建物跡は調査区の中央部から東寄りにかけて分布しており、既往の報告範囲との連続性が考えられる。遺構同士が重複せず、それぞれが間隔を保って分布する特徴も同様である。その一方で西側には遺構が見られないことから、当調査地点が集落の西端部とも考えられる。

土坑とピットについては、覆土の様相等から同時期のものと想定される遺構を掲載した。

遺物は、弥生時代前期の土器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、石器や石製品、古墳時代後期の土師器や須恵器が出土した。弥生時代前期の土器と古墳時代後期の土師器は遺構外からの出土であり、当該時期の遺構は検出されていない。弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、同時期の竪穴建物跡の他、2-6 西区の東寄りから 2-6 東区西寄りの包含層からも多く出土している。

#### 1) 竪穴建物跡（第 95 ～ 151 図、第 15 ～ 23 表）

弥生時代後期あるいは終末期の竪穴建物跡は 6 軒検出された。このうち SI74 は、大半が調査範囲外へと続いている、調査範囲内では柱穴や炉等の付帯施設が検出されておらず、「竪穴状遺構」である可能性も残るが、便宜上、竪穴建物跡として扱うこととする。

前述の通り、分布は、2-6 西区の中央部付近の SI62 から調査区東端の 2-7 区東端部の SI74 にかけてであり、西側の 2-7 区では検出されていない。

SI74 を除く 5 軒では、出入口用の梯子穴とされるピットが検出され、そこから入って右手に貯蔵穴があり、SI62 を除く 4 軒では、貯蔵穴の周囲には土堤が巡る。SI62・65 では、貯蔵穴や土堤に隣接していわゆる赤砂が検出されている。また、SI74 を除き、梯子穴から見て中央より奥に炉がある。SI59・60・62・65 は地床炉で、SI62 を除き枕石が遺存していた。SI66 は粘土床炉で、この形態の炉は、平山遺跡における一連の発掘調査においては初の事例である。4 本柱の主柱穴は、最大規模の SI65 のみで検出されている。

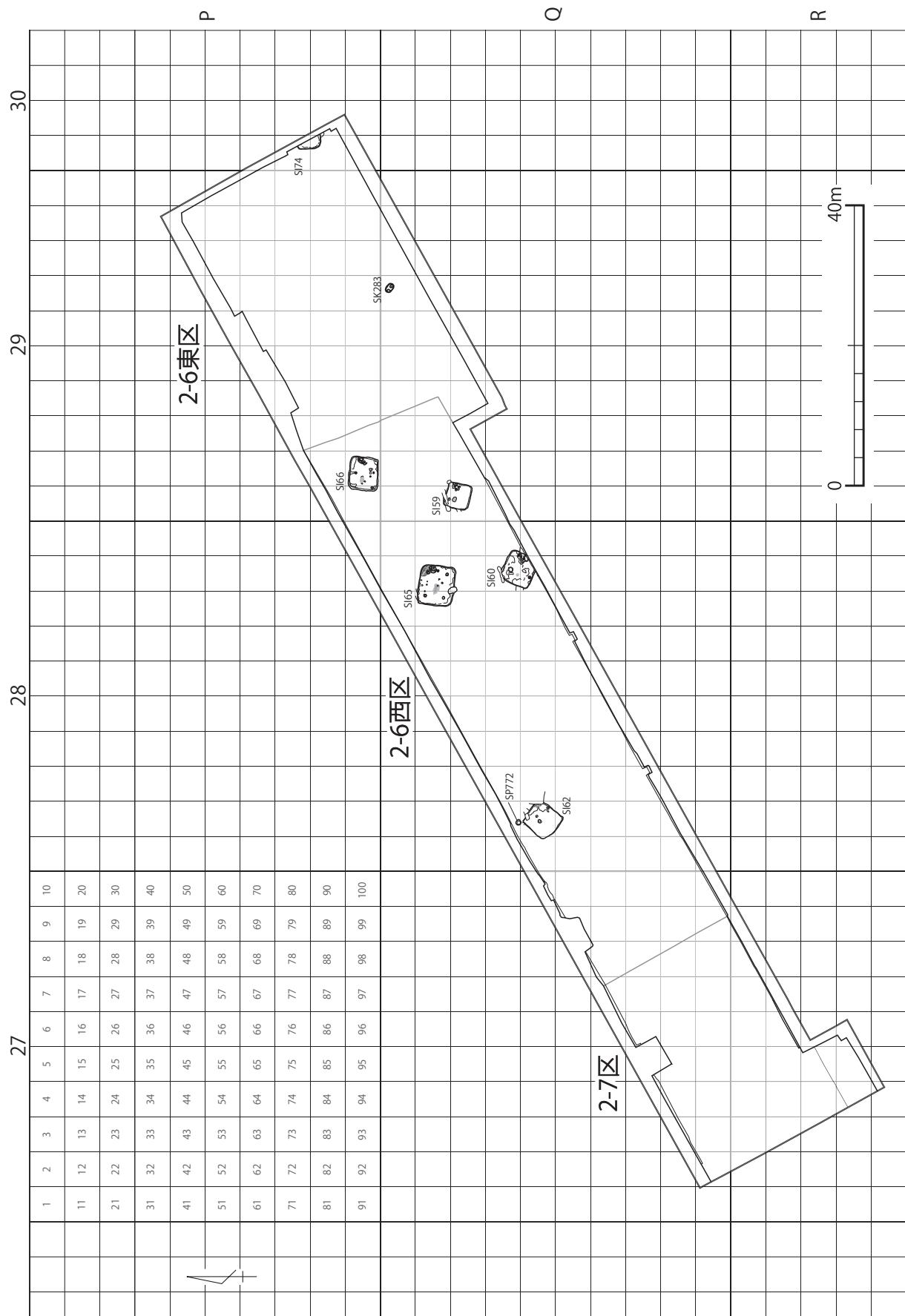
なお 2-6 西区においては、II3 層もしくは III1 層上面での遺構検出を試みたが、地山と覆土の様相が近似しており、検出面での精査時、遺物が集中して出土し、遺構が存在する可能性が高いにもかかわらず遺構の範囲が不明確であったり、他の遺構の掘削中に偶然発見されたりすることが多かった。

#### SI59（第 96 ～ 104 図、第 15・16・23 表）

遺構 2-6 西区東部の 29Q-11・12・21・22 グリッドで検出された。発掘調査時、誤って記録をとらずに床面の一部を掘り下げてしまったため、床面の硬化範囲や掘方の土層断面に一部記録の不備がある。検出面は III2 層で、縄文時代の陥し穴 SK223 を切り、SP729、SKK905・906・907 の各遺構に壁や床面の一部を切られている。

平面形態は隅丸方形で、規模は長軸 370cm、短軸 351cm、検出面から床面までの深さは 35cm を測る。壁は、概ねやや内湾しながら開き気味に立ち上がっているようである。主軸方向は N-78°-W を指す。

床は貼床で、広い範囲が硬化していたようである。床面中央部の西寄りで炉、東壁際中央部に梯子



第95図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図(1/800)

穴 P1、その北側に貯蔵穴 P2 が確認されている。また P1・2 の西側には用途不明の P3・4 があり、それらの間を縫うよう土堤状の高まりが確認されている。壁溝、主柱穴、赤砂は検出されなかった。

覆土は黒色土もしくは黒褐色土が主体の 8 層からなる。最上層の 1 層には焼土粒子をやや多く含むほか、炭化物や砂質粘土の粒子が微量含まれる。上層から下層の大部分を占める 2 層には焼土粒子が多く含まれるほか、炭化材片や炭化物粒子も混入している。また焼土は、床面直上でまとまって検出されている。

掘方は IV 層まで掘り込まれていて、底面は凹凸が少ない。掘方下層の 11 層は IV 層土の粒子やブロックを多く含んでいる。

P1 は梯子穴とみられる。橢円形を呈し、床面からの深さは 27cm を測り、掘方底面より深く掘り込まれている。P2 は貯蔵穴である。平面形態は橢円形で、底面はロームに達し、比較的平坦である。覆土は 2 層に分けられた。その他、用途不明の P3・4 が検出されている。P3 は長軸 33cm、床面からの深さ 41cm、P4 は長軸 24cm、床面からの深さ 31cm を測る。

土堤は、P1 の西側から P2 の北側にかけて検出されたが、測量前に床面と共に掘削してしまったため、形状は不明瞭である。

炉は砂岩の枕石を東側に置く地床炉で、歪な隅丸長方形を呈する。規模は長軸 70cm、短軸 54cm を測り、貼床土中を底面とする掘方を持っている。覆土は 3 層で、そのうち 1・2 層は焼土粒子やブロックを多く含むことから火床部とみられる。

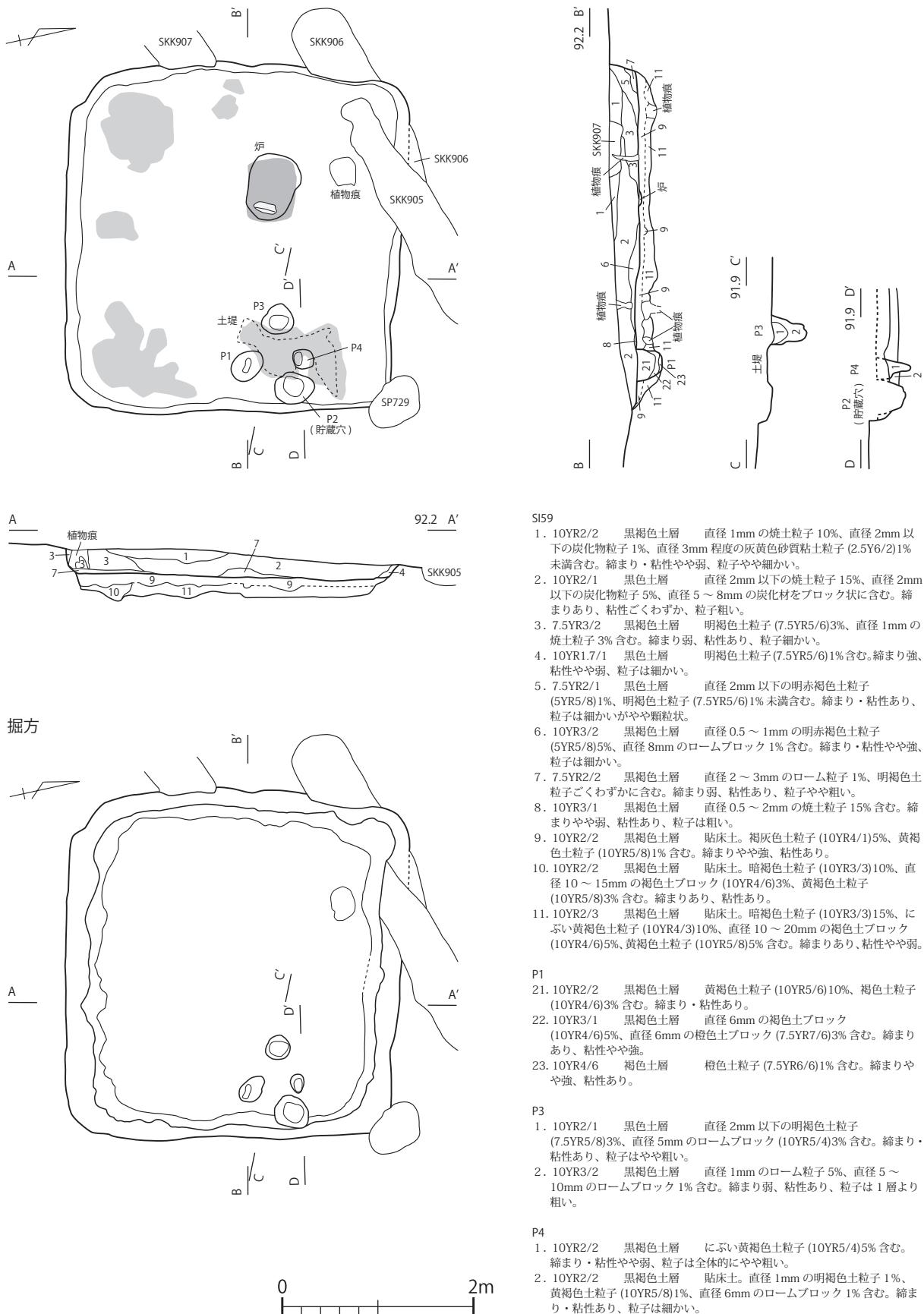
赤砂は検出されなかつたが、赤砂が検出されることが多い貯蔵穴に隣接する床面コーナー部付近では、編物石 7 点がまとめて確認された。土器の大部分も床面からの出土である。また、床面や炉から複数の炭化材が出土した。そのうち 4 点の樹種同定を行ったところ、クスノキ科 3 点、ケヤキ 1 点であることが明らかとなった（第 V 章第 1 節参照）。  
（相原）

遺物 本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の壺 41 点 437.7g、甕 20 点 122.1g、台付甕 32 点 272g、高坏 3 点 154.7g、鉢 2 点 2.2g、小形鉢 18 点 104.5g、壺あるいは甕 4 点 6.3g、弥生時代後期～古墳時代前期の石器（磨石）1 点 933g や石製品（編物石）10 点 3,010.7g、焼成粘土塊 1 点 9g、繩文土器（堀之内 2 式）1 点 11.3g、古代の土師器（甕）1 点 3g、礫 5 点 2,197.2g、炭化物が出土した。これらのうち、古代の土師器や繩文土器は周辺から混入したと考えられる。本遺構に伴うと判断した弥生時代後期～古墳時代前期の土器 8 点、磨石、編物石を図化し、掲載した。

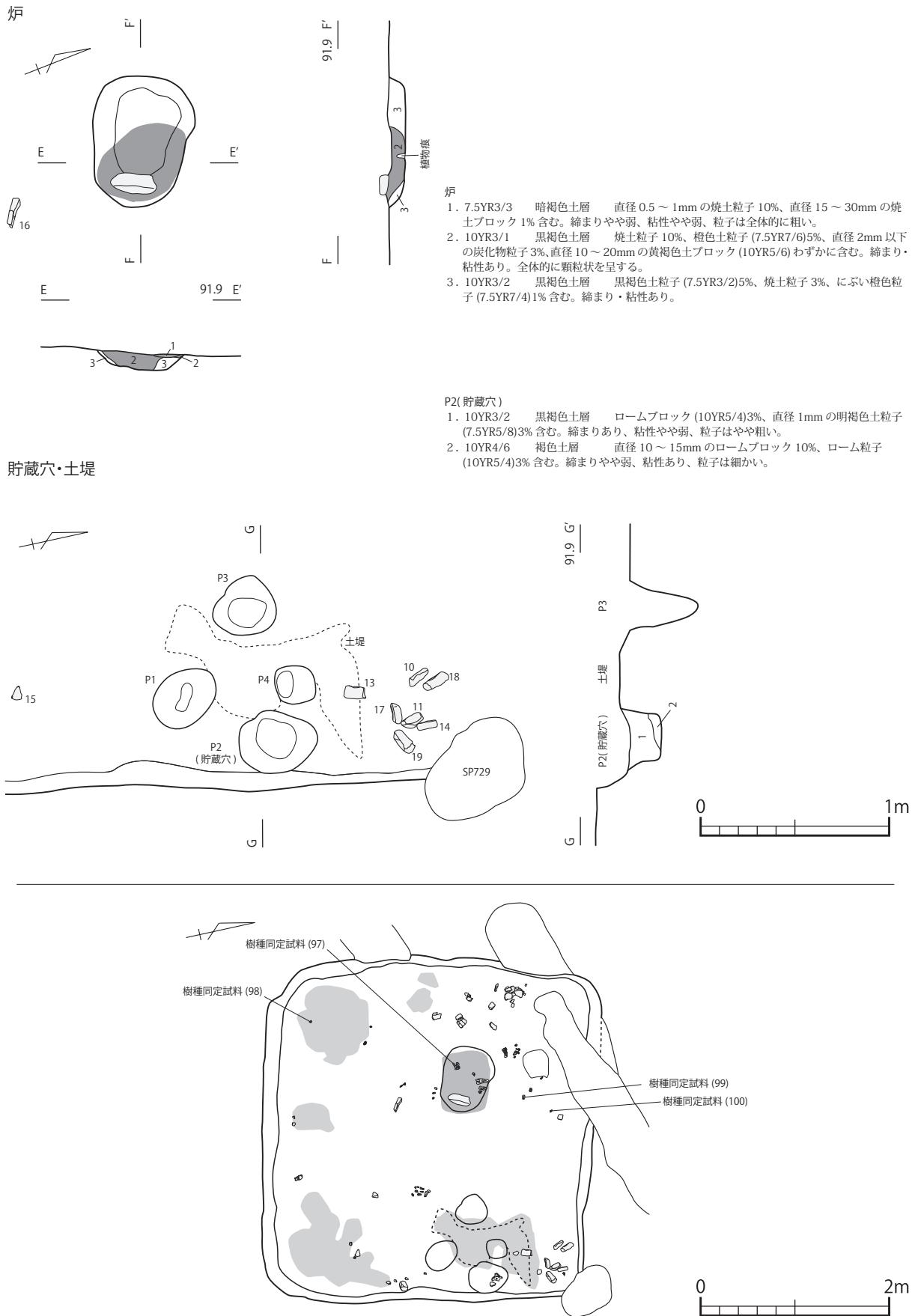
第 102 図 1～3 は壺である。1 は口縁部と胴下部および底部を欠損するが、頸部は「く」の字状に屈曲し、胴部は球形を呈する。頸部から胴部の外面および口縁部内面に赤彩が施されている。2・3 はいずれも壺口縁部の破片で、折り返し口縁である。2 は折り返し部分の幅が約 2cm と狭いタイプで、3 の折り返し部分の幅は 3cm 程度、外面に無節 R の斜縞文が施されている。

4 は甕の口縁部で、口唇部外面にはハケ状工具による押捺が一定間隔に認められる。外面の一部に赤彩が見られるが、意図して施したものではないと考えられる。5 は台付甕の脚台部で、直線的に開く形状を呈する。

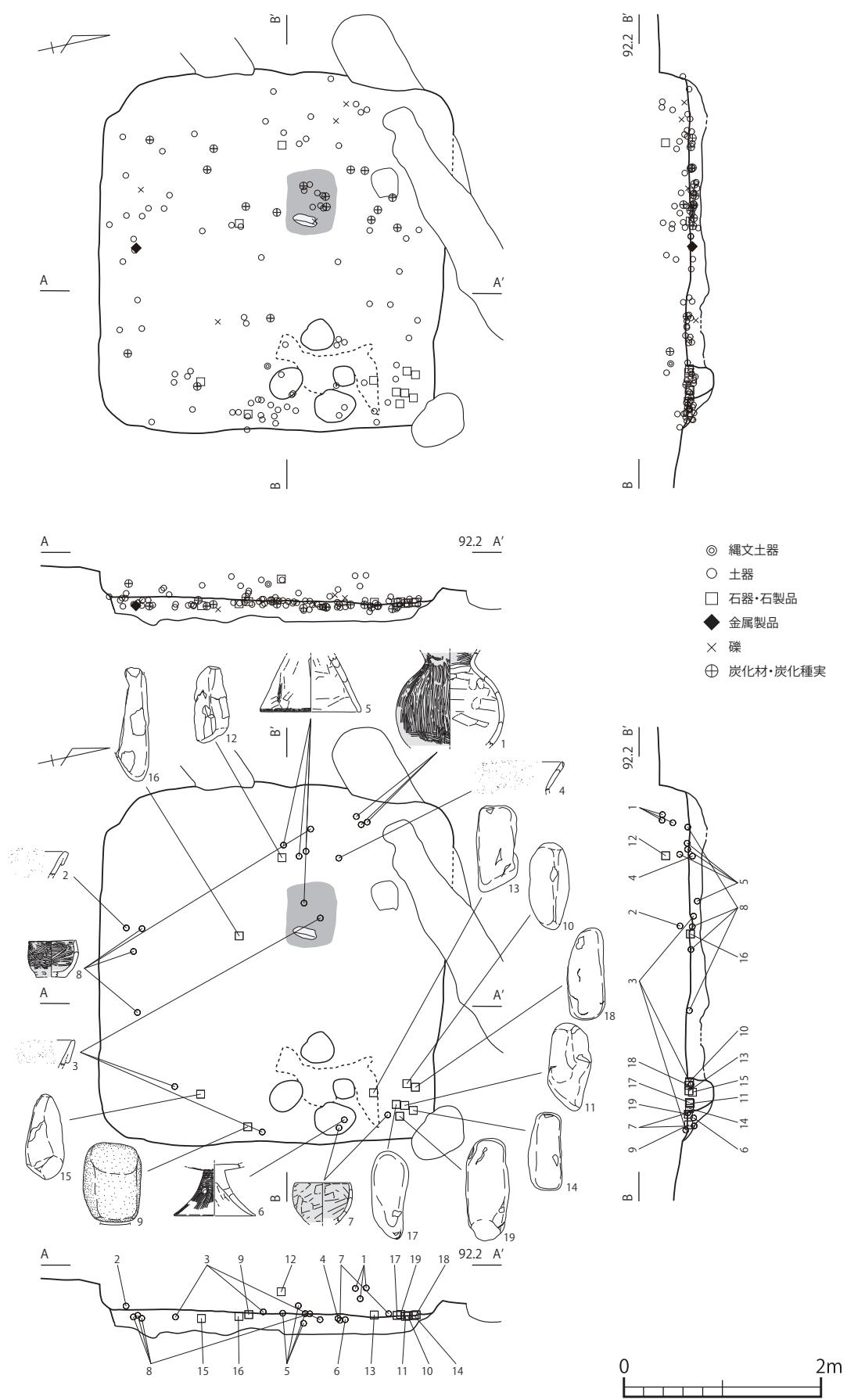
6 は高坏で、脚部は「ハ」の字状に開き、3箇所の穿孔が見られる。脚上部の外面、穿孔より上部は櫛歯状工具によるヘラナデが施されている。坏部の大部分は欠損しているが、残存する坏部の内面には放射状のミガキが認められる。また、かろうじて残る体部を観察すると、坏の体部から底部にか



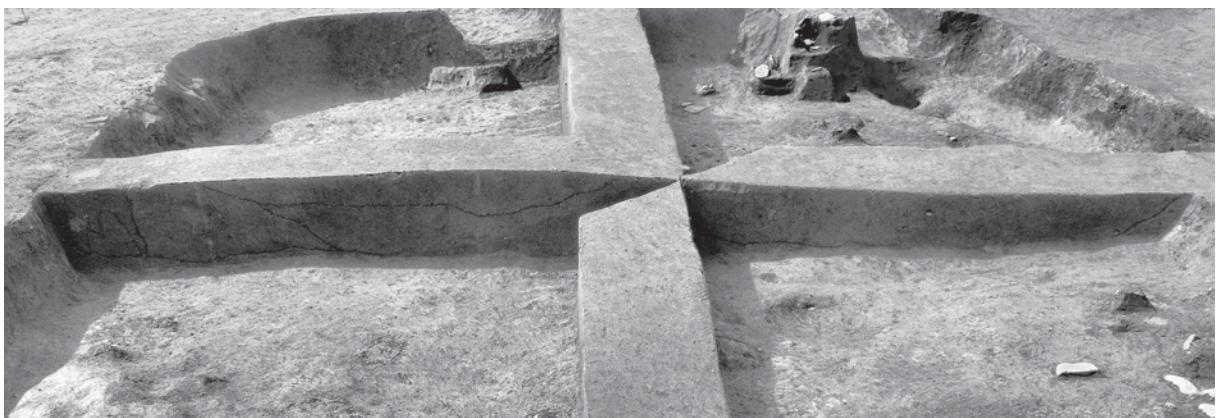
第 96 図 SI59(1)(1/60)



第 97 図 SI59(2) 炉・貯蔵穴・土堤 (1/30)・遺物出土状況図 (1/60)



第98図 SI59(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 東南東から



2. 土層断面 B-B' 北北東から



3. 床面全景 東南東から

第 99 図 SI59 写真 (1)



1. 遺物出土状況 東南東から



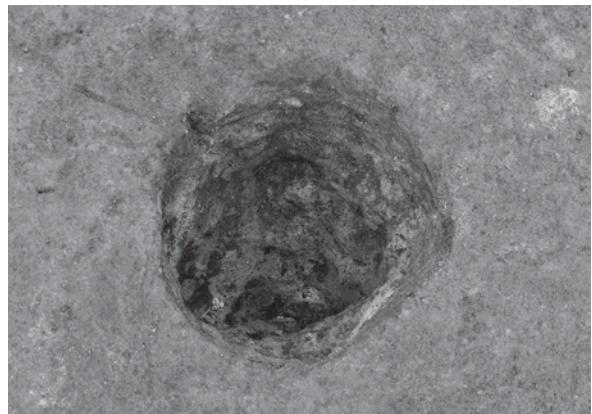
2. 遺物出土状況 東から



3. 遺物出土状況 西南西から



4. 遺物出土状況 南から



5. P3 全景 北北東から



6. P5 全景 東北東から



7. 炉土層断面 G-G' 西西北から



8. 炉掘方全景 西西北から

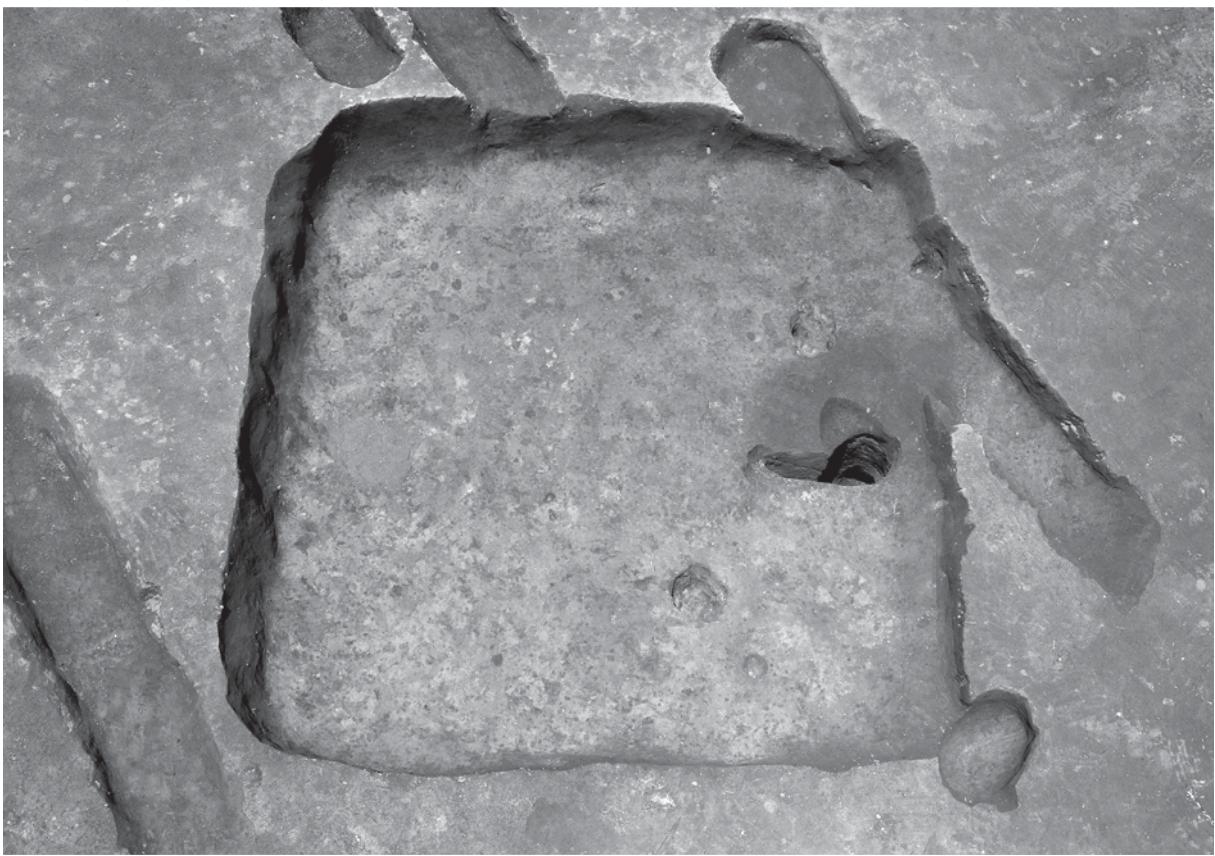
第 100 図 SI59 写真 (2)



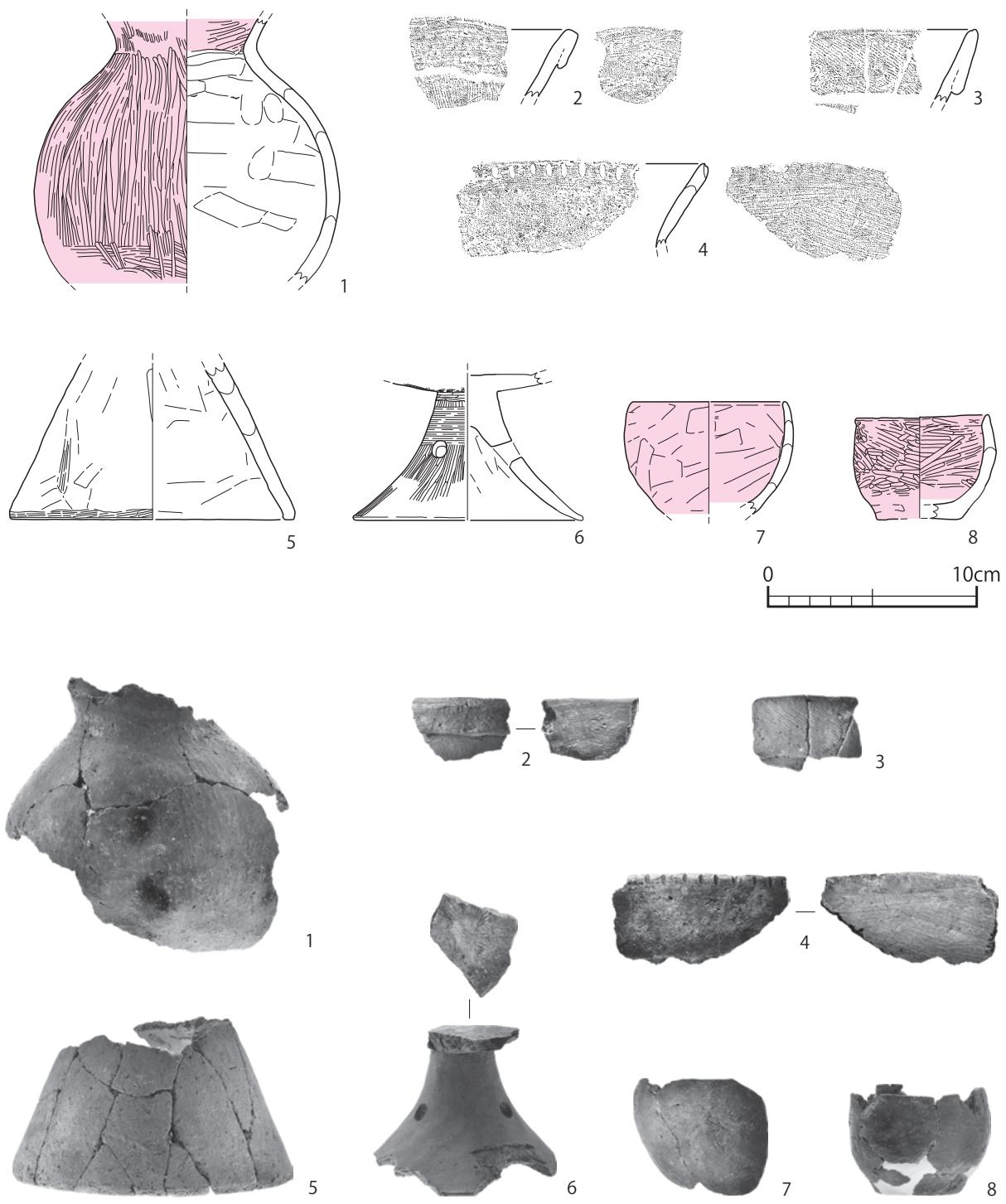
1. 掘方土層断面 A-A' 東南東から



2. 掘方土層断面 B-B' 北北東から



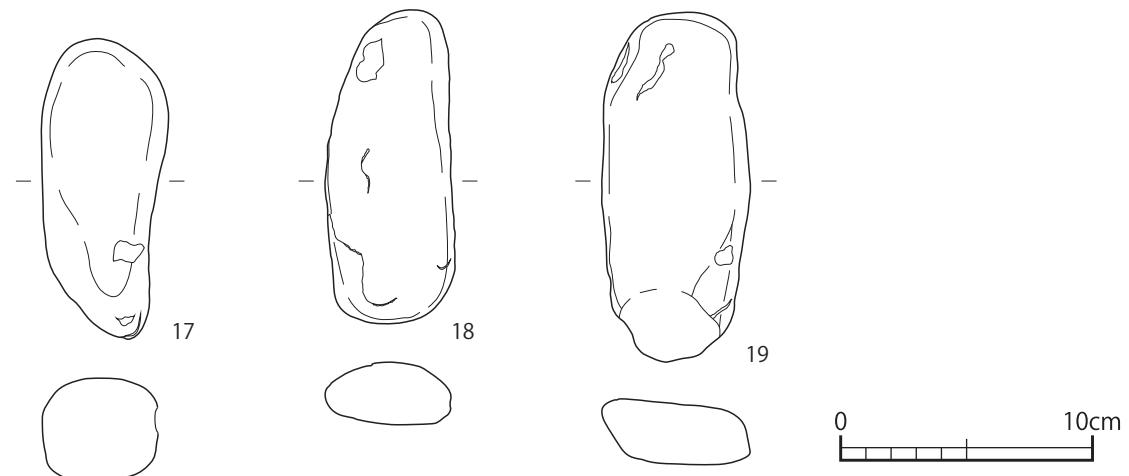
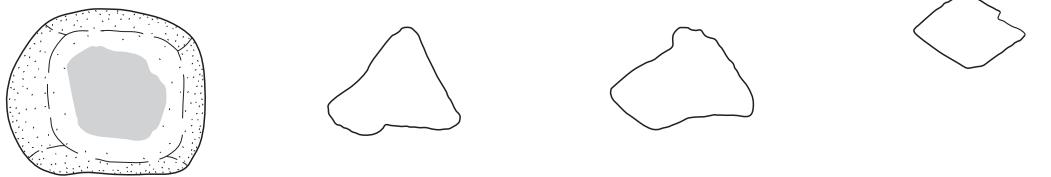
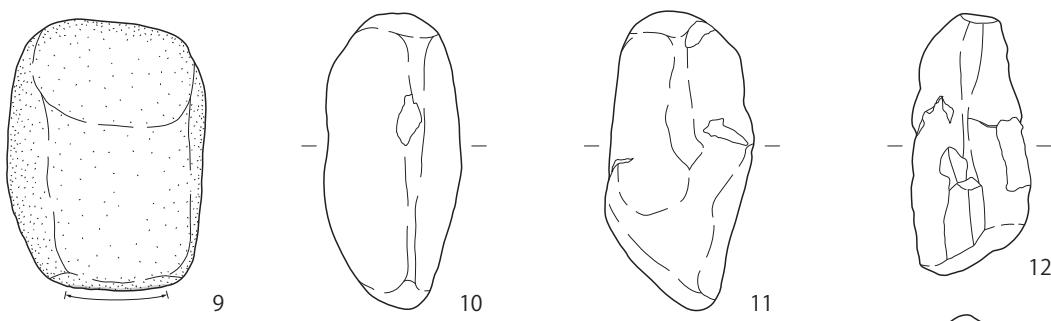
3. 掘方全景 東南東から



第102図 SI59出土遺物(1)(1/3)・写真

けての部分がわずかに屈曲しており、その境が明瞭な器形だったと推察される。全体的に丁寧なつくりで、胎土に金雲母が含まれている点が特徴的である。

7・8は小形鉢である。7は口縁部から体部にかけて内湾する器形で、口唇部は丸みを帯びる。8



0 10cm

第 103 図 SI59 出土遺物 (2)(1/3)



第 104 図 SI59 出土遺物 (2) 写真

も内湾する器形で、7 に比べると器壁が厚い。口唇部は内傾する面を持つような断面形である。いずれも内外面に赤彩が認められる。

第 103・104 図 9 は磨石、10～19 は編物石である。9 は下端面に摩滅した範囲が認められる。形状から「石杵」である可能性も考えられる。編物石は断面形により、およそ 3 種類に分けられる。10～12 は断面形が三角あるいは菱形の多角形を呈するタイプ、13～16 は方形あるいはそれに近い形状のタイプ、17～19 は橢円形や全体的に丸みのあるタイプである。

壺の器形や、折り返し口縁の壺、高环の特徴から、これらの土器は『新八王子市史通史編 1 原始・古代』(八王子市 2015) の及川良彦による土器編年（以下、新八王子市史編年とする）によれば、弥生時代終末期に位置付けられる。本遺構の廃絶時期もその時期であろう。（小西）

第 15 表 SI59 出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 102 図	1	SI59	土器壺	頸部 [5.7] (12.5) 胴部最大径 [14.7]	頸部の屈曲は比較的緩やか。球胴形で、胴部最大径は中央部にある。	外面のうち頸部から胴部にかけては縦位のミガキ、胴下部は横位のミガキ。内面のうち頸部は横位のミガキ、胴部は横位のヘラナデ、部分的に指ナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 2.5YR4/6 赤褐色 内面 5YR4.5/6 明赤褐色	頸～胴部 1/2	重量 237.0g 外面と頸部内面に赤彩。
	2	SI59	土器壺	—	幅 2cm 前後の折り返し口縁。	外面の折り返し口縁部は横位のナデ、頸部は縦位のハケ目。内面は横位のハケ目のち斜位、縦位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 2.5YR4/4 にぶい赤褐色	口縁部破片	重量 18.1g 口縁部内面に赤彩。
	3	SI59	土器壺	—	幅約 3cm の折り返し口縁。	外面の折り返し口縁部には無節 R の斜繩文、口唇部は横位のナデ。内面はミガキ。	砂粒	良好	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 5YR5/4 にぶい赤褐色	口縁部破片	重量 20.8g 口縁部内面に赤彩。
	4	SI59	土器甕	—		外面は横位のナデ、口縁端部にハケ目状工具による押捺。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR6.5/4 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 31.8g 外面全体に煤付着、外面一部に赤色顔料付着。
	5	SI59	土器台付甕	(7.5) [13.5]	脚台部は直線的に開く。	外面は縦位のヘラナデ、部分的にハケ目が残る。端部は横位のハケ目。内面はヘラナデだが、不明瞭。	砂粒	良好	10YR6/4 にぶい黄橙	脚台部 1/2	重量 184.4g
	6	SI59	土器高环	(7.0) 10.9	脚部はハの字状に開く。脚部に 3 箇所の穿孔。环体部と底部の境が明瞭。	外面のうち环部はミガキ、脚部は縦位のミガキ主体で、一部はミガキのち櫛状工具によるヘラナデ。内面のうち环部は放射状のミガキ、脚部はヘラナデ主体。	砂粒、金雲母	良好	5YR6.5/6 橙	脚部 1/10	重量 129.8g
	7	SI59	土器小形鉢	[7.2] (5.3)	口縁部から体部にかけて内湾する器形。	内外面は横位と斜位のヘラナデ。	砂粒	良好	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	口縁部 1/4	重量 27.5g 内外面に赤彩。
	8	SI59	土器小形鉢	6.3 5.0 4.0		外面は横位のミガキ主体、体部下半はヨコナデ。内面は横位のミガキ。	小礫、砂粒	良好	10R4/4 赤褐色	口縁部 3/4 底部 2/3	重量 76.6g 内外面に赤彩。

第 16 表 SI59 出土石器・石製品観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 103 ・ 104 図	9	SI59	磨石	10.7	7.8	6.5	933.0g	完形	砂岩	石杵か
	10	SI59	編物石	11.7	5.4	4.0	311.5g	完形	砂岩	部分的に被熱し赤化。
	11	SI59	編物石	11.7	5.7	3.7	345.5g	完形	砂岩	
	12	SI59	編物石	10.2	4.7	3.0	168.0g	ほぼ完形	砂岩	
	13	SI59	編物石	11.5	5.4	3.5	401.5g	完形	砂岩	
	14	SI59	編物石	10.5	4.5	3.1	228.0g	完形	砂岩	
	15	SI59	編物石	11.5	5.2	3.0	293.1g	完形	砂岩	
	16	SI59	編物石	15.2	4.4	3.7	355.0g	約 2/3	砂岩	全体的に被熱し赤化、煤付着。表面に爆ぜた痕跡あり。
	17	SI59	編物石	11.5	5.0	4.0	354.5g	完形	砂岩	
	18	SI59	編物石	12.3	5.0	2.5	227.6g	完形	砂岩	
	19	SI59	編物石	13.8	6.9	2.4	326.0g	完形	砂岩	

## SI60（第105～112図、第17・23表）

遺構 2-6 西区東寄りの28Q-39・40・49・50グリッドに位置する。南東隅部分は掘削範囲外へと続いている。別途日野市教育委員会が発掘調査を実施している。

検出面はⅢ2層で、古代末～中世の土坑SK190・222が覆土上面を切り、中世の溝SD12が覆土や壁上部を東西に貫いているほか、攪乱が北西隅部分を切っている。平面形態は隅丸方形で、今回の掘削範囲内での長軸（東西）458cm、短軸（南北）456cmで、主軸方向はN-64°-Wを指す。検出面からの深さは31cmで、壁は概ね開きながら立ち上がっている。

床は貼床で、床面の硬化は比較的弱く、硬化面は南壁寄りと北壁寄りの一部分を中心に検出された。壁溝や主柱穴とみられるピットは無く、東壁寄り中央部に梯子穴P1、その北東に貯蔵穴P4の他、南壁寄りでP2、炉と北壁の間で浅い土坑状のP3が検出された。また、床面中央部の西寄りに炉、P1を囲み込むように土堤がそれぞれ検出された。

床面までの覆土は8層に分けられた。全般的に粒子が粗い黒色土もしくは黒褐色土で、いずれの層も明赤褐色、褐色スコリア以外の含有物は少なく、最上層の1層で微量の炭化物、南壁に近い5層で少量のローム粒子、床面直上の8層でロームブロックの偏在が確認できた程度である。なお、この8層に相当する床面直上から、土器片がまとめて出土した。

掘方は全面的にIV層まで掘り下げられていて、底面には緩やかな凹凸を有している。掘方の土層は2層に分けられたが、概ね、ロームを多く含む極暗褐色土で占められている。

梯子穴と考えられるP1は直径24cmの円形で、断面は箱型を呈し、底面にはわずかな段差がある。床面からの深さは17cmを測り、掘方の底面より深い。上層の覆土は黒色で強く締まり、下層は黒褐色でロームが多く偏在していて締まりがあまりない。

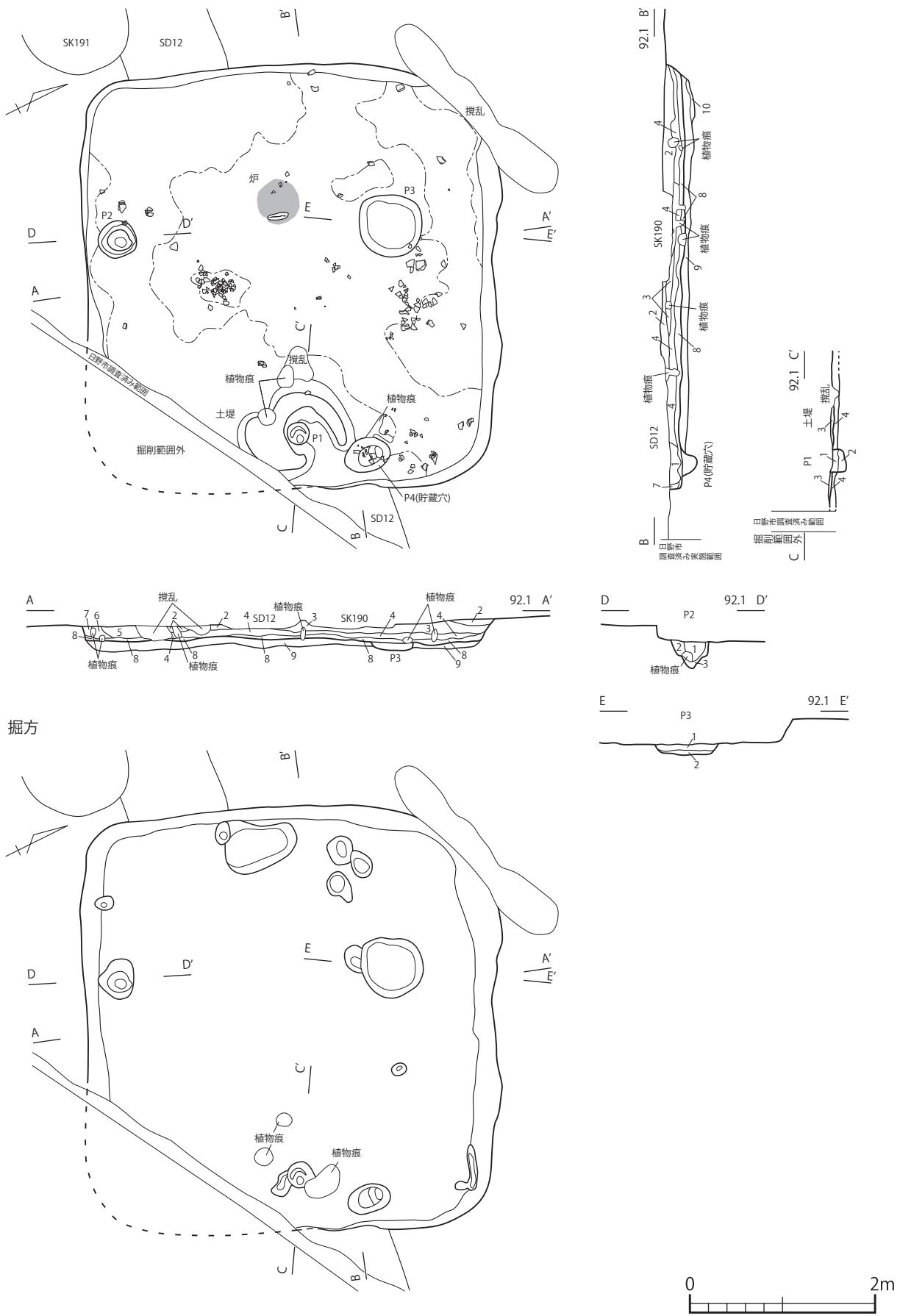
P4は貯蔵穴で、平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸37cm、床面からの深さ22cmを測る。底面にはわずかな段差を有し北側が深くなっている、壁は開いて立ち上がる。覆土は3層に分けられ、土器片及び炭化物が出土している。

土堤は、東側の一部を除き、梯子穴P1を大きく取り囲む「C」字状の形状を呈する。掘削範囲内においては長軸121cm、短軸95cm、床面からの高さ3cmを測る。ロームが斑紋状に含まれる黒褐色土を突き固めて構築されている。

炉は、東寄りに枕石が置かれた地床炉で、不整形な円形を呈し、長軸49cm、短軸48cmを測る。貼床土中を底面とする掘方を持ち、掘方の覆土上に火床部を有するが、被熱の程度は弱い。枕石は砂岩で、被熱による赤化が認められた。また、炉の覆土の一部を採取し、水洗選別を行ったところ、4点の炭化種実を抽出した。同定の結果、ブドウ属の種子等と判明した（第V章第1節参照）。

P2・3は用途不明のピットである。P2は円形で直径41～42cm、床面からの深さは29cmを測る。P3は浅い土坑状で、長軸74cm、短軸70cmの楕円形を呈する。床面からの深さは13cmで、底面は平坦である。

赤砂は検出されなかった。出土遺物の多くは、覆土下層から床面にかけて出土している。（相原）  
遺物 本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器102点993.1g（壺41点437.7g、甕20点122.1g、台付甕32点272g、高坏2点24.9g、鉢1点129.8g、甕あるいは壺3点5.1g、器種不明3点1.5g）、縄文土器6点94.3g（諸磯c式1点5.6g、堀之内1式2点30.3g、曾谷～安行1式



第 105 図 SI60(1)(1/60)

SI60

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)5%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、長さ 5mm 以下の炭化材片 1% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3%、直径 5mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)2%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子粗い。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、縮まりややあり、粒子やや密。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)5%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 7% 含む。粘性あり、縮まり強、粒子粗い。
6. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや粗い。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子極めて粗い。
8. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。直径 15mm 以下のロームブロック 10% 偏在。粘性あり、縮まり強、粒子密。
9. 7.5YR2/3 極暗褐色土層 貼床土。ローム (10YR4/4)20%、黒色土 (10YR2/1)10% 偏在。直径 7mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)5%、直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3% 含む。粘性ややあり、縮まり極めて強、粒子やや粗い。
10. 10YR2/3 黒褐色土層 貼床土。直径 30mm 以下のロームブロック (10YR4/4)30%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)3%、直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2% 含む。粘性強、縮まり強、粒子やや密。

P1

1. 10YR2/1 黒色土層 P1 覆土。直径 20mm 以下のロームブロック (10YR5/8)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子やや密。
2. 10YR2/2 黑褐色土層 P1 覆土。ローム (10YR5/6)20% 偏在。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)3% 含む。粘性あり、縮まりあまりなし、粒子やや粗い。
3. 10YR2/2 黑褐色土層 土堤。ローム (10YR5/8) 斑文状に 10% 含む。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)7% 含む。粘性ややあり、縮まり極めて強、粒子やや粗い。
4. 7.5YR2/2 黑褐色土層 貼床土。ローム (10YR5/8) 斑文状に 30% 含む。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)5% 含む。粘性あり、縮まり強、粒子密。

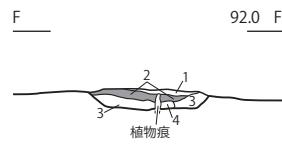
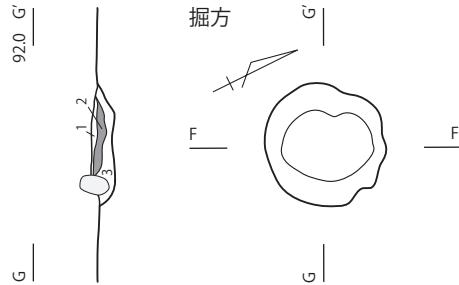
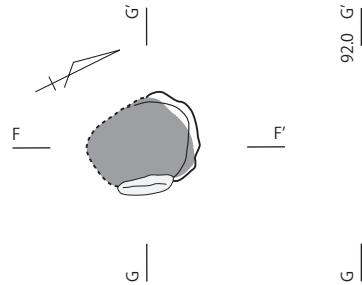
P2

1. 10YR2/1 黒色土層 炭化材含む。直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2% 含む。粘性ややあり、縮まりややあり、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)5%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子や粗い。
3. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。黒褐色土 (10YR2/2)30% 混在。直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)7% 含む。粘性強、縮まりあり、粒子粗い。

P3

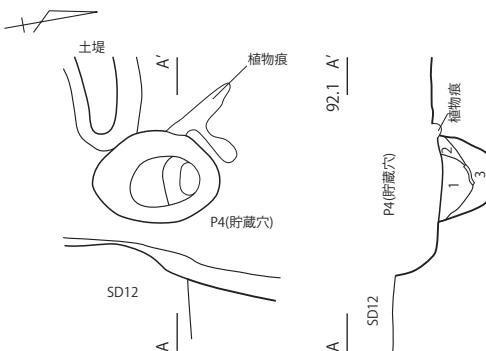
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)3%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR5/8)15% 偏在。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3% 含む。粘性強、縮まり強、粒子粗い。

炉



1. 5YR2/2 黑褐色土層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 斑文状に 30% 含む。直径 15mm 以下の焼土ブロック 7%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)1%、直径 3mm 以下のにぶい黄褐色土粒子 (10YR5/3)1% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
2. 10YR2/3 黑褐色土層 火床部。直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性あまりなし、縮まりあり、粒子やや密。やや砂質土層。
3. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 2%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子密。
4. 10YR3/4 暗褐色土層 ロームブロック。

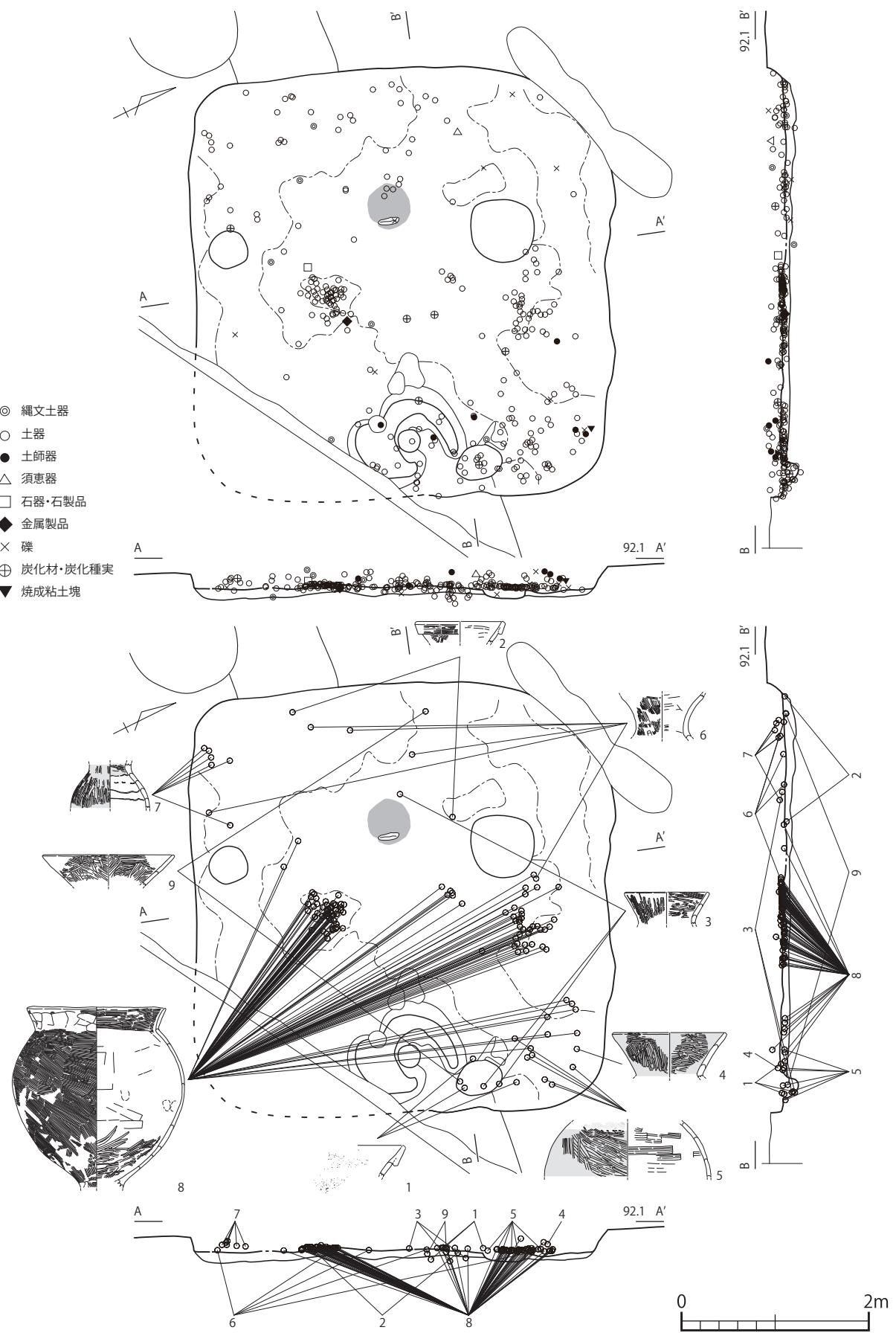
貯蔵穴



- P4(貯蔵穴)
1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5%、長さ 5mm 以下の炭化材片 3% 含む。粘性強、縮まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/3 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/6)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3% 含む。粘性強、縮まりあり、粒子粗い。
3. 10YR3/3 暗褐色土層 黒褐色土 (10YR2/2)10% 偏在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (10YR4/8)3% 含む。粘性強、縮まり強、粒子やや粗い。



第 106 図 SI60(2) 炉・貯蔵穴 (1/30)



第107図 SI60(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 北北東から



2. 土層断面 B-B' 東南東から



3. 床面全景 北北東から

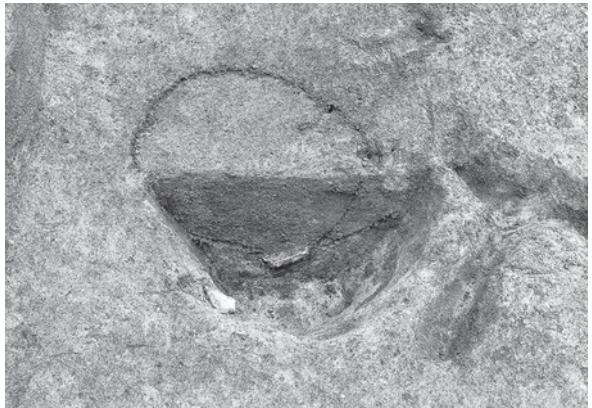
第 108 図 SI60 写真 (1)



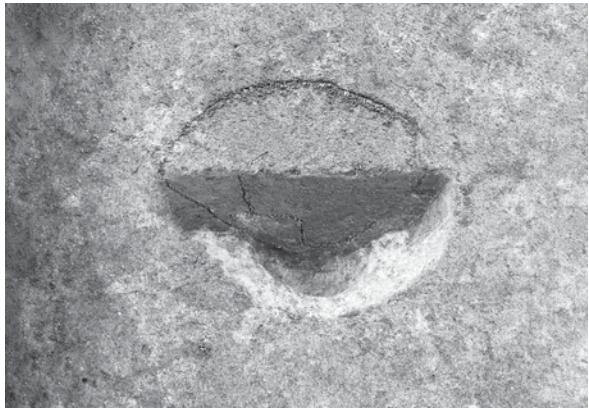
1. 遺物出土状況 北北東から



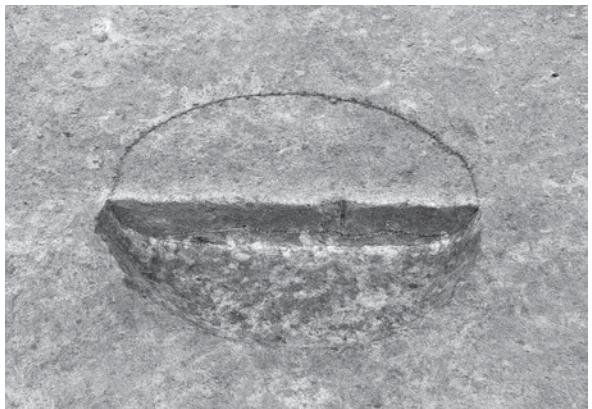
2. 遺物出土状況 北北東から



3. P1 土層断面 北北西から



4. P2 土層断面 東南東から



5. P3 土層断面 東南東から



6. P4 遺物出土状況 東南東から



7. 炉検出状況 北北東から

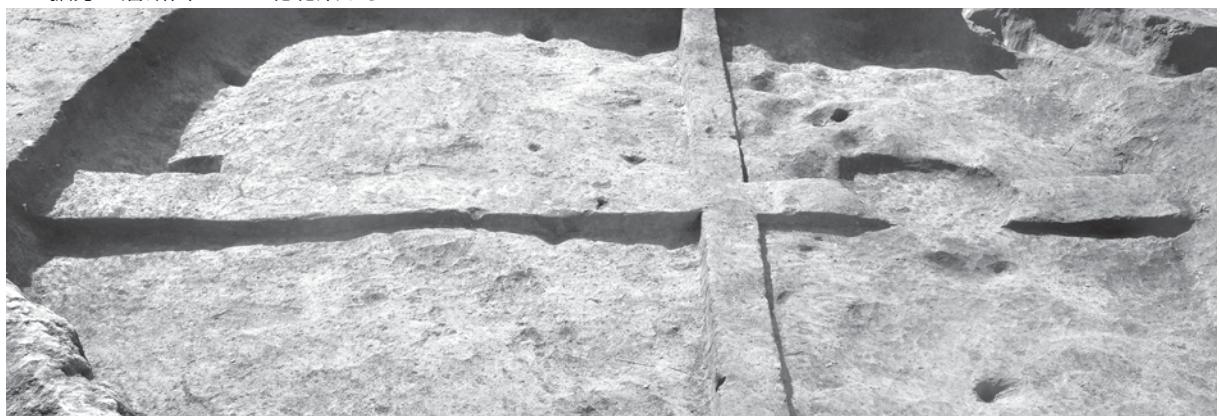


8. 炉掘方土層断面 G-G' 西北西から

第 109 図 SI60 写真 (2)



1. 掘方土層断面 A-A' 北北東から

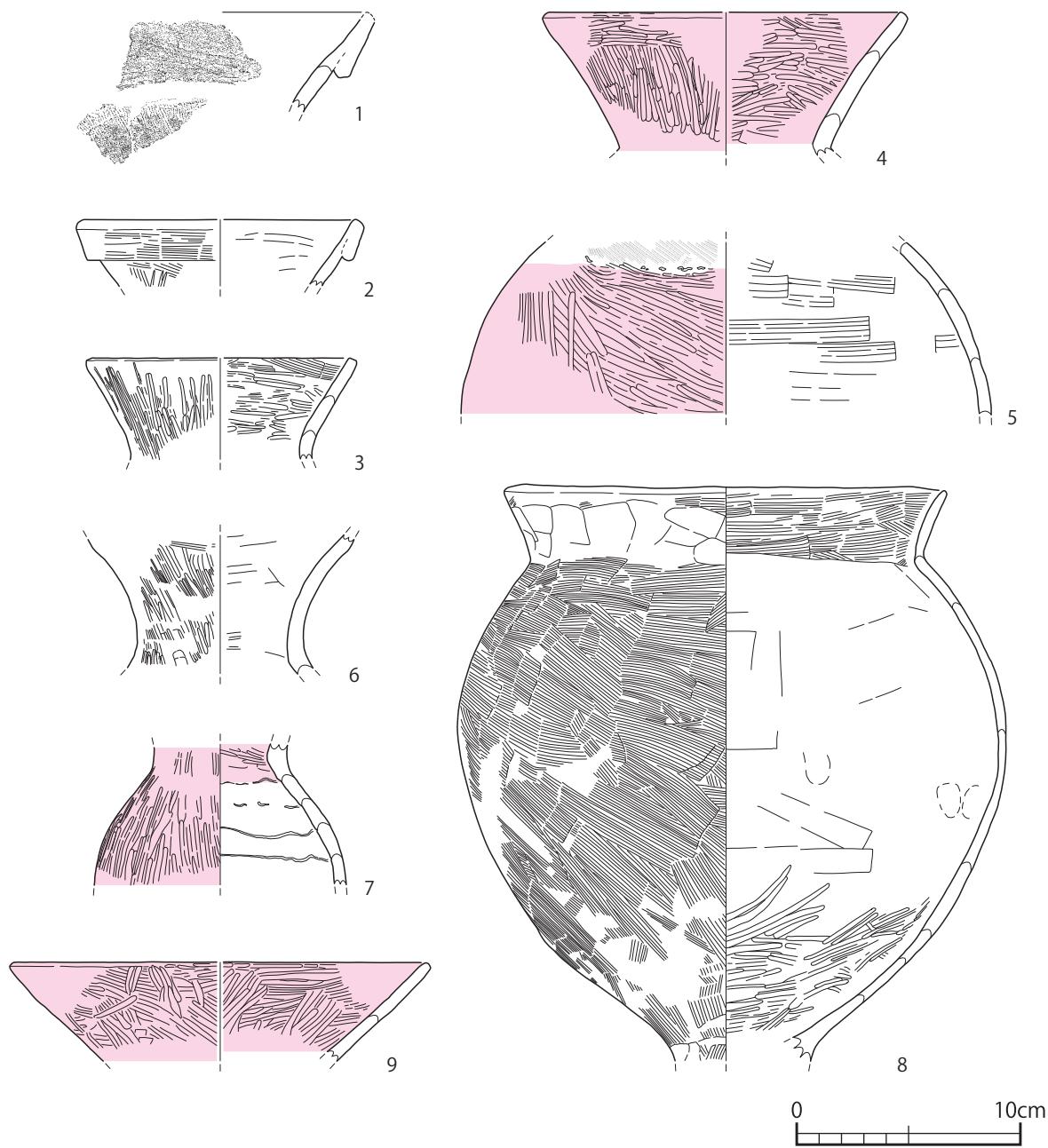


2. 掘方土層断面 B-B' 東南東から



3. 掘方全景 北北東から

第 110 図 SI60 写真 (3)

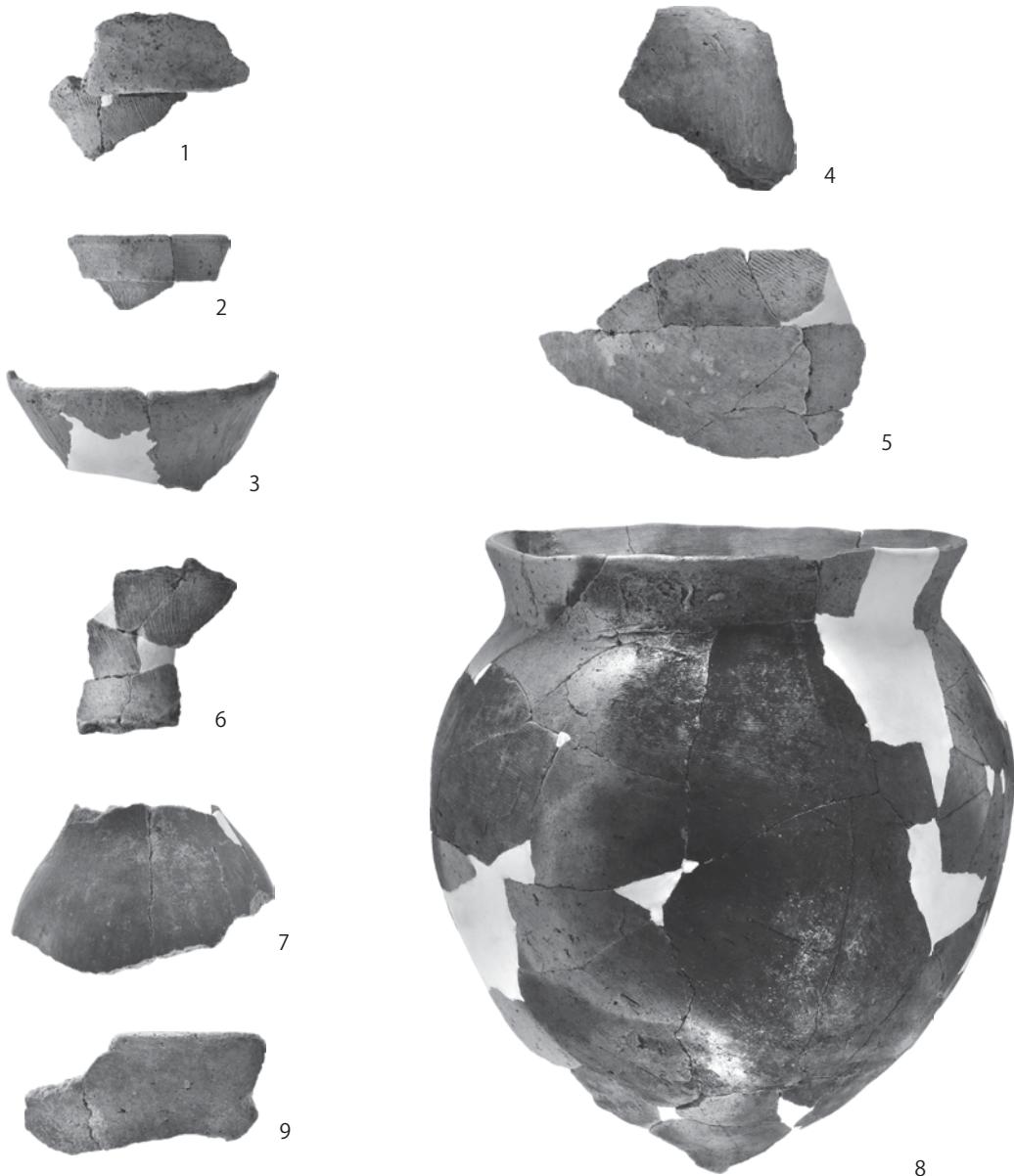


第 111 図 SI60 出土遺物 (1/3)

併行 2 点 42.4g、時期型式不明 1 点 16g)、縄文時代の石器(剥片) 1 点 0.4g、古代の土師器(甕) 6 点 26.7g、古代の須恵器(壺) 1 点 3.6g、焼成粘土塊 1 点 5.5g、金属製品(器種不明) 1 点 0.4g、被熱礫を含む礫 8 点 3,046.7g の他、炭化物(材)が出土した。

弥生時代後期～古墳時代前期の土器以外の土器や石器、金属製品は、後世の混入である可能性が高い。本遺構に伴う遺物は土器が主体であり、壺よりも台付甕を含む甕類の方が多い。接合した土器を中心に 9 点を図化し、掲載した。

第 111・112 図 1～7 は壺である。1・2 は折り返し口縁の壺で、1 は折り返しの幅が 3cm 以上と幅広く、2 は幅約 1.8cm と狭い。3・4 は単純口縁の口縁部で、頸部から直線的に開く形状を呈す



第 112 図 SI60 出土遺物写真

る。いずれもミガキによる調整が見られ、4は内外面に赤彩が施されている。5は壺胴部の破片で、胴上部には無節R縄文とS字状結節文が施文されている。文様帶の下方には赤彩が認められる。6は壺の頸部から口縁部の破片で、口縁端部を欠く。7は壺の頸部から胴部にかけての破片で、外面は縦位のミガキにより器面が整えられている一方で、内面には幅1~1.5cmの粘土紐の痕跡が明瞭に残る。頸部の直径が約6cmと狭く、成形時に手が届かなかったのだろう。8は台付甕である。約120点の破片が接合し、脚台部以外を概ね復元することができた。胴部最大径が胴上部にある器形で、口縁部は直線的に開く。頸部の屈曲はあまり強くない。口縁部外面はナデによる調整、胴部はハケ目調整である。胴下部の内面はミガキが施されている。口唇部外面に刻みは認められない。9は高环の坏部である。高环にしては器壁が厚いつくりであるが、内外面はミガキによる調整と赤彩が施されている。

8の形態的特徴と土器全体の様相から、新八王子市史編年の弥生時代終末期に位置付けられる。掲

第 17 表 SI60 出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 111 ・ 112 図	1	SI60	土器壺	—	幅 3cm 以上の折り返し口縁。	口縁部は横位のミガキ、頸部は縦位のハケ目。内面はナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR7/6 明黄褐	口縁～頸部破片	重量 35.4g
	2	SI60	土器壺	[12.1] (2.9)	幅約 1.8cm の折り返し口縁。	口縁部は横位のヘラナデ、頸部はハケ目のち縦位のミガキ。内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部 1/6	重量 16.8g
	3	SI60	土器壺	[11.4] (4.5)	口縁部は直線的に開く、單口縁。	外面は縦位のハケ目、口縁端部は横位のナデ。内面は横位のハケ目のち横位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部 1/2	重量 46.9g
	4	SI60	土器壺	[15.5] (6.1) 頸部径 [9.5]	口縁部は直線的に開く。単口縁。	外面のうち口縁部付近は横位、体部は縦位のミガキ。内面のうち口縁部は横位のミガキ、頸部付近はヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	2.5YR6/4 にぶい橙	口縁部 1/8	重量 53.0g 口縁部内外面に赤彩。
	5	SI60	土器壺	(7.7) 胴部最大径		外面のうち胴上部は社綱文(無節 R か) + S 字状結節文、それより下部は横位のミガキ主体。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	10YR7/3.5 にぶい黄橙	胴部破片	重量 78.6g 外面赤彩。
	6	SI60	土器壺	(5.7) 頸部径 [7.4]	頸部は緩やかに外反して開く。	外面はハケ目のち縦位のミガキ。内面はヘラナデか。	砂粒	良好	7.5YR6/6 橙	頸部破片	重量 32.1g
	7	SI60	土器壺	(6.3) 頸部径 [6.1]	頸部の屈曲は緩やか。	外面は縦位のミガキ。内面のうち頸部は横位のミガキ、胴部はナデ。粘土紐の痕跡が明瞭に残り、幅 1 ~ 1.5cm。	小礫、砂粒	良好	外面 10R4/6 赤 内面 10YR7/3.5 にぶい黄橙	胴部 2/3	重量 95.1g 外面、頸部内面に赤彩。
	8	SI60	土器台付甕	19.4 (25.6) 胴部最大径 [25.4]	口縁部は直線的に開く。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁部は横位のヘラナデ、胴上半部は横位から斜位のハケ目、胴下半部は斜位から縦位のハケ目。内面のうち、口縁部は横位のハケ目、胴上部は横位のヘラナデ主体、一部に指頭圧痕、胴下部は横位のミガキ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 5YR7/8 橙・ 7.5YR3/1 黒褐 内面 7.5YR7/4 にぶい橙・ 7.5YR3/2 黒褐	口縁～胴部 11/12	重量 1,129.7g
	9	SI60	土器高壺	[18.4] (4.4)	壺部は直線的に開く。	外面は斜位のミガキ主体。内面のうち口縁部付近は横位のミガキ主体、体部は斜位のミガキ主体。	小礫、砂粒	良好	外面 2.5YR5/4 にぶい赤褐 内面 7.5R4/4 にぶい赤	口縁部 1/8	重量 47.2g 壺部内外面に赤彩。

載した土器の多くが床面から出土していることから、本遺構の廃絶時期も同じであろう。(小西)

#### SI62 (第 113 ~ 121 図、第 18・19・23 表)

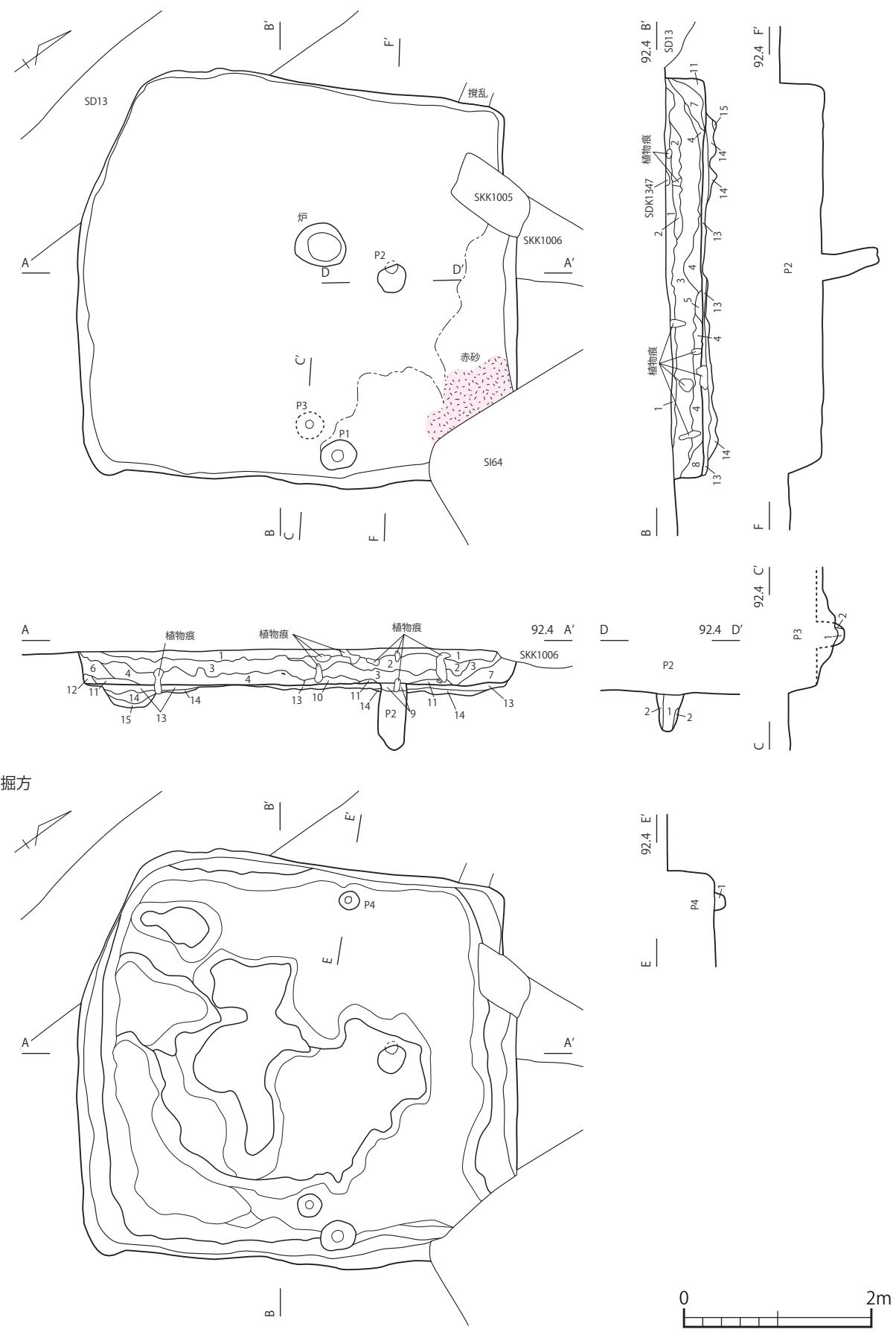
遺構 2-6 西区西寄りの 28Q-41・42・52 グリッドに位置する。中世の溝 SD13 の発掘調査中に新たに検出された。検出面は II3 層で、前述の SD13 の他、SI64、SDK1347、SKK1005・1006 に切られている。なお、SI62 の掘削中、新たに SI64 が検出された。

平面形態は隅丸方形で、長軸(南北) 470cm、短軸(東西) 429cm、検出面からの深さは 45cm を図る。主軸方向は N-54°W を指す。壁は概ね垂直に立ち上がっている。

床面は貼床で、北東部分の中央寄りで硬化が確認できたが、他の部分では不明瞭であった。壁溝、主柱穴は無く、東壁寄り中央部で梯子穴 P3、その東側の壁際に貯蔵穴 P1 の他、床面中央部付近でやや深い P2、掘方底面西壁寄りで P4 を検出した。炉は床面中心部の北西寄りで検出された。土堤は確認されなかったが、床面北東隅で赤砂を含む盛土を検出した。

覆土は 12 層に分けられた。12 層を除き、各層は黄褐色のスコリアを含む黒色土もしくは黒褐色土をベースとしており、特に上層～中層の 1 ~ 3 層は粒子が粗く、大部分がブロック状を呈している。床面直上の 10 層は焼土を少量含んでおり、これは炉の影響とみられる。また壁際から床面中央部付近の 11 層には暗褐色土が偏在し、壁際の 12 層はロームブロックが主体である。

掘方は、全体的に掘り込みは浅く、特に床面中央部付近では、地山がほぼ床面となっており、また、



第 113 図 SI62(1)(1/60)

SI62

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)15%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5% 含む。黒色土ブロック 30% 偏在。粘性ややあり、縮まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 1 層より明るい。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。黒色土ブロック 40% 偏在。粘性あり、縮まりあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 黒色土小ブロック主体 (70%)。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)7%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子極めて粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/6)5%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 2mm の黒色スコリア 1% 含む。ベルト中央寄りに焼土粒子微量偏在。粘性あまりなし、縮まり強、粒子やや密。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/6)3%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性強、縮まり強、粒子密。
6. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/6)5%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、縮まりややあり、粒子やや粗い。4 層に似るが、縮まりが緩く粒子が粗い。
7. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 3mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)10%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3% 含む。粘性あり、縮まり強、粒子極めて粗い。
8. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)10%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性強、縮まり強、粒子粗い。
9. 10YR1.7/1 黑色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/6)3%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。暗褐色土 (10YR3/3)20% 偏在。粘性強、縮まりあまりなし、粒子粗い。
10. 5YR1.7/1 黑色土層 直径 1mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性ややあり、縮まりあり、粒子やや密。
11. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/6)5%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。暗褐色土 (10YR3/3)10% 偏在。粘性あり、縮まりあり、粒子やや密。
12. 10YR4/6 褐色土層 ロームブロック主体。黒褐色土層 (10YR2/2)20% 偏在。直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、縮まりややあり、粒子やや粗い。
13. 10YR2/1 黑色土層 貼床土。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 2%、直径 5mm 以下のローム粒子 5% 含む。粘性強、縮まり極めて強、粒子密。
14. 10YR2/2 黑褐色土層 貼床土。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 3% 含む。粘性強、縮まり極めて強、粒子やや密。
15. 10YR3/3 暗褐色土層 貼床土。ローム 40% 混在。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 3% 含む。粘性強、縮まり強、粒子やや粗い。

P2

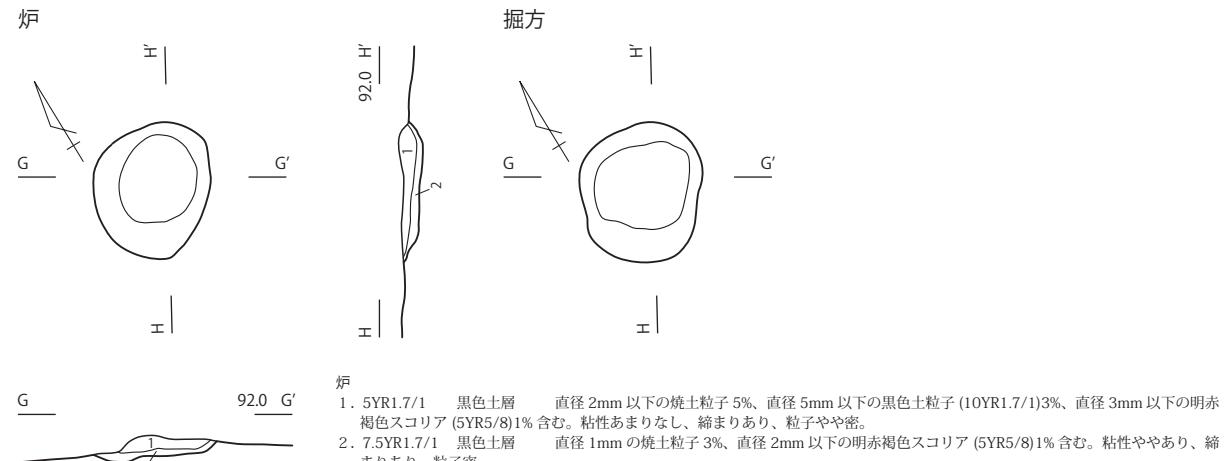
1. 7.5YR2/1 黑色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)7%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、縮まりあり、粒子やや粗い。
2. 7.5YR2/1 黑色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。直径 15mm 以下のロームブロック (10YR4/6)5% 偏在。粘性ややあり、縮まりあり、粒子やや密。

P3

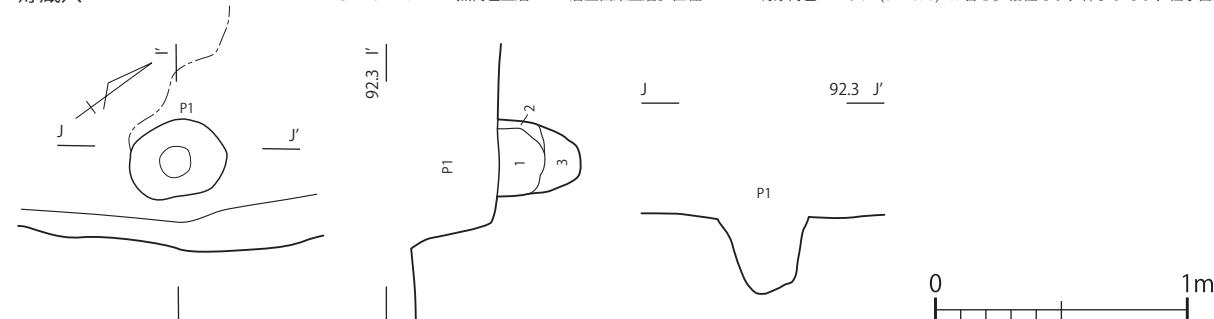
1. 10YR2/1 黑色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)10%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3%、直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、縮まり極めて強、粒子やや密。
2. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム、黒褐色土混合土層。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3% 含む。粘性ややあり、縮まり強、粒子密。

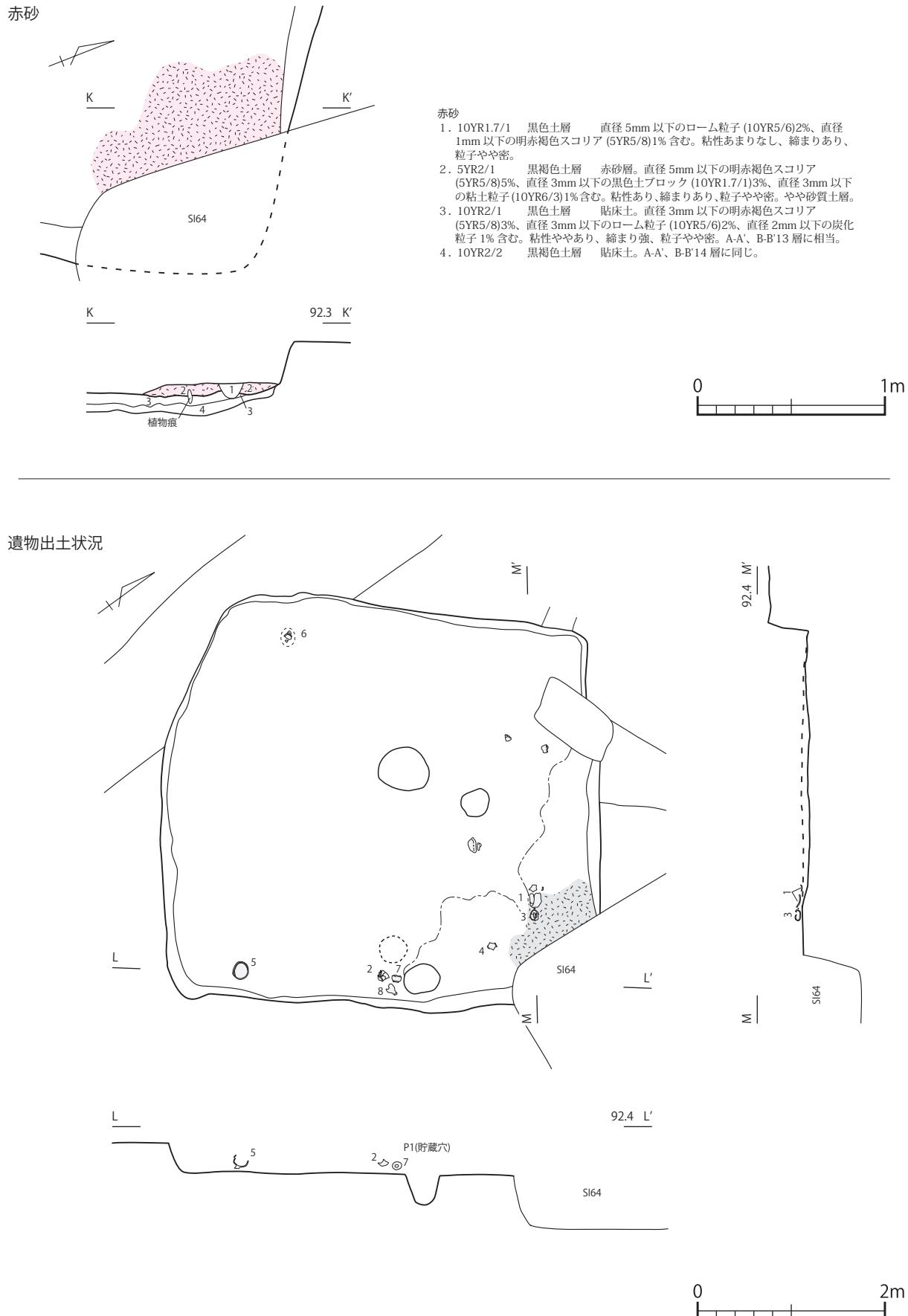
P4

1. 10YR2/1.5 黑～黑褐色土層 黒褐色土 (10YR2/3)30% 偏在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2% 含む。粘性強、縮まりあり、粒子やや密。

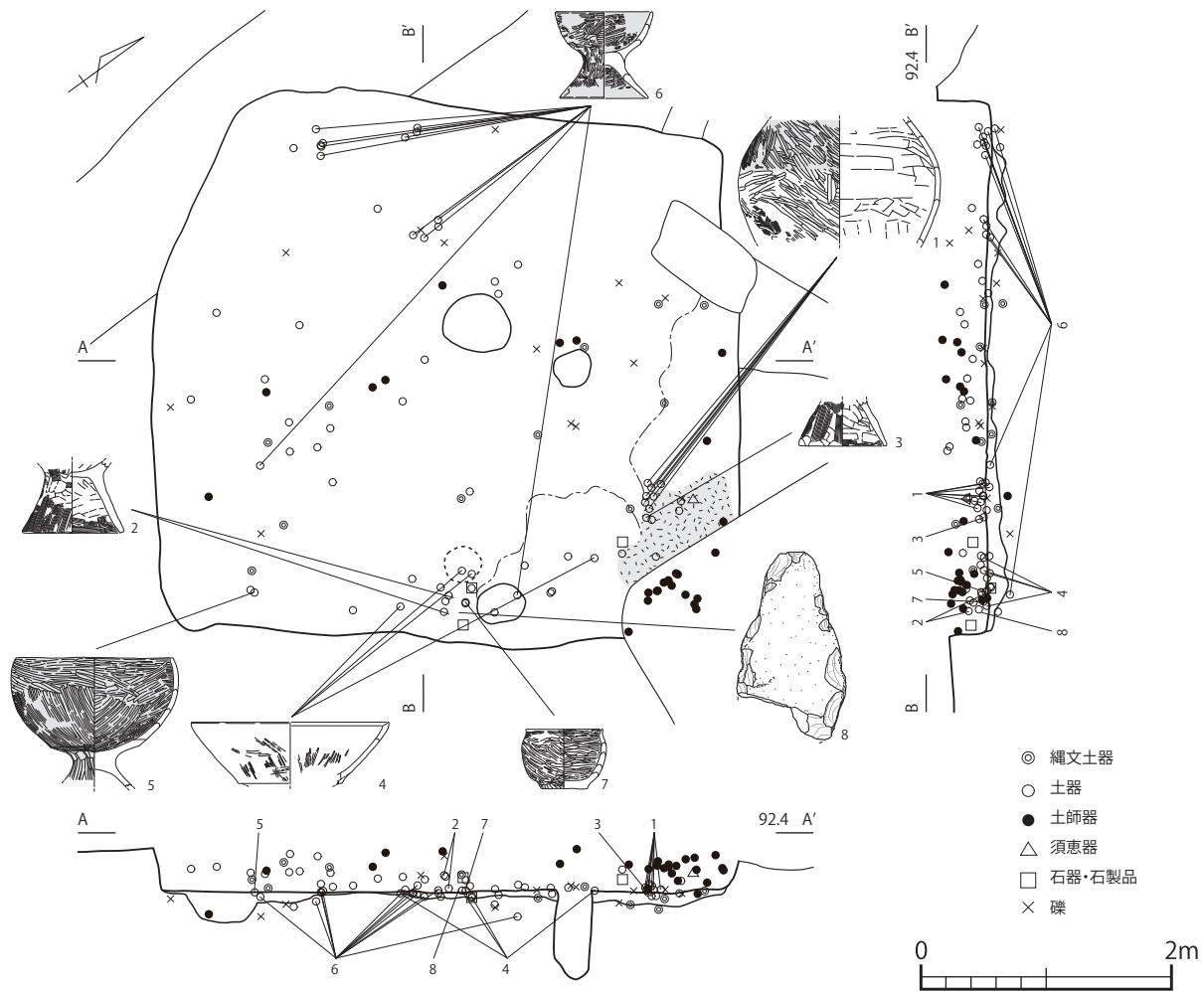


貯藏穴





第 115 図 SI62(3) 赤砂 (1/30)・遺物出土状況図 (1/60)



第116図 SI62(4) 遺物分布・接合図 (1/60)

壁際がテラス状に1段高くなっている。南部から東部にかけてはやや深く掘り込まれており、他の部分がⅢ3層までの掘り込みであるのに対し、この部分ではⅣ層まで及んでいる。掘方充填土は3層に分けられ、上層が黒色土の13層、下層が黒褐色土の14層で、深く掘り込まれた部分のみでロームが多く混在する暗褐色土の15層が見られる。

ピットはP1～4の4基が検出された。梯子穴とみられるのはP3で、掘方底面で検出されたが、本来は床面から穿たれていたものと推察され、その場合の深さは30cm程度である。検出面での長軸は30cmを測る。

貯蔵穴P1は長軸39cm、短軸30cmの楕円形を呈する。床面からの深さは33cmを測り、断面形態はU字状である。覆土は3層に分けられた。

P2は長軸31cm、短軸28cmの不整楕円形を呈する。南東から北西に斜めに穿たれており、深さは72cmを測る。P4は掘方底面で検出された浅い円形のピットである。P2・4の用途は不明である。

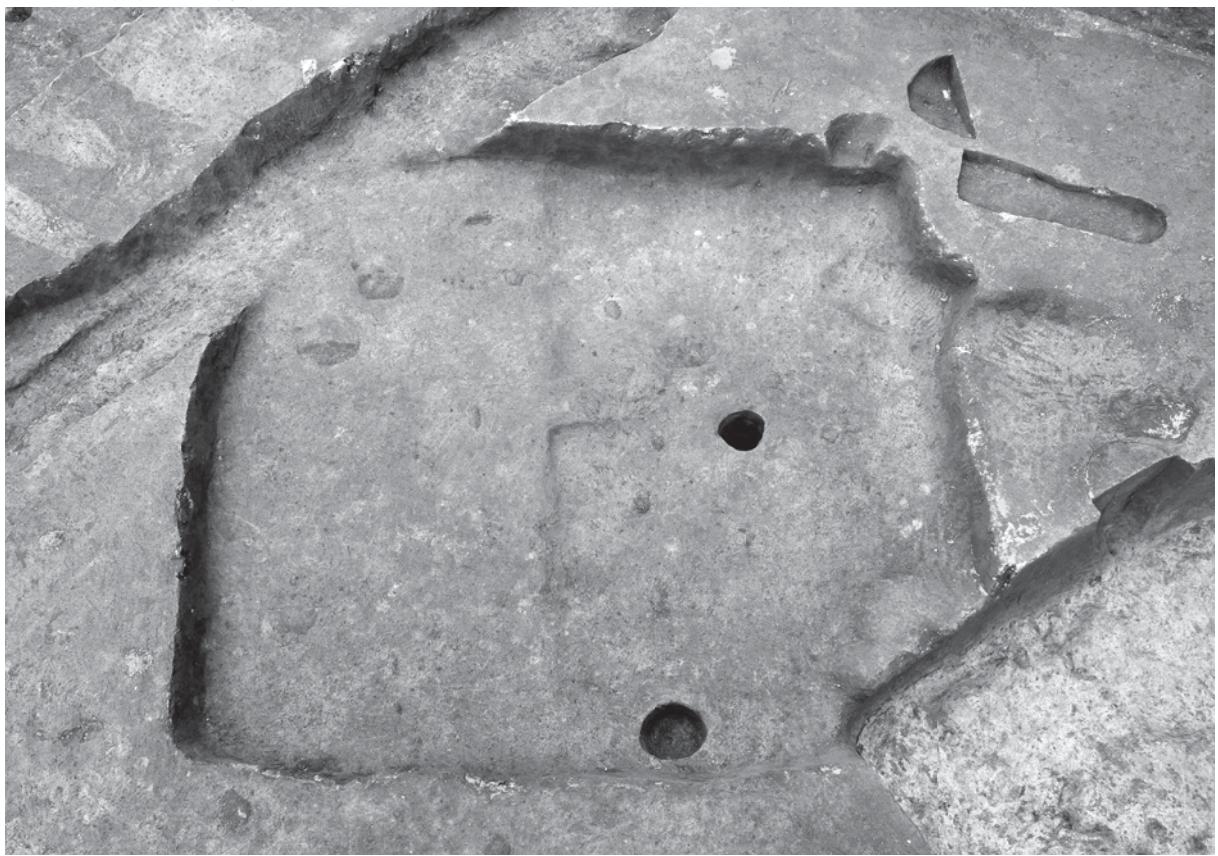
炉は、掘方の長軸54cm、短軸47cmの楕円形を呈し、明瞭な火床部は確認されなかったが、位置と、覆土に焼土粒子が含まれていることから炉と判断した。枕石は出土しなかった。また、採取した炉の覆土の一部に対して、水洗選別を行い、炭化種実の抽出を試みた。わずかに1点のみ抽出し、同定を行っ



1. 土層断面 A-A' 北東から



2. 土層断面 B-B' 南東から



3. 床面全景 南東から

第 117 図 SI62 写真 (1)



1. 遺物出土状況 南東から



2. 遺物出土状況 南西から



3. 遺物出土状況 北東から



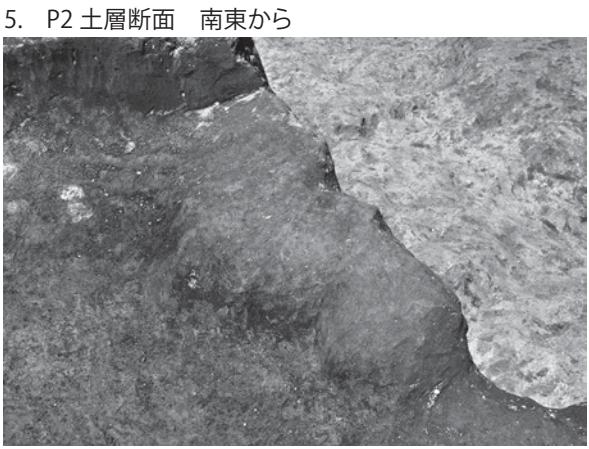
4. P1 全景 南東から



5. P2 土層断面 南東から



6. P3 土層断面 北東から



7. 赤砂検出状況 南西から



8. 赤砂土層断面 北西から

第 118 図 SI62 写真 (2)



1. 焼土層断面 南東から



2. 焼掘方土層断面 南東から



3. 掘方土層断面 A-A' 北東から

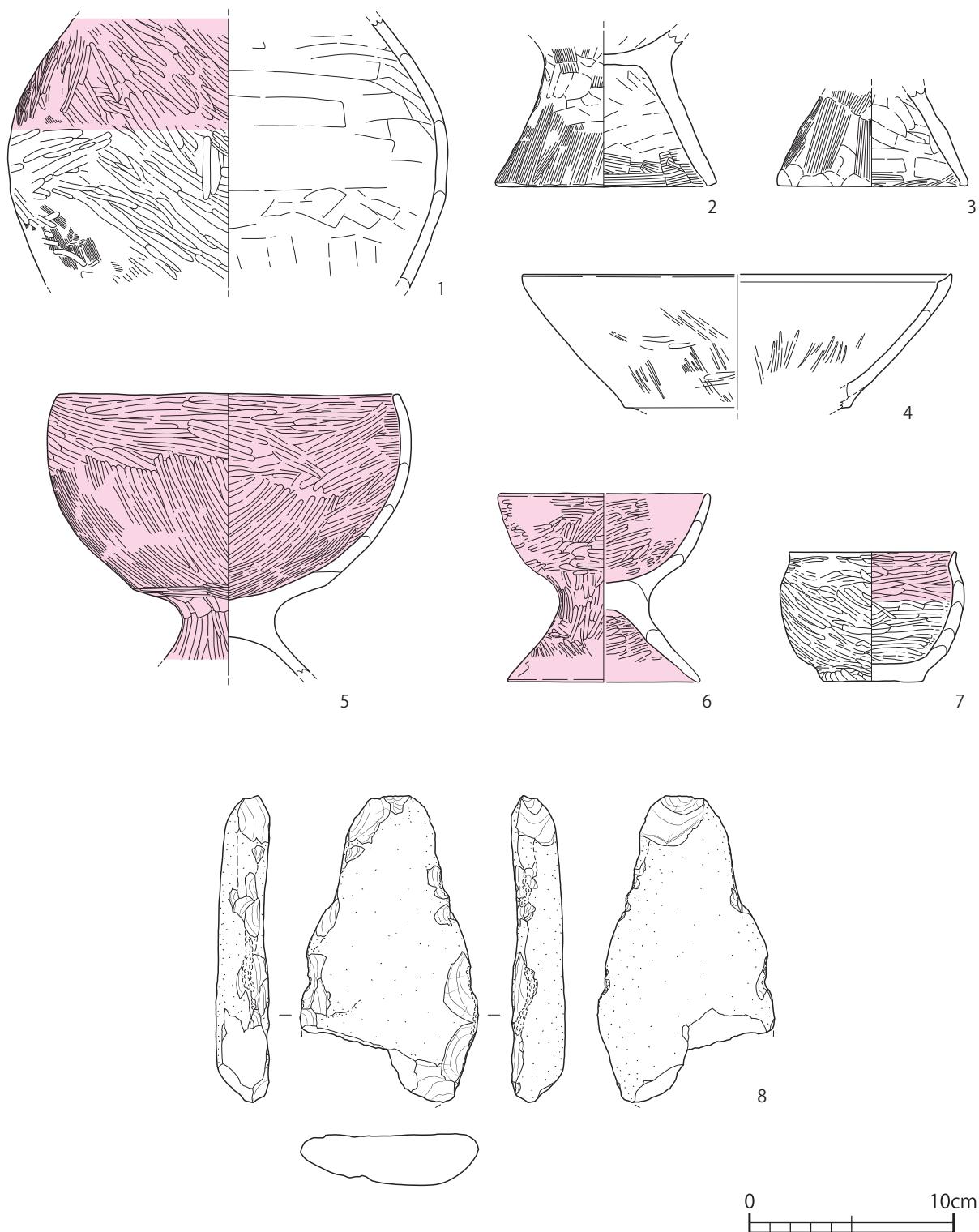


4. 掘方土層断面 B-B' 南東から



5. 掘方全景 南東から

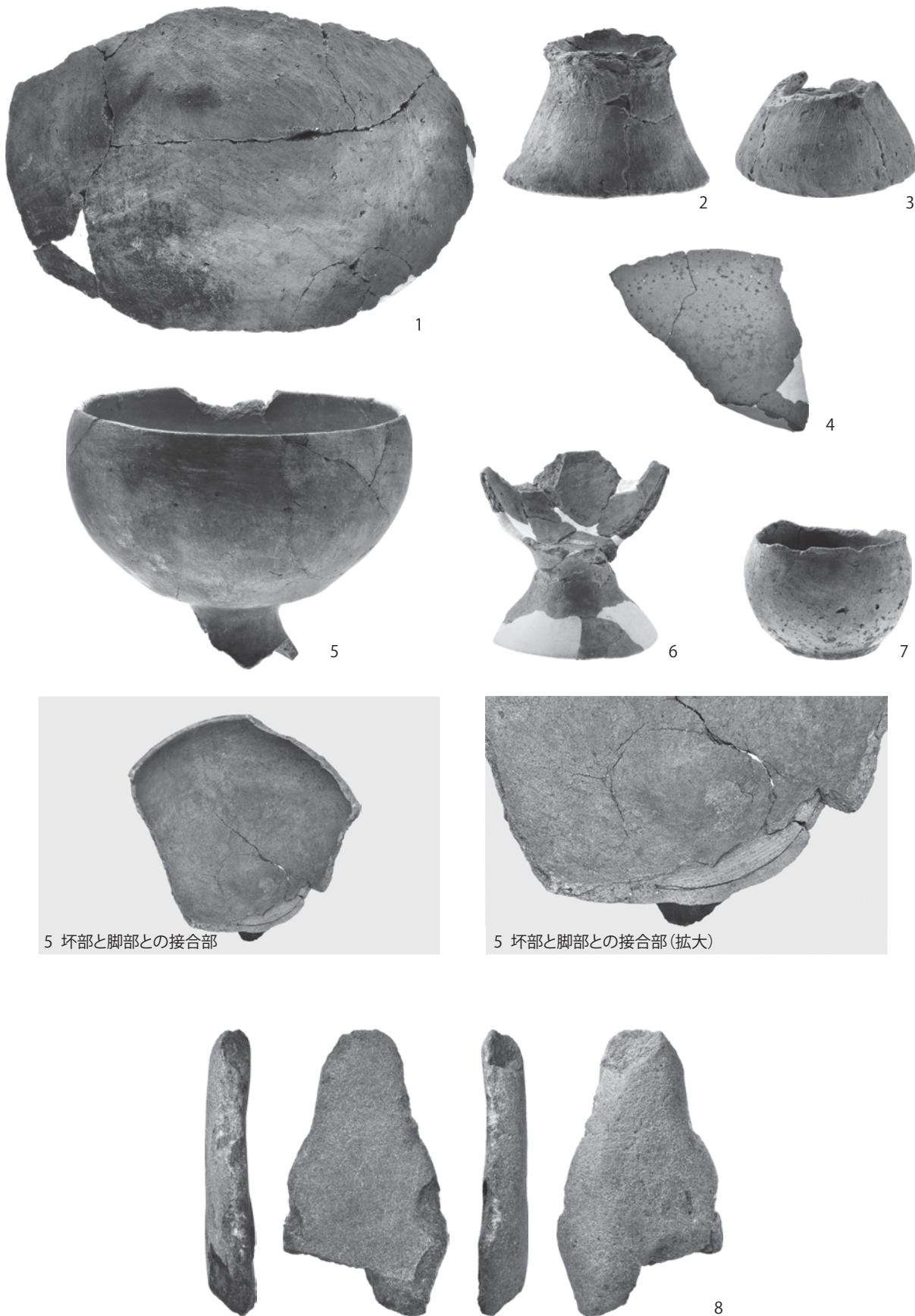
第 119 図 SI62 写真 (3)



第 120 図 SI62 出土遺物 (1/3)

たところ、アワ穎果であると分かった（第V章第1節参照）。

赤砂は、床面の北東隅で盛土状に検出された。黒褐色土がベースの砂質土壤で、一部は SI64 によって切られているが、残存範囲では床面から 8cm の高まりを確認することができた。



第 121 図 SI62 出土遺物写真

遺物は覆土の上層～下層にかけて出土しているが、当遺構に直接伴うと思われる土器は下層を中心に出土している。  
(相原)

遺物 本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 149 点 1,760.2g (壺 28 点 337.7g、甕 7 点 9.4g、台付甕 42 点 347.9g、高環 62 点 860.8g、鉢 5 点 21g、小形鉢 1 点 176.6g、甕あるいは壺 3 点 6.6g、器種不明 1 点 0.2g)、弥生時代後期～古墳時代前期の石器 (打製石斧) 1 点 933g、土師器 (甕) 26 点 96.9g、須恵器 (环) 1 点 2.8g、礫 (被熱礫を含む) 8 点 738g が出土した。土師器や須恵器は古代の所産であり、SD12 の構築等の際に混入した可能性が考えられる。打製石斧とした石器は、その形状や出土位置等から、本遺構に伴う遺物と判断した。

本遺構に伴う土器の傾向としては、壺よりも甕の方が若干多い点や、高環や小形鉢が一定量出土している点が挙げられる。上記の小形鉢の重量は、一個体分である。土器 7 点、石器 1 点を掲載した。

第 120・121 図 1 は壺胴部で、胴部最大径が概ね胴中央部にある器形を呈する。胴上部外面には

第 18 表 SI62 出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 120 ・ 121 図	1	SI62	土器壺	(13.1) 胴部最大径 [21.6]	胴部最大径は中央部にある。	外面は斜位、横位のミガキ、部分的にハケが残る。 内面のうち胴上部は横位のヘラナデ、胴下部は横位と縦位のヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 7.5YR7/4 にぶい橙 内面 10YR5/2 灰黄褐	胴部 1/2	重量 271.8g 胴部外面に赤彩。
	2	SI62	土器台付甕	10.8	脚台部は「ハ」の字状に開く。	外面のうち脚台部は縦位のハケ目主体。 内面のうち甕底部はヘラナデ、脚台部はヘラナデ主体で、端部に横位のハケ目。	砂粒	良好	10YR6/3.5 に ぶい黄橙	脚台部完形	重量 233.0g
	3	SI62	土器台付甕	(4.8) 9.3	脚台部は「ハ」の字状に開き、端部がわずかに内湾する。	外面は縦位のハケ目、下端部はハケ目のちナデ。 内面は縦位、横位のヘラナデ、下端部は横位のハケ目。	小礫、砂粒	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 5YR6/6 橙	脚台部ほぼ完形	重量 107.6g
	4	SI62	土器高環	[20.9] (4.7)	环下部に稜を有する。口縁部はやや内湾気味に開き、口縁端部には内傾する面を有する。	外面は縦位、横位のミガキ、内面は縦位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁～体部 1/6	重量 72.1g 外面の一部に赤彩が残存。
	5	SI62	土器高環	16.6 (13.5) 环部最大径 17.7	环部は深い椀状で、下部に稜を有する。脚部はやや外反しながら開く。	外面のうち口縁部は横位のミガキ、体部は縦位のミガキ、稜付近は横位のミガキ、体下部から脚部にかけては縦位のミガキとヘラナデ。 内面のうち口縁部は横位のミガキ主体、体部は斜位、縦位のミガキ。	小礫、砂粒	良好	10YR6.5/4 に ぶい黄橙 赤彩 2.5YR4/6 赤褐	环部ほぼ完形	重量 620.6g 环部内外面、脚部外面に赤彩。
	6	SI62	土器小形高環	(10.1) 9.2 9.3	环部はやや内湾する形状で、环下部にわずかな稜が残る。脚部は「ハ」の字状に開く。	外面のうち环部は横位のミガキ主体、环部から脚部にかけては縦位のミガキ、脚部は斜位と横位のミガキ。 内面は环部・脚部とともに横位のミガキ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 5YR5/4 に ぶい赤褐 内面 10R5/4 赤褐	口縁部 1/3 脚部 1/8	重量 147.0g 内外面全体に赤彩。
	7	SI62	土器小形鉢	8.0 6.3 4.8	口縁部は短く外反する。	外面のうち口縁部は横位のミガキ主体、体部から底部にかけては斜位、縦位のミガキ、底部はケズリ。 内面は横位のミガキ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR7/4 に ぶい黄橙	ほぼ完形	重量 176.6g 内面の口縁部から体部上半に赤彩。 外側の体下部から底部にかけて爆ぜた痕跡。

第 19 表 SI62 出土石器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 120 ・ 121 図	8	SI62	打製石斧	15.0	8.7	2.6	355.5g	完形	砂岩	石鍛の可能性あり

赤彩が認められる。2・3は台付甕の脚台部で、いずれも外面はハケ目調整である。2は底部からわずかに外反気味に開き、脚台部端部の断面形は方形に近い。3は底部から直線的に開き、脚台部端部がやや丸みを帯びる。

4～6は高坏である。4は坏部のみで、脚部を欠損する。坏部は体部下端に稜を有する器形で、体部は稜から直線的に開き、口縁部がわずかに内湾する。口縁端部は内傾する面を有する。坏部外面には赤彩の痕跡が残るが、範囲としては明瞭ではないため図示していない。4は元屋敷系高坏であり、口縁端部の形状はやや古い様相を示す。5は口縁部の一部を欠くものの、坏部がほぼ完形で残存し、脚部は欠損している。深い椀形の坏部は下端に稜を有し、それを境にして外面の調整の方向が変化している。外面は口縁部から体上部は横位のミガキ、体上部から稜までは縦位のミガキ、稜から脚部との接合部は横位のミガキがそれぞれ施され、坏部と脚部の接合部は縦位のナデ、脚部は縦位のミガキによる調整が行われている。接合を行う前に土器の破断面を観察したところ、坏体部の稜の部分は坏部と脚部との接合部だったことが分かった。また、粘土どうしの接着を良くするために、接合部分にハケ状工具で傷を付けた痕跡を確認することができた（第121図5参照）。5は欠山式土器の有稜高坏の系譜を引くと捉えられるが、本来あるべき器形からはだいぶ崩れている印象を受ける。6は小形高坏である。坏部は椀形を呈し、下端にはわずかに稜が認められる。脚部は直線的に開く。ミガキによる調整と赤彩が施されているものの、全体的に厚手のつくりである。

7は小形鉢である。底部から体部にかけては明瞭な段が付き、体部は内湾気味に膨らみ、口縁部は短く外反する。内外面ともにミガキによる調整が主体で、口縁部から体上部内面には赤彩が施されている。

8は上部が先細る扁平な礫を加工しているが、各面に自然面が多く残る。刃部の一部を欠損しているものの、残存する側面等の加工状況から、未製品であると考えられる。「打製石斧」としたが、形状等から「石鍬」である可能性も考えられる。

これらの土器の様相から、新八王子市史編年の弥生時代後期後半に位置付けられる。土器の出土状況から、本遺構の廃絶時期も同時期と考えられる。  
(小西)

#### SI65（第122～134図、第20・23表）

遺構 2-6 西区東部の28Q-18・19・28・29グリッドに位置する。検出面はII3層で、SK199・208、SP740・741・742・766、SKK863の各遺構に切られている。

SK208（調査着手時はSP663）の掘削中、西壁がオーバーハング状に掘り進められたため、詳細を確認したところ、SK208に切られる別遺構の存在が確認された。また、SK208の北側で検出され、集石を伴う土坑SK218としていた遺構のプランを再度確認したところ、これらが一連の竪穴建物跡であることが明らかになり、SI65として調査することとなった。

平面形態は隅丸長方形で、長軸579cm、短軸521cmを測り、本報告の同時期の竪穴建物跡の中では最大規模である。検出面からの深さは69cmを測り、壁は一部を除いて垂直に立ち上がっている。主軸方向はN-83°-Wを指す。

床面は貼床で、全体的に、概ね平坦である。硬化面は壁際を除く広い範囲で確認された。壁溝は無く、主柱穴は4基（P1～4）が確認された。また、東壁寄りの中央に梯子穴と思われるP5、P5北東側の壁際に貯蔵穴P9の他、炉の南東にP6、P1とP4の中間にP7、P4の東側にP8の小ピットが

検出された。炉は大型の地床炉で、床面中央部のやや西寄りで検出された。その他、貯蔵穴 P9 の周囲を半周する土堤、床面北東隅で赤砂の分布が認められた。

床面までの覆土は 27 層に分けられ、そのほとんどが明赤褐色スコリアと黄褐色スコリアを含む黒色土がベースとなっている。このうち最上層の 1 層は、前述した通り、当初 SK218 とした集石状の複数の礫を伴っている。これは、この建物跡が完全に埋没する前の段階で、近隣の掘削等で発生した礫を窪地に遺棄したものと想定した。108 点の礫は全て被熱しており、片状砂岩 1 点を除き、全て砂岩である。

床面に近い 14・21 層は、締まりが極めて強い硬化した層である。いずれの層にも、焼土や炭化物の粒子は含まれていない。

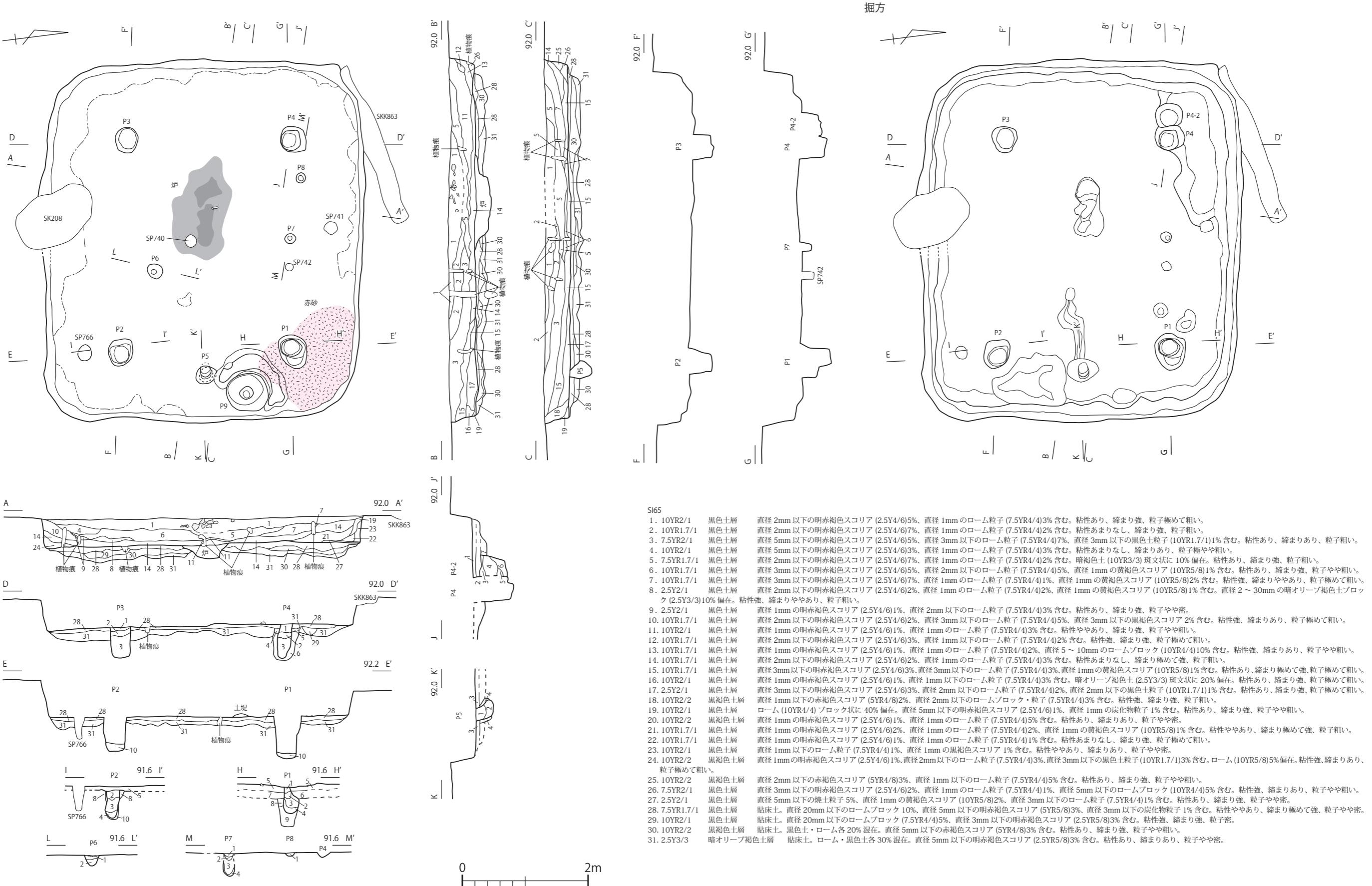
掘方は、全面的に深く VS 層近くまで掘り下げられている。壁際がテラス状に 1 段高くなっているが、それ以外の底面は比較的平坦である。掘方の充填土は 4 層に分けられ、上層の 27・28 層は、ロームブロックが目立つ黒色土、30・31 層はローム粒子が目立つ土壤で、30 層は黒褐色土、31 層は暗オリーブ褐色土が主体である。

主柱穴は P1～4 の 4 基である。いずれも平面形態は橿円形でローム層まで深く掘り込まれており、床面からの深さは P1 が 70cm、P2 が 55cm、P3 が 54cm、P4 が 62cm である。P1 が最も深いが、東側の段差部分は 50cm で、P2・3 よりやや浅い。また、P4 は西側に貼床の下から検出されたピット (P4-2) が接しており、こちらの床面からの深さは 57cm で、この場合は、4 基の深さの値は近似することになる。のことから推定すると、P1・4 は据え替えが行われた可能性が考えられる。また主柱穴では、P3 を除いた各ピットで柱痕跡もしくは柱抜取り穴が検出された。P1 は、覆土の 1～4 層が柱痕跡もしくは柱抜取り穴覆土とみられる。掘方覆土 (8・9 層) の上を貼床土 (5～7 層) が覆っていることから、柱を据えた後に貼床を構築したと考えられる。P2 は柱抜取り穴覆土とみられる 2～4 層を貼床土 5 層が覆っている状況から、柱を抜き取った後に柱穴を埋めている可能性がある。P1・2 共に最下層の 10 層は締まりが非常に強い。前述のとおり、P3 では柱痕跡等は検出されていない。P4 は、P1 と同じく床面を構築する前に柱を据えたようである。P4-2 は、断面観察では上部を貼り床土で塞がれており、P4 より古いと仮定したが、平面の観察では、他の P1～3 と比べて壁側に寄り過ぎており、位置的には P1～4 が同時に据えられたと考える方が妥当であろう。

P5 は梯子穴と考えられる。掘方は長軸 34cm、短軸 28cm の卵形を呈し、北側の上端部は土堤の下に及んでいる。壁側から床面中央方へ斜めに穿たれ、床面からの深さは 28cm を測る。P1・4 と同様、柱を据えた後で硬化した床面が構築されており、1・2 層が柱痕跡もしくは柱抜取り穴覆土、3 層が貼床土、4 層が柱掘方覆土である。

貯蔵穴 P9 は長軸 67cm、短軸 60cm の橿円形で、床面からの深さは 28cm である。底面は平坦だが、中央部に下部施設状の窪みがある。覆土は 4 層に分けられ、各層に焼土粒子や炭化材片、ロームブロック等を含んでいる。

炉は枕石を有する地床炉で、床面中心部で検出された。掘方は長軸 163cm、短軸 84cm で、東西に長い不整橿円形を呈する。床面から掘方底面までの深さは 25cm を測る。火床部は、大きく分けて 2 面で検出された。上面の火床部 1 は、断面観察から更に新旧に分けられた。西側の火床部 1 (新) は焼土をブロック状に 30% 程度含む黒褐色土で、炭化物粒子を少量含んでいる。東側の火床部 1 (旧)



第122図 SI65(1)(1/60)



## P1・2

1. 10YR2/3 黒褐色土層 ロームブロック・粒子下部に 20% 偏在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗い。  
 2. 10YR3/4 暗褐色土層 ロームブロック・粒子主体。直径 20mm 以下の黒色土ブロック (10YR1.7/1)10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3% 含む。粘性あり、  
   締まりなし、粒子極めて粗い。  
 3. 10YR3/3 暗褐色土層 III層土・ローム混合土層。粘性ややあり、締まりなし、粒子極めて粗い。  
 4. 10YR2/1 黒色土層 直径 15mm 以下のロームブロック 20% 偏在。粘性ややあり、締まりなし、粒子極めて粗い。  
 5. 10YR2/1 黒色土層 貼床土。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、  
   締まり極めて強、粒子やや粗い。  
 6. 10YR1.7/1 黒色土層 貼床土。直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)1%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。  
 7. 10YR3/3 暗褐色土層 貼床土。III層土主体。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。黒色土 (10YR1.7/1)10% 偏在。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。  
 8. 10YR2/3 黒褐色土層 IV層・ローム (VS 層) 混合土層。直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR1.7/1)5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6)1% 含む。粘性あり、  
   締まりなし、粒子極めて粗い。  
 9. 7.5YR2/3 極暗褐色土層 ロームブロック・粒子 40% 偏在。粘性あまりなし、締まりなし、粒子極めて粗い。  
 10. 10YR2/3 黒褐色土層 ロームブロック 40% 偏在。粘性あり、締まり強、粒子粗い。

## P3・4

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 5% 含む。褐色土  
   (10YR4/6)10% 偏在。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。  
 2. 10YR3/4 暗褐色土層 ロームブロック (10YR5/8)40% 偏在。直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。  
 3. 10YR5/8 黄褐色土層 ロームブロック (10YR5/8) 主体。暗褐色土 (10YR3/4)30% 偏在。粘性強、締まり強、粒子極めて粗い。  
 4. 10YR5/8 黄褐色土層 ロームブロック (10YR5/8) 主体。黒褐色土 (10YR2/3)10% 偏在。粘性あまりなし、締まり強、粒子極めて粗い。  
 5. 10YR2/1 黒色土層 ロームブロック (10YR5/8)10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)5% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。  
 6. 10YR2/3 黑褐色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。

## P4-2

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 貼床土。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)7%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まり極めて強、粒子やや密。  
 2. 7.5YR1.7/1 黑色土層 貼床土。直径 5mm 以下のローム粒子・ブロック (10YR5/8)7%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まり極めて強、  
   粒子やや粗い。  
 3. 10YR1.7/1 黑色土層 直径 5mm 以下のローム粒子・ブロック (10YR5/8)10%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。  
 4. 10YR3/3 暗褐色土層 ロームブロック・粒子 (10YR5/8)30% 混在。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締  
   まりあまりなし、粒子粗い。  
 5. 10YR2/2 黑褐色土層 ローム (10YR5/8)20% 混在。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりなし、粒子  
   極めて粗い。  
 6. 10YR5/8 黄褐色土層 ローム・ブロック (10YR5/8) 主体。黒褐色土 (10YR2/2)20% 混在。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりなし、粒子  
   極めて粗い。  
 7. 10YR2/2 黑褐色土層 貼床土。黒色土・ローム各 20% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや粗い。

## P5

1. 10YR2/1 黑色土層 直径 8mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 5% 含む。ロームブロック・粒子 (7.5YR5/8)15% 偏在。粘性あり、  
   締まり強、粒子やや密。  
 2. 10YR2/1 黑色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)5% 含む。ローム (7.5YR5/8)20% 偏在。粘性強、締まりあり、粒子やや密。  
 3. 10YR1.7 ~ 2/1 黑色土層 貼床土。直径 5mm 以下のロームブロック (7.5YR5/8)10%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒  
   子やや密。  
 4. 10YR5/8 黄褐色土層 ロームブロック (7.5YR5/8) 主体。黒褐色土 (10YR2/3)20% 偏在。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

## P6

1. 10YR1.7/1 黑色土層 直径 1mm 以下の焼土粒子 1%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子  
   (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや密。  
 2. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム主体。黒色土 (10YR1.7/1)20% 偏在。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

## P7

1. 7.5YR1.7/1 黑色土層 焼土 20% 偏在。炭化材片 5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)3% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子粗い。  
 2. 2.5Y2/1 黑色土層 焼土 5% 偏在。炭化材片 5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (7.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。  
 3. 10YR2/1 黑色土層 ローム 20% 混在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。  
 4. 10YR6/6 明黄褐色土層 ローム主体。直径 15mm 以下の黒色土ブロック (10YR1.7/1)20% 偏在。粘性強、締まり強、粒子粗い。

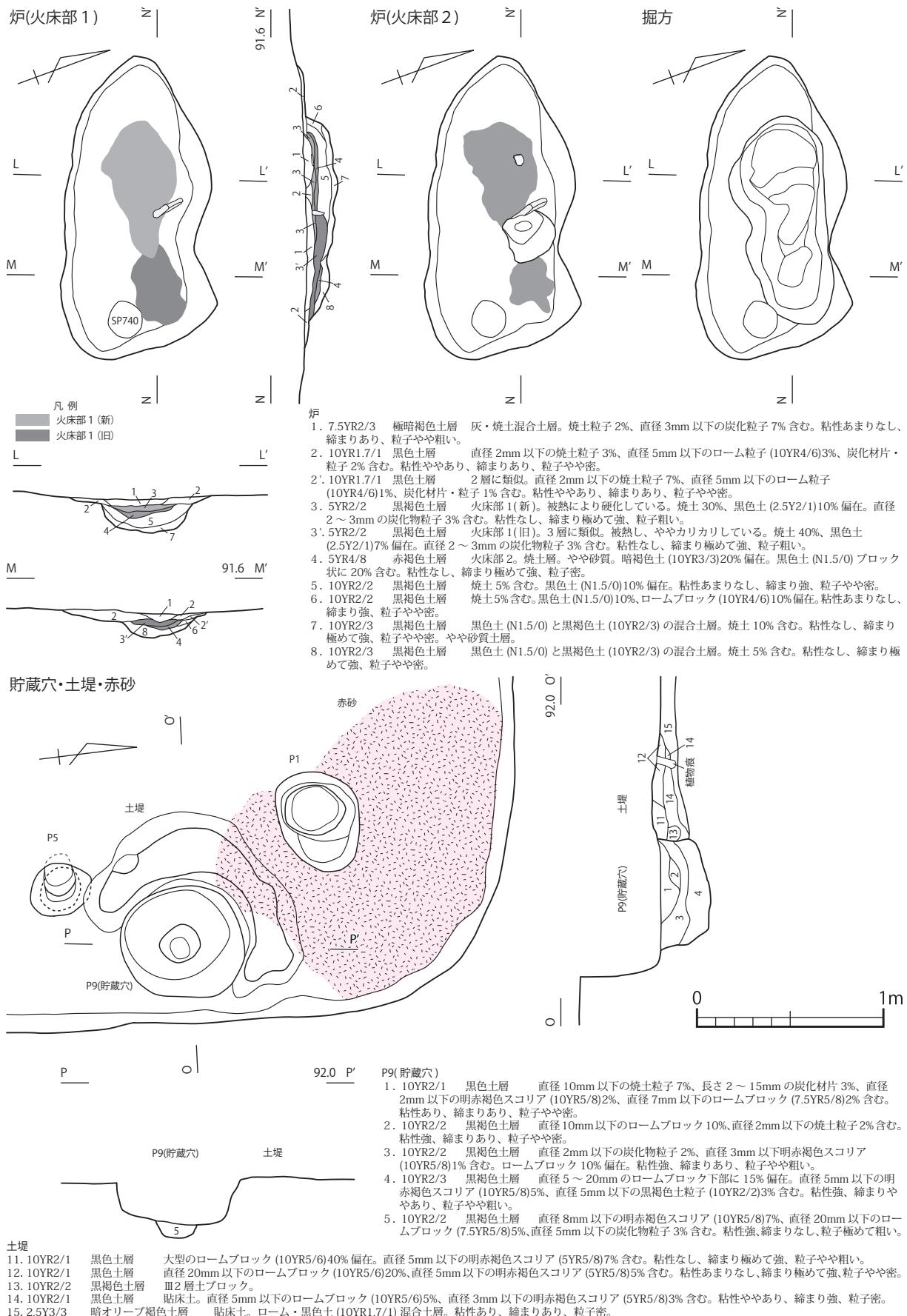
## P8

1. 10YR2/1 黑色土層 焼土 15% 偏在。炭化材片 5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR5/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (7.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、  
   粒子粗い。

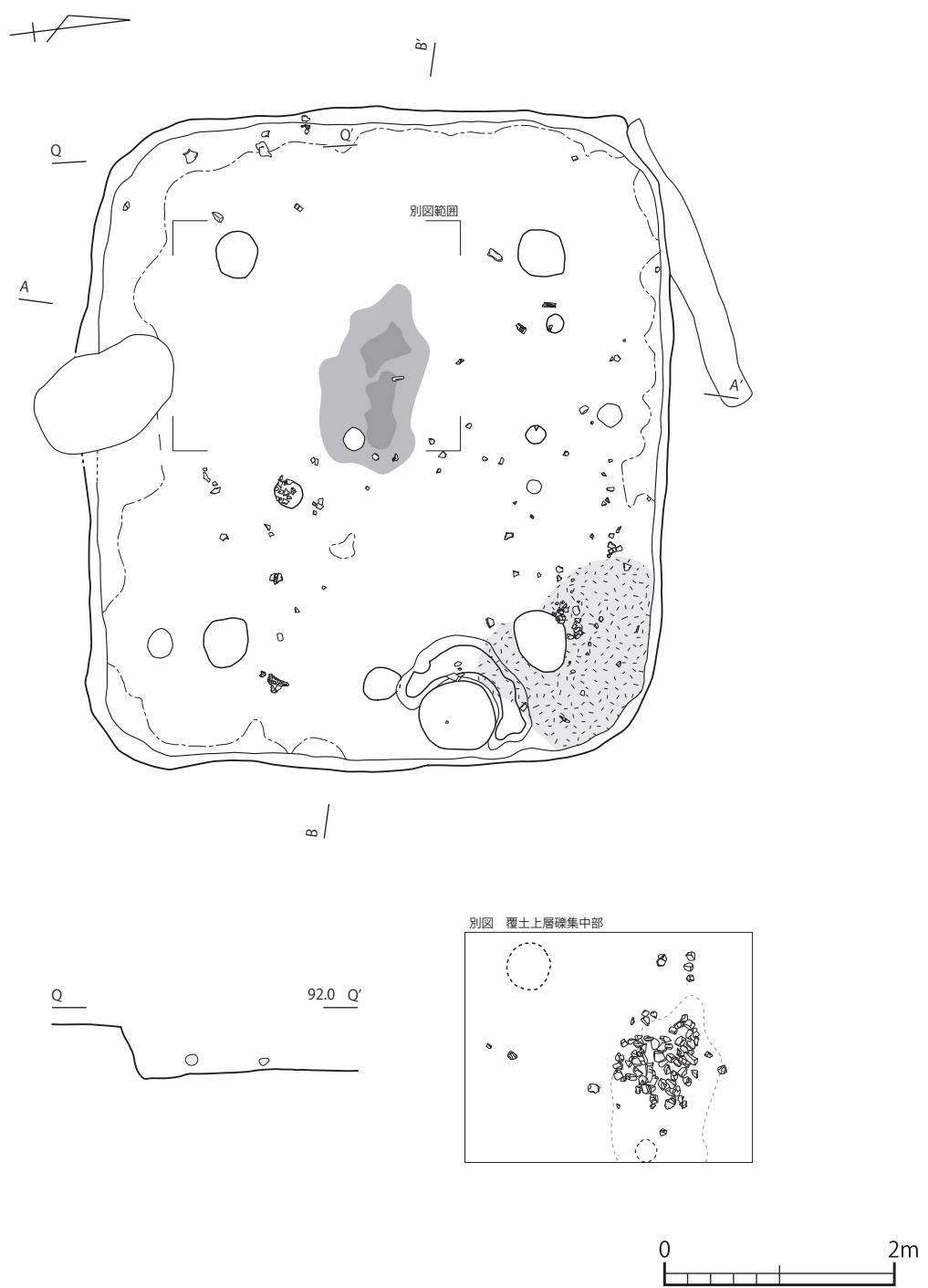
第 123 図 SI65(2)

は火床部 1 (新) より多くブロック状の焼土 (40% 程度) を含んでいる。火床部 1 の直下からは火床部 2 が検出された。こちらは砂質の焼土層で、強く被熱し赤化している。枕石は砂岩で、被熱しており表面に赤化が見られる。また、炉の覆土の一部を対象に水洗選別を行い、33 点の炭化種実を抽出した。同定の結果、ブドウ科やブドウ属の種子、イネの穎果、オニグルミの核、アワの果実・穎果等であることが判明した (第 V 章第 1 節参照)。

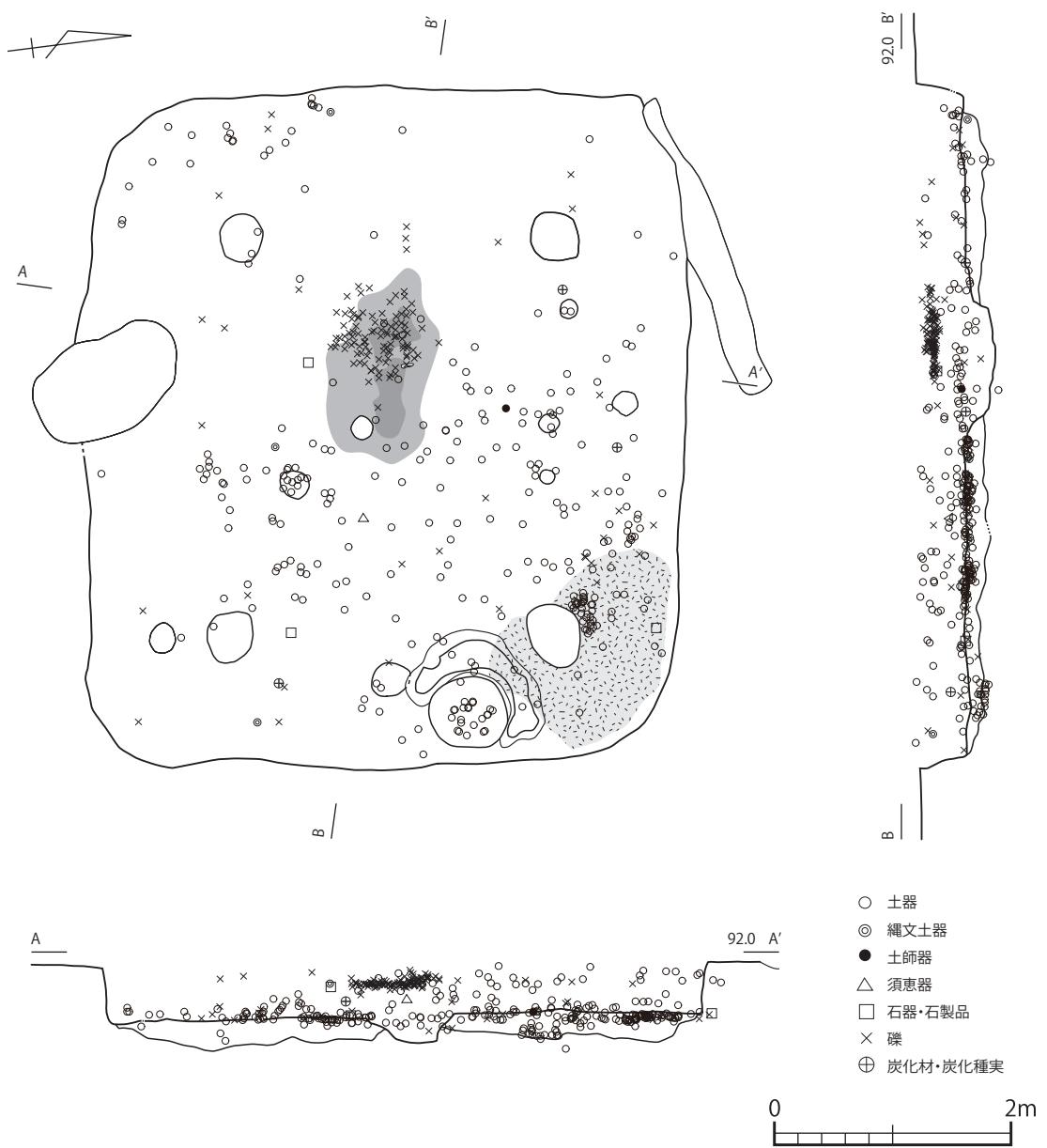
土堤は、貯蔵穴 P9 の北西側を囲むように、弧を描く形状をしている。最大幅 36cm、床面からの高さ 5cm を測り、上面は平坦になっている。構築材はロームブロックを多く含む黒色土で、床面を構築する以前、もしくは床面を一旦掘り下げてから、ロームブロックを含む黒色土を敷き均した上に、



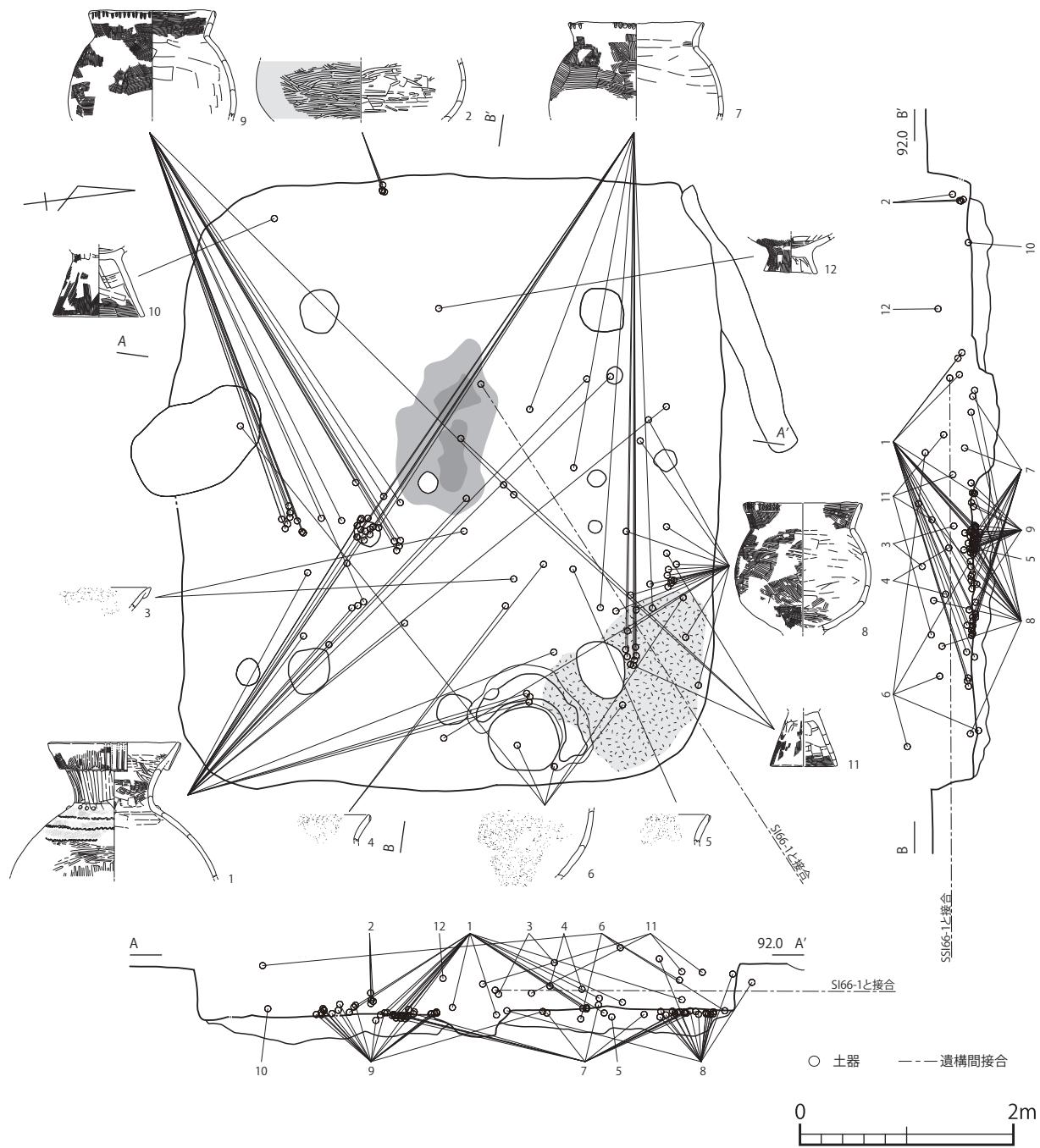
第 124 図 SI65(3) 炉・貯蔵穴・土堤・赤砂 (1/30)



第 125 図 SI65(4) 遺物出土状況図 (1/60)



第 126 図 SI65(5) 遺物分布図 (1/60)



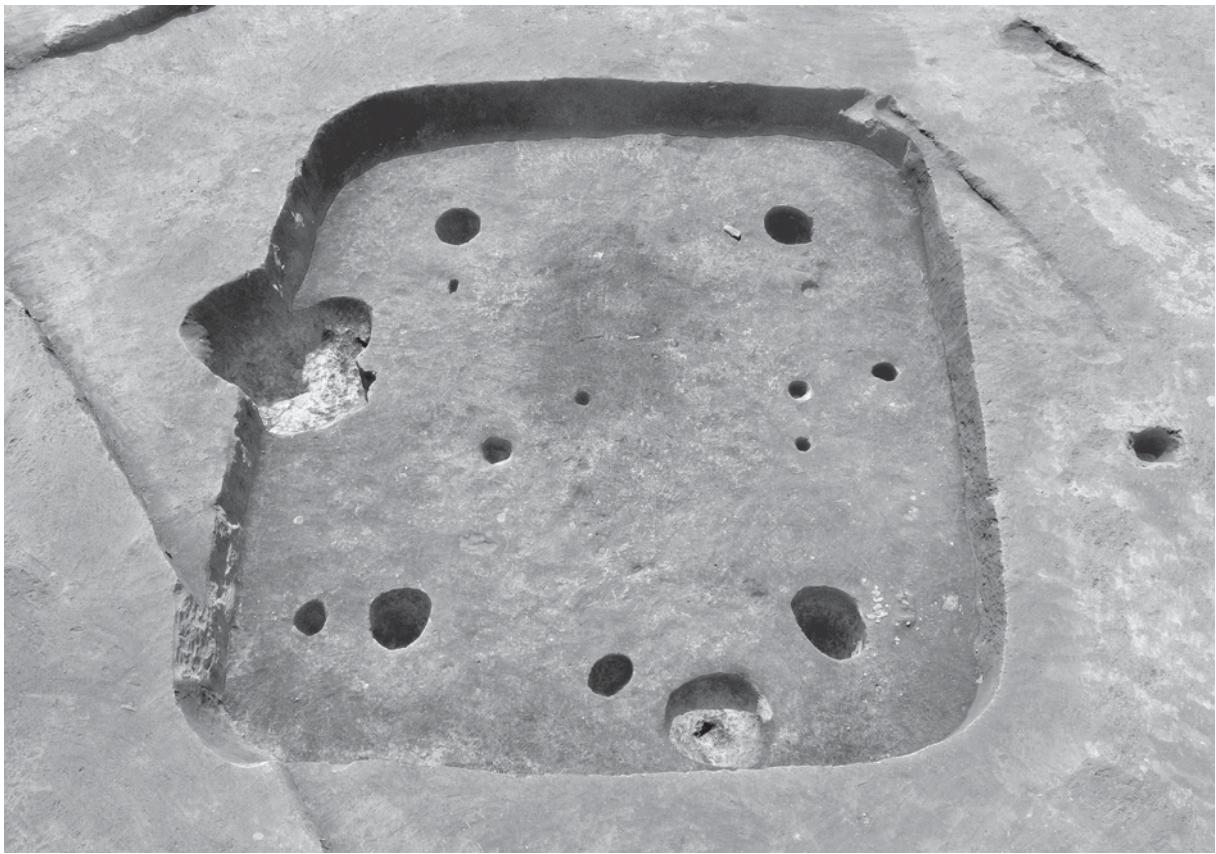
第 127 図 SI65(6) 遺物接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 南南西から



2. 土層断面 B-B' 東南東から



3. 床面全景 東南東から

第 128 図 SI65 写真 (1)



1. 覆土上層礫出土状況 南南西から



2. 遺物出土状況 東南東から



3. 遺物出土状況 東南東から



4. 遺物出土状況 南東から

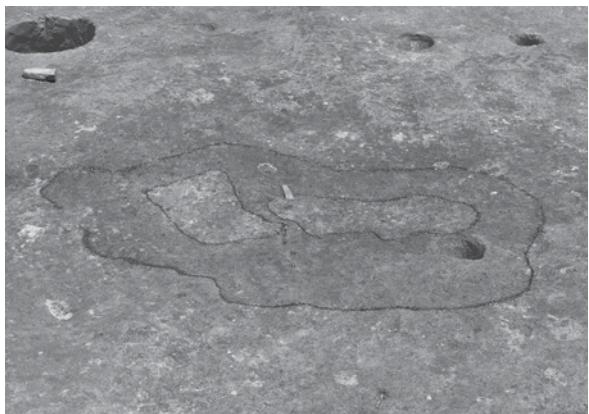


5. 遺物出土状況 東南東から

第 129 図 SI65 写真 (2)



1. 赤砂検出状況 東南東から



2. 炉検出状況 南南西から



3. 炉土層断面 P-P' 北北東から



4. 炉全景 北北東から



5. 炉下層土層断面 P-P' 北北東から



6. 炉下部火床部全景 北北東から



7. 炉掘方土層断面 P-P' 北北東から



8. 炉掘方全景 北北東から

第 130 図 SI65 写真 (3)



1. P1 土層断面 東南東から



2. P2 土層断面 東南東から



3. P3 土層断面 東南東から



4. P4 土層断面 東南東から



5. P4-2 土層断面 北北東から



6. P4・4-2 全景 北北東から



7. P5 土層断面 北北東から



8. P9(貯蔵穴)全景 東南東から

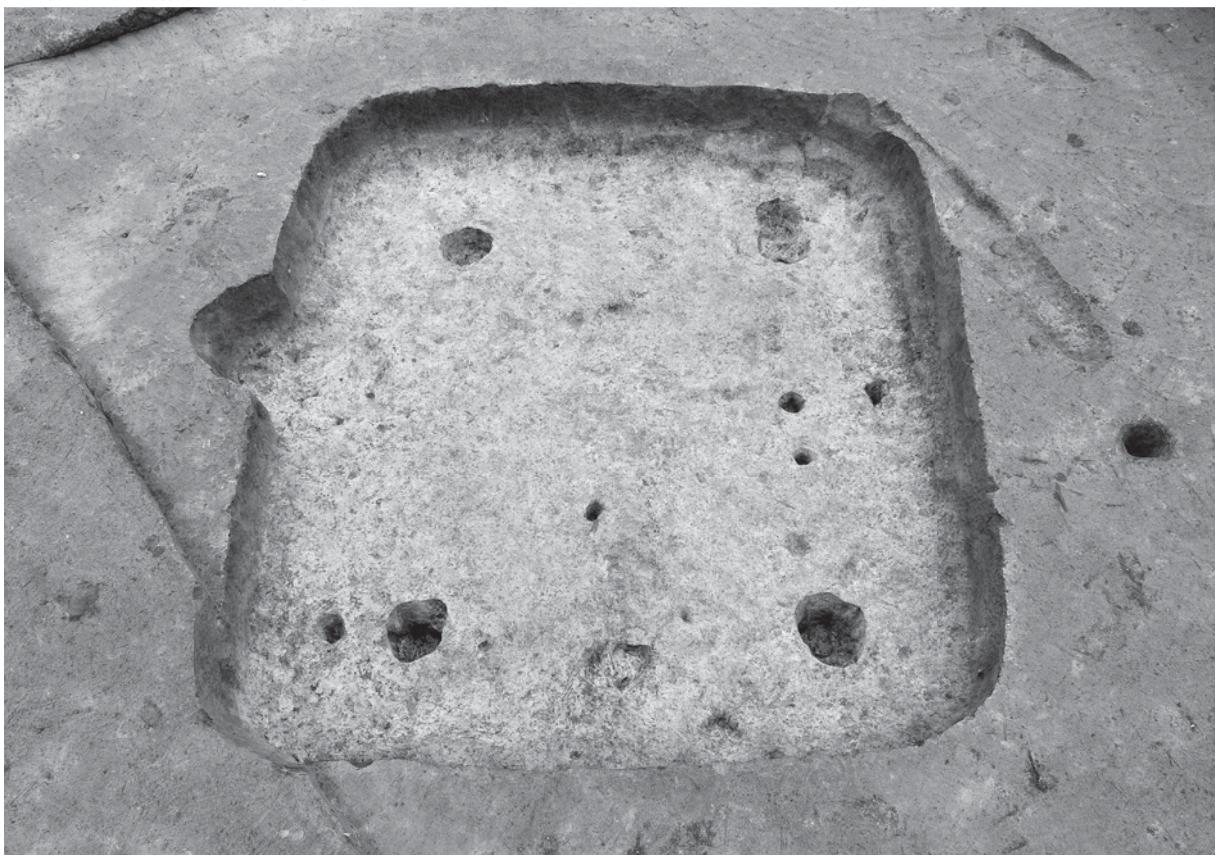
第 131 図 SI65 写真 (4)



1. 掘方土層断面 A-A' 南南西から



2. 掘方土層断面 B-B' 東南東から



3. 掘方全景 東南東から

第 132 図 SI65 写真 (5)

強固に突き固めて構築されている。

赤砂は床面の北東隅、東西 169cm、南北 154cm の範囲で検出された。範囲の一部は、土堤の上面にまで及んでいた。盛土状の高まりは確認できず、床面にて平面的な広がりとしてのみ確認した。赤砂は砂質の黒色土（5YR1.7/1）が主体で、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 1% 等の他、直径 2～30mm 程度の円礫を少量含んでいる。

遺物は、覆土上層から前述の焼礫が複数出土している。土器等は中～下層を中心に、主に建物跡の東側半分で出土しており、特に赤砂とその周辺、炉の南東側で多く出土している。また、図示した遺物の多くは、細かな破片が床面に散乱したような状態で出土している。 (相原)

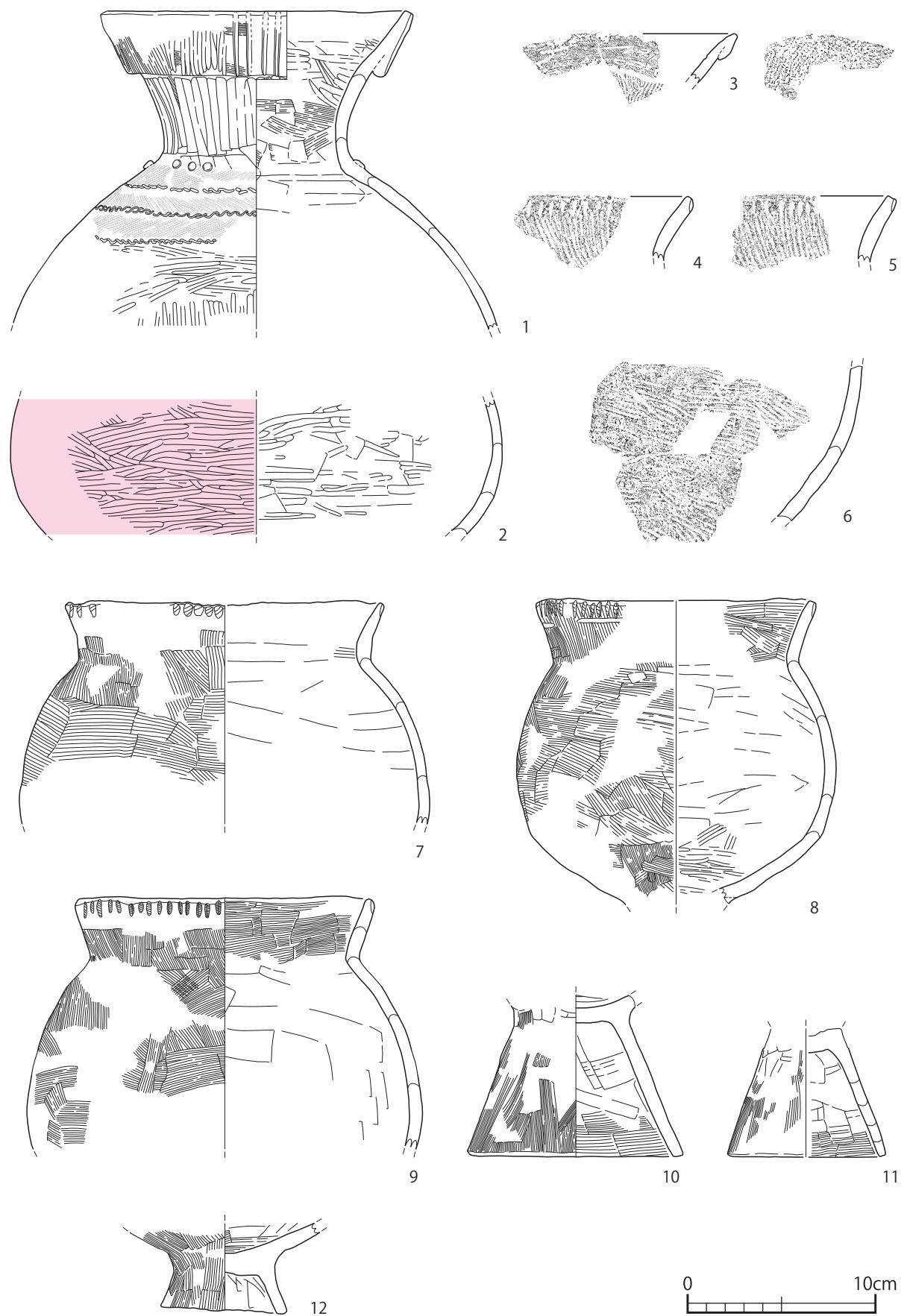
遺物 本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 332 点 3,225.2g (壺 84 点 904.5g、甕 193 点 1,462.5g、台付甕 47 点 830.8g、鉢 7 点 24.3g、小形鉢あるいは壺 1 点 3.1g)、縄文土器 3 点 47.4g (曾利Ⅳ式 1 点 27.2g、時期型式不明 2 点 20.2g)、縄文時代の石器 (打製石斧) 1 点 159g、古代の土師器 (甕) 1 点 1.6g、古代の須恵器 (甕) 1 点 24.5g、礫 (被熱礫を含む) 147 点 26,700.4g が出土した。

本遺構に伴う遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器であり、それ以外の遺物は後世に何らかの要因で混入したものだろう。なお、被熱礫を含む礫の大部分は、本遺構が埋没する過程で人為的に廃棄されたものである。弥生時代後期～古墳時代前期の土器のうち 12 点を図化し、掲載した。

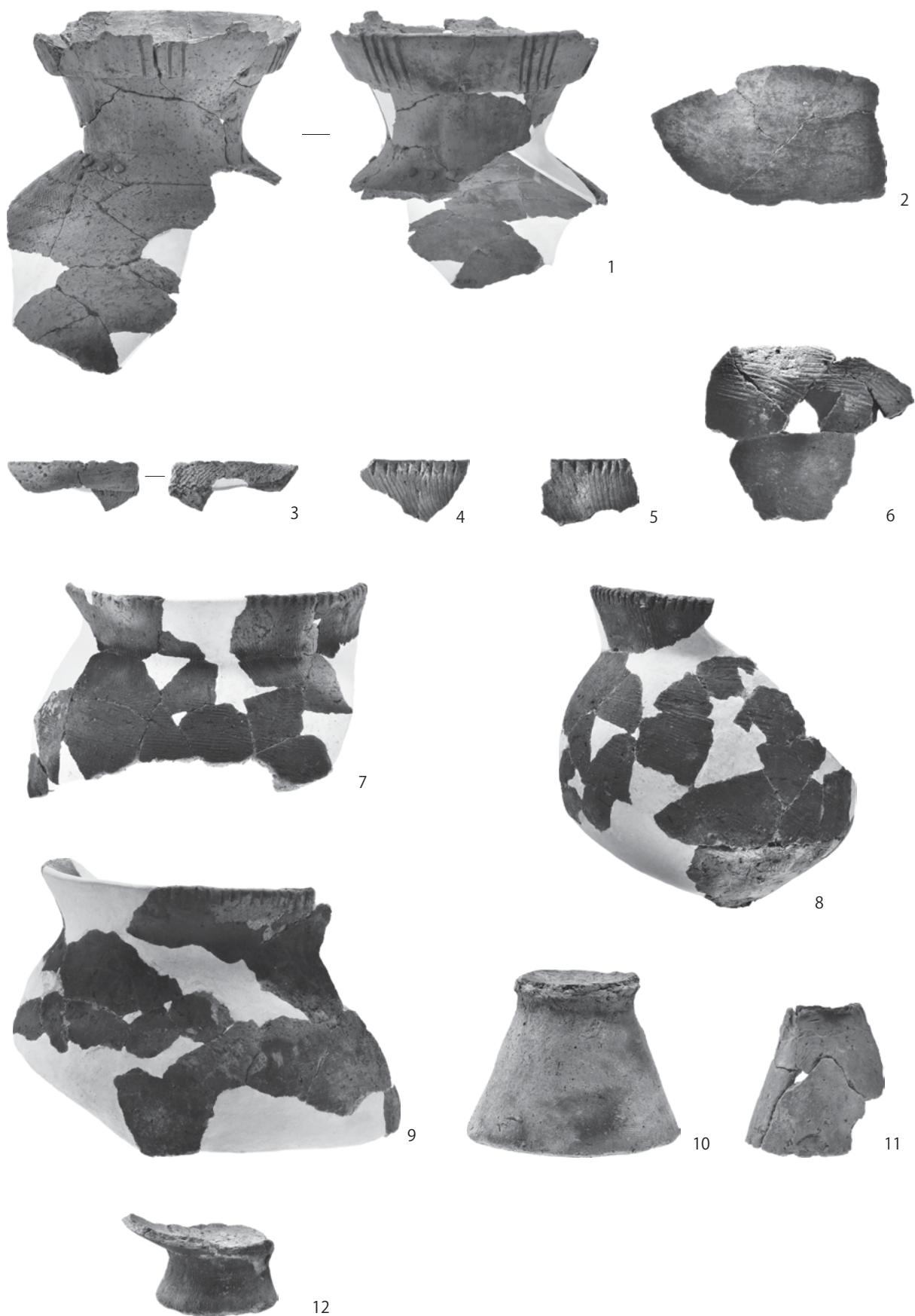
第 133・134 図 1～3 は壺である。1 は口縁部から胴上部にかけての破片である。口縁部から頸部にかけては全周するが、胴部は全周の 1/4 程度が遺存する。口縁部は頸部から緩やかに開き、頸部の屈曲は弱い。口縁部は幅 3.5cm 程度の折り返し口縁で、内面がやや受け口状を呈する。口縁部外面には、4 本 1 単位の太めの沈線が 5 箇所に認められる。胴部文様帶は頸部直下から展開し、縄文と結節文を組み合わせた文様帶が 3 段にわたり施文され、最上部には 3 個 1 単位の円形浮文が 4 箇所に貼り付けられている。2 は底部に近い胴部破片で、胴部最大径が下部にある器形と推定される。3 は折り返し口縁壺の口縁部で、折り返し部の幅が狭いタイプである。

4～7・9 は甕、8・10～12 は台付甕である。4・5 はいずれも口縁部破片で、ハケ目調整に口縁端部外面に狭い間隔で刻みが施されている。6 は胴部破片で、ハケ目調整が認められる。6 のハケ目は他の甕と比べ粗く、一見するとタタキのように見える。胎土等から、5・6 は同一個体の可能性がある。7・9 はハケ目調整の甕で、口縁部から胴中央部にかけて遺存する。口縁端部外面には、狭い間隔で施されたハケ状工具による刻みが認められる。7 では、頸部から胴部にかけて異なるハケ状工具が用いられている。8 も 7・9 と同様に口縁端部外面に刻みを有し、口縁部から胴部にかけてハケ目調整が施されている。底部付近はそれとは異なるハケ状工具が用いられ、他所よりもハケ目が細かい。10・11 は台付甕の脚台部で、直線的に開く形状を呈する。いずれも外面にはハケ目調整が認められる。12 は台付甕の胴最下部から脚台部にかけての破片である。ただし、脚台部は 3cm 程度と短く、破断面は研磨した痕跡が認められる。用途は不明だが、何かしらの目的で転用されたと考えられる。

1 の壺や 4・5・7～9 の甕のあり方等から、これらの土器は新八王子市史編年の弥生時代後期後半に位置付けられる。1・7～9 が床面あるいは床面直上から出土しており、本遺構の廃絶時期もその頃と考えられる。 (小西)



第133図 SI65出土遺物(1/3)



第 134 図 SI65 出土遺物写真

第20表 SI65 出土土器観察表 (1)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
第133 134 図	1	SI65	土器壺	15.8 (16.7) 頸部径 9.9	幅3.5cm前後の折り返し口縁。頸部は外反して立ち上がり、口縁部は内湾気味に開く。頸部の屈曲は緩やか。	外面のうち口縁部は横位のハケ目の中縦位のミガキ、頸部は縦位のミガキ、胴部は横位、縦位のミガキ主体。 内面のうち口縁部は横位のミガキ、頸部は横位のハケ目、横位のヘラナデ。 文様は、口縁部に4本1単位の沈線が5箇所、頸部に3個1単位の円形浮文が4箇所、胴部に単節LR縄文+Z字状結節文、単節RL縄文+S字状結節文、単節LR縄文+Z字状結節文。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR5.6 橙	口縁部 1/3 頸部 2/3	重量 528.7g	
	2	SI65	土器壺	(7.0) 胴部 最大径	胴部最大径は下部にある。	外面は横位のミガキ。 内面は横位のヘラナデの中縦位のミガキ。	砂粒	良好	外面 10YR4/4 赤褐 内面 10YR2/1 黒褐	胴部破片	重量 86.7g 胴部外面に赤彩。	
	3	SI65	土器壺	—	幅1.3~1.8cmの折り返し口縁。	外面のうち口縁部は横位のミガキ、頸部は縦位のハケ目。 内面は2段の縄 LR + Z字状結節縄文。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 14.0g 内面の文様帶に赤彩。	
	4	SI65・ 28Q-19	土器甕	—	口縁部は外反気味に立ち上がる。	外面は縦位のハケ目、口縁端部に刻み。 内面は横位のナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR6/2 灰黄褐	口縁部破片	重量 15.4g	
	5	SI65	土器甕	—	口縁部は外反気味に立ち上がる。	外面は縦位のハケ目、口縁部端部に刻み。 内面は横位のナデ。	砂粒	良好	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部破片	重量 18.8g 外面の一部に煤付着。	
	6	SI65・ 28Q-19	土器甕	—		外面は横位のハケ目主体。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 10YR6.5/3 にぶい黄橙	胴部破片	重量 76.6g	
	7	SI65	土器甕	[16.4] (10.7)	口縁部はわずかに外反しながら立ち上がる。頸部の屈曲は緩やか。	外面のうち頸部から胴上部にかけては縦位のハケ目、それ以下は横位のハケ目主体。口縁端部にハケ状工具による刻み。 内面のうち口縁から頸部は横位のナデ、胴部は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR3/1 黒褐 内面 10YR4/2 灰黄褐	口縁～胴部 1/2	重量 160.2g	
	8	SI65	土器甕	[14.3] (17.0)	口縁部はわずかに外反しながら開く。胴中央部が最大径になる器形。	外面のうち口縁部から頸部は縦位のハケ目、頸部から胴部には横位、斜位のハケ目主体。胴下部は横位、縦位のハケ目。口縁端部にハケ状工具による刻み。 内面のうち口縁部は横位のハケ目、胴部は横位のヘラナデ、胴下部は横位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR2/1 黒 内面 7.5YR4/1 褐灰	口縁部 1/4 胴部 1/2	重量 301.2g 胴部は分割成形技法。	
	9	SI65	土器甕	[15.3] (13.3)	口縁端部は丸みのある形状で、口縁部は直線的に立ち上がる。頸部の屈曲は緩やか。	外面のうち口縁部は横位のナデ、頸部は縦位のハケ目、胴部は縦位、横位のハケ目。口縁端部にハケ状工具による刻み。 内面のうち口縁部は横位のハケ目、頸部から胴部は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 10YR4.5/2 灰黄褐	口縁～胴部 1/2	重量 241.1g 外面の頸部から胴上部に煤付着。	
	10	SI65	土器台付甕	(8.5) 11.3	脚台部は直線的に聞く。	外面は縦位のハケ目。 内面のうち脚台部は横位のヘラナデ、端部は横位のハケ目。甕底部はヘラナデ。甕と脚台部の接合部は指ナデのちヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR6/3.5 にぶい黄橙	脚台部完形	重量 323.0g	
	11	SI65	土器台付甕	(6.8) [8.3]	脚台部は直線的に聞く。	外面は縦位のハケ目。 内面はヘラナデ、脚台部端部は横位のハケ目。	砂粒	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 2.5YR5/6 明赤褐	脚台部 1/4	重量 53.8g	

第 20 表 SI65 出土土器観察表 (2)

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 133 ・ 134 図	12	SI65	土器 台付甕	(4.8) 6.7	脚台部は直線的に開く。	外面は縦位のハケ目。 内面のうち甕底部はヘラナデとハケ目、脚台部は縦位のヘラナデ。	砂粒	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 7.5YR6.5/4 に ぶい橙	脚台部完形	重量 123.0g 脚台部破断面に研磨した痕跡、転用品。

## SI66 (第 135 ~ 146 図、第 21・23 表)

遺構 粘土床炉を有する竪穴建物跡である。2-6 西区東端部付近の 29P-91・92 グリッドで検出された。遺構検出のためⅢ1 層上面を精査していた際、この周辺で土器を中心とする遺物が多数出土し、竪穴建物跡の存在が想定された。しかし表面の観察では遺構の範囲を検出することができず、複数のトレンチを入れて、漸く範囲が確定できた。

検出面はⅢ1 層で、古代末～中世の SP902 に覆土や床面の一部、搅乱に覆土の一部を切られているが、遺存状況は良好であった。

平面形態は隅丸長方形で、長軸 492cm、短軸 423cm で東西に長く、検出面から床面までの深さは 72cm を測る。主軸方向は N-88°-W を指す。壁はわずかに広がりながら立ち上がっている。

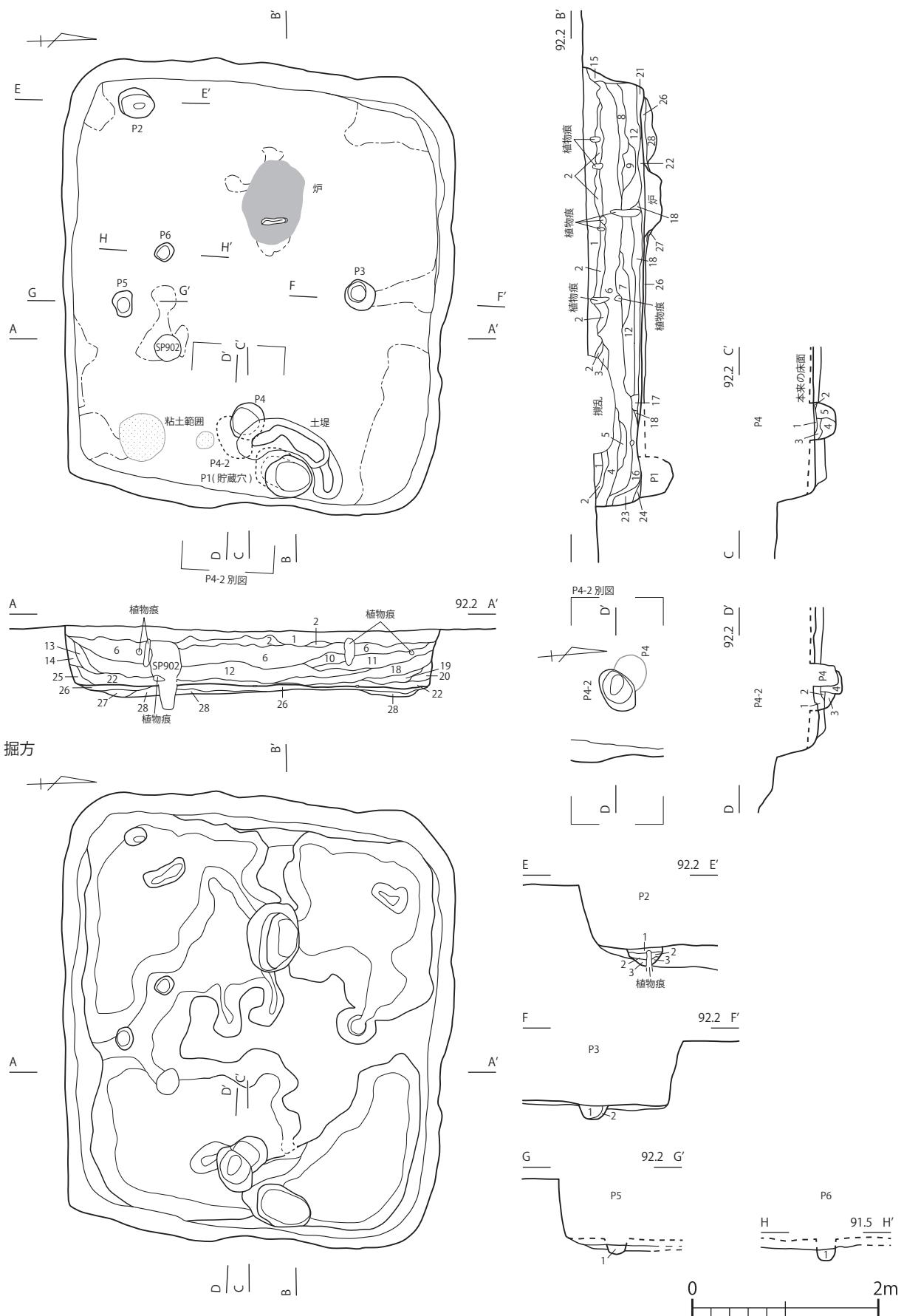
床は貼床で、壁際等の一部を除くほぼ全面で硬化が確認された。壁溝や主柱穴は確認されず、東壁寄りの中央部付近に梯子穴とみられる P4、P4 北東側の東壁沿いに貯蔵穴 P1 が検出された。その他のピットとして、床面南西隅に P2、中央部の北壁側に P3、南壁側の中心部付近に P5・6 がそれぞれ検出されたが、いずれも掘り込みは浅い。炉は床面の中心部から西壁寄りにある。貯蔵穴 P1 の西側から北側には土堤が検出された。赤砂は確認されなかった。

床面までの覆土は 25 層に分けられ、概ね黄褐色スコリアを含む黒色土がベースとなっている。特に上層の 1 ~ 3 層は黄褐色スコリアが多く、覆土の粒子は粗くブロック状や顆粒状を呈している。それ以下の覆土も一部を除き全般的に粒子が粗いが、中～下層の 12 層は特に粗さが顕著で、顆粒状を呈していた。

掘方は、床面からの深さが深いところで 19cm を測り、更に中心部付近を浅く掘り残す傾向にある。貼床充填土は 3 層に分けられ、上層の 26 層は黒褐色土のブロックが多いがロームは含まず、27・28 層はロームブロックを多く含んでいる。

P4 は梯子穴と考えられる。掘方覆土の掘削中に検出された。平面形態は楕円形で、長軸 40cm、短軸 36cm、床面からの深さは 30cm 程度である。覆土は 5 層に分けられる。また、P4 の南東には、P4 より古い P4-2 が確認された。床面からの深さは推定 35cm で P4 よりは深く、底面には段差がある。P4-2 から P4 へ梯子等の据え替えがあった可能性が考えられる。P4-2 の覆土は 4 層に分けられ、4 層は柱痕跡もしくは柱抜取り穴覆土の可能性がある。なお、P4、P4-2 共に上端の一部が土堤の下にまで及んでいる。

P1 は貯蔵穴である。平面形態はやや歪な楕円形を呈し、長軸 50cm、短軸 45cm を測る。底面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がっている。覆土は 5 層に分けられる。貯蔵穴は、掘方覆土掘削時に南側まで及んでいることが確認された。土堤の下に一部がかかっていることから、移設されたか、当初の規模から後に縮小されたものと推定される。長軸の長さは最大で 66cm を測る。



第135図 SI66(1)(1/60)

SI66

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)7%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子極めて粗く、顆粒状を呈する。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)7%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子極めて粗く、ブロック状と顆粒状を呈する。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子極めて粗く、ブロック状と顆粒状を呈する。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 (10YR1.7/1)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
7. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3% 含む。粘性ややあり、締まりやや強、粒子やや粗い。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
11. 10YR2/1.5 黒~黒褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
12. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く、顆粒状を呈する。
13. 10YR2/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗く、顆粒状を呈する。
14. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
15. 10YR2/1 黑褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
16. 10YR2/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 1mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
17. 5Y2/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
18. 2.5Y2/1 黑褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)5% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
19. 10YR2/1 黑褐色土層 暗褐色土 (10YR3/4)10% 偏在。直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
20. 10YR1.7/1 黑褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
21. 2.5Y2/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まり極めて強、粒子密。
22. 2.5Y2/1 黑褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)1% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子密。
23. 2.5Y2/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/4)1% 含む。粘性強、締まり極めて強、粒子粗い。
24. 10YR1.7/1 黑褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
25. 10YR2/1 黑褐色土層 暗褐色土 (10YR3/4) 斑文状に 10%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
26. 10YR2/2 黑褐色土層 貼床土。直径 20mm 以下の黑褐色土ブロック (10YR3/2)30%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まり極めて強、粒子やや粗い。
27. 10YR2/2 黑褐色土層 貼床土。直径 20mm 以下のロームブロック (10YR4/6)15%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
28. 10YR2/1 黑褐色土層 貼床土。直径 20mm 以下のロームブロック (10YR4/6)10%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子密。

P2

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
3. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。黒色土 (10YR2/1)20% 混在。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。

P3

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/4)5%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。ローム (10YR4/6)10% 偏在。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

P4

1. 10YR2/1.5 黑~黑褐色土層 大形のロームブロック (7.5YR6/8)10% 混在。直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 3mm の橙色スコリア (10YR6/8)3% 含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子やや粗い。
2. 10YR1.7/1 黑褐色土層 直径 20mm 以下のロームブロック (10YR6/8)30%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (10YR6/8)2% 含む。粘性強、締まり極めて強、粒子やや密。
3. 7.5YR1.7/1 黑褐色土層 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR6/8)10%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (10YR6/8)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
4. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR6/8)15%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR6/6)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
5. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 30mm 以下のロームブロック (10YR6/8)30%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (10YR6/6)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。

P4-2

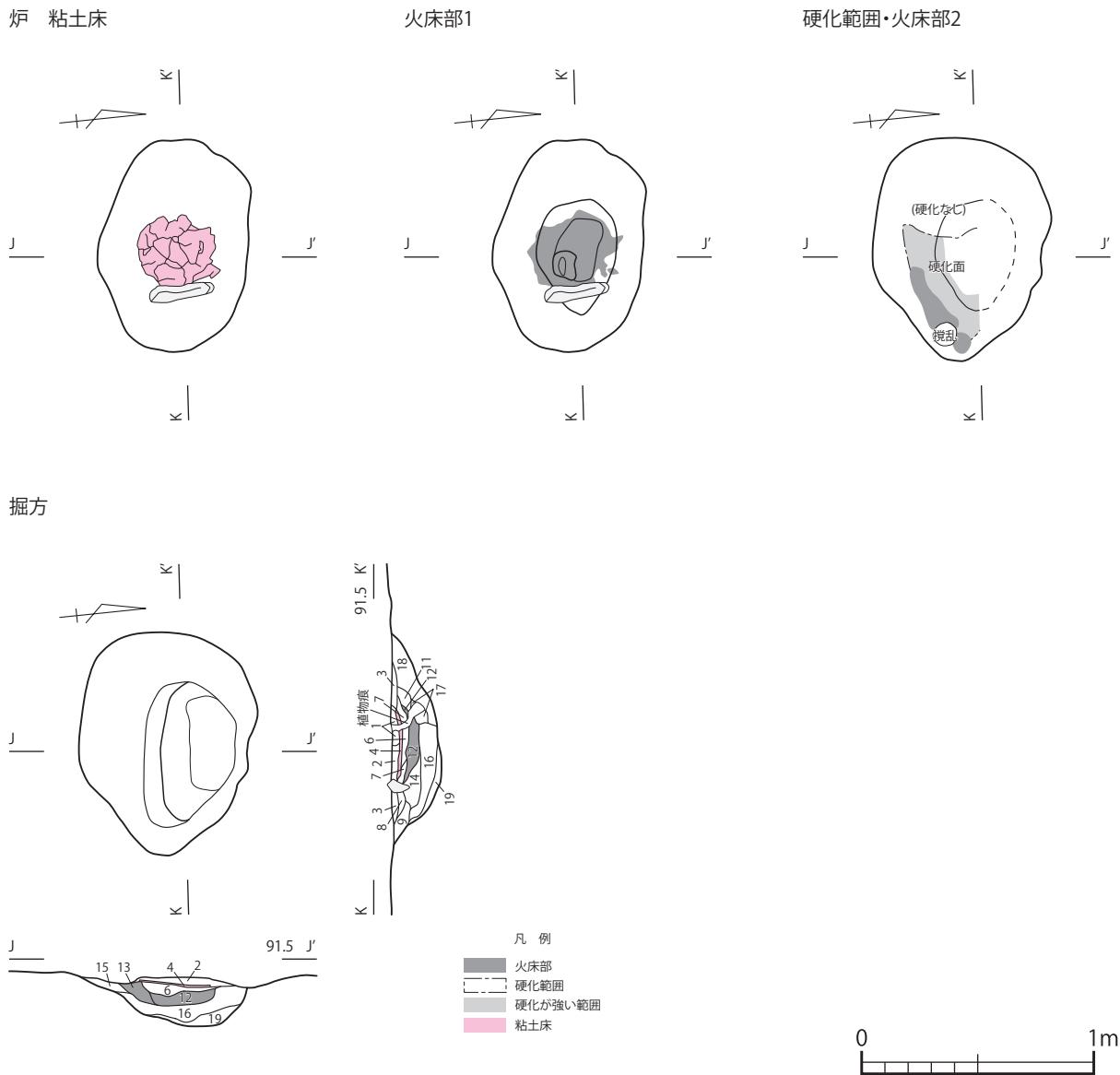
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR6/8)5%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 3% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
3. 10YR3/1 黑褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR6/8)15%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
4. 10YR2/1 黑褐色土層 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR6/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。柱痕跡か。

P5

1. 10YR2/1 黒色土層 ローム (10YR4/6)10% 偏在。直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。

P6

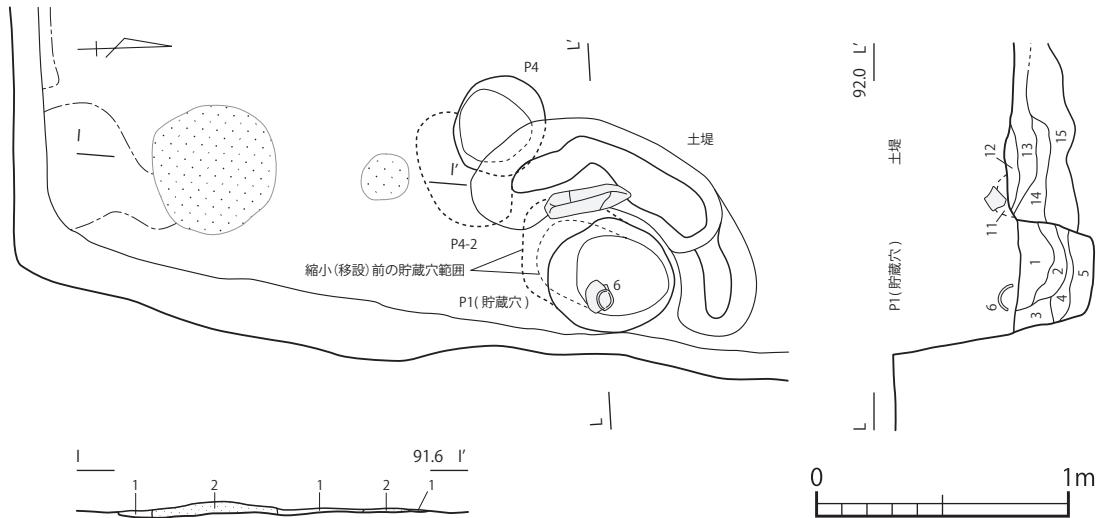
1. 10YR2/2 黑褐色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。下部に直径 15mm 以下の褐色土ブロック (10YR4/4)10% 偏在。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。



- 炉**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 7mm 以下の焼成粘土粒子 10%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 黒褐色土 (10YR2/3) 斑文状に 20%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
  - 5YR6/6 橙色土層 焼成粘土層。粘性なし、締まり強、粒子密。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子やや密。
  - 5YR6/8 橙色土層 未焼成粘土層。直径 3mm 以下のぶい橙色粒子 (7.5YR7/4)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
  - 7.5YR4/4 褐色土層 未焼成粘土 40% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
  - 7.5YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
  - 10YR3/2 黒褐色土層 旧火床部か。焼土 20% 偏在。直径 1mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子やや密。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子やや粗い。
  - 10YR3/3 暗褐色土層 燃土 10% 偏在。直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
  - 7.5YR6/8 橙色土層 火床部 1。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子粗い。
  - 10YR2/2 黒褐色土層 火床部 1。直径 20mm 以下の被熱した黒色土ブロック 20%、焼土 20%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子粗い。やや砂質土層。
  - 2.5Y2/1 黒色土層 直径 20mm 以下の被熱した黒色土ブロック 主体土層。直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性なし、締まり極めて強、粒子粗い。
  - 10YR2/1 黒色土層 III層土主体。直径 3mm 以下の炭化物粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 1%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 火床部 2。直径 20mm 以下の被熱した黒色土ブロック 40%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性なし、締まり極めて強、粒子粗い。
  - 10YR2/2 黒褐色土層 燃土 10% 偏在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
  - 10YR1.7/1 黒色土層 III層土主体。直径 3mm 以下のロームブロック (10YR4/4)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。粘土質。
  - 10YR3/2 黑褐色土層 IV層土ブロック主体。黒色土 (10YR2/1)20% 偏在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや密。

第 137 図 SI66(3) 炉 (1/30)

## 貯蔵穴・土堤・粘土範囲



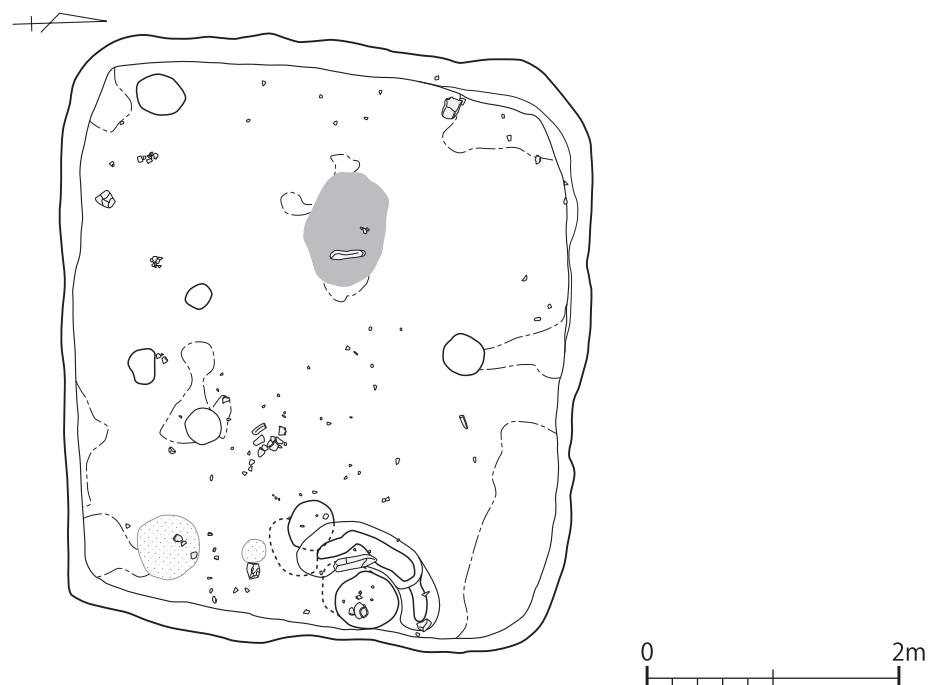
## P1(貯蔵穴)

- 1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)1%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)7%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性強、縮まりややあり、粒子極めて粗い。
  - 2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)5%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、縮まりややあり、粒子やや密。
  - 3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)3%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性あり、縮まりあまりなし、粒子粗い。
  - 4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下のローム粒子(10YR4/4)3%、直径3mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性強、縮まりあり、粒子やや密。
  - 5. 10YR2/3 黒褐色土層 直径20mm以下のロームブロック(10YR5/8)30%、直径3mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%含む。粘性強、縮まりあり、粒子極めて粗い。
- 土堤**
- 11. 10YR2/1 黒色土層 直径10mm以下のロームブロック(10YR4/4)5%、直径5mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%、直径2mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)1%含む。粘性強、縮まりあり、粒子やや密。
  - 12. 10YR2/1 黒色土層 土堤構築土層。直径20mm以下のロームブロック(10YR5/8)15%、直径2mm以下の焼土粒子3%、直径1mm以下の浅黄色土粒子(2.5Y7/3)1%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性あまりなし、縮まり極めて強、粒子やや密。
  - 13. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。第136図26層に同じ。
  - 14. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。第136図28層に同じ。
  - 15. 10YR3/3 暗褐色土層 貼床土。直径7mm以下の焼土粒子1%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性強、縮まり強、粒子やや密。

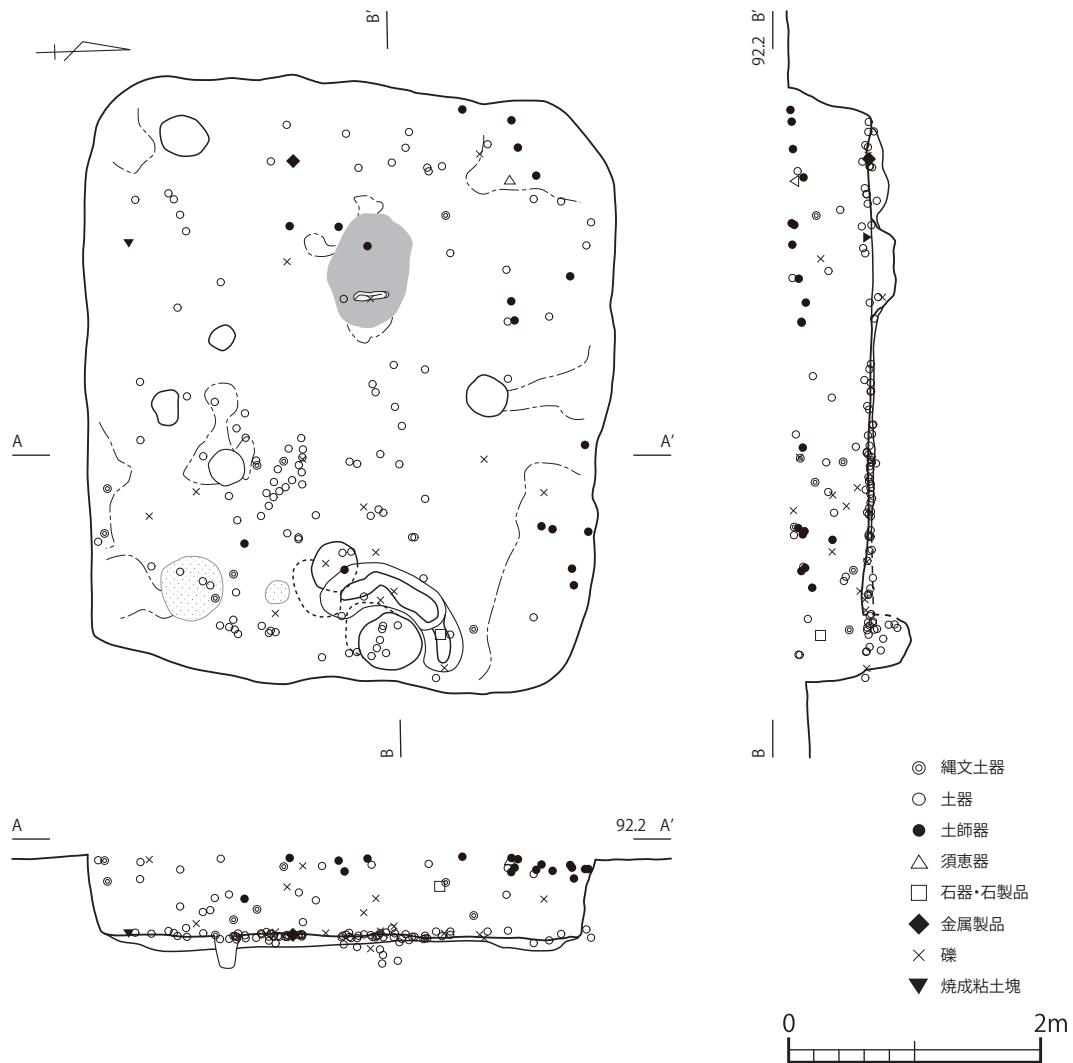
## 粘土範囲

- 1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の黒褐色スコリア2%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下の粘土粒子(2.5Y6/8)1%、直径3mm以下の炭化材片1%含む。粘性あり、縮まり極めて強、粒子粗い。
- 2. 10YR2/2 黑褐色土層 砂質粘土(2.5Y6/8)斑文状に10%含む。直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径1mm以下の黒褐色スコリア1%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、縮まり強、粒子やや粗い。

## 遺物出土状況



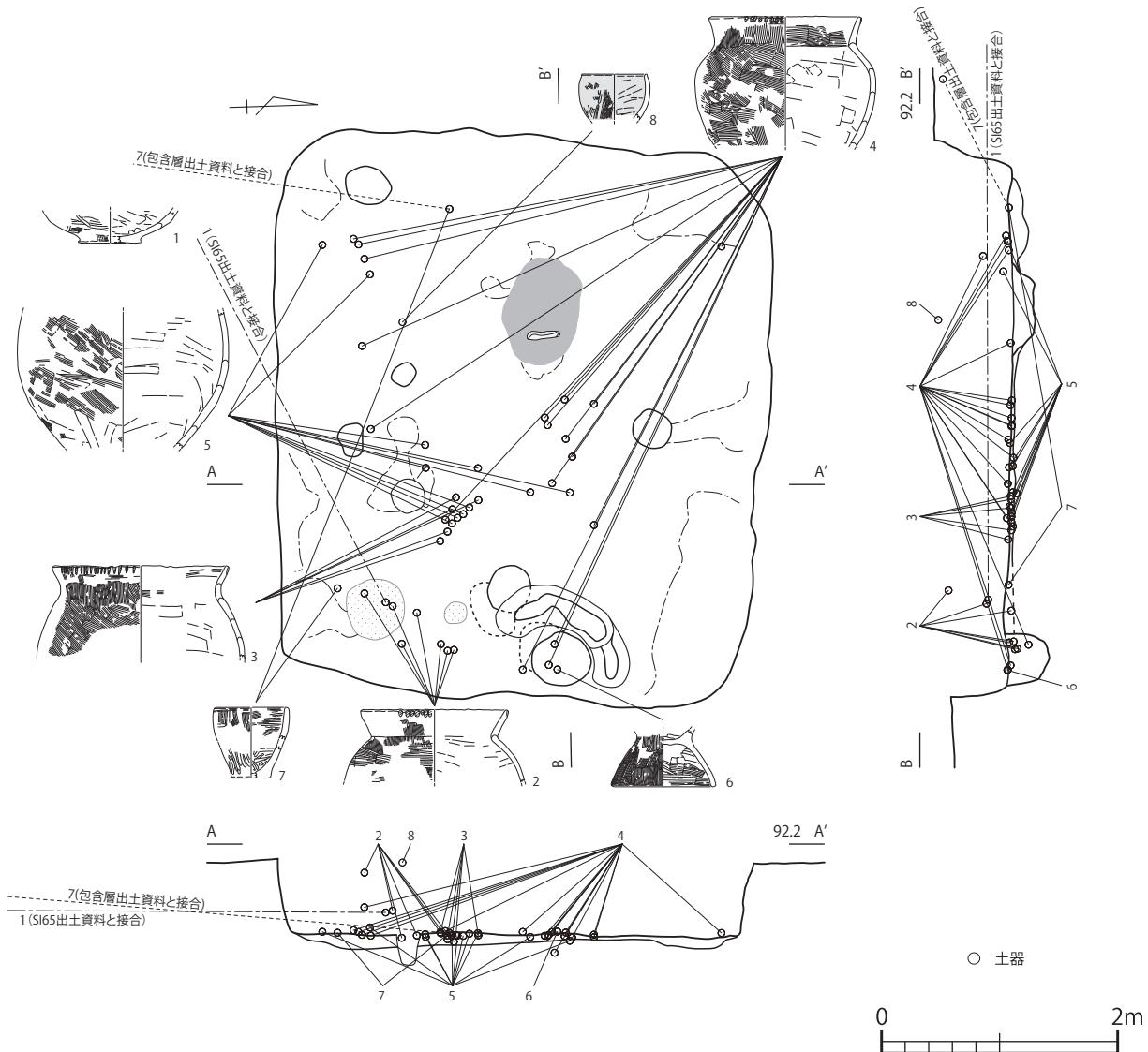
第138図 SI66(4)貯蔵穴・土堤・粘土範囲(1/30)・遺物出土状況図(1/60)



第139図 SI66(5)遺物分布図(1/60)

P2は長軸40cm、短軸32cm、床面からの深さ21cmの楕円形、P3は長軸33cm、短軸31cm、床面からの深さ17cmの円形を呈する。P5・6は掘方覆土の掘削中に検出された。P5は歪な楕円形で、検出時の規模は長軸28cm、短軸21cm、床面からの深さは推定で17cmを測る。P6は同じく長軸21cm、短軸18cm楕円形で、床面からの深さは推定23cmである。これらのピットのはいずれも小型であり、用途等は不明である。

炉は、枕石を伴う粘土床炉である。掘方の規模は長軸96cm、短軸77cmの卵形で、床面からの深さは22cmを測る。火床面は3面を検出した。最上面は粘土床で、残存範囲では長軸36cm、短軸31cmに5cm程度の厚さでシルト質の粘土を敷き詰めていた。粘土は表面から2cm程度が被熱、赤化して固まっており、縦横にヒビが入るが表面は平滑である(4層)。また、粘土の下半は、赤化しているが生焼けの状態であった(6層)。なお、粘土の上面には、げっ歯目による噛み跡とみられる痕跡が確認された。



第140図 SI66(6) 遺物接合図 (1/60)

生焼け粘土の下では、粘土床以前の火床面（火床部1）を確認した。粘土床とほぼ同じ範囲が著しく被熱、赤化していた。この火床面は、床面から8cm程度下がった高さにある。

この火床面の下には、もう1面の火床面（火床部2）が確認できた（16層）。ただし、北側半分は掘方底面まで先に掘削してしまったため、面的に捉えることができなかった。この火床面は被熱した黒色土ブロックが敷き詰められたような状態で、極めて強く締まっていた。また、少量の焼土粒子も認められた。この火床部2は炉の中心部から西寄りで途切れており、掘り返し等、何らかの造り替えが行われものと推察される。

炉の枕石は長さ約28cmの砂岩で、炉の中心部より東寄りに据えられていた。火床面が強く被熱しているのとは異なり、顕著な被熱の痕跡は認められない。炉の断面の状況から、粘土床と火床部1の使用時に据えられていたものとみられる。

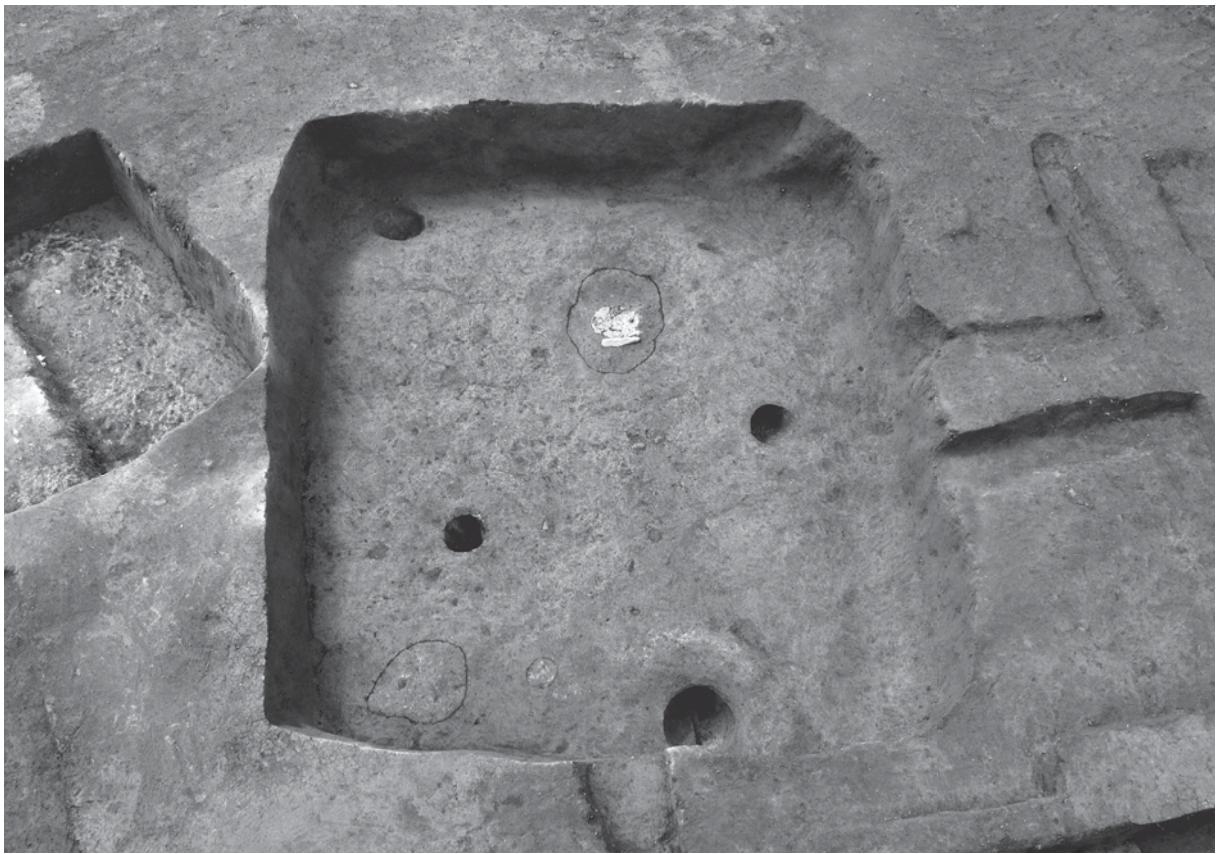
また、炉の覆土の一部を採取し、水洗選別を行い、15点の炭化種実を抽出した。同定の結果、イ



1. 土層断面 A-A' 東から



2. 土層断面 B-B' 北から

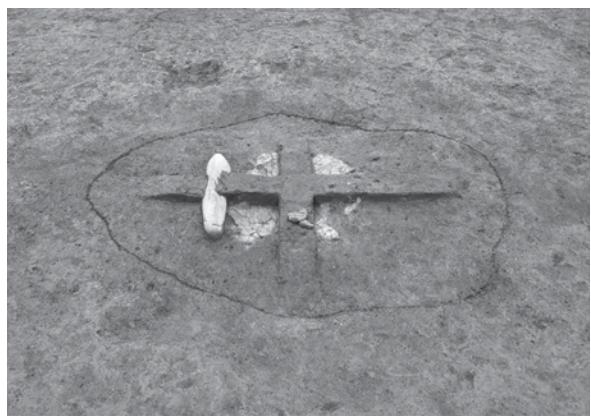


3. 床面全景 東から

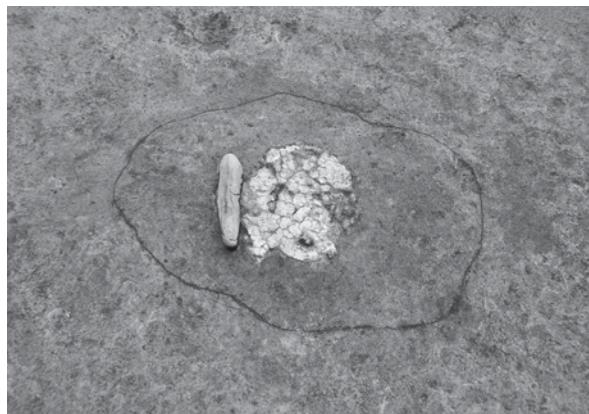
第 141 図 SI66 写真 (1)



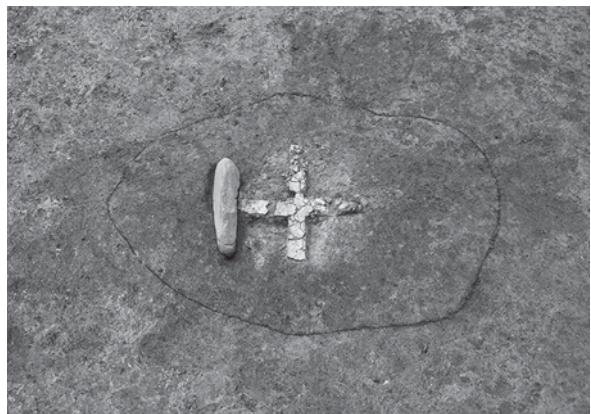
1. 炉検出状況 北から



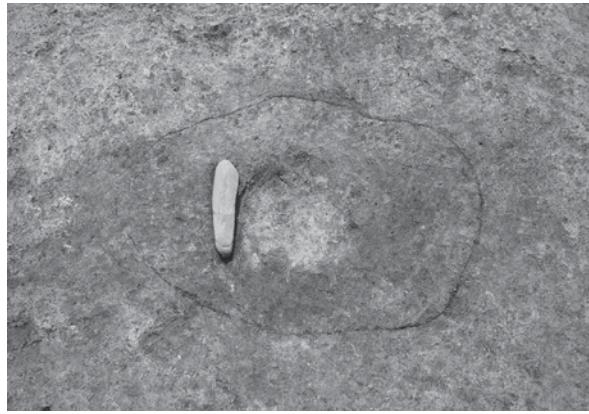
2. 焙土層断面 C-C' 北から



3. 炉粘土検出状況 北から



4. 炉粘土床土層断面 C-C' 北から



5. 炉火床部全景 北から



6. 炉火床部土層断面 C-C' 北から



7. 炉下部火床部全景 北から



8. 炉掘方全景 北から

第 142 図 SI66 写真 (2)



1. P1(貯蔵穴) 土層断面 北から



2. P1(貯蔵穴) 全景 東から



3. P2 土層断面 東から



4. P3 土層断面 東から



5. P4 土層断面 北から



6. P4-2 土層断面 北から



7. P4・4-2 全景 東から



8. 土堤全景 東から

第 143 図 SI66 写真 (3)



1. 遺物出土状況 東から



2. 遺物出土状況 東から



3. 掘方土層断面 A-A' 東から

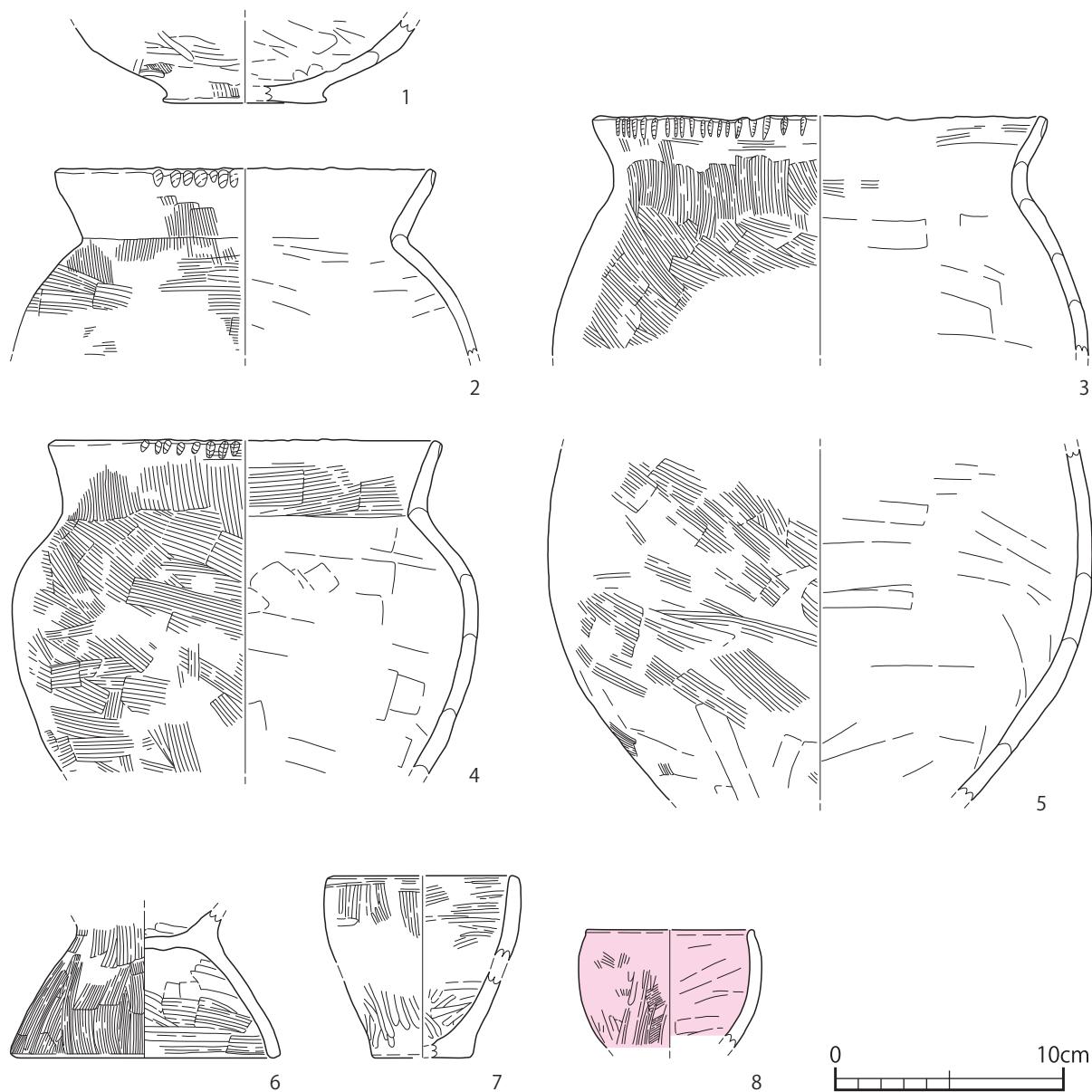


4. 掘方土層断面 B-B' 北から



5. 掘方全景 東から

第 144 図 SI66 写真 (4)

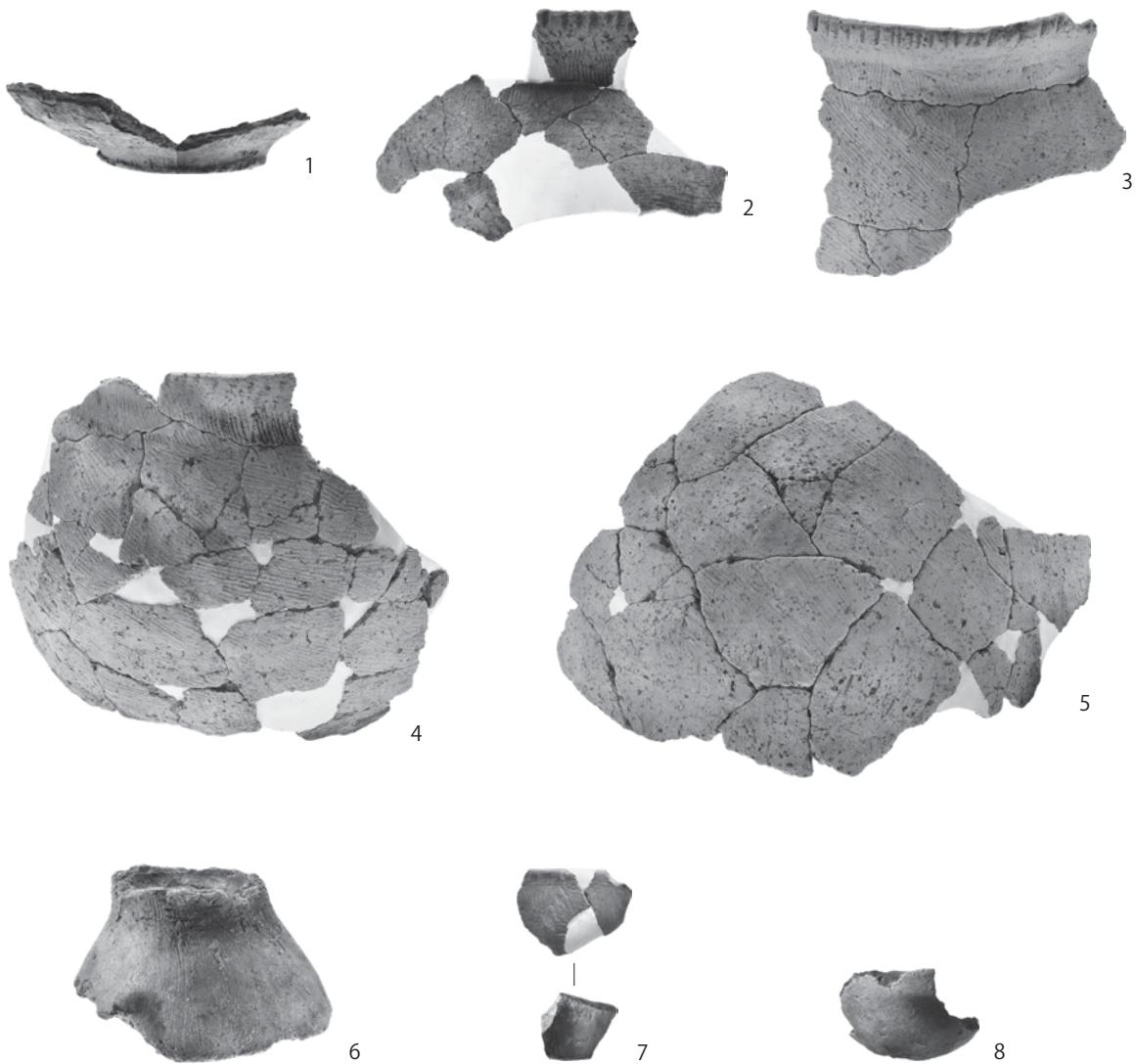


第 145 図 SI66 出土遺物 (1/3)

ネの粒・穎果などであることが判明した（第V章第1節参照）。

赤砂は検出されなかったが、梯子穴の南側で 2 箇所、床面上に粘土が分布しているのを確認した。南側が直径 50cm、北側が直径 19cm 程度の範囲に、明黄褐色の砂質粘土を斑紋状に含む黒褐色土が分布していた。  
(相原)

**遺物** 本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 152 点 1,317.9g (壺 38 点 284g、甕 99 点 768.9g、台付甕 5 点 213.3g、鉢 1 点 19.3g、小形鉢 4 点 28.7g、甕あるいは壺 5 点 3.7g)、縄文土器 8 点 75.3g (夏島式? 1 点 41.1g、中期型式不明 1 点 8.9g、安行 3a～3b 式併行 1 点 7.7g、大洞 A 式・A' 式併行 4 点 13.4g、時期型式不明 1 点 4.2g)、縄文時代の石器 (石核) 1 点 5.5g、古代の土師器 (甕) 18 点 85.4g、古代の須恵器 (壺) 1 点 7g、焼成粘土塊 1 点 12g、金属製品 (器種不明) 1 点 0.2g、被熱礫を含む礫 15 点 11,212.5g が出土した。



第 146 図 SI66 出土遺物写真

本遺構に伴う遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器であり、それ以外の遺物は何らかの要因で混入したものだろう。弥生時代後期～古墳時代前期の土器のうち、比較的遺存状態が良い 8 点を選び、図化を行った。

第 145・146 図 1 は壺の胴下部から底部にかけての破片である。底部外面端部がやや突出する形狀を呈する。2～5 は甕、6 は台付甕である。2～4 はいずれも口縁部から胴部にかけての破片で、外面はハケ目調整である。2・4 は口縁部が頸部から直線的に開き、頸部は「く」の字状に屈曲する。3 の頸部から口縁部にかけては比較的緩やかで、頸部の屈曲は弱い。4 の胴部は肩がやや張る器形を呈しており、胴部最大径が上部にある。2～4 の口縁端部外面には、ハケ状工具による刻みが狭い間隔で施されている。5 はハケ目調整の甕の胴部である。胎土や色調等から 3 と同一個体の可能性が考えられる。6 は台付甕の脚台部で、外面にはハケ目調整が認められる。脚部はやや内湾氣味に開き、脚端部は比較的丸みのある形状を呈する。7 は小形鉢である。口縁部と体部から底部にかけての破片

第 21 表 SI66 出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 145 ・ 146 図	1	SI66	土器壺	(3.3) [7.1]	胴部は底部から内湾気味に立ち上がる。	外面のうち胴部は縦位のハケ目のち横位のミガキ、底部にかけては縦位のハケ目のち横位のナデ。内面は横位のヘラナデ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 10YR3/2 黒褐	底部 1/3	重量 69.3g 内面の一部に焼けた痕跡。
	2	SI66	土器甕	[16.2] [7.9]	口縁部は直線的に立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲する。	外面のうち頸部は縦位のハケ目、胴部は横位のハケ目。口縁端部にハケ目状工具による刻み。内面のうち口縁部から頸部にかけてはナデ、胴部は横位のヘラナデ。	砂粒	やや軟質	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR4/2 灰黃褐	口縁部 1/8 以下	重量 59.4g
	3	SI66	土器甕	[19.4] (10.5)	口縁部はわずかに外反しながら開く。頸部の屈曲は緩やか。	外面のうち口縁部は横位のハケ目のちナデ、頸部は縦位のハケ目、胴部は斜位のハケ目。口縁端部にハケ状工具による刻み。内面のうち口縁部から頸部は横位のハケ目のちナデ、胴部は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	10YR8/3 浅黄橙	口縁～胴部 1/6	重量 105.5g 第 145・146 図 5 と同一個体の可能性あり。
	4	SI66	土器甕	[16.6] (14.6) 胴部 最大径 (20.4)	口縁部は直線的に開く。肩が張り、胴部最大径は上部にある	外面のうち頸部は縦位のハケ目、胴部は横位、斜位のハケ目。口縁端部にハケ状工具による刻み。内面のうち口縁部から頸部は横位のハケ目、胴部は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	外面 7.5YR7/5 にぶい橙 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部 1/8 胴部 1/4	重量 227.9g
	5	SI66	土器甕	(15.5) 胴部 最大径 [23.8]	胴部最大径は中央部にある	外面は斜位のハケ目主体、胴下部は縦位のヘラナデ主体。内面は横位のヘラナデ主体。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	10YR8/3 浅黄橙	胴部 1/2	重量 304.6g 第 145・146 図 3 と同一個体の可能性あり。
	6	SI66	土器台付甕	(6.4) [11.2]	脚台部はやや内湾気味に開く。	外面は縦位のハケ目。内面のうち脚台部は横位のヘラナデ、脚台部端部は横位のハケ目。甕底部は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒	やや軟質	10YR6/3 にぶい黄橙	脚台部 1/2	重量 186.0g
	7	SI66・ 29Q-1	土器小形鉢	[7.8] [4.2]	口縁部から体部にかけてやや内湾気味に開く。	外面のうち口縁部は横位のミガキ、体部は縦位のミガキ。内面のうち口縁部から体上部は横位のハケ目のちミガキ、体下部から底部付近は横位あるいは斜位のミガキ。	小礫 きめが細かい	良好	7.5YR6.5/4 にぶい橙	口縁～体部 1/8 体～底部 1/6	重量 25.1g (口縁部 9.7g) (底部 15.4g) 精製土器
	8	SI66	土器小形鉢	[7.2] (5.1)	口縁端部は丸い。	外面はハケ目のち縦位のミガキ主体。内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	7.5YR6.5/4 にぶい橙	口縁～体部 破片	重量 19.3g 口縁～体部内外面 に赤彩。

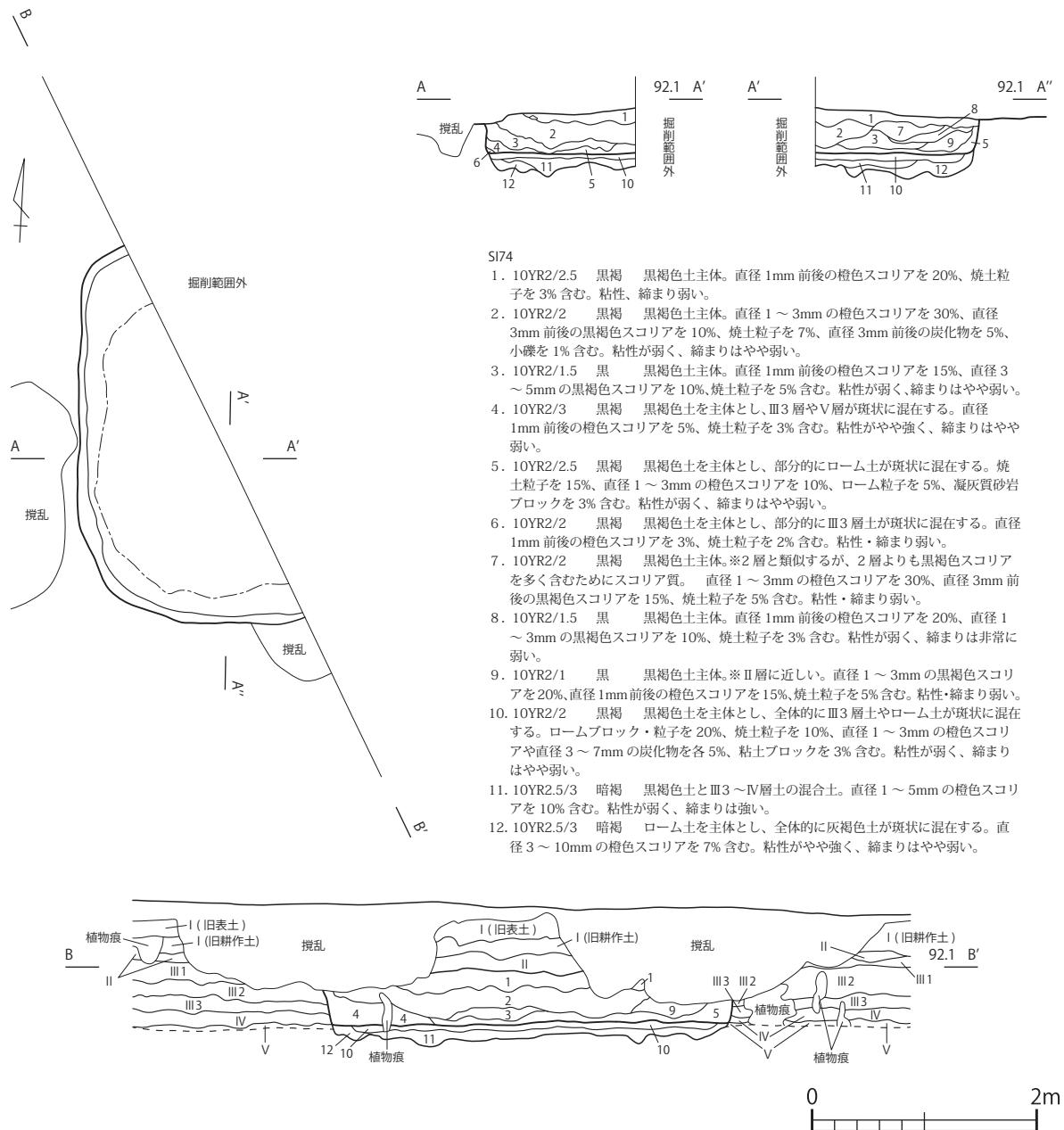
だが、接合する箇所がなく、図上での復元を試みた。7 の胎土には砂粒がほとんど含まれず、滑らかできめが細かい。8 や他の竪穴建物跡から出土した小形鉢の胎土とは明らかに異なっており、7 は精製土器と考えられる。8 は小形鉢で、口縁部から体下部にかけての破片である。内外面に赤彩が施されている。

本遺構から出土した土器は、甕の口縁部の形状や刻みのあり方等から判断して、新八王子市史編年における弥生時代後期に位置付けられよう。3～7 はいずれも床面から出土しており、遺構の帰属時期についても弥生時代後期と考えてよいだろう。

#### SI74 (第 147～151 図、第 22・23 表)

遺構 本遺構は 30P-71・81・82 グリッドに所在し、2-6 東区の調査区東壁にかかる状態で検出した。調査可能な範囲を少しでも広げるために、現道に影響のない範囲で調査範囲を拡張し、調査を行った。結果的に、発掘調査を実施できた範囲は遺構全体の 1/3 程度で、その大部分が現道下にあると推定される。

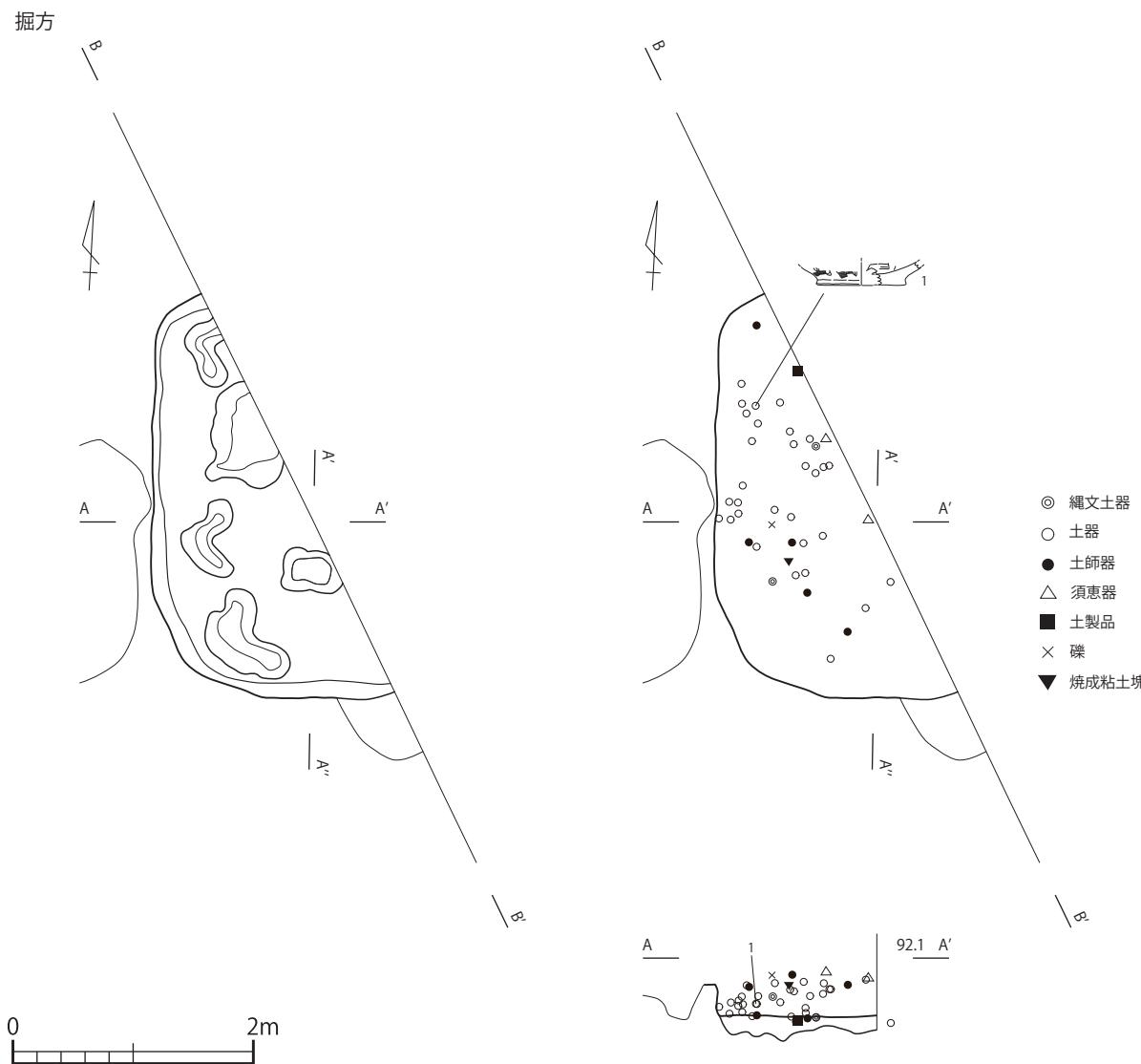
2-6 東区の東壁の土層堆積状況を観察したが、近現代の搅乱の影響で、本遺構の掘り込み面は特定



第 147 図 SI74(1)(1/60)

できなかった。本遺構は、周辺の古代の竪穴建物跡と同様に、III 2 層上面でプランを検出した。確認した限りでは、本遺構の平面プランは隅丸方形を呈し、規模は南北方向で 320cm、東西方向で 160cm 以上と見込まれる。遺構の主軸は、概ね南北方向あるいは東西方向を指す。検出面から床面までの深さは 35 ~ 40cm である。

覆土は、粒径の細かい橙色スコリアを多く含む黒褐色土を主体とする。床面よりも上層では、4 層や 5 層のように地山である III 3 層や IV 層、ローム粒子が斑状に混在したり、焼土粒子や凝灰質砂岩ブロックを含んだりする状況が観察できた。本遺構廃絶後、自然に埋没したというよりは、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。10 層上面を床面と認識し、それ以下の層が掘方充填土である。



第148図 SI74(2) 遺物分布・接合図 (1/60)

床面は貼床で、黒褐色土をベースにⅢ 3層やV層が斑状に混在する土が用いられている。壁際よりも内側で硬化範囲を捉えているが、硬化の程度は弱い。床面を精査したが、炉の痕跡や柱穴を確認することはできなかった。炉は、今回の調査範囲外にある可能性が考えられる。

住居の掘方はV層まで達しており、所々に凹凸が認められる。掘方調査時にも柱穴等は見つかっていない。

**遺物** 本遺構からは、総点数47点、総重量661.4gが出土した。種別・器種ごとの内訳は、弥生時代後期～古墳時代前期の土器31点195.1g（壺26点183.9g、甕4点7.9g、台付甕1点3.3g）、繩文土器（大洞A式・A'式併行）2点8.4g、繩文時代の土製品（土製円盤）1点11.2g、古代の土師器8点48.1g（甕7点47.1g、器種不明1点1g）、古代の須恵器（壺）2点15.1g、焼成粘土塊1点11.2g、礫（被熱礫を含む）2点372.3gが出土した。

先述したとおり、調査範囲内で検出した本遺構の範囲は全体の1/3程度であり、他の竪穴建物跡と比べれば出土遺物も少ない。それでも、弥生時代後期～古墳時代前期の土器が全体の約7割を占



1. 土層断面 A-A' 南南東から



2. 土層断面 B-B' 西北西から



3. 床面全景 西から



4. 掘方土層断面 A-A' 南南東から



5. 掘方土層断面 B-B' 西北西から

第 149 図 SI74 写真 (1)



1. 掘方全景 西から



2. 2-6 東区東壁土層断面 (SI74) 西南西から

第 150 図 SI74 写真 (2)



第151図 SI74出土遺物(1/3)・写真

第22表 SI74出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第151図	1	SI74	土器壺	(2.0) [9.9]		外面のうち胴部はハケ目のち 縦位のミガキ、底部付近は横 位のナデ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	5YR6.5/6 橙	底部1/3	重量74.3g

第23表 弥生時代後期～古墳時代前期竪穴建物跡一覧表

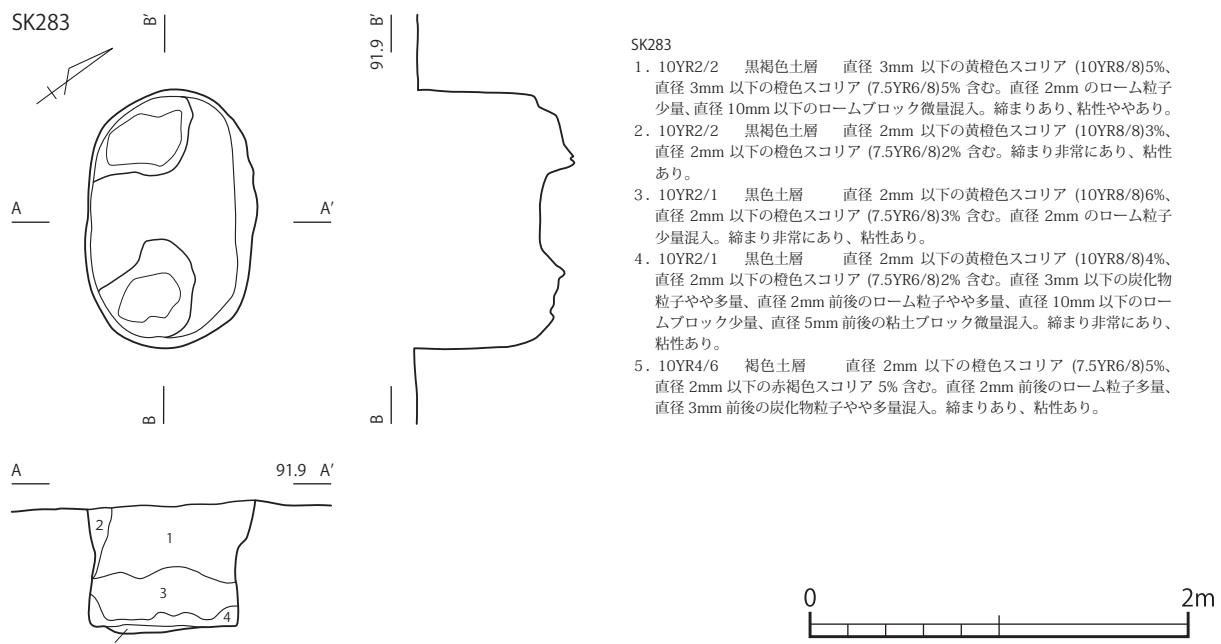
遺構名	グリッド	挿図番号		平面形態	規模(cm)			主軸方向	検出面	主柱穴数	炉	貯蔵穴	土堤	赤砂	遺物	備考(重複関係等)
		図面	写真		長軸	短軸	深さ									
SI59	29Q-11 ・12・21・ 22	第96 ～98図	第99 ～101図	隅丸方形	370	351	35	N-78°-W	III2	—	○	○	○	—	縄文土器1点11.3g、土器 120点1,090.8g、土師器1点 3.0g、石器1点933.0g、石製 品10点3,010.7g、焼礫5点 2,197.2g、炭化材、焼成粘土塊 1点9.0g	SK223を切 る。SP729、 SKK905・906 ・907に切ら れる。
SI60	28Q-39 ・40・49・ 50	第105 ～107図	第108 ～110図	隅丸方形	(458)	(456)	31	N-64°-W	III2	—	○	○	○	—	縄文土器6点94.3g、土器 269点2,219.0g、土師器6点 26.7g、須恵器1点3.6g、石 器1点1.3g、金属製品1点 0.4g、礫5点591.7g、焼礫3 点587.0g、炭化材、焼成粘土 塊1点5.5g	SD12、SK190 ・222、撹乱 に切られる。
SI62	28Q-41・ 42・52	第113 ～116図	第117 ～119図	隅丸方形	470	429	45	N-54°-W	II3	—	○	○	—	○	縄文土器11点136.7g、土器 149点1,760.2g、土師器26点 96.9g、須恵器1点2.8g、石器 3点356.3g、礫5点866.3g、 焼礫8点942.7g	SI64、SD13、 SDK1347、 SKK1005・ 1006に切ら れる。
SI65	28Q-18 ・19・28・ 29	第122 ～127図	第128 ～132図	隅丸長方形	579	521	69	N-83°-W	II3	4	○	○	○	○	縄文土器3点47.4g、土器332 点3,225.2g、土師器1点1.6g、 須恵器1点24.5g、石器1点 159.0g、礫15点232.8g、燒 礫132点26,467.6g、炭化材	SK199・208、 SP740・741 ・742・766、 SKK863に切 られる。
SI66	29P-91・ 92	第135 ～140図	第141 ～144図	隅丸長方形	472	423	72	N-88°-W	III1	—	○	○	○	—	縄文土器8点75.3g、土器152 点1,317.9g、土師器18点 85.4g、須恵器1点7.0g、石器 1点5.5g、金属製品1点0.2g、 礫4点3,927.1g、焼礫11点 7,285.4g、焼成粘土塊5点 12.0g	粘土床炉。 SP902、撹乱 に切られる。
SI74	30P-71・ 81・82	第147 ～148図	第149 ～150図	(隅丸長方形)	(337)	(202)	40	—	III2	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	縄文土器2点8.4g、土器31点 195.1g、土師器8点48.2g、須 恵器2点15.1g、土製品1点 11.2g、礫1点7.3g、焼礫1点 365.0g、焼成粘土塊1点11.2g	撹乱に切られ る。

※( )内は、遺存範囲内の数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

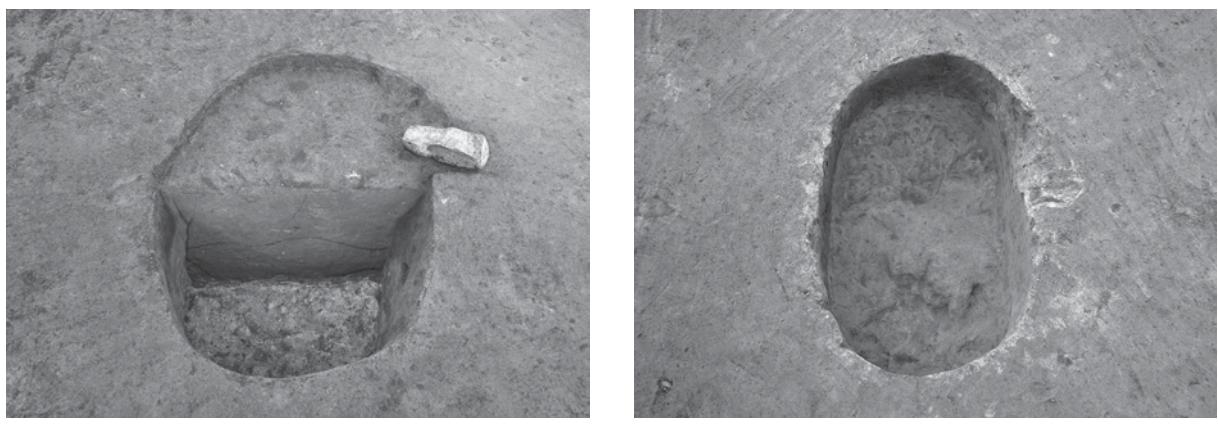
めることから、本遺構は当該期に帰属すると判断した。比較的の遺存状態の良い1点を選び、図化した。

第151図1は壺底部である。胴部は底部から直線的に開く器形を呈する。壺全体の形状や文様等は不明だが、1は概ね弥生時代後期の範疇に収まる土器であろう。

本遺構からは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器の他に、古代の土師器や須恵器が出土した。現時点では、出土遺物のうち弥生時代後期～古墳時代前期の土器が最多であること、隅丸方形という平面プランを根拠として、本遺構が弥生時代後期に帰属すると判断した。しかしながら、調査範囲に制限があり、調理施設が判明していないことから、時期を断定する決定的な材料を欠く状況である。加えて、古代のカマド構築材として多用されている凝灰質砂岩のブロックが微量ながら覆土中に含まれていることや、床面直上から土師器甕が出土していることを考え合わせると、本遺構が古代の竪穴建物跡である可能性も否定できない。将来的に現道下に続く部分の発掘調査が行われた場合には、今回と



第 152 図 SK283(1/40)



第 153 図 SK283 写真

は異なる調査成果が出ることも想定される。

(小西)

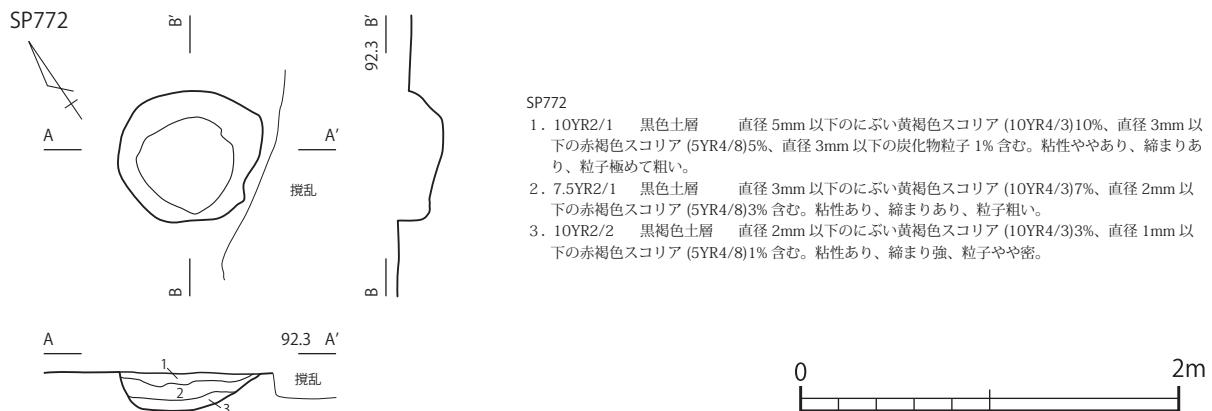
## 2) 土坑 (第 152・153 図、第 24 表)

覆土の様相から弥生時代後期～古墳時代前期に帰属すると判断した土坑（遺構略号は SK）は、2-6 東区で検出された SK283 の 1 基のみである。

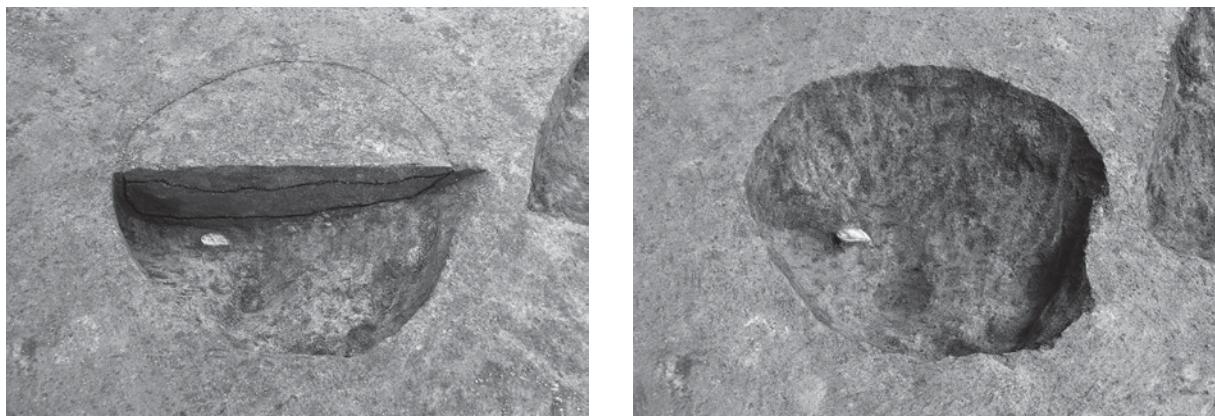
### SK283

III2 層で検出された小判形を呈する土坑である。2-6 東区の 29Q-7 グリッドに位置し、近隣では、同時期の遺構は希薄である。長軸 137cm、短軸 90cm、検出面からの深さは 71cm を測り、底面は南東と北西の両端に窪みを有している。壁は垂直に立ち上がっている。

覆土は 5 層に分けられた。最上層の 1 層は、黄褐色スコリアを比較的多く含む黒褐色土で、北東寄りの締まりがやや強く粒子がより細かい。2 層は壁面の崩落土と考えられる黒褐色土、3 層は締まりの非常に強い黒色土、4 層はローム粒子や炭化物粒子を比較的多く含むほか、粘土粒子をわずかに



第 154 図 SP772(1/40)



1. SP772 土層断面 南西から

2. SP772 全景 西南西から

第 155 図 SP772 写真

第 24 表 弥生時代後期～古墳時代前期土坑・ピット一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SK283	29Q-7	第 152 図	第 153 図	小判形	C	137	90	71	III2	土器 2 点 24.1g、焼礫 4 点 4,596.0g	
SP772	28Q-32・42	第 154 図	第 155 図	不整円形	A	79	69	21	II3	—	

※遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

含む黒色土、5 層は同じくローム粒子や炭化物粒子を多く含む褐色土である。5 層は、人為的に敷き均された可能性が考えられる。

遺物は土器が 2 点、焼礫が 4 点出土した。

### 3) ピット (第 154・155 図、第 24 表)

当該期のピットとしたものは SP772 の 1 基である。

#### SP772

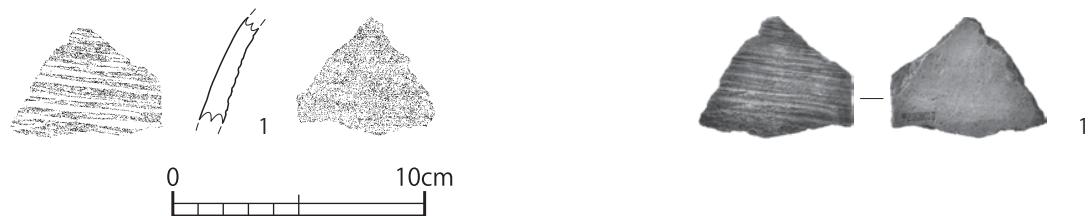
2-6 西区中央よりやや西寄りの 28Q-32・42 グリッドで検出された不整形な円形のピットである。南には、弥生時代後期後半の SI62 が隣接している。長軸 79cm、短軸 69cm、検出面からの深さは 21cm を測る。覆土は 3 層に分けられ、上層の 1 層は粒子が極めて粗く、にぶい黄褐色スコリアを多く含むほか、炭化物粒子をわずかに含んでいた。遺物は出土しなかった。  
(相原)

4) 遺構外出土遺物(第156~159図、第25~27表)

A 弥生時代前期の土器(第156図、第25表)

当該期の遺物はわずかに1点21.6gのみであり、29Q-7グリッドから出土した。周辺では、東に隣接する『平山遺跡』その2収載調査地点において、弥生時代前期の条痕文が施された土器が20点出土したことが報告されている。それらは、第156図1が出土した29Qグリッドの北東にあたるグリッドを中心分布しており、平山遺跡では、このように弥生時代前期の痕跡が局的に残されているようである。

第156図1は深鉢の胴部破片で、外面には条痕文による調整が見られる。胎土や焼成等から縄文時代の条痕文系土器ではないと判断し、弥生時代前期の所産とした。



第156図 弥生時代前期遺構外出土遺物(1/3)・写真

第25表 弥生時代前期遺構外出土土器観察表

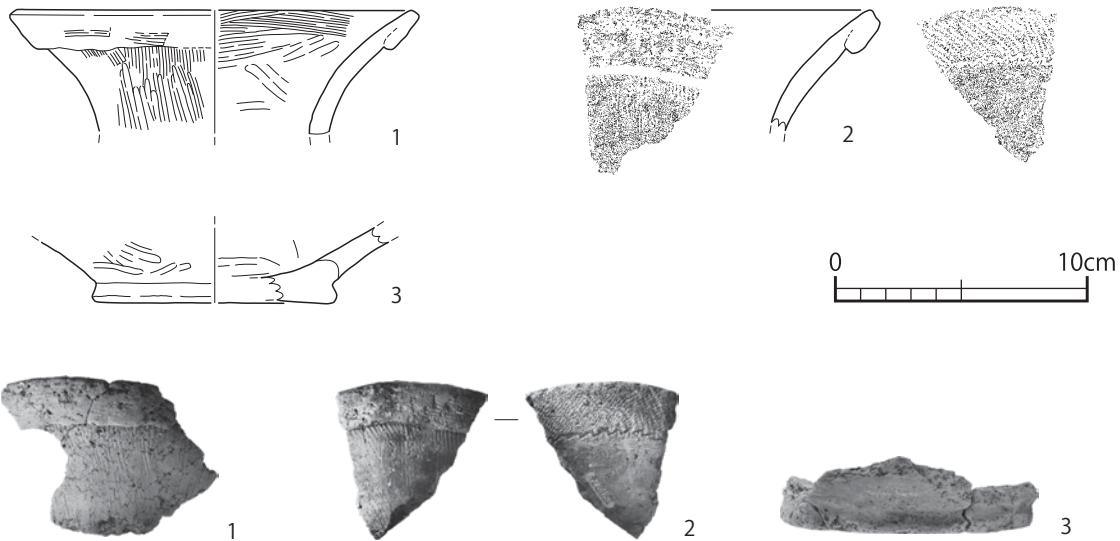
※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第156図	1	29Q-7	II層	弥生土器 深鉢	—	外面は横位の条痕文。 内面は横位のナデ、部分的に横位のミガキ。	砂粒	良好	外面 10YR6/4にぶ い黄橙 内面 5YR6/6 橙	胴部破片	重量 21.6g	

B 弥生時代後期~古墳時代前期の土器(第157図、第26表)

当該期の遺構外出土遺物としては、土器592点4,099.7gである。器種別の内訳では、壺338点2,827.3g、甕178点966.9g、台付甕18点98.9g、高坏6点81.2g、鉢14点45.7g、小形鉢1点6.5g、小形鉢あるいは小形壺1点8.7g、甕あるいは壺32点57.2g、器種不明4点7.3gである。甕(台付甕を含む)よりも壺の出土量が多く、破片、重量で見ても全体の6割を占めている。第159図によれば、当該期の遺物分布は竪穴建物跡の分布域と概ね一致していることが読み取れる。遺構外出土遺物のうち比較的遺存状態の良い3点を図化し、掲載した。

第157図1~3は壺である。1・2は、幅狭の折り返し口縁壺の口縁部である。1は内外面とも施文は見られず、ヘラナデやミガキといった調整痕のみである。2の内面には、口縁部に沿って単節RL縄文+S字状結節文が施文されている。外面は施文されておらず、調整痕のみが見られる。3は壺の底部で、胴部は底部から直線的に開く器形を呈する。器形や施文等から、1~3はいずれも弥生時代後期の範疇に収まると考えられる。



第 157 図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物 (1/3)・写真

第 26 表 弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 157 図	1	30P-81	II層	土器壺	[15.6] (4.9)	口縁部は緩やかに外反して開く。幅1.8～2cmの折り返し口縁。	外面のうち口縁部はハケ目の中、横位のナデ。頸部は縦位のハケ目のちミガキ。内面のうち口縁部は横位のハケ目の中ミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR7/7 橙	口縁部破片	重量 42.1g
	2	29P-94	II層	土器壺	(4.7)	口縁部は緩やかに外反して開く。幅1.5～1.8cmの折り返し口縁。	外面のうち口縁部はハケ目の中横位のミガキ、頸部は縦位のハケ目のちミガキ。内面は2段の縄 RL + S字状結節文。文様帶以外は横位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	10YR6/3にぶい黄橙	口縁部破片	重量 34.8g 口縁部外面と頸部内面に赤彩。
	3	28Q-19・49	II・III層	土器壺	(3.0) [9.4]	胴部は底部から直線的に開く。	外面は横位のミガキ。内面は横位のヘラナデ・ナデ。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	7.5YR7/4にぶい橙	底部 1/2	重量 102.6g

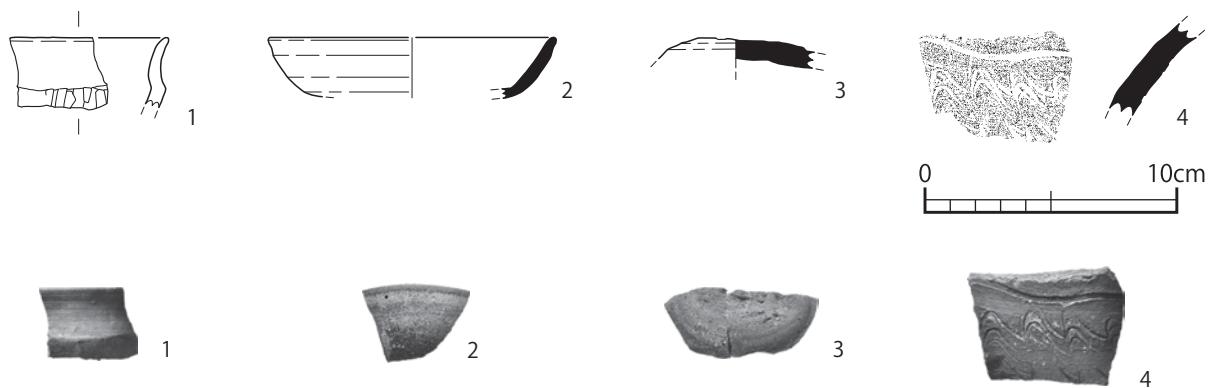
## C 古墳時代後期の土器（第 158 図、第 27 表）

古墳時代後期の遺構外出土遺物は、総点数 5 点、総重量 70.2g である。種別・器種別の内訳では、土師器壺 1 点 7.7g、須恵器壺 1 点 6.8g、須恵器蓋 2 点 17.8g、須恵器甕 1 点 38g である。これらの遺物は、2-6 西区の範囲に分布している。周辺の調査地点において、古墳時代後期の帰属と断定できる遺構は認められず、当該期の遺物は極めて断片的な出土と言える。

なお、今後、発掘調査報告書の刊行が予定されている 2-7 区以西の調査地点（2-8 区や 3-1 区）では、古墳時代後期の竪穴建物跡等を複数軒検出している。今後精査する必要があるが、2-6 西区で出土した当該期の土器は、集落域の縁辺部から出土したものと理解できるのではないだろうか。

第 158 図 1 は土師器壺の口縁部から体部にかけての破片である。体部の稜を境にして、口縁部は強く外反して開く器形を呈する。2 は須恵器壺の口縁部から体部にかけての破片である。体部は底部から直線的に開き、口縁端部は丸みのある形状である。3 は須恵器蓋の天井部である。4 は須恵器甕の口頸部破片で、沈線と櫛刃状工具による波状文が施されている。2～4 の須恵器は、いずれも湖西窯の製品と考えられる。

(小西)

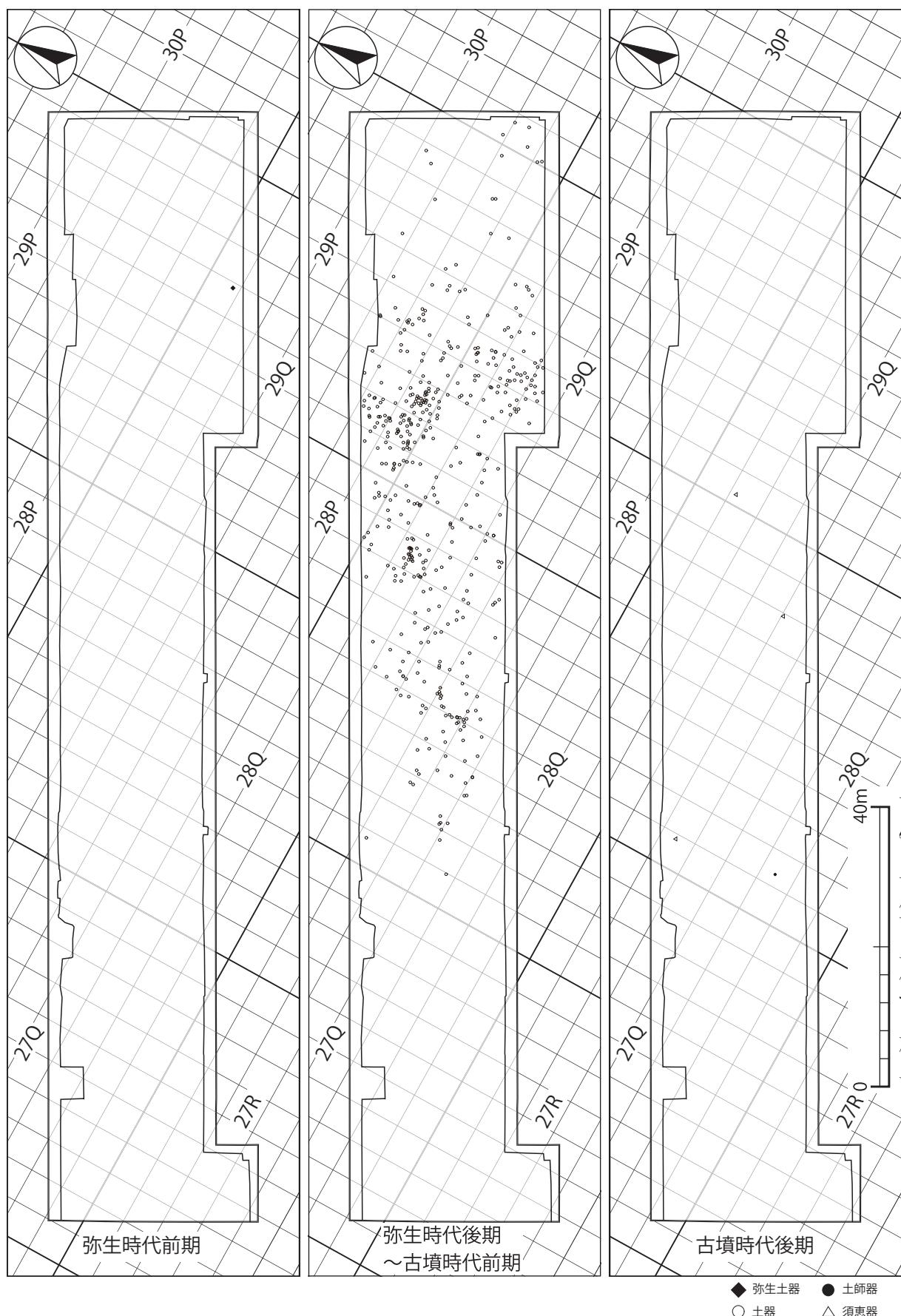


第 158 図 古墳時代後期遺構外出土遺物 (1/3)・写真

第 27 表 古墳時代後期遺構外出土土器観察表

※法量の( )は残存、[ ]は復元の値を示す。

挿図番号	遺物番号	出土位置	出土層位	種別器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 158 図	1 (SD13)	—	—	土師器 壊	(2.8)	口縁部は外反して開く。口縁部と体部の境に稜を有する。	外面のうち、口縁部は横位のナデ、体部は縦位のヘラケズリ。 内面は横位のナデ。	砂粒、赤褐色 色粒子	良好	10YR6/3 にぶい黄澄	口縁～体部破片	重量 7.7g
	2 (SD12)	—	—	須恵器 壊	[11.3] (2.4)	体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。	ロクロによる成形。	砂粒	良好	外面 2.5Y5.5/1 黄灰 内面 5Y5/1 黄灰	口縁部 1/8	重量 6.8g 内面に火燐痕。 湖西窯
	3 29Q-11	II層	—	須恵器 蓋	(1.2) 天井部径 (5.4)		ロクロによる成形。	砂粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	天井部 1/2	重量 17.8g 湖西窯
	4 (SD13)	—	—	須恵器 甕	(3.6)		外面は横位のナデのち櫛刃状工具による波状文と沈線。 内面は横位のナデ。	砂粒	良好	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	頸部破片	重量 38.0g 湖西窯



第 159 図 弥生時代～古墳時代土器分布図 (1/800)